

講 義 概 要

シラバス

共通科目	P. 159
専門科目(英語観光学科)	P. 195
専門科目(心理こども学科)	P. 259
教職に関する科目(英語観光学科)	P. 313

現代人間学部
共 通 科 目

キリスト教〈キリスト教〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キリスト教入門	ET/PC		11101	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
尾崎 秀夫	必修	2				

授業の到達目標

現代の文化に大きな影響を与えているキリスト教についての理解を深める。また世界で多くの信徒がいるイスラム教や仏教についても基礎知識を身につける。信教の自由は、自分が選んだ宗教を信仰できるという権利であるとともに、他人の信仰を尊重するという義務でもある。従って、どの宗教を選ぶにしろ、いかなる宗教も信じないにしろ、さまざまな宗教について知っておくことは必要である。この授業を通して、K A I S E I パーソナリティの異文化理解のIn(国際性)とキリスト教が説く他者に対する隣人愛、K(思いやり)の心を養う。

授業の概要

キリスト教は西暦1世紀に現在のパレスティナに成立し、現在では世界の3大宗教のひとつとされ、現代の文明に計り知れない影響を与えていることは周知の事実である。では、キリスト教とは何か。本講義では、世界の主要な宗教を概観してキリスト教の位置を確認するとともに、ユダヤ人の歴史などキリスト教の成立の背景を考察し、キリスト教の基本的な教えと、その後の発展を検討する。

授業計画

- はじめに 宗教とは
- 世界の三大宗教(仏教)
- 世界の三大宗教(イスラム教)
- 創造神話
- アブラハム
- 出エジプト
- カナンへの帰還
- 王国の成立と発展
- 王国の分裂
- バビロン捕囚
- ユダヤ教の成立とメシア待望
- ナザレのイエスーその生涯
- イエスの宣教
- イエスの裁判、十字架上の死と復活
- キリスト教の成立と発展

授業の方法

講義、発問、討議

準備学修

信仰に関係なく聖書は人類の重要な遺産であり、現代人にとっても学ぶところが大きい。関心のある部分を読んで授業にのぞんでもらいたい。準備学修には、参考文献を読むことなどで60時間以上を必要とする。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

最低でも3分の2以上の出席が必要である。

テキスト

『聖書』（新共同訳（旧約統編つき）） 日本聖書協会（新共同訳であればどの版でも構わない。）

参考図書

百瀬文児『キリスト教の輪郭』（女子パウロ会）
井上洋二『キリスト教がよくわかる本』（PHP研究所）

留意事項

この講座は、決して受講生をキリスト教徒にすることを目的としたものではないが、ホスピタリティには相手を受け入れることが不可欠であり、宗教の理解が必要である。その意味でもしっかり学んで欲しい。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

キリスト教〈キリスト教〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
聖書概論	ET/PC		11105	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Emmanuel POPPON	必修	2				

授業の到達目標

聖書の基本的な思想、本格的な内容を形作っている要素を探求し、その思想や概念が人類の歴史・文化の中にどのように現れているかを参照し、知的満足のためではなく、心を開き、人間として真実に生きるための光とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)、I(知性)とE(倫理)を目指す。

授業の概要

神と人間の歴史における出会いの物語である旧約聖書・新約聖書全般についての基礎知識を得て、具体的に聖書の個所を読み、質問、分かち合いを含めながら聖書に親しむ。聖書記者が当時の世界像から取った題材としてこれを用い、彼らが言おうとしていること、その教えの内容を受け止められるようにする。それが単なる知識にとどまらず、人間とは何か、神とは何か、そして人間と神との関係は何かを一人一人の人生の中で味わう。

授業計画

- 聖書を読むということー聖書について
- イエスの告げた福音
- イエスのもたらした解放ー新たな出発
- イエスの人との接し方ー人を立ち上がらせる
- リフレクション
- ゆるしと愛ー神の心
- 神の国(天の国)ー山上の説教
- 祈りー「主の祈り」
- イエスの力ある業ー悪の克服
- リフレクション
- 最後の晩餐ー永遠のいのちーいのちの糧
- イエスの誕生ークリスマス(降誕祭)
- イエスの苦しみと死ー受難と十字架の死
- エマオの弟子たちー復活ー希望の保証
- リフレクションー全体のまとめ

授業の方法

講義形式と小グループで話し合う。リアクション・ペーパーを提出する。

準備学修

「聖書」（新共同訳）の最初、創世記1章～11章まで,およびテキスト「根本問題をつかめ!」を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回の欠席につき5点減点とする。

テキスト

「聖書」旧約聖書統編つき 新共同訳 日本聖書協会 発行
「イエス登場!」（気合の入ったキリスト教入門）来住英俊著 ドン・ボスコ新書
「根本問題をつかめ!」（気合の入ったキリスト教入門）来住英俊著 ドン・ボスコ新書

参考図書

「旧約聖書」図解雑学 雨宮慧著 ナツメ社
「聖書 Q & A」和田幹男監著 女子パウロ会
「聖書読解へのアクセス 50のポイント」 湯浅俊治著 教友社

留意事項

聖書とルーズリーフ形式のノート（大きさは自由）を毎時間持参すること。

キリスト教〈キリスト教〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キリスト教海外研修			11109	I	集	
担当者名	区分	単位	特記事項			
尾崎 秀夫	選択	2				

授業の到達目標

本学と深い関係のあるアジアの聖フランシスコの足跡を辿ることによって大学の建学の精神を具体的に理解することを目的としている。キリスト教の土台にある愛と他者に仕える姿勢を生きたフランシスコの町、アジアは訪れる人の心に深い感銘を与え、人生への生き方に大きな影響力を持つ。この授業ではIn（国際性）に重点を置く。

授業の概要

中世、教会の権力が政治の世界でも強大な力を持ち、キリスト教の本質が危うくなった12世紀後半に現れたフランシスコは聖書に従った生き方を選び、その生き方によって現代に至るまで人々に大きな影響を与えている。ローマとアジアを中心に8泊9日の研修の旅を実施し、フランシスコゆかりの土地や自然、聖堂や絵画を訪ね、鑑賞することでキリスト教の世界の豊かさに触れていく。

授業計画

1. 研修に出る前の準備のクラス 第1回－イエスの生涯を中心に－
2. 研修に出る前の準備のクラス 第2回－フランシスコの生涯と思想－
3. 研修に関する具体的な準備の集まり
4. 研修の日程1日目：関西空港から出発ミラノ着
5. 研修の日程2日目：ミラノにて大聖堂、聖アンブロジオ教会等を訪問
6. 研修の日程3日目：フィレンツェにて聖マルコ修道院、大聖堂を訪問
7. 研修の日程4日目：アシジの聖フランシスコ大聖堂、クララ教会等を訪問
8. 研修の日程4日目：サンタ・マリア・デリ・アンジェリ教会へ
9. 研修の日程5日目：アシジにてカルチェリの隠遁所を訪ねる
10. 研修の日程5日目：サンダミアーノ修道院へ
11. 研修の日程6日目：ローマのフォロロマーノ、ラテラノ教会等を訪ねる
12. 研修の日程7日目：パチカン美術館、特にシステリーナ礼拝堂を訪ねる
13. 研修の日程7日目：サンピエトロ大聖堂

14. 研修の日程8日目：日本に向けて出発
15. 研修の日程9日目：関西空港着

授業の方法

事前の講義と研修旅行。

準備学修

イエスやアッシジの聖フランシスコやイタリアについて書物や映像資料などで調べ、基礎知識を身につけておくこと。

課題・評価方法

その他

テキスト

川下勝「アッシジのフランシスコ」清水書院、2004

参考図書

j.ヨルゲンセン著、佐藤要一訳「アシジの聖フランシスコ」ドン・ボスコ社、1988
チェラノのトマス著、石井健吾訳「聖フランシスコ第一伝記」あかし書房、1989

留意事項

研修はフランシスコをよりよく理解するためなので、他者と協力し、助け合う精神をもつこと。また、歩いていく所が多いので体力を鍛えておくこと。人間性の豊かさや広さ、深さや多様性に関心をもちて望んでほしい。また視野を広げるために、クラスで言及する作品を自主的に読んだり、観賞したりする努力をしてほしい。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

キリスト教〈キリスト教〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
聖書と現代	ET/PC		11113	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Emmanuel POPPON	必修	2				

授業の到達目標

現代社会が抱えている様々な問題を取り上げ、それらに対する聖書の教え、キリスト教の説教、歴史的取り組みなどを紹介しながら、受講生一人一人が、主体的に考え、行動できる力を養うことを目標としている。この授業はKAISEIパーソナリティのI（知性）とS（奉仕）を学ぶクラスである。

授業の概要

現代は、科学技術が急速な進歩を遂げる一方で、様々な既成の価値が崩壊し、ますます多様化、多元化する社会の中で人々が自分にとって最も大切なものは何か、また、自分はどのように生きたらよいかを見つけるのが、大変困難な時代となっている。一般にポスト・モダンと呼ばれるこのような社会状況の中で長い歴史をもつ伝統宗教としてのキリスト教もその対応と存在意義が改めて問い直されている。キリスト教は現代社会が直面する様々な問題にどのように取り組み、答えようとしているのか。本講座では、現代社会との関わりにおいて21世紀におけるキリスト教のメッセージを読み解こうとする試みである。

授業計画

1. 序－現代を生きるキリスト教
2. I. 人間－真に人間らしく ①「男と女」－新しい関係を求めて
3. ②「家庭」－危機と再生
4. ③「生と死」－生命倫理をめぐる
5. リフレクション①
6. II. 社会－価値多様化と多文化共生を目指して ④「戦争と平和」－平和の作り方
7. ⑤「民族主義と差別」
8. ⑥「宗教多元主義の問題」
9. リフレクション②
10. III. 世界－グローバル化の進退の中で ⑦「富・貧・欲望」
11. ⑧「環境破壊とエコロジー」
12. リフレクション③
13. IV. 将来への展望－希望を抱いて ⑨「不幸・不公平」－人間の苦しみと神の義の問題
14. ⑩「世の終わりと希望」
15. リフレクション④

授業の方法

講義と受講生によるディスカッションを組み合わせて行う。

準備学修

現代社会が抱えている様々な問題を取り上げるので、日頃から問題意識をもって、自ら考える習慣を身につけて欲しい。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

授業の中でリアクション・ペーパーを書いてもらったり、ディスカッションを行う。それらへの積極的参加も平常点の一部として扱うので最低でも3分の2以上の出席がなければ学期末レポートを提出する資格を失う。

テキスト

【聖書】（新共同訳（旧約統編つき））日本聖書教会（新規に購入するならNI43DCH-APを勧めるが、新共同訳であればどの版でも構わない。）

参考図書

芦名定道、土井健司、辻学【現代を生きるキリスト教－もう一つの道から】教文館。
教皇庁正義と平和協議会【教会の社会教説綱要】カトリック中央協議会。

留意事項

テキストの【聖書】を教室に持参すること。遅刻や早退は、明確な理由のない限り、欠席と見なす。

キリスト教〈キリスト教〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キリスト教と文化	①/②		11117	Ⅲ	春／秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
尾崎 秀夫	選択	2				

授業の到達目標

とりわけ日本では宗教を非科学的なもの、科学と対立するものとの考えが根強い。キリスト教にканしても、教会は科学の発達に反対の立場をとってきたと考えられている。本講義では、キリスト教と科学の関係について再検討する。この授業ではE（倫理）に重点を置く。

授業の概要

まず、聖書と科学の関係を考察する。聖書、たとえば旧約聖書の冒頭部分などは現代の科学で否定されているが、キリスト教はそれをどのように考えてきたのであろうか。次に地動説の出現に対してキリスト教がどのように対応したかを考察する。一般に、キリスト教は新しい考えに否定的で、それを弾圧したとされるが、コペルニクスやガリレオなどに対する教会の対応を検討する。

授業計画

1. 導入
2. 聖書と歴史
3. 出エジプトと歴史研究(1)
4. 出エジプトと歴史研究(1)
5. 古代における宇宙観
6. 古代における天動説と地動説
7. 中世における天動説
8. コペルニクス(1)
9. コペルニクス(2)
10. ジョルダノ・ブルーノの地動説
11. ガリレオ・ガリレイ(1)
12. ガリレオガリレイ(2)
13. 科学の発達とキリスト教
14. 聖骸布
15. まとめ

授業の方法

講義を中心に、意見を求めたり、話し合いを取り入れたりする。

準備学修

地動説について復習しておくこと。準備学修には、参考文献を読むことなどで60時間以上を必要とする。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

5回を超える欠席者には受験資格を認めない。

テキスト

とくに定めない。

留意事項

講義中の私語は禁止する。授業の途中での退出も原則として禁じる。途中退出は遅刻、15分を超える場合は欠席とみなす。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅰ			11201	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
各学科教員	必修	1				

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

授業計画

1. (1)オリエンテーション(大学生としての姿勢)
 - (2)言語1
2. (1)言語2
 - (2)オリエンテーション(本学の学生としての姿勢)
3. 図書館案内
4. (1)言語3
 - (2)クラスでの自己紹介
5. (1)言語4
 - (2)授業の受け方
6. (1)社会1
 - (2)学生生活(学生相談)
7. (1)社会2
 - (2)学生生活(課外活動1)
8. (1)社会3
 - (2)学生生活(課外活動2)
9. (1)社会4
 - (2)理解と表現(作文など)
10. (1)数学1
 - (2)理解と表現(比較分析)
11. (1)数学2
 - (2)リサーチの方法(情報の集め方)
12. (1)数学3
 - (2)リサーチの方法(レポートの作成)
13. (1)数学4

(2)簡単なプレゼンテーション

14. (1)確認試験1

(2)マナー

15. (1)確認試験2

(2)スタディスキル確認演習

授業の方法

演習形式

準備学修

テキストでしっかり予習・復習すること。eラーニングで学ぶこと。準備学修には60時間以上かけること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト（育伸社）

大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック（ナカニシヤ出版）

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上をとらなければ不合格とする。欠席1回につき合格点は1点上がる。eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。教学カルテも評価対象とする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎 く基礎>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅱ			11205	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
各学科教員	必修	1				

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

授業計画

1.(1)言語1

(2)オリエンテーション

2.(1)言語2

(2)資料の探し方(情報検索)

3.(1)言語3

(2)レポートの書き方1

4.(1)言語4

(2)レポートの書き方2

5.(1)社会1

(2)レポートの書き方3

6.(1)社会2

(2)プレゼンテーションの方法1

7.(1)社会3

(2)プレゼンテーションの方法2

8.(1)社会4

(2)プレゼンテーション1(個人発表)

9.(1)数学1

(2)プレゼンテーション2(個人発表)

10.(1)数学2

(2)プレゼンテーション3(個人発表)

11.(1)数学3

(2)プレゼンテーション4(個人発表)

12.(1)数学4

(2)ディスカッションの進め方(個人発表)

13.(1)確認試験1

(2)ディスカッション1

14.(1)確認試験2

(2)ディスカッション2

15.(1)確認試験3

(2)アカデミックスキル確認演習

授業の方法

演習形式

準備学修

テキストでしっかりと、予習・復習すること。eラーニングを活用すること。準備学習には60時間以上かけること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト（育伸社）
大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック（ナカニシヤ出版）

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上を盗らなければ不合格とする。欠席1回につき、合格点を1点上げる。eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。教学カルテも評価対象とする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎 く基礎>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海星学Ⅰ			11206	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
各学科教員	必修	1				

授業の到達目標

神戸海星女子学院大学の精神や歴史についての理解を深め、本学の学生としての自覚を深める。人格的素養としてのKAISEIパーソナリティの項目について各自の考えをもつ。それに加えて社会に向かう姿勢としてキャリアについて学ぶ。

授業の概要

本学の出発点であるマリアの宣教師フランシスコ修道会の理解を含め、本学の建学の精神とその歴史等について学ぶ。
KAISEIパーソナリティの6つの言葉をグループでの討論や研究をとおして理解し、自分の言葉で表現する力を身につける（クラスでのプレゼンテーションをする）。具体的にはコミュニケーションを養いながら、他者と協力する力、チームでひとつのことを作り上げること、それを発信していく力をつけていく。同時に他者の意見に耳を傾ける力（傾聴力）を養い、新しい世界を共に発見することを目指す。

授業計画

1.ポートフォリオ(学生カルテ)

2.海星の歴史 真理と愛に生きる

3.設立母体「マリアの宣教師フランシスコ会」キリスト教との関係

4.海星の建学の精神、マリアの姿、アッシジのフランシスコの存在

5.海星の教育目標 大学は何をすること 人間としての成長

6.校歌と聖堂

7.KAISEIパーソナリティと社会人基礎力、学士力との関係

8.思いやり 人との共感

9.自律 これまでの自己の歴史をとおして

10.知性 耳を傾け、自らを考える

11.奉仕 他者と自己との関係

12.倫理 現代の日本社会を考える

13.国際性 ボータレスの世界 前に踏み出す力

14.海星についての理解を振り返る

15.ポートフォリオ(学生カルテ)

授業の方法

講義と個人作業、グリープディスカッション、プレゼンテーションの2つの方法をとる。

準備学修

KAISEIパーソナリティの6つの言葉と関連のある新聞記事、エッセイ、書物等を読むこと。またある時はそれについて自分の意見を1000字程度にまとめる作業もすること。
eラーニングで学ぶこと。（単位取得の必須条件）

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき、3点の減点とする。

テキスト

プリント使用

留意事項

eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海星学Ⅱ			11207	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
各学科教員	必修	1				

授業の到達目標

春学期には本学の建学の精神と歴史を土台としてKAISEIパーソナリティの6つの言葉について理解し、同時に社会との関係についても学んだ。このクラスではその6つの言葉と関連のある課題を見つけ、自分で考え人と意見を交わし、調べて発表することでKAISEIパーソナリティの理解を一層深める。

授業の概要

最初に企業研究をすることで社会との関係について一層の自覚をもつ。KAISEIパーソナリティの6つの言葉についてすでに一応の理解をしているが、ここでは各自が6つの言葉と関係のある課題を見つけ、いくつかの方法（書籍、インターネット等）を使って調べ研究し、自分の言葉でまとめる。その個人作業をもとに、同じ課題研究の人とチームを組み、発表の枠組みを構築していく。図表や、パワーポイント等を使いながら、研究発表をする。この方法をいくつかの課題について繰り返す。最終的に全科の学生の前で研究を発表する（段階的にまとめたものでも一番良いと思うものでもよい）。

授業計画

1. ポートフォリオ(学生カルテ)
2. KAISEIパーソナリティの研究項目の選択とチーム確認
3. テーマについての確認と個人作業
4. テーマについてのグループディスカッションと研究と報告
5. グループのプレゼンテーションの準備作業と発表①
6. テーマについての確認と個人作業
7. 働き方について考える(キャリアセンター)
8. 卒業生の就職先に関する業界研究(キャリアセンター)
9. 卒業生によるピア・サポート①(キャリアセンター)
10. 卒業生によるピア・サポート②(キャリアセンター)
11. テーマについてのグループディスカッションと研究と報告
12. グループのプレゼンテーションの準備作業と発表②
13. 全学科の学生の前でのプレゼンテーションと意見交換
14. 全学科の学生の前でのプレゼンテーションと意見交換
15. ポートフォリオ(学生カルテ)

授業の方法

個人作業とチームでの作業を重視し、グループでひとつの課題を研

究し、発表することでプレゼンテーションの力をつける。

準備学修

6つの言葉と関連のある課題を発見するために本を読むこと。
eラーニングで学ぶこと。（単位取得の必須条件）

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき、3点の減点とする。

テキスト

プリント使用

留意事項

eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人間学Ⅰ	ET/PC		11209	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
尾崎 秀夫	必修	2				

授業の到達目標

本学では、キリスト教的人間観に基づく人間教育を基本理念の一つとしている。本講義は、学生が1人の人間として社会に対する責任を果たすことができるよう、現代社会の様々な動きや問題点について考えていく。この授業はKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

現代は急速な変化の時代である。私たちはその中で一人ひとりが責任を持って生きていかねばならない。そのためには現代の動きや様々な問題などについて知り、考えることが不可欠である。本講義では、新聞などを利用して、この1、2年に起こった様々な問題について解説し、皆で考えていきたい。

授業計画

1. 昨年の時事問題(1)
2. 昨年の時事問題(2)
3. 1月頃の時事問題
4. 2月頃の時事問題
5. 3月頃の時事問題
6. 4月頃の時事問題
7. 5月頃の時事問題
8. 6月頃の時事問題
9. 7月頃の時事問題
10. 8月頃の時事問題
11. 9月頃の時事問題
12. 10月頃の時事問題
13. 11月頃の時事問題
14. 12月頃の時事問題
15. この1年の時事問題

授業の方法

講義、演習、発表形式。

準備学修

日々新聞やテレビ、インターネットで時事問題に関心を持ち、興味

を持った事柄については自分で調べてこと。家族や友人ともそのような話題を取り上げて、いろいろな意見を聞くこと。準備学修には、参考文献を読むことなどで60時間以上を必要とする。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

5回を超える欠席者には受験資格を認めない。

テキスト

特に定めない

留意事項

講義中の私語は禁止する。授業の途中での退出も原則として禁じる。途中退出は遅刻、15分を超える場合は欠席とみなす。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人間学 2	ET/PC		11213	Ⅲ	秋／春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
岡村 祥子	必修	2				

授業の到達目標

キリスト教的価値観を土台とした本学での学びの中で、人格的に成長していくため、人間としての営みをさまざまな角度から理解し、深めていく。KAISEIパーソナリティの要素もてがかりに、人間として、女性としての存在を認識していく。このクラスではKAISEIパーソナリティ全体についての理解を深める。

授業の概要

まず、人間存在について地球上の空間的な存在と、過去からの遺産を受け継ぐ歴史上の時間的な存在を確認する作業からはじめていく。次に人間を取り巻く環境を、家族、地域社会、国家等との関係で理解を深めていく。さらに、生きることとは何か、人間らしい人間とは何かなどを自らに問いかけることによって、人生の旅を探索していく。知的な問いかけだけではなく、内的な精神の営み、超越的な存在への問いかけもとりあげていく。

授業計画

1. 序 人間学について
2. 自己への問いかけ
3. 他者との関わり
4. KAISEIパーソナリティとの関係
5. 自然との関係
6. 地球上での存在
7. 地球環境の意識
8. 歴史の中の人間(人類の遺産) 1
9. 歴史の中の人間(人類の遺産) 2
10. 家族、社会の中で(国際社会)
11. 人間存在の神秘
12. 人間らしい人間とは
13. 超越者との出会い
14. 再びKAISEIパーソナリティとの関係
15. あらためて人間とは

授業の方法

講義とディスカッションを土台とし、討論に基づいた発表の時間もとる。また、グループや個人の課題研究とプレゼンテーションに取り組む。

準備学修

各時間に配布される資料を読み、内容把握とその考えに対する意見等をまとめて提出する(2時間)。または指示されるテーマについて資料を集めて調べ、レポートにまとめる作業をする(2時間)。

課題・評価方法

- ①課題について、各時間に提出されるレポートに基づきグループ討論を行い、発表を実施する。その後各レポートを評価し、全体のフィードバックを行う。
②評価方法、平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点(100点満点)を全体の15%とし、欠席は1回につき20点減点する。

テキスト

プリントを使用する。

参考図書

加賀乙彦『不幸な国の幸福論』集英社新書
姜尚中『あなたは誰、私はここにいる』、『悩む力』集英社新書
野田正彰『共感する力』みすず書房

留意事項

自己と他者に関心を持ち、世界の出来事に興味をもち、現代社会を注視すること。また日本と世界の歴史について理解し、人生に対する自らの姿勢を意識すること。

教員連絡先

okamura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

クラスの前後に質問を受けると同時に、個別に質問を受ける時間とする。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キャリアデザイン入門	ET		11301	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
前田 典子	必修	2				

授業の到達目標

充実した学生生活を過ごすために自己のキャリアについて考えて行動できるようになることが到達目標である。具体的には①キャリア＝仕事(人生)のビジョンを言語化、文章化できるようになる。②キャリア＝仕事(人生)に関する考え方や希望を把握できるようになる。KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とA(自律)を養う。

授業の概要

生きていくうえで、いろいろな出会いがある。人、社会、仕事、そして自分。
出会いを中心にして、これからのキャリア＝仕事(人生)を考えていく。

授業計画

1. 人との出会い① 出会いのワーク 1
2. 人との出会い② 出会いのワーク 2
3. 人との出会い③ コミュニケーション演習
4. 適性検査(キャリアマップ)実施
5. 社会との出会い① 社会に出るとは？
6. 社会との出会い② 業界研究
7. 社会との出会い③ 伝えるとは？
8. 仕事との出会い① 業種・職種・雇用形態 理解
9. 仕事との出会い② 仕事をするとは？
10. 仕事との出会い③ 関心のあること
11. (キャリアマップ)ライフデザイン解説&理解
12. 自分との出会い① ライフパワーグラフ
13. 自分との出会い② 現在の私は？未来の私は？
14. 自分との出会い③ キャンパスライフプラン
15. KAISEIパーソナリティを学ぶ

授業の方法

講義(聴く) グループワーク(話す)を中心に、ワークシートへの記入(書く)を行う。聴く・話す・書くを中心に発表(プレゼンテーション)までつなげる。

準備学修

日ごろから自分の将来について考える習慣を身につける。
社会の出来事に関心をもつ。ニュースに触れる(新聞・TV・ネット)ことで自分はどう思うのか？問いかけ考える時間を毎日20分程度とる。

課題・評価方法

課題・グループ・個人発表後は担当教員によるフィードバックを行う。
評価方法・平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定に従う

テキスト

プリント配布

参考図書

随時紹介する

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キャリアデザイン入門	PC		11301	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
前田 典子	必修	2				

授業の到達目標

充実した学生生活を過ごすために自己のキャリアについて考えて行動できるようになることが到達目標である。具体的には①キャリア＝仕事（人生）のビジョンを言語化、文章化できるようになる。②キャリア＝仕事（人生）に関する考え方や希望を把握できるようになる。KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）を養う。

授業の概要

生きていくうえで、いろいろな出会いがある。人、社会、仕事、そして自分。出会いを中心にして、これからのキャリア＝仕事（人生）を考えていく。

授業計画

- 1.人との出会い① 出会いのワーク 1
- 2.人との出会い② 出会いのワーク 2
- 3.人との出会い③ コミュニケーション演習
- 4.適性検査(キャリアマップ)実施
- 5.社会との出会い① 社会に出るとは？
- 6.社会との出会い② 子どもを取り巻く社会情勢(これから)
- 7.社会との出会い③ 伝えるとは？
- 8.仕事との出会い① 業種・職種・雇用形態 理解
- 9.仕事との出会い② 仕事をするととは？
- 10.仕事との出会い③ 関心のあること
- 11.(キャリアマップ)ライフデザインの解説&ワーク
- 12.自分との出会い① ライフパワーグラフ
- 13.自分との出会い② 現在の私は？未来の私は？
- 14.自分との出会い③ キャンパスライフプラン
- 15.KAISEIパーソナリティを学ぶ

授業の方法

講義（聴く） グループワーク（話す）を中心に、ワークシートへの記入（書く）を行う。聴く・話す・書くを中心に発表（プレゼンテーション）までつなげる。

準備学修

日ごろから自分の将来について考える習慣を身につける。社会の出来事に関心をもつ。ニュースに触れる（新聞・TV・ネット）ことで自分はどう思うのか？問いかけ考える時間を毎日20分程度とる。

課題・評価方法

課題・グループ・個人発表後は担当教員によるフィードバックを行う。
評価方法・平常点70％、定期試験30％

欠席について

規定に従う

テキスト

プリント配布

参考図書

随時紹介する

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
文学入門			11309	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

近代の文学作品を進んで読むことができるようにする。近代という時代が、過去とも現代ともつながった時空であることを理解し、自らの視野を広げる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

日本の文学に登場する異界について考察する。日本の古典も参考にしながら、近代・現代作家の作品を講読したい。また、近代の文学が、現代の映像文学へどのような影響をあたえているかも、加えて考察する。神々や妖怪ら、異界のもの達に託された日本文化の一面にも注目する。

授業計画

1. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その1) 神隠しとは。
2. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その2) タブーをおかす。異界をひらく道。
3. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その3) 山姫と山爺。異界をつくる者たち。
4. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その4) 異界からの帰還。現実との接点。
5. 佐藤春夫「西班牙犬の家」と「耳をすませば」(その1) 止まった時間、固定されぬ空間。
6. 佐藤春夫「西班牙犬の家」と「耳をすませば」(その2) 物語を紡ぐ。
7. 萩原朔太郎「猫町」と「猫の恩返し」 猫になる人間たち。錯覚と理想郷。
8. 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その1) 迷信の近世。
9. 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その2) 文明の近代。
10. 芥川龍之介「奉教人の死」と「ムーラン」(その1) 語られぬ自己。
11. 芥川龍之介「奉教人の死」と「ムーラン」(その2) 男装の麗人。東洋における女性の地位。
12. 中島敦「悟浄出世」と「バケモノの子」 自分のあるべき場所とは
13. 中島敦「李陵」と「バケモノの子」 強きものへの賛辞
14. 中島敦「名人伝」と「バケモノの子」 役を究めるといふこと
15. 物語に生まれる異界とは何か。その役割とは。まとめと試験

授業の方法

作品講読と関係資料映像の鑑賞が中心となる。

準備学修

あらかじめ作品を読んでおくこと。授業で紹介した関連映像については、各自復習して視聴しておくこと。（予習復習にかかる時間：約2時間）授業で扱う作品以外にも、様々な文学に触れる時間をするため、毎日20分程度の読書の時間を設けておくこと。

課題・評価方法

毎回ノートの提出を求めます。ノートは、次の週に教員が評価して返却します。

平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて随時紹介し、プリントを配布する。

参考図書

必要に応じて随時紹介する。

留意事項

授業中に鑑賞する映像は、あくまで、文学作品を理解するためのものである。そのため、授業中では、一部のみしか鑑賞しない。文学に興味がある学生の受講を望む。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合科目 < 総合科目 >	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情報活用の基礎知識			11313	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
埴岡 忠清	選択	2				

授業の到達目標

情報活用をする前の基礎知識として、「数学」、「表計算」、「情報検索」、「ビジネス」をキーワードにこれらの基本的な内容を習得してもらう。
さらに、本講義は、自らを律して積極的に授業を受講することにより、情報活用の基礎知識をより深く理解することにより、「KAISEI パーソナリティ」のI（知性）とA（自律）を身につけてもらうことを目標とする。

授業の概要

パソコン、インターネット、さまざまなアプリケーションソフトが個人レベルに普及し、社会の情報化が急速に進んできた。しかしながら、これらがそろったからといってビジネスチャンスをつかみ、成功できるとは限らない。これから届く大量の情報を上手に活用するためには、「情報活用のための基礎知識や技術」を習得しておく必要がある。本講義では、まず、情報活用に必要な数学を割合など初歩から徹底し、データ処理に使用する表計算のしくみについて学習する。さらに、大量の情報から正しい情報を取り出せるよう情報検索の基礎知識を学ぶ。最後にビジネスとコンピュータについて概観する。

授業計画

1. 情報活用に必要な数学1～N進法
2. 情報活用に必要な数学2～割合
3. 情報活用に必要な数学3～統計
4. 表計算のしくみ1～計算式
5. 表計算のしくみ2～論理式
6. 表計算のしくみ3～相対参照と絶対参照
7. 情報検索の基礎1～I Tに関する基礎知識
8. 情報検索の基礎2～一次情報と二次情報
9. 情報検索の基礎3～情報管理の方法
10. 情報検索の基礎4～基礎知識のまとめ
11. ビジネスとコンピュータ1～文書作法
12. ビジネスとコンピュータ2～簿記
13. 有価証券報告書の読み方1
14. 有価証券報告書の読み方2
15. 有価証券報告書の読み方3

授業の方法

講義と授業内容の理解を深めるための発表を取り入れる。

準備学修

初回の授業が始まる前までに、テキストの前半部分を簡単に眺めておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト

プリントを配布する。

留意事項

本講義は、全国大学実務教育協会認定の「情報処理士」資格取得に必要な科目である。

総合科目 < 総合科目 >	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学概論			11317	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中植 満美子	選択	2				

授業の到達目標

心理学とは何を学ぶ学問であるか、また、どのように研究され、現在の形になったのか、実験心理学から社会的行動、臨床的問題に至る歴史について概観し基礎的な理解を深める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

ヴントを祖とする科学的な心理学の世界では、人間の感覚や知覚に関する理論において、どのような研究が課題であったか、それは同様に学習や認知の研究においてはどのような展開を見せてきたのか、思考や言語という領域においてはどのような知見が新たに必要となったのか、人格を捉える上で、そのような知見は十分であったのか、臨床的な視点で人間に変容をもたらすとはどのような事であるのか、また現在の心理学が抱える課題について、具体的な資料を挙げながら外観する。

授業計画

1. オリエンテーション 心理学が誕生するまで
2. 行動主義と学習理論 1
3. 行動主義と学習理論 2
4. 感覚・知覚(ゲシュタルト心理学) 1
5. 感覚・知覚(ゲシュタルト心理学) 2
6. 発達心理学
7. 認知心理学 1
8. 認知心理学 2
9. 動機付け・情動
10. 社会的行動理論
11. 人格の形成
12. 人格の評価
13. 臨床心理学 1
14. 臨床心理学 2
15. まとめ

授業の方法

講義と単元内容（実験・行動・学習・ゲシュタルト・発達・認知・社会的行動理論・人格・臨床）に相応した課題に毎時間回答しながら学習を進める。

準備学修

心や脳に関する話題は、新聞、テレビ等でよく話題にされるので関連特集などに注目して視聴してください。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は1回につき3点の減点の対象とします。欠席5回を超えた場合は不合格となります。

テキスト

末田啓二編著『心理学の最先端』あいり出版 2013

参考図書

授業中に適宜紹介する。

留意事項

授業中に配布する「学習のまとめ」や小テストをしっかりと復習しておくこと。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
統計学入門			11321	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
埴岡 忠清	選択	2				

授業の到達目標

基本的な統計の手法を理解することを目標とする。具体的には、代表値、分散、標準偏差、統計的推定の内容を理解し、統計量を計算できるようになることである。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI(知性)を養う。

授業の概要

情報化が進むいま、テレビの視聴率や世論調査など様々な場面において統計データが利用されている。最近ではコンピュータの普及によって、統計計算は容易に実行され、意味を理解していなくても結果だけは得られるようになってきた。しかし、意味を分からずに結果を出しても、それらを正しく利用することはできないし、また、場合によっては誤った判断を下す危険がある。本講義では、はじめに基本的な統計量について概観する。さらに、実際に統計量を計算することで理解を深める。

授業計画

- データの整理～度数分布表
- 1次元データの統計基礎①～代表値
- 1次元データの統計基礎②～分散・標準偏差
- 分布の形
- 正規分布①
- 正規分布②
- ランダムな標本と平均①
- ランダムな標本と平均②
- 母集団の推定①
- 母集団の推定②
- 母集団を調べる①
- 母集団を調べる②
- 母集団を調べる③
- 相関と回帰
- まとめ

授業の方法

授業では、受講者が受け身にならず、統計量を計算することで、自ら「やってみる」、「考えてみる」という姿勢を身につけてもらう。

準備学修

いままで学習した簡単な割合の内容を理解していることが望ましい。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト

森棟公夫著『教養 統計学』（新世社）

留意事項

数学が苦手な人も安心して受講してほしい。また、心理分野に興味がある人は本講義終了後、心理統計学を選択することが望ましい。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ジェンダー論			11325	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

ジェンダーとは何かを説明できる。あたりまえとされている社会生活の諸側面を、ジェンダーの視点からとらえ直すことができる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

生物学的差異にもとづく性差・性別に対して、社会的文化的につくられた性差・性別をジェンダー（gender）という。この授業では、社会の様々な制度、慣習、政策、教育、メディア、文学、歴史など人間の諸活動を、ジェンダーの視点でとらえ直す。とくに日本において、これまで見過ごされがちだった社会現象や社会問題を、ジェンダーとの関連において考察したい。また、これまでの女性学や男性学が、何をどのように問題にしてきたかを概観する。

授業計画

- ジェンダーとは
- 「女らしさ」と性別役割
- 「男らしさ」と性別役割
- 教育とジェンダー
- 労働とジェンダー
- ライフコースの多様化
- 結婚・離婚とジェンダー 1
- 結婚・離婚とジェンダー 2
- 主婦と家事
- 子育てとジェンダー
- ケアとジェンダー
- 暴力とジェンダー
- ジェンダー政策
- 国際化の中の女性問題・男性問題
- まとめ

授業の方法

講義に加えて、グループディスカッションやプレゼンテーションをとり入れる。

準備学修

予習・復習としてテキストの指定ページを読む。準備学修のプリントを配布するので、記入しておく。60時間。

課題・評価方法

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

テキスト

伊藤公雄ほか『女性学・男性学 ジェンダー論入門』有斐閣

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

様々な立場からの様々な意見を紹介するので、批判的に摂取し、自分の意見をまとめてほしい。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本国憲法			11329	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
浅野 宜之	選択	2				

授業の到達目標

この講義を通じて、学生はニュース報道などで断片的に見聞きする「基本的人権」や「統治機構」とは憲法上いかなるものであるのか、系統的に理解できるようになる。国会が制定する法律や、政府の遂行する政策には時に憲法に違反する疑いのあるものもみられる。これらについて、批判的に検討することができるようになる。KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を養うことになる。

授業の概要

この講義では、法律について専門的に学んだことがないという前提の下、日本国憲法に関する基礎的な知識をつけることを目的とする。講義では教科書のほか、パワーポイントとこれにもとづく資料プリントを使用する。まず日本国憲法の原理と制定過程について学んだ後、基本的人権について重要なものを取り上げ、解説する。続いて、統治機構についてそれぞれの組織を取り上げながらその活動の概要を学ぶ。

授業計画

1. 憲法とは何か、立憲主義、日本国憲法の基本原理
2. 平和主義
3. 人権総論、私人間効力
4. 人権の享有主体（子ども、外国人の人権）
5. 法の下での平等、幸福追求権
6. 思想・良心の自由、信教の自由
7. 表現の自由、二重の基準論
8. 経済的自由
9. 社会権総論、生存権
10. 教育を受ける権利、労働者の権利
11. 人身の自由
12. 統治機構総論、国会
13. 立法過程、内閣
14. 裁判所
15. まとめ、確認

授業の方法

パワーポイントと資料を使用して講義を進める。

準備学修

日常的にテレビ、新聞、インターネットなどでニュースにふれること。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

正当な事由あるときは、必ず連絡をすること。

テキスト

『法学六法』（信山社）

参考図書

『憲法実感！ゼミナール』孝忠延夫・大久保卓司編（法律文化社）
『憲法（第六版）』芦部信喜（岩波書店）

教員連絡先

必要の場合は事務室を通じて連絡するようにしてください。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
健康科学			11333	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
柳本 有二	選択	1				

授業の到達目標

受講生および重要な他者（保護者など）が、望ましい健康観や健康行動を獲得できるように、ウエルネス的健康観を主体とした基礎的知識を習得することを目指す。
さらに、現代社会において検討すべき、高齢化および少子化に伴う諸問題を解決する糸口を、ヘルスプロモーション的な実践活動と科学的理論から探る能力を養成する。
この授業では、KAISEIパーソナルのK（思いやり）およびI（知性）を養う。

授業の概要

講義形式で行うが、適宜アクティブラーニング（グループディスカッション）を行う。
Health in All Policies（全ての政策の中に健康という視点を取り入れる）という視点から、日常生活、災害時等の緊急対応および地域活性などの中に、すべて「健康」という概念を取り入れた政策を目指すための知識を学ぶ。そして、これからの健康づくりには、どのような活動が重要かを考えていく。
なお、毎授業ごとに授業に関する感想と意見を書き込む授業ノートを作成し、次授業の最初にその意見等を紹介し、学習の連続性を確保する。

授業計画

1. オリエンテーション. 授業の進め方を説明. グループで「論」と「学」の違いについて話し合いをする.
2. 一日一万歩の意義. ウォーキングと健康について講義とディスカッションをする.
3. Health in All Policiesという視点から、大震災時当時と現在から健康を考える.
4. 健康づくりとして、骨の重要性について. 運動, 栄養および生活習慣による骨質の低下予防について.
5. 肥満と糖尿病について, 最新の予防医学から検討する.
6. 子供たちの健康づくり(発育発達)について最新の科学的根拠から検討する.
7. 少子化や認知症など現代の諸問題についてその解決策を検討する.
8. ウエルネス的健康観から「よりよく生きる」という意味を考える.

授業の方法

毎授業ごとに授業ノートを作成し、次授業の最初にその意見等を紹介し、学習の連続性を確保する。

準備学修

日常や社会における健康づくりについて、新聞やメディアなどを通じて意識し、まとめておく。

課題・評価方法

受講した授業内容から選択し、レポートを提出する。

欠席について

神戸海星女子学院大学の欠席条件に合わせる。

テキスト

身体が心が嬉しくなるノルディック・ウォーク（メイツ出版）

教員連絡先

yyuji2004@yahoo.co.jp

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
健康スポーツ 1	①/②		11337	I	秋	50
担当者名	区分	単位	特記事項			
後藤 磨也子／片岡 安美子	選択	1				

授業の到達目標

心とからだのトータルヘルスの視点から、身体の機能面での能力である体力などを身につける。また、各種スポーツの特性を理解し、日常生活に活動が習慣化するために必要な能力や態度を育成する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）を養う。

授業の概要

- ・ニューススポーツの実践からその意味と種目の意義について理解する。
- ・ダンスや各種トレーニング方法などを通じて、健康づくりとしての身体活動の重要性を理解する。
- ・個人の体力づくりを目指しつつ、グループ活動における協力や個々の役割について考える。

授業計画

1. オリエンテーション(チーム分けなどを含む)後藤担当、片岡担当のクラスに分ける。
2. 後藤:エアロビクスダンスやリズム運動の基本の動きを学ぶ。片岡:アジャタ競技の説明とルールの理解。
3. 後藤:基本パターンを反復、各筋肉や運動強度を理解する。片岡:用具のセッティング方法習得と投球練習。
4. 後藤:ウォーミングアップとクールダウンについて理解する。片岡:投球技術の習得とゲーム
5. 後藤:各種トレーニングの構成方法を学ぶ。片岡:投球練習と審判方法の理解と実践。
6. 後藤:グループ学習、日常で継続できるエクササイズ作成。片岡:投球練習とチームでの実践。
7. 後藤:グループで作成したエクササイズの指導方法について考える。片岡:投球技術の習得とチームでの実践。
8. 後藤:オリジナル・エクササイズの完成とグループ発表。片岡:記録会(コート準備、計測、集計)
9. 後藤:エアロビクスダンスやリズム運動の基本の動きを学ぶ。片岡:アジャタ競技の説明とルールの理解
10. 後藤:基本パターンを反復、各筋肉や運動強度を理解する。片岡:用具のセッティング方法習得と投球練習。
11. 後藤:ウォーミングアップとクールダウンについて理解する。片

片岡:投球技術の習得とゲーム

12. 後藤:各種トレーニングの構成方法を学ぶ。片岡:投球練習と審判方法の理解と実践。
13. 後藤:グループ学習、日常で継続できるエクササイズ作成。片岡:投球練習とチームでの実践。
14. 後藤:グループで作成したエクササイズの指導法について考える。片岡:投球技術の習得とチームでの実践。
15. 後藤:オリジナル・エクササイズの完成とグループ発表。片岡:記録会(コート準備、計測、集計)

授業の方法

積極的な身体活動を実践する。

準備学修

日常から、体調管理に努める。

課題・評価方法

その他

欠席について

欠席はマイナス評価の対象とする。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本文化史			11353	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

日本史の概略を理解する。日本の伝統行事を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのE（倫理）とI（知性）とを養う。

授業の概要

時代ごとに歴史の重要事項を確認する。さらにその時代の文化に注目し、その文化を題材として取り扱った現代の文学・文化作品を鑑賞する。

授業計画

1. 神々の歴史 「古事記」と荻原規子『空色勾玉』を読む
2. 縄文時代・弥生時代 たつみや章『月神の統べる森で』を読む
3. 邪馬台国・古墳時代 横光利一『日輪』を読む
4. 邪馬台国のあった頃の中国(魏) 吉川英治『三国志』を読む
5. 飛鳥時代 池田理代子『聖徳太子』を読む
6. 大化の改新から 里中満智子『天上の虹』を読む
7. 奈良時代 手塚治虫『火の鳥』を読む
8. 平安時代 大和和紀『あさきゆめみし』を読む
9. 年中行事(正月について) 「枕草子」を読む
10. 年中行事(節分・3月3日・5月5日・衣替え・賀茂(葵)祭)
11. 年中行事(夏祭り・天神祭・祇園祭・ねぶた祭り・竿灯祭・七夕祭・花笠祭)
12. 年中行事(7月7日・盆・風祭・十五夜・十三夜・重陽の節会・神無月・七五三)
13. 鎌倉時代 平家滅亡 「平家物語」・小泉八雲「耳なし芳一」を読む
14. 鎌倉時代 義経逃亡 斎藤洋『白狐魔記・源平の風』を読む
15. 歴史とは、書き残されたもののこと。文化とは、人々の生活に息づくもののこと。まとめと試験。

授業の方法

講義中心の授業である。各時代ごとに小レポートの提出を課す。

準備学修

毎回取り上げる図書は、すべて図書館の指定図書コーナーでも閲覧

できる。あらかじめ読んでおくことが望ましい。(予習復習にかかる時間：約2時間)また、授業で扱う以外にも、様々な歴史文化に触れる時間を作るため、毎日15分程度、新聞の文化面を読む時間を設けておくこと。

課題・評価方法

毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて授業中に随時紹介する。

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
簿記会計学			11357	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
埴岡 忠清	選択	2				

授業の到達目標

この授業は、簿記の初学者に対し、簿記の基本概念、計算原理、作成技術などを説明する。到達目標は、日本商工会議所簿記検定3級の基本部分を習得することである。さらに、この授業は、自らを律して積極的に受講することにより、全世界で使用されている簿記の知識をより深く理解することにより、「KAISEIパーソナリティー」のI（知性）とIn（国際性）とA（自律）を身につけてもらうことを目標とする。

授業の概要

簿記とは、お金の計算を会計帳簿に記入することである。授業は、日々の取引がどのように記録されているのか、また決算においてどのような手続きが行われているのかを説明する。簿記を修得するためには、解説を聞くだけでなく、自ら電卓を持ち、問題の反復練習が重要になる。本授業では、授業で学んだことを実践的に確認するために、具体的な記帳練習を行いながら講義する。

授業計画

1. 簿記の基礎
2. 仕訳①～商品売買
3. 仕訳②～現金・当座預金・当座借越・小口現金
4. 仕訳③～手形
5. 仕訳④～貸付金・借入金他・有価証券
6. 仕訳⑤～その他の債権債務
7. 仕訳⑥～消耗品の処理・固定資産と減価償却
8. 仕訳⑦～租税公課と資本金
9. 仕訳⑧～費用・収益の繰延べと見越し
10. 決算①～帳簿への記入
11. 決算②～試算表の作成
12. 決算③～伝票制度
13. 決算④～精算表と財務諸表
14. 決算⑤～帳簿の締め切り
15. まとめと確認

授業の方法

講義と演習問題を多く取り入れて授業をする。

準備学修

授業の始まる前には、必ず予習をすること。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト

「スッキリわかる 日商簿記3級」 TAC出版

留意事項

電卓は必要なので持参すること。本講義は、全国大学実務教育協会「情報処理士」の認定に必要な科目である。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
現代家族関係論			11365	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

家族についての基礎知識を習得する。現代社会における家族関係の問題に科学的に接近できる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

家族関係への科学的接近は、様々な専門分野から可能である。この講義では、主に家族社会学の立場から家族の諸相に接近を試みる。まず、家族についての基礎知識、家族関係の基本的問題を解説する。また、現代日本の家族が直面している問題を取りあげ、家族関係のあり方について考え議論する機会を設ける。さらに、家族の先端的研究を紹介するとともに、歴史学、人口学、心理学、人類学、法学などの隣接科学における家族研究の蓄積にも学ぶこととする。

授業計画

1. 家族とは
2. 家族に関する基礎知識 1
3. 家族に関する基礎知識 2
4. 配偶者の選択
5. 結婚と夫婦関係
6. 離婚・再婚と家族関係
7. ライフコースと家族
8. 子どもの養育と家族関係 1
9. 子どもの養育と家族関係 2
10. 中年期の家族関係
11. 高齢期の家族関係
12. 家族に関する政策と法
13. 家族と社会的ネットワーク
14. 家族の変化と家族関係
15. まとめ

授業の方法

講義に加えて、プレゼンテーションやディスカッションを取り入れる。

準備学修

予習・復習としてテキストの指示ページを読む。準備学修のプリントを配布するので、記入しておく。60時間。

課題・評価方法

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

テキスト

森岡清美・望月嵩『新しい家族社会学』培風館

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

「家庭支援論」を履修する前に、この科目を履修することが望ましい。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会福祉論			11369	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
加藤 雅典	選択	2				

授業の到達目標

高齢化と少子化が同時に進行している社会状況にあつて、保育、介護、医療等の問題には誰もが直面することとなる。その中で、今後、福祉の専門分野に携わる人材として、時代の要請に応え得る、社会福祉の理念、制度や援助などに関わる資質を広い視野から育む。これからの社会福祉を主体的に考える力を身に付ける。このクラスでは、主にKAISEIパーソナリティのI（知性）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

社会福祉の概論で基本項目を学習するとともに、最新のデータや資料によって、わが国の社会福祉の動向と課題等を、身近なテーマとして理解する。指定する教科書の構成に従って授業を進めるが、時事的な事柄やキーワードとなる内容については、討議をしながら深めていく。社会福祉の実施に関わる知識と姿勢を積極的に修得することを目指す。

授業計画

1. 社会福祉の意義、社会福祉の成り立ち
2. 現代社会における生活問題
3. 社会福祉のしくみ
4. 社会福祉施設と従事者
5. 社会福祉の分野 その1 こども家庭福祉(1)
6. 社会福祉の分野 その2 こども家庭福祉(2)
7. 社会福祉の分野 その3 障がい者(児)福祉(1)
8. 社会福祉の分野 その4 障がい者(児)福祉(2)
9. 社会福祉の分野 その5 高齢者福祉(1)
10. 社会福祉の分野 その6 高齢者福祉(2)
11. 社会福祉の分野 その7 公的扶助
12. 社会福祉の分野 その8 地域福祉、医療福祉
13. 社会福祉における相談援助(1)
14. 社会福祉における相談援助(2)
15. 社会福祉における利用者保護

授業の方法

講義を主体としながらディスカッションを取り入れる。

準備学修

テキストを事前に読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

履修要項による

テキスト

小林育子・一瀬早百合共著「社会福祉と私たちの生活－保育を学ぶ人のために」 萌文書林2016年初版 必要に応じて資料を配布する。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人権教育論			11373	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
堀 正人	選択	2				

授業の到達目標

人権教育の基本的な概念を学習し、人権感覚を高め人権学習の実践力を養う。そして学校での人権学習の具体的な指導法を考察する。さらに人権学習の指導案を作成し実践的な模擬授業を経験する。このクラスではKAISEIパーソナリティーI（知性）を養い、プレゼンや模擬授業、ロールプレイを体験する過程でK（思いやり）の諸能力を生かします。

授業の概要

毎回配布するレジュメ・資料を中心に授業を進める。人権感覚を磨く方法や、人権教育の在り方について考察し、実際の取り組み方を学ぶ。

授業計画

1. 人権とは(人権感覚、考え方)
2. 偏見と差別
3. 人権・同和教育とは
4. 人権尊重の教育
5. 子どもの人権Ⅰ(虐待、体罰、子どもの安全)
6. 子どもの人権Ⅱ(いじめ、不登校、権利条約)
7. 学校における人権学習Ⅰ(学習権、個性)
8. 学校における人権学習Ⅱ(複数指導、生活科)
9. 人権教育指導実践Ⅰ(項目別)
10. 人権教育指導実践Ⅱ(資料研究)
11. 人権教育指導実践Ⅲ(人権ゲーム、ロールプレイ)
12. 阪神淡路大震災と人権
13. 人権学習のコラム
14. 諸外国の人権教育事情
15. 人権教育の課題、まとめ

授業の方法

講義を中心に発表やロールプレイも取り入れ、模擬授業を実践してもらいます。

準備学修

世界中で報道される人権問題に関心を持っておくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえず欠席する時は事前事後に届け出ること。

参考図書

授業の中で適宜紹介します。

留意事項

ロールプレイやゲーム等で人権感覚を磨く訓練をします。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会科学概論			11377	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
尾崎 秀夫	選択	2				

授業の到達目標

本授業では、歴史学のあり方について学ぶ。歴史は小学校から高校まで必ず学ぶ科目であるが、暗記科目と見られることが多い。歴史学者が史料に基づいて如何に過去を明らかにしていくかを体験させる。この授業ではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

歴史は決して暗記科目ではなく、史料に基づいて過去を再構成していく営みである。先行研究の成果である通説と対峙しつつ、修正・変更を加えて新しい通説を構築していくのが歴史学の進歩である。本授業ではローマ皇帝の対キリスト教政策をテーマとして、そのような歴史学の営みを受講生に体験してもらいたい。

授業計画

1. はじめに、歴史学とは何か

2. 古代ローマ史(1)

3. 古代ローマ史(2)

4. 古代ユダヤ史

5. ネロの迫害(1)

6. ネロの迫害(2)

7. ドミティアヌスの迫害

8. トラヤヌスの勅令

9. 1, 2世紀の迫害の実態

10. アントニヌス勅令

11. デキウス、ヴァレリアヌスの迫害

12. ガリエヌスの平和

13. ディオクレティアヌスの迫害

14. ミラノ勅令

15. まとめと試験

授業の方法

講義、討論、演習形式。

準備学修

授業内容の背景を知るため、古代ローマ史やキリスト教史に関する

書物を読んでおくこと。（60時間）

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

通常欠席が5回を超える場合は受験資格を認めない。

テキスト

テキストは特に定めない。随時、史料のプリントを配布。

参考図書

とくに指定しない。

留意事項

私語は慎み、求められたときは積極的に発言すること。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
家政学概論			11381	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

学問としての家政学を理解する。家政学の各分野を学ぶことを通して、小学校家庭科の教材研究や教材開発の基礎となる知識と技術を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

「家政学はどのような学問か」については、諸説が林立している。経済・社会の変化にともなって、家族や生活のあり方が変化し、家政学自体も改革が続いている。この講義では、家政学についての様々な主張を解説し検討することを通して、家政学とは何かにアプローチしたい。さらに、家庭経営、家庭経済、消費者問題、家族関係、食生活、衣生活、住生活、生活情報、生活環境などの各論・各分野についても学ぶこととする。家政学、生活科学、生活環境学などを網羅し概観することで、小学校家庭科の教材研究や教材開発の基礎となる知識と技術を身に付け、実践的能力を養う。

授業計画

1. 様々な家政学

2. 家政学の定義・目的・対象・方法

3. 家政学の発展過程と改革

4. 家庭生活と生活経営

5. 家庭経済・消費者問題

6. 家族関係

7. 食生活 1

8. 食生活 2

9. 衣生活 1

10. 衣生活 2

11. 住生活 1

12. 住生活 2

13. 生活情報

14. 生活環境

15. まとめ

授業の方法

講義に加えて、プレゼンテーションをとりいれる。

準備学修

予習・復習としてテキストの指示ページを読む。準備学習のプリントを配布するので、記入しておく。60時間。

課題・評価方法

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

実教出版編集部『生活学Navi』実教出版

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合科目 <総合科目>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
オーストラリア幼稚園実習			11383	Ⅱ	集	
担当者名	区分	単位	特記事項			
福智 佳代子	選択	2				

授業の到達目標

2020年度、小学校英語は教科化され、グローバル化に対応した英語教育改革が実施される。小学校中学年では学級担任が中心、高学年では、英語指導力を備えた学級担任+専科教員が指導することになっている。現在、幼稚園でも約6割の園で英語教育が実施されている。多文化社会オーストラリアの藤国際幼稚園（Fuji International Kindergarten）で、グローバルな視野と行動力を持った幼稚園教諭・保育士育成のための保育実習を体験し、幼稚園・小学校英語教育指導者の育成を図る。この授業ではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）、S（奉仕）、A（自律）を養う。

授業の概要

オーストラリアの幼稚園では、標準オーストラリア英語を共通語とする多言語・多文化教育がなされている。オーストラリアの藤国際幼稚園で、実際、様々な文化的背景、多言語を使う園児たちと関わる保育体験及び保育実習を体験し、将来のグローバル教員としての資質を育成する。事前研修では、園児が楽しめる日本文化紹介の活動などの授業準備を行う。保育実習中は、毎日実習報告日誌を作成、日本とオーストラリアの教育比較も行う。オーストラリアの教育制度などの講義に関しては、事後研修ポートフォリオとしてまとめて提出する。

授業計画

- 事前研修(1)
- 事前研修(2)
- オリエンテーション オーストラリア文化体験学習(1)
- 観察実習&子どもと関わる体験実習(1) 講義&ワークショップ(1)、英会話(1)
- 観察実習&子どもと関わる体験実習(2) 講義&ワークショップ(2)、英会話(2)
- 観察実習&子どもと関わる体験実習(3) 講義&ワークショップ(3)、英会話(3)
- 観察実習&子どもと関わる体験実習(4) 講義&ワークショップ(4)、英会話(4)
- フィールドワーク・野外活動研究 ホストファミリーと過ごす
- フィールドワーク・野外活動研究 ホストファミリーと過ごす

- 観察実習&子どもと関わる体験実習(5) 講義&ワークショップ(5)
指導準備 活動案教具作成
- フィールドトリップ「野外活動研究」英会話「子供に教える動物語彙と表現」
- 「保育指導実習」 まとめ
- 修了書授与 帰国
- 事後研修(1) ポートフォリオ作成
- 事後研修(2) ポートフォリオ作成
プレゼンテーション

授業の方法

保育実習、オーストラリア教育に関する講義、実習授業

準備学修

実習授業案・教具作成、保育英語・日常英会話学習

課題・評価方法

平常点30%、保育実習・実習授業70%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

参考図書

Bright and Early Classroom English for Teachers of Children 「子どもに英語を教えるための教室英語」
カレイラ 松崎 順子 南雲堂 ISBN978-4-523-17628-2

留意事項

参加型の研修なので、健康に留意すること

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

日本語 <日本語>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語表現法	ET		11401	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

敬語をつかい、文章を書けるようにする。また、敬語をつかい、自己表現ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）を養う。

授業の概要

言葉を公に使用するということは、社会的責任を負うということでもある。授業では、社会人として必要な日本語表現の常識を学ぶ。注意深く、日本語に接する訓練をする。

授業計画

- 「文章入門」書き言葉の決まり事を学ぶ。ノートの取り方を学ぶ
- 「敬語」尊敬語と謙譲語(その1)プリント配布。
- 「敬語」尊敬語と謙譲語(その2) 「敬語表小テスト」
- 「敬語」まちがいがやすい敬語 「敬語小テスト」
- 「敬語」待遇表現(その1)「敬語小テスト」
- 「敬語」待遇表現(その2)「敬語小テスト」
- 「修辭法と慣用句」比喩法・変化法、慣用句ことわざ 「敬語まとめテスト」
- 「文中の誤りを正す」推敲の仕方を学ぶ。「冠婚葬祭」の常識「敬語総まとめテスト」
- 「メールの書き方」プリント配布
- 「履歴書とエントリーシート」
- 「手紙とはがき」一般的な形式と表現
- 「手紙とはがき」礼状
- 「案内状の作成」種類と内容
- 「誤用文と推敲」修飾句の位置・副詞の呼応
- 「文章の構成」まとめとテスト

授業の方法

演習中心の授業である。新聞投稿などを通じて、社会と繋がっていく準備をする。

準備学修

敬語は使わなければ身に付かない。日頃から意識して正しい敬語を

使う努力をする。
また、新聞投稿の課題に備えて、毎日30分以上新聞を読む習慣を身に付けておくこと。

課題・評価方法

毎回、授業の始めに、前回の授業内容を復習する小テストを行い、次週にフィードバックする。
平常点70%、定期試験30%

欠席について

テストやレポートの提出は、授業当日が原則となるため、欠席するとその点数がすべて減点される。

テキスト

西尾宣明編『日本語表現法』（樹村房）

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

留意事項

演習が中心の授業となる。毎時間、国語辞典を持参すること。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

日本語 <日本語>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語表現法	PC		11401	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	必修	2				

授業の到達目標

日本語の特質を理解するとともに、言葉の使い方・話し方・文章の書き方等、社会生活の中で必要とされる基礎的な国語力を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

基本的な日本語の知識や文章の書き方を修得するために、実践的な演習を取り入れた講義を行う。また、実用的な挨拶・自己紹介等における話し言葉の表現法についても学ぶ。言葉に対する感性を磨くために、詩や名文等の学修を取り入れていく。

授業計画

1. 受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、美しい日本語

2. 国語の力(読む・調べる・書く)

3. 話し方の基本

4. 挨拶と敬語

5. 敬語の使い方、自己紹介の仕方

6. 自己紹介

7. 文字の書き方と表記

8. 文章の書き方①

9. 文章の書き方②

10. 文章の書き方③

11. 文章の書き方④

12. 文章の書き方⑤

13. 書写①

14. 書写②

15. 日本語表現の振り返り

授業の方法

書く活動や発表を多く取り入れる。

準備学修

テキストの指定ページを予習し、学修内容を把握しておくこと。既習の授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。予習・復習に計60時間以上費やすこと。

課題・評価方法

①小テストは、講義の中でフィードバックを行う。

②評価方法は平常点30%、定期試験70%とする。

欠席について

欠席は3点減点し、遅刻は1点減点する。

テキスト

田上貞一郎『保育者になるための国語表現』萌文書林

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度（準備と提出物含む）を重視する。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

日本語 <日本語>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語文章構成法			11405	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

他人の意見を理解し、それを要約する力をつける。また、客観的資料をもとに、自分の意見を述べる力をつける。このクラスではKAISEIパーソナリティのE（倫理）とI（知性）とを養う。

授業の概要

簡潔で的確な日本語表現の習得を目指す。表現力向上のために必要な基礎的知識を、演習のなかで体得していく。与えられた課題に対して、自分で文章を作り、それを推敲していく演習形式の授業である。読み手を意識した文章を書く練習をするため、書き上げた文章は公表する。

授業計画

1. <評論文>（1） 感想文と評論文とはどう違うのか。

2. <評論文>（2） 映画評を書く。アウトラインのたてかたを学ぶ。

3. <評論文>（3） 文中の誤りを正す。推敲の仕方を学ぶ。

4. <評論文>（4） 書評を書く。図書・雑誌の探し方を学ぶ。

5. <評論文>（5） 書評を書く。序論・本論・結論の順に記述を進める。引用の規則を守る。

6. <新聞検索> 新聞記事の検索を行い、次回にレポートを書く資料準備を行う。

7. <意見文> 他説・自説・証明といった三段構成の方法を学ぶ。特に自説の証明を学ぶ。客観的根拠を3例以上あげ、自説を証明する。

8. <意見文・説得文> 反論の仕方を学ぶ。予想される反論をあげ、それに反論する。

9. <意見文・説得文> 新聞投稿を行う。結論・本論・結論の三段構成の方法を学ぶ。

10. <小説> 語り手の位置を学ぶ。

11. <小説> テーマにそった短編小説を書く。

12. <エントリーシート> キャッチコピーを学ぶ。接近法・強調法・暗示法などを学ぶ。

13. <エントリーシート> ネーミングコピーの作り方を学ぶ。

14. <エントリーシート> 標語の作り方を学ぶ。ブレンライティング法を学ぶ。

15. <エントリーシート> 「10年後の私」という題で自分について書く。起・承・転・結の四段構成の方法を学ぶ。

て書く。起・承・転・結の四段構成の方法を学ぶ。

授業の方法

演習が中心の授業となる。新聞投稿などをとおして、社会の一員としての自分の位置を理解していく。

準備学修

漢字のテストを毎回行う。課題をあたえるので、復習をしておく。新聞投稿の課題に備えて、毎日30分以上新聞を読む習慣を身に付けておくこと。特に新聞の読者投稿欄は、毎日目を通しておくように。

課題・評価方法

毎回課題を与え、その提出を求める。提出物は教員が評価し、次週にフィードバックする。平常点70%、定期試験30%

欠席について

課題の提出は、授業当日が原則となるため、欠席するとその点数がすべて減点される。

テキスト

必要に応じて授業中に随時紹介する。

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

留意事項

演習が中心の授業となる。毎時間、国語辞典を持参すること。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

情報 < 情報 >	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情報リテラシー 1	ET・PC		11501	I	春	35
担当者名	区分	単位	特記事項			
米田 里香	必修	2				

授業の到達目標

情報に関する基礎的な知識と技術を修得し、現代社会における情報のしくみを理解するとともに、情報を活用し、さまざまな問題を解決できる能力を育成することを目標とする。このクラスではK A I S E I パーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

ハード、ソフト、ネットワークなどのコンピュータの基礎知識を学習し、実技においては、マイクロソフトワードの基本操作を学習する。さらにプレゼンテーションソフトの簡単な操作方法も学習する。学習の動機付けとして、日本語ワープロ技能標準試験 2 級の資格取得を目指す。

授業計画

1. コンピュータの基礎知識／ウィンドウズの基本操作

2. コンピュータの基礎知識／文字入力、編集

3. コンピュータの基礎知識／ワード基本操作

4. コンピュータの基礎知識／ワード基本操作

5. ワード基本操作

6. ワード基本操作

7. ワード基本操作まとめ

8. 日本語ワープロ技能標準試験 2 級対策

9. 日本語ワープロ技能標準試験 2 級対策

10. 日本語ワープロ技能標準試験 2 級対策

11. 日本語ワープロ技能標準試験 2 級対策

12. 日本語ワープロ技能標準試験 2 級対策

13. 図形練習

14. プレゼンテーションソフトの基本

15. 確認演習

授業の方法

知識学習と実技とを並行しながら学習する。学習の成果として資格取得にも挑戦する。

準備学修

入力練習と授業で学習したことを復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

通常欠席が 5 回を超えた場合は、不可とする。

テキスト

情報リテラシーオリジナルテキスト
日本語ワープロ技能標準試験過去問題集 noa出版

留意事項

テキストは必ず持参すること。

情報 < 情報 >	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情報リテラシー 2	ET・PC		11505	I	秋	35
担当者名	区分	単位	特記事項			
米田 里香	必修	2				

授業の到達目標

現代ビジネス社会においてさまざまなデータを活用できるスキルを育成することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

はじめに、データ処理に必要な数学の割合を中心に学習し、表計算ソフトを利用したデータの処理のために必要な数式をたてる練習を行う。またビジネスにおいて必要となるデータ処理の手法について簡単に学ぶ、そのご表計算ソフトの基本操作を習得し、グラフなどで適切なビジュアル化が行えるように指導する。学習の動機付けとして、表計算技能標準試験 2 級の資格取得を目指す。

授業計画

1. 割合の計算

2. 割合の計算

3. エクセル基本操作

4. エクセル基本操作

5. エクセル基本操作

6. エクセル基本操作

7. エクセル基本操作まとめ

8. 表計算技能標準試験 3 級対策

9. 表計算技能標準試験 3 級対策

10. 表計算技能標準試験 3 級対策

11. 表計算技能標準試験 2 級対策

12. 表計算技能標準試験 2 級対策

13. 表計算技能標準試験 2 級対策

14. 表計算技能標準試験 2 級対策

15. 確認演習

授業の方法

実技中心で学習する。学習の成果として資格取得にも挑戦する。

準備学修

授業で学習した操作の復習をしておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

通常欠席が5回を超えた場合は、不可とする。

テキスト

情報リテラシーオリジナルテキスト（情報リテラシー 1 受講者は購入必要なし）
表計算技能標準試験過去問題集 noa出版

留意事項

テキストは必ず持参すること。

情報＜情報＞	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
オフィス情報処理 1	①/②		11509	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
米田 里香	選択	2				

授業の到達目標

ビジネス社会において役立つ文書作成能力を育成することを目標とする。このクラスではK A I S E I パーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

情報リテラシー 1 で学習したことを元にさらに応用的なビジネス文書の編集を学習する。学習の動機付けをとして、日商PC検定3級（文書作成）の取得を目指す。

授業計画

1. ワードの基本操作確認

2. 日商PC検定3級知識対策／ワードの基本操作確認

3. 日商PC検定3級知識対策／ワードの基本操作確認

4. 日商PC検定3級知識対策／ワードの基本操作確認

5. 日商PC検定3級知識対策／ワードの基本操作確認

6. 図形演習

7. まとめ

8. 日商PC検定3級文書作成実技対策

9. 日商PC検定3級文書作成実技対策

10. 日商PC検定3級文書作成実技対策

11. 日商PC検定3級文書作成実技対策

12. 日商PC検定3級文書作成実技対策

13. 日商PC検定3級文書作成実技対策

14. 日商PC検定3級文書作成実技対策

15. 確認演習

書式設定

表作成

表作成

表作成

授業の方法

日商PC検定3級（文書作成）の合格を目指し実技対策と知識対策をしていく。

準備学修

授業で学習したことを必ず復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

通常欠席が5回を超えた場合は、不可とする。

テキスト

日商PC検定試験文書作成3級公式テキスト&問題集(ver2013対応)
FOM出版
情報リテラシーオリジナルテキスト（未購入の学生は講師に問い合わせること）

留意事項

テキストを必ず持参すること。

情報＜情報＞	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
オフィス情報処理 2			11513	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
米田 里香	選択	2				

授業の到達目標

ビジネス実務に必要とされる基本的なデータ処理能力を養成することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

情報リテラシー 2 で学習したことを元にさらに応用的なデータ処理を学習する。学習の動機付けとして、日商PC検定 3 級（データ活用）の取得を目指す。

授業計画

1. エクセルの基本操作確認

2. 四則演算復習

3. 関数練習

4. 関数練習

5. 集計について

6. 集計について

7. まとめ

8. 日商PC検定3級データ活用対策

9. 日商PC検定3級データ活用対策

10. 日商PC検定3級データ活用対策

11. 日商PC検定 3 級データ活用対策

12. 日商PC検定3級データ活用対策

13. 日商PC検定 3 級データ活用対策

14. 日商PC検定3級データ活用対策

15. 確認演習

授業の方法

日商PC検定 3 級（データ活用）の合格を目指し実技対策と知識対策をしていく。

準備学修

授業で学習したことを復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

通常欠席が5回を超えた場合は、不可とする。

テキスト

日商PC検定試験データ活用3級公式テキスト&問題集(ver2013対応)
FOM出版

留意事項

情報リテラシー 2 を受講していること。テキストは必ず持参すること。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 1	a		11601	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
小野 礼子	選択	1				

授業の到達目標

私たちの身近にある様々なトピックについて読んだり話し合ったりすることを通して英語のコミュニケーション能力の向上を図る。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）及びIn（国際性）を養う。

授業の概要

まず、リスニング及びスピーキングの活動を通してその日のトピックに関する語彙や役立つ表現について学ぶ。次に、中学・高等学校で学んだ文法事項の復習を行い、リーディング及びライティング活動へと進む。最後に、まとめとして書いたものを発表する。

授業計画

- 1.Introduction
- 2.Unit 1 Meeting People
- 3.Unit 2 Time to Eat
- 4.Unit 3 Living with Technology
- 5.Unit 4 Shopping for Clothes
- 6.Unit 5 A Helping Hand at Home
- 7.Unit 6 Going Places
- 8.Unit 7 Not Feeling So Good
- 9.Unit 8 The Big Screen
- 10.Unit 9 How Do You Feel?
- 11.Unit 10 All in Good Fun
- 12.Unit 11 Game Time
- 13.Unit 12 Rain or Shine
- 14.Unit 13 Eating Out
- 15.Unit 14 School Life

授業の方法

ペアワーク、ディスカッション、発表等のコミュニケーション活動を中心とする。

準備学修

予習・復習として毎回約1時間分の宿題を行うこと。

課題・評価方法

平常点70％、定期試験30％
平常点には、小テスト、宿題（予習、復習）、発表、出席状況、日頃の学習態度等の評価が含まれる。
小テストは翌週のテスト返却時に、発表は各発表後にフィードバックを行う。

欠席について

出席点（100点満点）は全体の20％とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

New Connection Book 1 角山照彦, A. Dubinsky, D. E. Keane, M. Corsini著 成美堂

留意事項

間違うことを恐れずに積極的に英語を使って授業に参加してほしい。

教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 1	b		11601	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
釜須 久夫	選択	1				

授業の到達目標

将来、保育士を目指す学生に必要とされる語彙と知識を学習する。保育の現場で役立つ表現と語彙に取り組みながら、読む、書く、話す、聞く、の4技能の実用能力の向上も図る。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)を養う。

授業の概要

テキストに沿って、様々なシーンを一回1ユニットづつ授業を進める。毎回キーワードの小テストを実施し、確実に語彙を増やしていく。

授業計画

- 1.Pre-unit Please Speak More Slowly
- 2.UNIT 1 Hi, I'm Yuri Tanaka
- 3.UNIT 2 Where Is the Multi-purpose Room？
- 4.UNIT 3 Good Morning. How Are You Today？
- 5.UNIT 4 What Color Do You Like？
- 6.UNIT 5 There's a Ladybug on the Leaf
- 7.UNIT 6 It's Time to Play Outside
- 8.UNIT 7 She Is Allergic to Eggs
- 9.UNIT 8 You Should Go to the Bathroom
- 10.UNIT 9 We Made Masks Today
- 11.UNIT 10 If It Rains, What Happens？
- 12.UNIT 11 What Shall We Do Today？
- 13.UNIT 12 I Feel Feverish
- 14.UNIT 13 This Is Yuri from Cosmos Day Care Center
- 15.UNIT 14 Thank You Very Much for Everything & 試験

授業の方法

テキストに沿って毎回1ユニットづつ進めていく。

準備学修

必ず指定された個所を予習してくること。

課題・評価方法

平常点50％、定期試験50％

欠席について

欠席は原則として認めない。欠席の場合は原点の対象とする。

テキスト

Happy English for Childcare 土屋麻衣子著 金星堂

留意事項

必要に応じて、授業中に指示を行う。

教員連絡先

sam@alohawalker.net

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 2	a		11605	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
入江 和子	選択	1				

授業の到達目標

保育や幼児教育の現場でよく使われる英語表現・語彙を習得するとともに、4技能（聞く、話す、読む、書く）を効果的に学習し、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。このクラスでは、KAISEI パーソナリティのIn（国際性）を養い、K（思いやり）を考える。

授業の概要

Children's Gardenという国際的な保育園を舞台に、一人の学生が保育の実習を通して成長していく体験を読み進める。さまざまなタスクに関連語句や表現を習得し、さらに基礎的な文法や語法を復習して保育の現場で欠かせない日常の出来事や実習の心得、実習中のエピソードなど、平易な英語で書かれた英文のリスニングやリーディング、会話の内容を理解する。また手遊び唄やなぞなど、子守唄、詩歌を楽しみながら英語の発音、イントネーション、リズムの練習を行う。

授業計画

1.Introduction

2.Chapter 1 Children's Garden

3.Chapter 2 The First Day of the Internship

4.Chapter 3 Out We Go!

5.Chapter 4 Splish, Splash

6.Chapter 5 Pancake Day

7.Chapter 6 Read Me, Tell Me Stories

8.Review, Mid Term

9.Chapter 7 Activities with Watermelons

10.Chapter 8 Happy Birthday!

11.Chapter 9 Children at Play

12.Chapter 10 Baby News

13.Chapter 11 The Tooth Fairy

14.Chapter 12 The Green-Eyed Witch

15.Review

授業の方法

テキストに沿って進み、発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

本文の音読練習と指定された範囲の予習は必ず準備してくる。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点から2点減点する。その他は学内の規定に準じる。

テキスト

Naoko Akamatsu, Children's Garden （Seibido）

参考図書

授業中、必要に応じて指示する。

留意事項

毎回小テスト行い、その結果は平常点に組み入れる。英語辞書必携

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 2	b		11605	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
木下 奈美	選択	1				

授業の到達目標

世界で古くから親しまれてきた数々の名作を英語で聴いたり読んだりして物語を楽しみ、これらの作品を通して多様なものの見方ができるようにすることを目指す。このクラスでは、KAISEI パーソナリティのIn（国際性）を養い、K（思いやり）を考える。

授業の概要

子どもの頃に言葉を吸収したように、物語を聴いて、読んで、テキストのtaskを通じて語彙や内容を理解し、物語への関心を深める。異文化への理解が深まり、新しく身につけた語彙が英語の読解や表現の幅をひろげ、英語の絵本の音読がうまくなる。

授業計画

1.Introduction and Course Orientation

2.Sinbad the Sailor

3.Hansel and Gretel

4.Puss in Boots

5.Sleeping Beauty

6.The Three Spinners PART 1/PART 2

7.Alice in Wonderland PART 1

8.Alice in Wonderland PART 2

9.Aladdin and the Lamp PART 1

10.Aladdin and the Lamp PART 2

11.Ali Baba and the Forty Thieves PART 1

12.Ali Baba and the Forty Thieves PART 2

13.Pinocchio PART 1

14.Pinocchio PART 2

15.Conclusion and Review

授業の方法

テキストに沿って講義を進め、議論し、taskの解答を検討する。

準備学修

本文の音読練習を行い、分からない単語の意味と発音を調べ、テキストのtaskに解答してから授業に臨むこと。予習復習に、合わせて1

時間程度の自宅学習を要する。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%
内容に応じて随時小テストを行い、返却する回の講義の中でフィードバックを行う。

欠席について

履修要項に沿って評価に反映する。

テキスト

Atsuko Uemura, English Cradle - Classic Tales from around the World, CENGAGE Learning

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

英語辞書は必携である。初回到座席を指定する。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 3			11609	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
入江 和子	選択	1				

授業の到達目標

映画のストーリーを楽しみながら実用的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。さらに現代アメリカの抱える問題を認識して異文化理解を深める一助とする。このクラスではKAISEIパーソナリティーのIn（国際性）を養い、K（思いやり）を考える。

授業の概要

ニューヨークを舞台に繰り広げられるアイルランド移民一家の悲しみと再生の感動的な物語を題材に取り上げる。各ユニットで英語コミュニケーションに必要な基本的表現や文法を学習し、ストーリー予測などのさまざまな練習問題に取り組みながら内容への理解を深める。さらにコラムなどを通して根底に流れているアイルランドとアメリカの歴史・文化の一端に触れる。また、家族、人間、愛についても考えを巡らせていく。

授業計画

1. Introduction

2. Unit 1 Do You Believe in Magic?（魔法を信じますか？）

3. Unit 2 Humidity（ニューヨークの夏）

4. Unit 3 A Game of Chance（運試し）

5. Unit 4 Halloween（ハロウィーン）

6. Unit 5 Colcannon（コルクヤノン）

7. Unit 6 I'm in Love with Anything that Lives（生きる者すべてに愛を）

8. Review, Mid Term

9. Unit 7 "Desperado"（『デスペラード』）

10. Unit 8 Masselo Masela（勇者）

11. Unit 9 Do You Believe in Aliens?（E.T.を信じますか？）

12. Unit 10 Pray for the New Baby（新しい生命への祈り）

13. Unit 11 Mateo and the New Born Baby（マテオと新しい生命）

14. Unit 12 Say Goodbye to Frankie, Dad（フランキーにさよならを）

15. Review

授業の方法

テキストに沿って順に読み進めていく。発表とディスカッションを

多く取り入れる。

準備学修

指定された範囲を予習する。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点より2点減点する。その他は学内の規定に準じる。

テキスト

In America: An Interactive Portrait of the Film 『イン・アメリカ—三つの小さな願いごと』 英宝社

参考図書

授業中、必要に応じて指示する。

留意事項

毎回復習テストを行い、結果を平常点に組み入れる。 英語辞書必携

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 4			11613	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
木下 奈美	選択	1				

授業の到達目標

テキストの精読および、これを題材とする実習を繰り返して、英語を「読む、書く、聴く、話す」の4技能を高めることを目標とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのK（思いやり）とA（自律）を考える。

授業の概要

図書館という身近な空間を扱った英語の絵本をテキストとして読み進めながら、音読、ブレンストーミング、テキストのretelling（絵の情景や登場人物の気持ちを簡単な英語で説明したり、要約したりすること）、トピックに関するディスカッション等の実習（activities）を繰り返し、英語コミュニケーションへの関心を高め、英語運用能力が自然に身につくように試みる。

授業計画

1. Introduction

2. Text reading (1) - One day

3. Text reading (2) - The next day

4. Activity [1] - Brainstorming

5. Activity [2] - Comparing library rules

6. Activity [3] - Retelling English text (1)

7. Text reading (3) - One day

8. Text reading (4) - The next day

9. Midterm review

10. Activity [4] - Retelling English text (2)

11. Text reading (5) - One evening

12. Text reading (6) - The next day

13. Activity [5] - Discussion on rule-breaking

14. Activity [6] - Drafting your summary

15. Conclusion and Review

授業の方法

講読の際には、文意の理解に加えて、発音に注意しリズムよく表現豊かに音読できること、用いられた英語表現から登場人物やライオンの心情や所作のニュアンスをくみ取れるようになることを目指す。実習の際には、各自のアイデアを英語で表現できることを目指す。

す。

準備学修

意味や発音の不明な語を調べてテキストを読み、理解しておくこと。プリント上の指示に従い、予習または復習のための課題に取り組むこと。予習復習に、合わせて1時間程度の自宅学習を要する。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

履修要項に沿って出欠・遅刻を判定し、評価に反映する。

テキスト

Michelle Knudsen, Library Lion, Candlewick Press

留意事項

英語辞書は必携である。初回到座席を指定する。

外国語 < 外国語 >	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 5	a/b		11617	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Tina D. MATHERS	選択	1				

授業の到達目標

The course will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include idioms, architecture, colors, manners, games, family, DIY (Do-It-Yourself), trash, and cleanliness.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1 People and Places
3. Unit 1 People and Places
4. Unit 2 People and Things
5. Unit 2 People and Things
6. Review
7. Presentations
8. Mid Term
9. Unit 3 Your Life
10. Unit 3 Your Life
11. Unit 4 Likes and Dislikes
12. Unit 4 Likes and Dislikes
13. Review
14. Presentations
15. Presentations

授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups

準備学修

Be familiar with the content of the textbook: preview and review

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 20%
Tests and Quizzes 10%

Presentations 40%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Longman *Cutting Edge Elementary*, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

外国語 < 外国語 >	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 6	a/b		11621	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石原 敬子／國本 恵理香	選択	1				

授業の到達目標

This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, locating supporting details, inferences, and word forms.

授業計画

1. Introduction
2. Chapter 1 Sleep
3. Chapter 1 Sleep
4. Chapter 2 Homestay in London
5. Chapter 2 Homestay in London
6. Chapter 3 Not Black and White
7. Chapter 3 Not Black and White
8. Mid Term
9. Chapter 4 Helping Others
10. Chapter 4 Helping Others
11. Chapter 5 Generation Z
12. Chapter 5 Generation Z
13. Chapter 6 Being Successful
14. Chapter 6 Being Successful
15. Review

授業の方法

Be Familiar with the textbooks before class

準備学修

Be familiar with the textbooks: preview and review

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%

Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford *Select Readings Pre-Intermediate*, 2nd edition. Linda Lee & Erik Gundersen
Oxford Bookworms *New Yorkers Short Stories* by O Henry retold by Diane Mowat

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

外国語 < 外国語 >	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 7	a/b		11625	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Tina D. MATHERS／Andy RUSHTON	選択	1				

授業の到達目標 The course will develop a sense of internationality and autonomy. 授業の概要 The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include idioms, architecture, colors, manners, games, family, DIY (Do-It-Yourself), trash, and cleanliness. 授業計画 1. Introduction 2. Unit 8 Fact or Fiction? 3. Unit 8 Fact or Fiction? 4. Unit 9 Buy and Sell 5. Unit 9 Buy and Sell 6. Review 7. Presentations 8. Mid Term 9. Unit 10 Look Good 10. Unit 10 Look Good 11. Unit 11 Nature 12. Unit 11 Nature 13. Review 14. Presentations 15. Presentations 授業の方法 Students will work individually and in groups 準備学修 Be familiar with the textbook: preview and review 課題・評価方法 Your final grade will be determined using the following scale: Final Exam 20% Tests and Quizzes 10%	Presentations 40% Class Participation 20% Homework 10% 欠席について As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given. テキスト Longman <i>Cutting Edge Elementary</i>, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor 参考図書 Will be assigned as needed 留意事項 Active participation is essential for success
---	--

外国語 < 外国語 >	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 8			11629	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐伯 瑠璃子	選択	1				

授業の到達目標 This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy. 授業の概要 The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including understanding meaning from context, compound words, prefixes, and collocations. 授業計画 1. Introduction 2. Chapter 8 Live Forever? 3. Chapter 8 Live Forever? 4. Chapter 9 Baseball Fans 5. Chapter 9 Baseball Fans 6. Chapter 10 Mobile Phones 7. Chapter 10 Mobile Phones 8. Mid Term 9. Chapter 11 A Musician 10. Chapter 11 A Musician 11. Chapter 12 A Day of a Freshman 12. Chapter 12 A Day of a Freshman 13. Chapter 13 Love at First Sight 14. Chapter 13 Love at First Sight 15. Review 授業の方法 Students will work on activities from the textbook in pairs, groups and alone. 準備学修 Be familiar with the textbooks: preview and review 課題・評価方法 Your final grade will be determined using the following scale: Final Exam 40%	Tests and Quizzes 30% Class Participation 20% Homework 10% 欠席について As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given. テキスト Oxford <i>Select Readings Pre-Intermediate</i>, 2nd edition. Linda Lee & Erik Gundersen Oxford Bookworms <i>Anne of Green Gables</i> by L. M. Montgomery 参考図書 Will be assigned as needed 留意事項 Active Participation is essential
---	---

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 1			11633	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

平易で実用的な会話文を通して生きたフランス語を学び、コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする。全く触れたことのない言語を学習し始める際に最低限必要な質問文を学びつつ、簡単な自己紹介、家族や友人の紹介ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）に重点を置く。

授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションになれ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。会話文を通して単語や文型を習得、更に数字や時刻の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、言語や文化の一端を知る手がかりとする。

授業計画

- 1.オリエンテーション(授業の運営法,テキスト,評価方法)とフランス語とフランスに関する基本的な知識
- 2.フランス語とフランスに関する基本的な知識,挨拶
- 3.職業・身分を言う,国籍を言う
- 4.職業・身分を言う,国籍を言う
- 5.職業・身分を言う,国籍を言う
- 6.住んでいる所を尋ねる・言う,話せる言語を言う
- 7.住んでいる所を尋ねる・言う,話せる言語を言う
- 8.住んでいる所を尋ねる・言う,話せる言語を言う
- 9.家族について話す,年齢を尋ねる
- 10.家族について話す,年齢を尋ねる
- 11.好みを言う,理由を尋ねる・言う
- 12.好みを言う,理由を尋ねる・言う
- 13.物について尋ねる・説明する,位置や場所を尋ねる・言う
- 14.物について尋ねる・説明する,位置や場所を尋ねる・言う,映画鑑賞(フランス語)
- 15.まとめと試験

授業の方法

数字、時間の聞き取りと読み、既習のフランス文の読みと意味理解などの訓練、教員や仲間との会話、必要最低限の文法やフランス文

化の理解を含む総合的実践授業

準備学修

フランス語及びフランス文化関連のニュースに関心を持つこと、既習事項は次回授業までに必ず理解、暗記しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

FLASH!（2015 駿河台出版社）

参考図書

必要な場合は授業中に紹介する。

留意事項

フランス語1とフランス語2はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加すること。やむを得ず1科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない。聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので、CDをよく聞いておくこと。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

予め直接に、またはメールで予約すれば時間調整は可能。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 2			11637	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

平易で実用的な会話文を通して生きたフランス語を学び、コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする。全く触れたことのない言語を学習し始める際に最低限必要な質問文を学びつつ、簡単な自己紹介、家族や友人の紹介ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）に重点を置く。

授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションになれ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。会話文を通して単語や文型を習得、更に数字や時刻の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、言語や文化の一端を知る手がかりとする。

授業計画

- 1.オリエンテーション(授業の運営法,テキスト,評価方法)とフランス語とフランスに関する基本的な知識
- 2.フランス語とフランスに関する基本的な知識,挨拶
- 3.職業・身分を言う,国籍を言う
- 4.職業・身分を言う,国籍を言う
- 5.職業・身分を言う,国籍を言う
- 6.住んでいる所を尋ねる・言う,話せる言語を言う
- 7.住んでいる所を尋ねる・言う,話せる言語を言う
- 8.住んでいる所を尋ねる・言う,話せる言語を言う
- 9.家族について話す,年齢を尋ねる
- 10.家族について話す,年齢を尋ねる
- 11.好みを言う,理由を尋ねる・言う
- 12.好みを言う,理由を尋ねる・言う
- 13.物について尋ねる・説明する,位置や場所を尋ねる・言う
- 14.物について尋ねる・説明する,位置や場所を尋ねる・言う,映画鑑賞(フランス語)
- 15.まとめと試験

授業の方法

数字、時間の聞き取りと読み、既習のフランス文の読みと意味理解などの訓練、教員や仲間との会話、必要最低限の文法やフランス文

化の理解を含む総合的実践授業

準備学修

フランス語及びフランス文化関連のニュースに関心を持つこと、既習事項は次回授業までに必ず理解、暗記しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

FLASH!（2015 駿河台出版社）

参考図書

必要があれば授業中に紹介する。

留意事項

フランス語1とフランス語2はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加すること。やむを得ず1科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない。聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので、CDをよく聞いておくこと。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

予め直接に、またはメールで予約すれば時間調整は可能。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 3			11641	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

平易で実用的な会話文を通して生きたフランス語を学び、コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする。日常生活で利用できる簡単な会話（人や物について、交通手段、天候や時刻、食習慣や値段について尋ねる、説明する、話す）ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）に重点を置く。

授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションになれ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。会話文を通して単語や文型を習得、更に数字や時刻の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、言語や文化の一端を知る手がかりとする。

授業計画

- 既習事項の確認と復習、容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う
- 容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う
- 容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う
- 移動について説明する、交通手段を言う
- 移動について説明する、交通手段を言う
- 移動について説明する、交通手段を言う
- 天候について話す、時刻を尋ねる・言う
- 天候について話す、時刻を尋ねる・言う
- 食習慣について話す、値段を尋ねる・言う
- 食習慣について話す、値段を尋ねる・言う
- 食習慣について話す、値段を尋ねる・言う
- 習慣について話す、日常の活動について話す、映画鑑賞（フランス語）
- 習慣について話す、日常の活動について話す
- 過去のことを話す（1）、いつのことだったかを言う
- 過去のことを話す（1）、いつのことだったかを言う、まとめと試験

授業の方法

数字、時間の聞き取りと読み、既習のフランス文の読みと意味理解

などの訓練、教員や仲間との会話、必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学修

フランス語及びフランス文化関連のニュースに関心を持つこと、既習事項は次回授業までに必ず理解、暗記しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

FLASH!（2015 駿河台出版社）

参考図書

必要があれば授業中に紹介する。

留意事項

フランス語 1 及び 2 のどちらかを履修していなければ 3 及び 4 は履修できない。フランス語 3 とフランス語 4 はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加すること。やむを得ず 1 科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない。聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので、CDをよく聞いておくこと。

教員連絡先

hirata.j@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

予め直接に、またはメールで予約すれば時間調整は可能。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 4			11645	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

平易で実用的な会話文を通して生きたフランス語を学び、コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする。日常生活で利用できる簡単な会話（人や物について、交通手段、天候や時刻、食習慣や値段について尋ねる、説明する、話す）ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）に重点を置く。

授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションになれ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。会話文を通して単語や文型を習得、更に数字や時刻の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、言語や文化の一端を知る手がかりとする。

授業計画

- 既習事項の確認と復習、容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う
- 容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う
- 容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う
- 移動について説明する、交通手段を言う
- 移動について説明する、交通手段を言う
- 移動について説明する、交通手段を言う
- 天候について話す、時刻を尋ねる・言う
- 天候について話す、時刻を尋ねる・言う
- 食習慣について話す、値段を尋ねる・言う
- 食習慣について話す、値段を尋ねる・言う
- 食習慣について話す、値段を尋ねる・言う
- 習慣について話す、日常の活動について話す、映画鑑賞（フランス語）
- 習慣について話す、日常の活動について話す
- 過去のことを話す（1）、いつのことだったかを言う
- 過去のことを話す（1）、いつのことだったかを言う、まとめと試験

授業の方法

数字、時間の聞き取りと読み、既習のフランス文の読みと意味理解

などの訓練、教員や仲間との会話、必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学修

フランス語及びフランス文化関連のニュースに関心を持つこと、既習事項は次回授業までに必ず理解、暗記しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

FLASH!（2015 駿河台出版社）

参考図書

必要があれば授業中に紹介する。

留意事項

フランス語 1 及び 2 のどちらかを履修していなければ 3 及び 4 は履修できない。フランス語 3 とフランス語 4 はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加すること。やむを得ず 1 科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない。聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので、CDをよく聞いておくこと。

教員連絡先

hirata.j@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

予め直接に、またはメールで予約すれば時間調整は可能。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 5			11649	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

実社会で使用頻度の高い語彙や表現、フランスやフランス語圏の観光名所、文化イベントについての知識を得ながら、聞く、話す、読む、書くの4技能を養い、コミュニケーション能力の育成を図る。具体的には、フランスやフランス語圏を旅行する際に、ホテルのフロントでこちらの希望を伝える、他国からのフランス語話者と意思疎通をとる、などの会話ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）に重点を置く。

授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションになれ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。会話文を通して単語や文型を習得、更に数字や時刻の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、言語や文化の一端を知る手がかりとする。

授業計画

1.オリエンテーション(授業の運営法,テキスト,評価方法)とフランス語とフランスに関する基本的な知識

2.La Défense

3.La Défense

4.La Défense

5.Quimper

6.Quimper

7.Quimper

8.Lyon (1)

9.Lyon (1)

10.Les Alpes

11.Les Alpes

12.Les Alpes

13.Lyon (2)

14.Lyon (2),映画鑑賞(フランス語)

15.Lyon (2),まとめと試験

授業の方法

数字、時間の聞き取りと読み、既習のフランス文の読みと意味理解

などの訓練、教員や仲間との会話、必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学修

フランス語及びフランス文化関連のニュースに関心を持つこと、既習事項は次回授業までに必ず理解、暗記しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

PARALLELE 2（2018 白水社）

参考図書

必要があれば授業中に紹介する。

留意事項

フランス語5,6を履修するには次の条件（1～4のうち2科目を履修している、または同等のフランス語力がある）が必要である。フランス語5とフランス語6はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加することが望ましい。やむを得ず1科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない。聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので、音声ダウンロードしよく聞いておくこと。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

予め直接に、またはメールで予約すれば時間調整は可能。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 6			11653	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

実社会で使用頻度の高い語彙や表現、フランスやフランス語圏の観光名所、文化イベントについての知識を得ながら、聞く、話す、読む、書くの4技能を養い、コミュニケーション能力の育成を図る。具体的には、フランスやフランス語圏を旅行する際に、ホテルのフロントでこちらの希望を伝える、他国からのフランス語話者と意思疎通をとる、などの会話ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）に重点を置く。

授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションになれ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。会話文を通して単語や文型を習得、更に数字や時刻の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、言語や文化の一端を知る手がかりとする。

授業計画

1.オリエンテーション(授業の運営法,テキスト,評価方法)とフランス語とフランスに関する基本的な知識

2.La Défense

3.La Défense

4.La Défense

5.Quimper

6.Quimper

7.Quimper

8.Lyon (1)

9.Lyon (1)

10.Les Alpes

11.Les Alpes

12.Les Alpes

13.Lyon (2)

14.Lyon (2),映画鑑賞(フランス語)

15.Lyon (2),まとめと試験

授業の方法

数字、時間の聞き取りと読み、既習のフランス文の読みと意味理解

などの訓練、教員や仲間との会話、必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学修

フランス語及びフランス文化関連のニュースに関心を持つこと、既習事項は次回授業までに必ず理解、暗記しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

PARALLELE 2（2018 白水社）

参考図書

必要があれば授業中に紹介する。

留意事項

フランス語5,6を履修するには次の条件（1～4のうち2科目を履修している、または同等のフランス語力がある）が必要である。フランス語5とフランス語6はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加することが望ましい。やむを得ず1科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない。聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので、音声ダウンロードしよく聞いておくこと。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

予め直接に、またはメールで予約すれば時間調整は可能。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 7			11657	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

実社会で使用頻度の高い語彙や表現、フランスやフランス語圏の観光名所、文化イベントについての知識を得ながら、聞く、話す、読む、書くの4技能を養い、コミュニケーション能力の育成を図る。具体的には、フランスやフランス語圏を旅行する際に、ホテルのフロントでこちらの希望を伝える、他国からのフランス語話者と意思疎通をとる、などに役立つ会話ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）に重点を置く。

授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションになれ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。会話文を通して単語や文型を習得、更に数字や時刻の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、言語や文化の一端を知る手がかりとする。

授業計画

1. La Côte d'Azur

2. La Côte d'Azur

3. La Côte d'Azur

4. Toulouse

5. Toulouse

6. Toulouse

7. Bruxelles

8. Bruxelles

9. Bruxelles

10. La Nouvelle-Calédonie

11. La Nouvelle-Calédonie

12. La Nouvelle-Calédonie, 映画鑑賞(フランス語)

13. Montréal

14. Montréal

15. Montréal, まとめと試験

授業の方法

数字、時間の聞き取りと読み、既習のフランス文の読みと意味理解などの訓練、教員や仲間との会話、必要最低限の文法やフランス文

化の理解を含む総合的実践授業

準備学修

フランス語及びフランス文化関連のニュースに関心を持つこと、既習事項は次回授業までに必ず理解、暗記しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

PARALLELE 2（2018 白水社）

参考図書

必要があれば授業中に紹介する。

留意事項

フランス語5,6のうちどちらか1科目を履修していなければフランス語7及び8は履修できない。フランス語7と8はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加すること、やむを得ず1科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない。聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので、音声ダウンロードしよく聞いておくこと。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

予め直接に、またはメールで予約すれば時間調整は可能。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 8			11661	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

実社会で使用頻度の高い語彙や表現、フランスやフランス語圏の観光名所、文化イベントについての知識を得ながら、聞く、話す、読む、書くの4技能を養い、コミュニケーション能力の育成を図る。具体的には、フランスやフランス語圏を旅行する際に、ホテルのフロントでこちらの希望を伝える、他国からのフランス語話者と意思疎通をとる、などに役立つ会話ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）に重点を置く。

授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションになれ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。会話文を通して単語や文型を習得、更に数字や時刻の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、言語や文化の一端を知る手がかりとする。

授業計画

1. La Côte d'Azur

2. La Côte d'Azur

3. La Côte d'Azur

4. Toulouse

5. Toulouse

6. Toulouse

7. Bruxelles

8. Bruxelles

9. Bruxelles

10. La Nouvelle-Calédonie

11. La Nouvelle-Calédonie

12. La Nouvelle-Calédonie, 映画鑑賞(フランス語)

13. Montréal

14. Montréal

15. Montréal, まとめと試験

授業の方法

数字、時間の聞き取りと読み、既習のフランス文の読みと意味理解などの訓練、教員や仲間との会話、必要最低限の文法やフランス文

化の理解を含む総合的実践授業

準備学修

フランス語及びフランス文化関連のニュースに関心を持つこと、既習事項は次回授業までに必ず理解、暗記しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

PARALLELE 2（2018 白水社）

参考図書

必要があれば授業中に紹介する。

留意事項

フランス語5,6のうちどちらか1科目を履修していなければフランス語7及び8は履修できない。フランス語7と8はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加すること、やむを得ず1科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない。聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので、音声ダウンロードしよく聞いておくこと。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

予め直接に、またはメールで予約すれば時間調整は可能。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 1	①/②		11665	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
坂口 文馨	選択	1				

授業の到達目標

中国は世界の政治や経済に影響力を持つ大国の一つに発展してきた。そのため中国語は益々重要になり、中国語ができることはいろんな面において役に立つと考えられる。本授業では、まず発音から始まり重要な語彙を習いその使い方を説明しさらに使えるように短文の読み書きを練習する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とIn(国際性)を養う。

基礎を確実に習得できるよう、正しい発音の仕方や語彙の使い方、語順を丁寧に指導し、各単元で習ったことを身につけるように練習する。

授業の概要

授業計画

1.発音、子音と母音(それぞれの発音をしっかりと練習する)

2.発音、音節(子音と母音、さらに声調を付け加えた発音の練習)

3.日常よく使われる挨拶と数字(ピンインから発音の仕方を覚える練習)

4.第一課 志 愿 者

5.第一課 志 愿 者

6.第二課 闲 谈

7.第二課 闲 谈

8.第三課 特 忙

9.第三課 特 忙

10.第四課 请跟我来

11.第四課 请跟我来

12.第五課 找 银 行

13.第五課 找 银 行

14.第六課 点 菜

15.第六課 点 菜

授業の方法

新出単語はピンインから発音の仕方を確認したうえで発音練習をし意味や使い方を説明する。文についての文法、語順を説明し訳をする。その応用と会話の練習もする。

準備学修

習った単元の単語や会話の文をしっかりと覚えることと、これから習う新しい単元の単語と会話の文をノートに写しておいて読んでみる

こと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

校則に従う。

テキスト

必要な場合、授業時に指示する。

参考図書

必要な場合、授業時に指示する。

留意事項

授業中は発音の仕方に注意を傾け声を出して練習する。私語は慎むこと。

授業以外でも、各自テープなどを繰り返し聴き、語彙や文を暗記するように。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 2	①/②		11669	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
沈 竑	選択	1				

授業の到達目標

今日、中国は最も目覚ましい発展を遂げている国の一つである。中国語を話すことができれば、自分の可能性が広がると考えられる。本授業では、基礎を確実に習得できるように、正しい発音の仕方や語彙の使い方、語順を丁寧に指導する。また、関連する中国の歴史・文化なども紹介し、中国語や中国への理解を深めながら、初歩的なコミュニケーションができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

授業計画

1.導入・発音

2.発音

3.発音

4.発音

5.1.自己紹介

6.1.自己紹介

7.2.これは何ですか

8.2.これは何ですか

9.2.これは何ですか

10.3.これはいかがですか

11.3.これはいかがですか

12.3.これはいかがですか

13.4.買い物

14.4.買い物

15.まとめ(テスト)

授業の方法

講義とペアやグループの活動を中心とする。

準備学修

教科書を予習・復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校則に従う。

テキスト

塚本慶一監修 劉穎著『1年生のコミュニケーション中国語』 白水社

参考図書

授業中に指示する。

留意事項

授業へ積極的に参加すること。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 3			11673	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
坂口 文馨	選択	1				

授業の到達目標

本授業は、「中国語 1」において基礎を学んだ者が、さらに多くの語彙や文を学び、会話や文作りに応用できる能力を養うことを目的とする。そのため、中国語の語順や表現の仕方を正しく理解し丸暗記した上で、書いたり話したりする練習を行う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

本授業では重要な語彙の発音をよく練習したうえ、使い方や語順を説明し実用的な短文を丸暗記することを求める。それによって、授業中には友達同士や先生との会話ができるように、たくさん話す練習を行い、充実した授業にしたい。

授業計画

- 第七課 住宾馆
- 第七課 住宾馆
- 第八課 问路
- 第八課 问路
- 第九課 当翻译
- 第九課 当翻译
- 第十課 看病
- 第十課 看病
- 第十一課 看比赛
- 第十一課 看比赛
- 第十二課 再会
- 第十二課 再会
- 第十三課 欢迎下次再来
- 第十三課 欢迎下次再来
- 復習

授業の方法

新出単語はピンインから発音の仕方を確認したうえで発音練習をし意味や使い方を説明する。文についての文法や語順を説明し訳する。その応用と会話の練習もする。

準備学修

習った単元の単語と会話の短文をしっかりと覚えることと、これから習う新しい単元の単語を読んでみること。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

校則に従う。

テキスト

必要な場合、授業時に指示する。

参考図書

必要な場合、授業時に指示する。

留意事項

- 常にテープを聴き文を読むこと。
- 会話をする機会を逃さず、積極的に話してみるよう心がけること。
- 分からないところがあったら、すぐに辞書で調べる習慣を身につけること。
- 私語を慎むこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 4			11677	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
沈 竑	選択	1				

授業の到達目標

本授業は「中国語 2」に続き、基礎を確実に習得できるように、正しい発音の仕方や語彙の使い方、語順を丁寧に指導する。また、関連する中国の歴史・文化なども紹介し、中国語や中国への理解を深めながら、初歩的なコミュニケーションができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

単元ごとに、発音の仕方や重要な語彙の使い方、語順を説明する。各単元で習ったことが身につくように、口や耳を使って練習する。その上、実践的に使えるように短文を読み、例文を作り、ペアやグループなどで発表を行う。

授業計画

- 復習・5.どこにありますか？
- 5.どこにありますか
- 5.どこにありますか
- 6.何がありますか
- 6.何がありますか
- 6.何がありますか
- 7.ホテルにチェックイン
- 7.ホテルにチェックイン
- 7.ホテルにチェックイン
- 8.何時に行きますか
- 8.何時に行きますか
- 8.何時に行きますか
- 9.タクシーに乗る
- 9.タクシーに乗る
- まとめ(テスト)

授業の方法

講義とペアやグループの活動を中心とする。

準備学修

教科書を予習・復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校則に従う。

テキスト

塚本慶一監修 劉穎著『1年生のコミュニケーション中国語』 白水社

参考図書

授業中に指示する。

留意事項

授業へ積極的に参加すること。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 5			11681	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
坂口 文馨	選択	1				

授業の到達目標

今まで培った基礎力をさらに高めることを目標とする。そのために、文章を丁寧に読め、正しく書けるように鍛える。また、常にリスニング練習をし、問答により話す習慣を身につけるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

授業前に予習してもらう。授業後は、習ったテーマについて自分の実際の状況で会話に使う短文を書く練習をする。添削後、その会話を発表してもらう。このようにして同じテーマでも異なった内容のものをいくつも聴くことができる。会話に求められる聴く力と話す力を養う。文化や習慣、または様々な事情を教科書を通して学ぶ。

授業計画

- 1. 第一課 一年級
- 2. 第一課 一年級
- 3. 第二課 主人公の家庭
- 4. 第二課 主人公の家庭
- 5. 第三課 就要开幕了
- 6. 第三課 就要开幕了
- 7. 第四課 盛大的开幕式
- 8. 第四課 盛大的开幕式
- 9. 第五課 想去银行
- 10. 第五課 想去银行
- 11. 第六課 日本料理
- 12. 第六課 日本料理
- 13. 第七課 要住双人房
- 14. 第七課 要住双人房
- 15. 復習

授業の方法

新出単語の発音を確認して、その意味と使い方を説明する。文章につての文法などを説明した後、正しく訳せるかどうかを確認する。最後に繰り返し会話を練習する。

準備学修

習った単元の単語と文章を覚えることと、これから習う新しい単元の単語の意味を辞書で調べ全文を読んでみること。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

校則に従う。

テキスト

必要な場合、授業時に指示する。

参考図書

必要な場合、授業時に指示する。

留意事項

いつも予習と復習をすること。
積極的に授業に参加し、聞ける、話せるように努力すること。
分からない所があれば、辞書で調べる習慣を身につけること。
私語を慎むこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 6			11685	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
沈 竑	選択	1				

授業の到達目標

一年生で学んだ中国語の基礎力をさらにレベルアップし、より実践的なコミュニケーションができるようにトレーニングを行う。また、関連する中国の歴史・文化なども紹介する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

テーマごとに重要な語彙の発音をよく練習し、使い方や語順を説明する。そのうえ、新しい表現を徐々に加え、口や耳を使って繰り返し練習することによって、コミュニケーションが一層スムーズにできるようにする。さらに、学習したものの実用化を目指すために、ペアやグループなどで発表を行う。

授業計画

- 1. 導入・復習
- 2. 1. 北京に到着
- 3. 1. 北京に到着
- 4. 1. 北京に到着・ 2. 道を尋ねる
- 5. 2. 道を尋ねる
- 6. 2. 道を尋ねる
- 7. 3. 買い物
- 8. 3. 買い物
- 9. 3. 買い物・ 4. バスに乗る
- 10. 4. バスに乗る
- 11. 4. バスに乗る
- 12. 5. 新しい友達
- 13. 5. 新しい友達
- 14. 5. 新しい友達
- 15. まとめ(テスト)

授業の方法

講義とペアやグループの活動を中心とする。

準備学修

教科書を予習・復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校則に従う。

テキスト

塚本慶一監修 劉穎著『2年生のコミュニケーション中国語』 白水社

参考図書

授業中に指示する。

留意事項

授業へ積極的に参加すること。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 7			11689	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
坂口 文馨	選択	1				

授業の到達目標 自信を持ってもっと読める、書ける、聞ける、そして話せるようになることを目標とする。そのために、授業中により多くの中国語を使い聴いて分かるように、さらに答えられるように鍛える。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とIn(国際性)を養う。 授業の概要 内容に基づいてもっと多くの質問をし答えてもらうために、聴くことと話すことの練習をする。また、書いた作文を添削した後、丸暗記して発表してもらう。他に多くの練習問題をし習ったものを定着させ、翻訳の力を養う。 授業計画 1. 第八課 向过路人问路 2. 第八課 向过路人问路 3. 第九課 给游客当翻译 4. 第九課 给游客当翻译 5. 第十課 在医院看病 6. 第十課 在医院看病 7. 第十一課 喜欢看的比赛 8. 第十一課 喜欢看的比赛 9. 第十二課 请再来观光 10. 第十二課 请再来观光 11. 第十三課 北京再会 12. 第十三課 北京再会 13. 第十四課 在海关 14. 第十四課 在海关 15. 総復習 授業の方法 新出単語の発音を確認し、その意味と使い方を説明する。文についての文法などを説明した後、正しく訳せるかどうかを確認し会話を繰り返し練習する。 準備学修 習った単元の単語と文を覚えることと、これから習う新しい単元の	単語の意味を辞書で調べ、全文を読んでみること。 課題・評価方法 平常点30%、定期試験70% 欠席について 校則に従う。 テキスト 必要な場合、授業時に指示する。 参考図書 必要な場合、授業時に指示する。 留意事項 いつも予習と復習をすること。 積極的に授業に参加し、もっと聴ける話せるように努力すること。 解らない所があれば、辞書で調べる習慣を身につけること。 私語を慎むこと。
---	--

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 8			11693	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
沈 竑	選択	1				

授業の到達目標 一年生で学んだ中国語の基礎力をさらにレベルアップし、より実践的なコミュニケーションができるようにトレーニングを行う。また、関連する中国の歴史・文化なども紹介する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。 授業の概要 テーマごとに重要な語彙の発音をよく練習し、使い方や語順を説明する。そのうえ、新しい表現を徐々に加え、口や耳を使って繰り返し練習することによって、コミュニケーションが一層スムーズにできるようにする。さらに、学習したものの実用化を目指すために、ペアやグループなどで発表を行う。 授業計画 1. 復習 2. 6. 外食 3. 6. 外食 4. 6. 外食・7. 約束 5. 7. 約束 6. 7. 約束 7. 8. 友達に電話する 8. 8. 友達に電話する 9. 8. 友達に電話する・9. 郵便局 10. 9. 郵便局 11. 9. 郵便局 12. 10. 医者に行く 13. 10. 医者に行く 14. 10. 医者に行く 15. 10. まとめ(テスト) 授業の方法 講義とペアやグループの活動を中心とする。 準備学修 教科書を予習・復習しておくこと。	課題・評価方法 平常点50%、定期試験50% 欠席について 校則に従う。 テキスト 塚本慶一監修 劉穎著『2年生のコミュニケーション中国語』 白水社 参考図書 授業中に指示する。 留意事項 授業へ積極的に参加すること。
---	--

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
韓国語 1			11697	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
宋 京珠	選択	1				

授業の到達目標

韓国語 1 では、初めて韓国語を学習する学生が、ハングル（韓国語を表現する文字）及び韓国語の文型と語彙を習い、それを活用して簡単な日常会話が可能になることを授業の目標とする。この授業では“K A I S E I パーソナリティ”の A（自律）と I n（国際性）を養う。

授業の概要

韓国語の文字と発音をしっかりと覚えた後、会話形式のスキットを通じて基本の文法や多様な表現などを学んで行く。学生の韓国語学習に対する興味を引き出しながら、たくさん見て、読んで、書くなどの反復練習を行い、コミュニケーション中心の授業を展開し、習ったことを身につけて実際に使える韓国語学習の手助けとなるよう授業を進める。

授業計画

1. 韓国語の概要

（“ハングルで自分の名前を書こう！”）

2. 第 1 課:基本母音

3. 第 2 課:基本子音

4. 第 3 課:合成子音、子音のまとめ

5. 第 4 課:合成母音、母音のまとめ

6. 第 5 課:パッチム

7. ハングルの基本のまとめ、『中間テスト』

8. 第 6 課:発音変化

9. 第 7 課－ 1 :こんにちは。私は日本人です。

10. 第 7 課－ 2 :自己紹介

11. 第 8 課－ 1 :これは何ですか。

12. 第 8 課－ 2 :これは何ですか。

13. 第 9 課－ 1 :学校はどこにありますか。

14. 第 9 課－ 2 :学校はどこにありますか。

15. 授業のまとめ

授業の方法

各課でポイントとなる要点を講義した後、様々なパターンの表現練習を重ねる。それを活用したペア会話練習を行う。さらに 補助資料視聴（DVD映像）でネイティブスピーカーの発音確認を行う。

準備学修

テキストの先読み

課題・評価方法

平常点：70％（出席、課題、中間試験）、期末試験：30％

欠席について

平常点で欠席状況を考慮するので、欠席回数が多い程最終成績が低減される。

テキスト

教養韓国語初級 / 金智賢著 / 朝日出版社

留意事項

授業で配る補助プリントは各自でファイリングし、毎授業で持参するなど学習に役立てること（反復復習は重要）。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
韓国語 2			11701	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
宋 京珠	選択	1				

授業の到達目標

韓国語 2 では、韓国語を学習した経験がある学生、あるいは韓国語 1 を履修しながらもう少し深く授業を受けたいと思う学生を対象に、更に韓国語の幅広い基礎を身につけ、それを活用して多様な日常会話が可能になることを授業の目標とする。この授業では“K A I S E I パーソナリティ”の A（自律）と I n（国際性）を養う。

授業の概要

学生の自主参加により、学生の韓国語学習に対する興味を引き出しながら、「課題の反復練習とコミュニケーション中心」に授業を展開し、習ったことを身につけて実際に使える韓国語学習の手助けとなるよう授業を進める。

授業計画

1. 韓国語の概要

（“ハングルで自分の名前を書こう！”）

2. 第 1 課:基本母音

3. 第 2 課:基本子音、合成子音

4. 第 3 課:合成母音

5. 第 4 課－ 1 :パッチム

6. 第 4 課－ 2 :辞書の引き方、発音変化

7. ハングルの基本のまとめ、『中間テスト』

8. 第 5 課－ 1 :私は～です。

9. 第 5 課－ 2 :自己紹介

10. 第 6 課－ 1 :時間ありますか。

11. 第 6 課－ 2 :～に～があります。

12. 第 7 課－ 1 :それは何ですか。

13. 第 7 課－ 2 :聞いてみて友達をつくろう。

14. 第 7 課－ 3 :かしこまった「です/ます体」

15. 授業のまとめ

授業の方法

各課でポイントとなる要点を講義した後、様々なパターンの表現練習を重ねる。それを活用したペア会話練習などを行う。さらにワークブックを用いてその日の学習内容を自己確認する。

準備学修

テキストの先読み

課題・評価方法

平常点：70％（出席、課題、中間試験）、期末試験：30％

欠席について

平常点で欠席状況を考慮するので、欠席回数が多い程最終成績が低減される。

テキスト

最新チャレンジ！韓国語 / 金順玉・阪党千津子著 / 白水社

留意事項

授業で配る補助プリントは各自でファイリングし、毎授業で持参するなど学習に役立てること（反復復習は重要）。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
韓国語 3			11705	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
宋 京珠	選択	1				

授業の到達目標

韓国語 3 では、韓国語 1 で学習した内容を踏まえた上で、さらに多様な韓国語の表現方法を学習し、韓国語によるコミュニケーション力を高めることを授業の目標とする。この授業では“K A I S E I パーソナリティ”の A（自律）と I n（国際性）を養う。

授業の概要

自然な会話中心のスキットを通じて韓国語 1 で学んだ基礎を確立した上、多様な語彙や表現を拡張して行く。そして学生の自主参加により「習った学習表現の反復練習とコミュニケーション中心」に授業を展開し、実際に使える韓国語学習の手助けとなるよう授業を進める。

授業計画

1. 韓国語 1 のおさらい
2. 第 1 0 課－1：午後は何をしますか。
3. 第 1 0 課－2：午後は何をしますか。
4. 第 1 1 課－1：誕生日はいつですか。
5. 第 1 1 課－2：誕生日はいつですか。
6. 第 1 2 課－1：どちらにお住まいですか。
7. 第 1 2 課－2：どちらにお住まいですか。
8. 中間まとめ、『中間テスト』
9. 第 1 3 課－1：どんな映画が好きですか。
10. 第 1 3 課－2：どんな映画が好きですか。
11. 第 1 4 課－1：いくらですか。
12. 第 1 4 課－2：いくらですか。
13. 第 1 5 課－1：何時に来ましたか。
14. 第 1 5 課－2：何時に来ましたか。
15. 授業のまとめ

授業の方法

各課でポイントとなる要点を講義した後、様々なパターンの表現練習を重ねる。それを活用したペア会話練習を行う。さらに 補助資料 視聴（DVD映像）でネイティブスピーカーの発音確認を行う

準備学修

韓国語 1 の復習

課題・評価方法

平常点：70％（出席、課題、中間試験）、期末試験：30％

欠席について

平常点で欠席状況を考慮するので、欠席回数が多い程最終成績が低減される。

テキスト

教養韓国語初級 / 金智賢 著 / 朝日出版社

留意事項

授業で配る補助プリントは各自でファイリングし、毎授業で持参するなど学習に役立てること（反復練習は重要）。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
韓国語 4			11709	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
宋 京珠	選択	1				

授業の到達目標

韓国語 4 では、韓国語 2 を学習した学生か、あるいは韓国語 3 とともにもう少し深く授業を受けたいと思う学生を対象に、更に韓国語の幅広い基礎を身に付け、それを活用して多様な日常会話が可能になることを授業の目標とする。この授業では“K A I S E I パーソナリティ”の A（自律）と I n（国際性）を養う。

授業の概要

学生の自主参加により、学生の韓国語学習に対する興味を引き出しながら、「課題の反復練習とコミュニケーション中心」に授業を展開し、習ったことを身につけて実際に使える韓国語学習の手助けとなるよう授業を進める。

授業計画

1. 韓国語 3 のおさらい
2. 第 8 課－1：うちとけた「です/ます体」
3. 第 8 課－2：数詞「固有数詞/漢数詞」
4. 第 8 課－3：日曜日に何をしますか。
5. 第 9 課－1：何が好きですか。
6. 第 9 課－2：何が好きですか。
7. 中間まとめ、『中間テスト』
8. 第 1 0 課－1：週末に何をしましたか？
9. 第 1 0 課－2：短文作り「私の週末」
10. 第 1 1 課－1：明日は何をするつもりですか。
11. 第 1 1 課－2：買い物をしてみましょう。
12. 第 1 2 課－1：スープが冷たくておいしいです。
13. 第 1 2 課－2：スープが冷たくておいしいです。
14. 短文作りと発表「私の旅行」
15. 授業のまとめ

授業の方法

各課でポイントとなる要点を講義した後、様々なパターンの表現練習を重ねる。それを活用したペア会話練習などを行う。さらにワークブックを用いてその日の学習内容を自己確認する。

準備学修

韓国語 2 の復習

課題・評価方法

平常点：70％（出席、課題、中間試験）、期末試験：30％

欠席について

平常点で欠席状況を考慮するので、欠席回数が多い程最終成績が低減される。

テキスト

最新チャレンジ！韓国語 / 金順玉・阪党千津子著 / 白水社

留意事項

授業で配る補助プリントは各自でファイリングし、毎授業で持参するなど学習に役立てること（反復練習は重要）。

現代人間学部 英語観光学科

専 門 科 目

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	a		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	必修	2				

授業の到達目標

このゼミではこれからの日本の成長戦略の重要な柱である観光業界で中核を担う航空業界を中心に「航空業界とツーリズムが果たす役割」をメインテーマに置く。春学期では各自がゼミのメインテーマを念頭に置き、観光立国についていろいろな側面から考えツーリズム業界の全体像を把握することを目標とする。このクラスではKAISEI パーソナリティのA（自律）、I（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

まず全員で観光立国に向けてのツーリズムの現状を考えることからスタートする。全員が基本のツーリズムの知識を持てるように航空業界、旅行業界、宿泊業界やホスピタリティ産業の中で各自が興味をもつ事柄について具体的な企業を取り上げその業界内でのSWOT分析を各自が発表する。このプロセスの中でツーリズム産業の全体像と観光立国に向けてこれから何が必要なのかを考える。一方でアウトバウンドのツーリズムとして世界遺産や海外の興味深い観光資源なども調べ、JATAが主催する海外旅行企画にも応募していく。パワーポイントでの発表演習も行う。幅広く観光業界を知るためにフィールドワークも取り入れる。

授業計画

1. 演習についてのガイダンス
2. 今日の観光立国とツーリズムの現状を考える、その1
3. 今日の観光立国とツーリズムの現状を考える、その2
4. 今日の航空業界について考える
5. LCCについて調べる
6. 地域航空会社について調べる
7. フィールドワーク
8. チームで海外旅行企画の立案準備その1
9. チームで海外旅行企画の立案準備その2
10. 海外旅行企画のプレゼン作成の準備その1
11. 海外旅行企画のプレゼン作成の準備その2
12. 海外旅行企画のプレゼン発表と課題の発見
13. 観光立国とツーリズム参考文献を調べる
14. 観光立国とツーリズム参考文献を調べる
15. まとめ・夏休みの課題

授業の方法

個人発表とチームでの海外旅行企画立案でディスカッションと発表

を多く取り入れる。

準備学修

日本と世界の航空会社や海外の観光資源を調べ興味を持った事を事前にまとめて授業に出席する。旅行会社のパンフレットやツーリズム参考文献を事前に読み出席する事。図書館で日本経済新聞に目を通す事。

課題・評価方法

個人発表・グループ発表後は、担当教員によるフィードバックを行う。
『平常点70%、定期試験30%』

欠席について

欠席は1回5点の減点。発表担当日は特別な理由が無い限り必ず出席する事。その他は大学の学則に従う。

テキスト

適宜指示する。

参考図書

『新・観光立国論』デービッド・アトキンソン（2015）東洋経済新報社
『観光立国日本への提言』 編集：長谷川恵一（2016）成文堂
『航空産業入門』（株）ANA総合研究所編（2017 第2版）東洋経済新報社
『インバウンドビジネス入門講座』 村山慶輔（2016 第2版）翔泳社

留意事項

発表当番日は必ず出席の事。ゼミではチームワーク、自発性、積極性、協調性などが重要事項になり評価の対象にする。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	b		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
福智 佳代子	必修	2				

授業の到達目標

効果的な外国語学習法とは何か？この演習では、英語が苦手な日本人の立場から、ことばの習得と教授法を考察する。このクラスでは、KAISEI パーソナリティのA（自律）、I（知性）、及びIn（国際性）を養う。

授業の概要

英語学習には、学習の開始年齢、環境的な要因、習得順序、日本語と英語の言語間距離、動機づけ等など、様々な要因が影響を及ぼしている。演習Iでは、それぞれがことばに関するテーマを選んで調査した結果をまとめて発表し、討議を行う。

授業計画

1. イントロダクション
2. 母語獲得 (1)
3. 母語獲得 (2)
4. 母語獲得 (3)
5. 母語獲得 (4)
6. 母語獲得 (5)
7. 第2言語習得 (1)
8. 第2言語習得 (2)
9. 第2言語習得 (3)
10. 第2言語習得 (4)
11. 第2言語習得 (5)
12. コミュニケーションのための言語能力(1)
13. コミュニケーションのための言語能力(2)
14. コミュニケーションのための言語能力(3)
15. まとめ

授業の方法

講義、口頭発表、ディスカッション、まとめレポート提出形式で行う。

準備学修

次回のテーマについて、テキスト、参考図書を読み、ディベートができるように準備しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

- (1)欠席や遅刻は、必ずメールにて福智（fukuchi@kaisei.ac.jp）に連絡をすること
- (2)欠席をした場合、授業内容及び課題の有無を確認し提出すること。提出が遅れた場合は減点する。

テキスト

後日連絡する。

参考図書

コミュニケーションのための言語教育 H.G.Widdowson
ナチュラル・アプローチ スティーブン・D. クラッシェン、トレシー・D・テレル
外国語学習の科学―第二言語習得論とは何か（岩波新書）新書 白井恭弘（著）
外国語学習に成功する人、しない人―第二言語習得論への招待（岩波科学ライブラリー）単行本 白井 恭弘（著）

留意事項

発表内容、出席状況、意欲的に参加しているかなどの学習態度等を統合して評価する。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅰ	c		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	必修	2				

授業の到達目標

ツーリズム&ホスピタリティ産業における課題を研究テーマに置く。中心となる分野は、マネジメントとマーケティングである。特に、ツーリズム&ホスピタリティ産業における労働生産性とホスピタリティとの関係や、市場特性の理解に重点を置く。アクティブラーニングを通じて考える力、プレゼンテーション力を磨く。このクラスは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とK(思いやり)を養う。

授業の概要

- 1、ツーリズム&ホスピタリティ産業でのおもてなしやホスピタリティ精神の価値を学ぶ。さらに、労働生産性に焦点を当て、どのように向上させ、成果のあるマネジメントが可能であるかを考える。ホスピタリティの価値を落とさず、労働生産性を向上させる方法はあるのか。演習では、ツーリズム&ホスピタリティ産業の現場を訪問し、実務担当者との意見交換等から問題の核心に迫る。
- 2、「学生ガイドによるまち歩き」を実施する。学生がツアープランニングし地域活性化に貢献する。

授業計画

1. 演習の概要説明
2. 「学生ガイドによるまち歩き」打ち合わせ
3. ホスピタリティ産業の価値とは何か
4. ホスピタリティ産業の市場環境
5. ホスピタリティ産業の事例研究
6. 労働生産性について
7. ツーリズム&ホスピタリティ産業における労働生産性
8. ツーリズム&ホスピタリティ産業における労働生産性
9. フィールドワーク1
10. フィールドワーク成果発表
11. フィールドワーク2
12. フィールドワーク成果発表
13. 「学生ガイドによるまち歩き」打ち合わせ
14. 「学生ガイドによるまち歩き」打ち合わせ
15. まとめ

授業の方法

授業はゼミ生主体に進行する。レポートやパワーポイントを使用し

ディスカッション形式でおこなう。

準備学修

観光業界紙での事前情報収集などで準備する。

課題・評価方法

課題50%発表50%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

特に指定なし。

参考図書

内藤耕『サービス産業 労働生産性の革新』旅行新聞社
内藤耕『サービス産業 生産性向上入門』日刊工業新聞
Kotler『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション
M.E.Poter『競争の戦略』ダイヤモンド社
Jay B. Barney『企業戦略論』ダイヤモンド社

留意事項

演習は一人一人が積極的に参加が必要であり、学外でのフィールドワークも予定している。演習Ⅰの受講には、必ず「観光概論」、「観光事業論」を履修していることが条件である。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅰ	d		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石原 敬子	必修	2				

授業の到達目標

音声学の基礎を理解する／英語の音素体系について理解する／音声の面白さを発見する／テーマに基づいて調査したことをまとめて発表する／このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）、In（国際性）を養う

授業の概要

声を出すしくみや発音をコントロールする調音器官など音声学の基本的な事項を理論的・実践的に学び、その知識を基に英語及び日本語の音声について客観的に観察・分析する。あわせて、ことばに関連するテーマについて各自が調査した結果をまとめ、発表・ディスカッションをする。

授業計画

1. イントロダクション
2. モーラ・分節音
3. 音声と調音器官
4. 音象徴(調音器官と音の印象)
5. 音象徴(調音法と音の印象)
6. 音象徴(分析)
7. 発表とディスカッション1－1
8. 発表とディスカッション1－2
9. 発音チャート
10. 五十音図
11. IPAチャート
12. 発音チャート分析
13. 発表とディスカッション2－1
14. 発表とディスカッション2－2
15. まとめ

授業の方法

講義とディスカッション形式で行う

準備学修

毎週音読の宿題と小テストを課す／日本語話者の英語の特徴について観察し気づいたこと、言語に関しての気づきを「ことばノート」

に継続的に記入する（詳細は授業で説明する）

課題・評価方法

平常点40%、定期試験60%

課題のフィードバック：小テストは基本的に翌授業週に返却、発表時は時間内に口頭及び事後にメモでフィードバック、レポートは個別にフィードバックする。

欠席について

1）欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること（ishihara@kaisei.ac.jp）。2）欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3）欠席日の提出物や小テストは、翌週授業日までの間に限り受け取り・対応する。

テキスト

服部範子著、『入門英語音声学』（研究社）
西田大著、『「音読」で攻略TOEIC L&Rテストで文80』（かんき出版）

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけてほしい。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅰ	e		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれる理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

1. ガイダンス
2. 個人課題の研究発表・討論・講評
3. 個人課題の研究発表・討論・講評
4. 個人課題の研究発表・討論・講評
5. 個人課題の研究発表・討論・講評
6. 個人課題の研究発表・討論・講評
7. 個人課題の研究発表・討論・講評
8. 個人課題の研究発表・討論・講評
9. 個人課題の研究発表・討論・講評
10. 個人課題の研究発表・討論・講評
11. 個人課題の研究発表・討論・講評
12. 個人課題の研究発表・討論・講評
13. 個人課題の研究発表・討論・講評
14. 個人課題の研究発表・討論・講評
15. 個人課題の研究発表・討論・講評

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

準備学修

発表を行った次の週には、その内容のレポートの提出を求める。発

表は、各自レジュメを用意する。（予習復習にかかる時間；約2時間）また、現在の観光事情を知るため、毎日15分以上は新聞を読む習慣を身に付けておく。

課題・評価方法

出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて配布する

参考図書

必要に応じて紹介する

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	a		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	必修	2				

授業の到達目標

演習Ⅰをベースにして、演習Ⅱでは各自の興味のあるテーマを航空業界、ツーリズム全体、ホスピタリティ産業の中から方向性を確立していく。そのため発表演習を中心に置き、コミュニケーション能力とプレゼンテーション技術の向上を目指す。後半では全体目標の各チームのツアー立案企画を完成させる。またこのクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）、S（奉仕）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

前半に航空業界、旅行業界、宿泊業界での企業研究を継続し、ツーリズム全体、ホスピタリティ産業の中で各自の4年次の卒業研究のテーマ設定に向けての方向性を見つけていく。全体目標としては各チームのツアー立案企画を完成させ最終プレゼンをする。なお演習の一環として都合が付く限り空港などの学外調査・見学なども実施する予定である。（学外調査・見学は土曜日・日曜日になることもある）。

授業計画

1. 演習Ⅱのガイダンス。
2. ツーリズム産業の全体像について
3. 各自の注目する観光業界研究の発表と講評
4. 各自の注目する観光業界研究の発表と講評
5. 各自の注目する観光業界研究の発表と講評
6. 各自の注目する観光業界研究の発表と講評
7. 各自の注目する観光業界研究の発表と講評
8. フィールドワーク
9. 関空発海外旅行企画立案その1
10. 関空発海外旅行企画立案その2
11. 各チームの旅行企画立案の完成
12. 各チームの旅行企画立案の発表と課題の発見
13. 各チームの旅行企画最終プレゼンと講評
14. 各自の研究テーマの方向性の確認
15. 参考文献とまとめ

授業の方法

各自の興味のある企業を航空業界・旅行業界・宿泊業界・ツーリズム産業全体から選択し企業比較をする。その企業についての発表・プレゼンについて講評・質疑応答を中心にする。

準備学修

各自で日本と世界の航空業界・旅行業界・宿泊業界・ツーリズム産業・ホスピタリティ産業での注目する企業研究をして事前にプレゼンの準備をする。ツーリズム産業のニュースには常時注目しておく。図書館で日本経済新聞に目を通す。

課題・評価方法

各自の企業研究発表、またグループ発表後は担当教員によるフィードバックを行う。
『平常点70%、定期試験30%』で評価配分する。

欠席について

欠席は1回5点の減点。発表担当日は正当な理由のない欠席は出来ない。その他は大学の学則に従う。

テキスト

特に指定しない。各自の研究テーマに沿って適宜紹介する。

参考図書

『航空とホスピタリティ』山路 顕 編著（株）ANA総合研究所（2013）NTT出版
『航空グローバル化と空港ビジネス』野村宗訓・切通堅太郎（2010）同文館出版
『航空産業入門』（株）ANA総合研究所（2017 第2版）東洋経済新報社
『観光立国日本への提言』編集：長谷川恵一（2016）成文社

留意事項

発表担当日は必ず出席の事。ゼミでは自主性・積極性・協調性を重視し、各自のテーマ発表内容とそれに対する質疑などを評価する。円滑なゼミ運営に協力する態度が望まれる。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	b		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
福智 佳代子	必修	2				

授業の到達目標

演習Iに引き続き、言語学習とコミュニケーションのための言語教育とは何かについて、ことばの習得と教授法を考察する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、及びIn（国際性）を養う。

授業の概要

言語用法が分かったとして、実際に言語を使うことができるか？日本語をそのまま英語にしているのでは？伝えたい内容を「正確に」「適切に」会話の場面で「流暢に」使うとはどういうことか、それぞれがコミュニケーションのための言語教育における問題点を発見し、調査した結果をまとめて発表し、討議を行う。

授業計画

1. イントロダクション
2. 第2言語習得 (1) 母語の影響 (1) 言語転移
3. 第2言語習得 (2) 母語の影響 (2) 文化転移
4. 第2言語習得 (3) 年齢要因(臨界期仮説) (1)
5. 第2言語習得 (4) 年齢要因(臨界期仮説) (2)
6. 第2言語習得 (5) 動機付け(1)
7. 第2言語習得 (5) 動機付け(2)
8. 発表とディスカッション
9. 効果的な外国語学習法・外国語教授法(1) インプット仮説、アウトプット仮説
10. 効果的な外国語学習法・外国語教授法(2) 情意フィルター仮説
11. 小学校英語教育
12. 中学校英語教育
13. 高等学校英語教育
14. コミュニケーション能力育成
15. まとめ「コミュニケーション能力」

授業の方法

講義、口頭発表、ディスカッション、まとめレポート提出形式で行う。

準備学修

次のテーマについて、テキスト、参考図書を読み、ディベートができるように準備しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

- (1)欠席や遅刻は、必ずメールにて福智（fukuchi@kaisei.ac.jp）に連絡すること
(2)欠席をした場合、授業内容及び課題の有無を確認し提出すること。提出が遅れた場合は減点する。

テキスト

後日連絡する

参考図書

コミュニケーションのための言語教育 H.G.Widdowson
ナチュラール・アプローチ スティーブン・D. クラッシュェン、トレシー・D・テレル
外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か（岩波新書）新書 白井恭弘（著）
外国語学習に成功する人、しない人—第二言語習得論への招待（岩波科学ライブラリー）単行本 白井 恭弘（著）

留意事項

発表内容、出席状況、意欲的に参加しているかなどの学習態度等を統合して評価する。

教員連絡先

発表内容、出席状況、意欲的に参加しているかなどの学習態度等を統合して評価する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	c		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	必修	2				

授業の到達目標

ツーリズム&ホスピタリティ産業における課題を研究テーマに置く。中心となる分野はマネジメントとマーケティングである。特に、ツーリズム&ホスピタリティ産業における労働生産性とホスピタリティの関係や、市場特性の理解をすすめる。アクティブラーニングを通じて考える力、プレゼンテーション力を磨く。このクラスは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とK(思いやり)を養う。

授業の概要

- 1、ツーリズム&ホスピタリティ産業でのおもてなしやホスピタリティ精神の価値を学ぶ。さらに、労働生産性に焦点を当て、どのように向上させ、成果のあるマネジメントが可能であるかを考える。ホスピタリティの価値を落とさず、労働生産性を向上させる方法はあるのか。演習では、ツーリズム&ホスピタリティ産業の現場を訪問し、実務担当者との意見交換等から問題の核心に迫る。
- 2、「学生ガイドによるまち歩き」を実施する。学生がツアープランニングし地域活性化に貢献する。
- 3、関空発「学生と旅行社が作る海外旅行」企画イベントへの参加

授業計画

1. 演習の概要説明
2. 学生ガイドによるまち歩き1
3. 学生ガイドによるまち歩き2
4. 課題の設定
5. 課題の発表
6. 課題の発表
7. 課題の発表
8. 課題の発表
9. 課題の発表
10. 課題の発表
11. 課題の発表
12. 課題の発表
13. 海外旅行企画
14. 海外旅行企画
15. まとめ

授業の方法

演習を通してアクティブラーニングがおこなわれる。各個人の発表、意見交換を重視する。

準備学修

観光関連の新聞、雑誌を読み、ツーリズム&ホスピタリティ業界の事前学習をおこなう。

課題・評価方法

課題50%、イベント参加と内容50%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

特になし

参考図書

内藤耕『サービス産業 労働生産性の革新』旅行新聞社
内藤耕『サービス産業 生産性向上入門』日刊工業新聞
Kotler『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション
M.E.Poter『競争の戦略』ダイヤモンド社
Jay B. Barney『企業戦略論』ダイヤモンド社

留意事項

イベントへの参加やチーム課題が多くあり、個人的都合で欠席等は認めません。積極的な姿勢で臨む事。演習受講者は必ず「観光概論」、「観光事業論」、「観光マーケティング論」を履修することが条件である。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	d		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石原 敬子	必修	2				

授業の到達目標

ネイティブの英語音声の特徴と日本語話者の英語音声の特徴について分析し理解する／英語の韻律（イントネーション）の基本的特徴を理解し実践する／テーマに基づいて調査したことをまとめて発表する／このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）、In（国際性）を養う

授業の概要

演習Ⅰに引き続き、英語及び日本語の音声について客観的に観察・分析する。また自分たちが被験者となり、日本語話者が話す英語音声の特徴を分析し、テキスト、文献から得られた情報と実験から得られた結果を基に、日本語話者の英語の特徴について考察をし、レポートにまとめる。さらに第二言語として英語を学習する際に、母語である日本語の音声体系がどのように弊害となり得るかを考察する。あわせて、ことばに関連するテーマについて各自が調査した結果をまとめ、発表・ディスカッションをする。

授業計画

- 1.発表とディスカッション1－1
- 2.発表とディスカッション1－2
- 3.英語音声の特徴(子音群・無声化する子音)
- 4.英語音声の特徴(日本語に無い子音)
- 5.まとめ
- 6.ネイティブの英語の母音の特徴(ropeとrobeの違い)
- 7.ネイティブの英語の子音の特徴(writerとriderの違い)
- 8.ネイティブの英語の子音の特徴(dark /l/)
- 9.ネイティブの英語の子音の特徴(syllabic consonants)
- 10.日本語話者の英語(氣息音)
- 11.日本語話者の英語(氣息音分析)
- 12.日本語話者の英語(イントネーション)
- 13.日本語話者の英語(イントネーション分析)
- 14.発表とディスカッション2－1
- 15.発表とディスカッション2－2

授業の方法

講義とディスカッション形式で行う

準備学修

毎週音読の宿題と小テストを課す／日本語話者の英語の特徴について観察し気づいたこと、言語に関しての気づきを「ことばノート」に継続的に記入する

課題・評価方法

平常点40%、定期試験60%

課題のフィードバック：小テストは基本的に翌授業週に返却、発表時は時間内に口頭及び事後にメモでフィードバック、レポートは個別にフィードバックする。

欠席について

1) 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること (ishihara@kaisei.ac.jp)。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3) 欠席日の提出物や小テストは、翌週授業日までの間に限り受け取り・対応する。

テキスト

服部範子著、『入門英語音声学』（研究社）
西田大著、『「音読」で攻略TOEIC L&Rテストで文80』（かんき出版）

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけてほしい。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	e		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれる理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

- 1.個人課題の研究発表・討論・講評
- 2.個人課題の研究発表・討論・講評
- 3.個人課題の研究発表・討論・講評
- 4.個人課題の研究発表・討論・講評
- 5.個人課題の研究発表・討論・講評
- 6.個人課題の研究発表・討論・講評
- 7.個人課題の研究発表・討論・講評
- 8.個人課題の研究発表・討論・講評
- 9.個人課題の研究発表・討論・講評
- 10.個人課題の研究発表・討論・講評
- 11.個人課題の研究発表・討論・講評
- 12.個人課題の研究発表・討論・講評
- 13.個人課題の研究発表・討論・講評
- 14.個人課題の研究発表・討論・講評
- 15.個人課題の研究発表・討論・講評

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

準備学修

発表を行った次の週には、その内容のレポートの提出を求める。発

表は、各自レジュメを用意する。（予習復習にかかる時間；約2時間）また、現在の観光事情を知るため、毎日15分以上は新聞を読む習慣を身に付けておく。

課題・評価方法

出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて配布する

参考図書

必要に応じて紹介する

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	a		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	必修	2				

授業の到達目標

演習Ⅱでの個人テーマ目標をさらに絞り込み、文献と参考資料を収集しながら途中経過発表などを毎回積み重ねる。7月中旬の卒業研究計画書提出に向けて各自の最終テーマを決定し、テーマに対してのアプローチの方向性を確立することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

7月中旬までに各自の研究テーマと研究計画を最終決定する。それまでに必要な参考文献・資料の調査・収集を図りながら卒業研究スケジュールの全体行程を作成する。その間、各自の研究テーマについては経過発表でその都度課題と補足事項を確認していく。後半で最終的なテーマに対するアプローチの方法を確立していく。

授業計画

1. 卒業研究の進め方とガイダンス
2. 卒業研究のテーマについて先行事例の紹介
3. 参考文献と資料の収集について
4. 個人研究テーマの設定と行程表の作成
5. 各自の研究テーマ・研究方法の発表
6. 各自の研究テーマ内容の方向性の確認と課題・補足事項の発見
7. 各自の研究テーマ内容の方向性の確認と課題・補足事項の発見
8. 各自の研究テーマ内容の方向性の確認と課題・補足事項の発見
9. 各自の研究テーマ内容の方向性の確認と課題・補足事項の発見
10. 各自の研究テーマの参考文献の確認と質疑応答
11. 各自の研究テーマの筋書きと組み立ての発表と講評
12. 各自の研究テーマの筋書きと組み立ての発表と講評
13. 卒業研究計画書の提出と質疑応答
14. 卒業研究の書き方
15. 夏期休業中における研究テーマの準備について

授業の方法

各自の研究テーマについての進捗発表・プロセスの確認と課題・補足事項など質疑応答のディスカッションを中心とする。

準備学修

各自の研究テーマについての参考文献と先行事例・資料を紹介するので、毎回要点を調べて出席すること。

課題・評価方法

各自の研究テーマの進捗発表について毎回担当教員によるフィードバックを行う。
『平常点70%、定期試験30%』で評価配分する。

欠席について

無断欠席は1回につき5点減点する。発表当日は正当な理由のない欠席は認めない。欠席する場合は必ず事前に理由を連絡すること。その他は学則に準じる。

テキスト

特に指定しない。

参考図書

各自の研究テーマに沿って適宜指示、推薦する。

留意事項

主体的に各自が研究テーマを早期に絞り込み、参考文献と資料の収集を早め始める事。卒業研究計画書提出後はテーマの変更は不可。夏期休業中に出来るだけ参考文献を精読する事が大切である。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	b		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
福智 佳代子	必修	2				

授業の到達目標

言語学習とコミュニケーションのための言語教育とは何か、コミュニケーション能力とは何かについて考察する。演習I、Ⅱに引き続き、取り組みたい内容から、学生自身が研究テーマを決定し、卒業研究を作成する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、及びIn（国際性）を養う。

授業の概要

演習計画に従って、自身が取り組むテーマと研究方法、研究論旨を確定する。授業ではそれぞれ研究を支援する講義を適宜行う。

授業計画

1. 研究概要 ガイダンス 演習計画 卒業研究の進め方、卒業論文のまとめ方
2. 研究概要 卒業研究テーマ、研究計画、研究方法の決定
3. 研究概要 先行研究文献発表(1)
4. 研究概要 先行研究文献発表(2)
5. 研究概要 調査研究の進め方と調査計画(1)
6. 研究概要 調査研究の進め方と調査計画(2)
7. 研究発表 テーマ・仮説・論旨発表と討議(1)
8. 研究発表 テーマ・仮説・論旨発表と討議(2)
9. 研究発表 本論発表・調査結果発表と討議(1)
10. 研究発表 本論発表・調査結果発表と討議(2)
11. 研究発表 本論発表・調査結果考察と討議(3)
12. 研究発表 本論発表・調査結果考察と討議(4)
13. 研究発表 本論発表・調査結果考察と討議(5)
14. 研究発表 今後の研究計画発表
15. まとめ

授業の方法

講義、発表、討議、レポート提出

準備学修

講義内容の予習をして課題の討議の準備をする。

課題・評価方法

レポート、口頭発表、授業への参加・貢献度により、総合的に評価。

欠席について

講義は、卒業研究につながるものであり、討議の状況など総合的に判断する参加型授業なので、必ず出席すること。

テキスト

後日連絡する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

一回一回の講義内容、討議事項など、その時その場でまとめること。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	c		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	必修	2				

授業の到達目標

観光関連科目のまとめとしていく。ホスピタリティ産業における戦略的マーケティングを理解し、ゼミ生個別のテーマに対してより深く研究を進めていく。個人テーマは、観光領域でマネジメントとマーケティングをキーワードとして設定する。テーマ毎に概要がまとめられることを到達目標としていく。このクラスは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とK(思いやり)を養う。

授業の概要

卒業研究を前提に個別のテーマに取り組む。個人研究が中心となり、成果を発表し、他のゼミ生とディスカッションをする。発表日を設定し、ゼミ長を中心に授業を進める。

授業計画

1. 研究の進め方
2. 研究テーマについて発表
3. 卒業研究の書き方(研究計画について)
4. 卒業研究の書き方(参考文献・引用文献)
5. 個人発表と質疑応答
6. 個人発表と質疑応答
7. 個人発表と質疑応答
8. 個人発表と質疑応答
9. 個人発表と質疑応答
10. 個人発表と質疑応答
11. 個人発表と質疑応答
12. 個人発表と質疑応答
13. 個人発表と質疑応答
14. 個人発表と質疑応答
15. まとめ

授業の方法

発表とディスカッションを中心に行う。

準備学修

テーマ毎に参考図書を紹介するので読んでレポートすること。

課題・評価方法

課題への取り組み、レポートの評価、発表内容などを総合的に成績評価する。

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

特になし

参考図書

研究テーマ別に紹介する。
内藤耕『サービス産業 労働生産性の革新』旅行新聞社
内藤耕『サービス産業 生産性向上入門』日刊工業新聞
Kotler『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション
M.E.Poter『競争の戦略』ダイヤモンド社
Jay B. Barney『企業戦略論』ダイヤモンド社

留意事項

個別の研究テーマに取り組めます。積極的に研究課題に取り組むこと。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	d		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石原 敬子	必修	2				

授業の到達目標

ネイティブの英語音声の特徴と日本語話者の英語音声の特徴について分析し理解する／各自の卒業研究のテーマを絞り込む／このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）、In（国際性）を養う

授業の概要

英語及び日本語の音声について客観的に観察・分析する。また自分たちが被験者となり、日本語話者が話す英語音声の特徴を分析し、テキスト、文献から得られた情報と実験から得られた結果を基に、日本語話者の英語の特徴について考察をする。さらに卒業研究のテーマを絞り込むためにゼミ内でディスカッションや各自の文献調査を進める。

授業計画

1. 卒業研究の進め方、調音器官と音の印象
2. 調音法と音の印象
3. 英語音声の特徴(子音群)
4. 英語音声の特徴(語尾の“n”)
5. ネイティブの英語の母音の特徴(ropeとrobeの違い)
6. ネイティブの英語の子音の特徴(writerとriderの違い)
7. 卒業研究に関する中間報告
8. ネイティブの英語の子音の特徴(dark /l/)
9. ネイティブの英語の子音の特徴(syllabic consonants)
10. 日本語話者の英語(氣息音)
11. 日本語話者の英語(氣息音分析)
12. 日本語話者の英語(イントネーション)
13. 日本語話者の英語(イントネーション分析)
14. 発表とディスカッション2-1
15. 発表とディスカッション2-2

授業の方法

講義とディスカッションを中心とする。

準備学修

毎週音読の宿題と小テストを課す／言語に関するの気づきを「こと

ばノート」に継続的に記入する／卒業研究のための文献調査を進める

課題・評価方法

平常点40%、定期試験60%

課題のフィードバック：小テストは基本的に翌授業週に返却、発表時は時間内に口頭及び事後にメモでフィードバック、レポートは個別にフィードバックする。

欠席について

1) 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること(ishihara@kaisei.ac.jp)。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3) 欠席日の提出物や小テストは、翌週授業日までの間に限り受け取り・対応する。

テキスト

服部範子著、『入門英語音声学』（研究社）
神崎正哉著、『新TOEIC TEST 出る順で学ぶボキャブラリー990』（講談社）

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけること。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	a		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	必修	2				

授業の到達目標

演習Ⅲで各自がテーマ設定した航空業界、ツーリズム全般、ホスピタリティ産業の中でのテーマについて、各自が参考文献や先行事例から現状と課題を明確にしていく。最終的にはテーマに対する自分の考えを明らかにし、卒業研究論文を期日までに仕上げる事を目標にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）を養う。

授業の概要

各自の行程表にそって卒業研究を完成させるように指導する。各自が研究テーマについて経過発表をしながらゼミ生相互に情報を共有する。また講評と質疑応答の中からテーマに対するアプローチの方法などをお互いに学び取る。各自の卒業研究の構成内容と最終の方向性を指導するが、主体的に卒業研究の完成に取り組んでいくことが重要である。

授業計画

- 1. 卒業研究の行程ガイダンス
- 2. 個人研究テーマの進捗発表と方向性の確認・質疑応答
- 3. 個人研究テーマの進捗発表と方向性の確認・質疑応答
- 4. 個人研究テーマの進捗発表と方向性の確認・質疑応答
- 5. 個人研究テーマの進捗発表と方向性の確認・質疑応答
- 6. 個人研究テーマの進捗発表と方向性の確認・質疑応答
- 7. 個人研究テーマの進捗発表と方向性の確認・質疑応答
- 8. 個人研究テーマの進捗発表と方向性の確認・質疑応答
- 9. 各自の研究テーマの筋書きの最終確認
- 10. 各自の研究テーマの筋書きの最終確認
- 11. 卒業研究のゼミ内暫定提出
- 12. 各自の卒業研究の補足・修正箇所の確認
- 13. 卒業研究の最終確認・まとめ
- 14. 卒業研究の口頭試問（1）
- 15. 卒業研究の口頭試問（2）

授業の方法

各自の卒業研究テーマの進捗状況の発表と講評を中心にする。

準備学修

自分の研究テーマの進捗発表時は各自でレジュメを用意する。各自の次回進捗発表の内容と補足事項を準備して出席する事。

課題・評価方法

各自のテーマ内容の進捗発表では毎回担当教員によるフィードバックを行う。
『平常点70%、定期試験30%』で評価配分する。

欠席について

無断欠席は一回につき5点減点する。止むを得ず欠席の場合は必ず当日でも事前に連絡を入れる事。その他は学則に準じる。

テキスト

特になし。

参考図書

各自の研究テーマに沿って適宜指示、推薦する。

留意事項

期日までに主体的に卒業研究テーマの完成に取り組む事。参考文献と資料は早めに準備し内容を精読していく事。原則各自の発表担当日の欠席は不可。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	b		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
福智 佳代子	必修	2				

授業の到達目標

演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲに引き続き、言葉の習得とは何か、言語学習とコミュニケーションのための言語教育とは何か、コミュニケーション能力とは何かについて考察し、学生それぞれの卒業研究完成のための支援を行い、卒業研究を完成する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、及びIn（国際性）を養う。

授業の概要

授業ではそれぞれ研究を支援する講義を適宜行い、演習計画に従って、研究内容発表、討議を行い、卒業研究を完成する。

授業計画

- 1. ガイダンス 卒業研究進行状況報告と今後の進め方
- 2. 卒業研究の報告と討議（1）まとめと考察（1）
- 3. 卒業研究の報告と討議（2）まとめと考察（2）
- 4. 卒業研究の報告と討議（3）まとめと考察（3）
- 5. 卒業研究中間発表（1）
- 6. 卒業研究中間発表（2）
- 7. 卒業研究修正（1）
- 8. 卒業研究修正（2）
- 9. 卒業研究仮提出・推敲（1）
- 10. 卒業研究仮提出・推敲（2）
- 11. 卒業研究仮提出・推敲（3）
- 12. 卒業研究最終報告と討議（1）
- 13. 卒業研究最終報告と討議（2）
- 14. 卒業研究口頭試問（1）
- 15. 卒業研究口頭試問（2）

授業の方法

講義、発表、討議、レポート提出

準備学修

講義内容の予習をして課題の討議の準備をする。
卒業研究内容を適宜発表する。

課題・評価方法

レポート、口頭発表、授業への参加・貢献度により、総合的に評価。

欠席について

卒業研究につながるものであり、討議の状況など総合的に判断する参加型授業なので、必ず出席すること

テキスト

後日連絡する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

一回一回の講義内容、討議事項など、その時その場でまとめること。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	c		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	必修	2				

授業の到達目標

観光関連科目のまとめとしていく。ホスピタリティ産業における戦略的マーケティングを理解し、ゼミ生個別のテーマに対してより深く研究を進めていく。個人テーマは、観光領域のマネジメントとマーケティングをキーワードとして設定する。テーマ毎に具体的にまとめられることを到達目標としていく。このクラスは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とK(思いやり)を養う。

授業の概要

卒業研究を前提に個別のテーマに取り組む。個人研究が中心となり、各自の進捗状況を発表し、他のゼミ生とディスカッションをする。発表日を設定し、ゼミ長を中心に授業を進める。

授業計画

1. ガイダンスとスケジュールの決定
2. 卒業研究作成におけるwordでの文書作成
3. 個人研究発表
4. 個人研究発表
5. 個人研究発表
6. 個人研究発表
7. 個人研究発表
8. 個人研究発表
9. 個人研究発表
10. 個人研究発表
11. 個人研究発表
12. 個人研究発表
13. 個人研究発表
14. 個人研究発表
15. まとめ

授業の方法

個人発表とディカッションを中心におこなう。

準備学修

各自のテーマに合わせた参考図書を紹介する。読んでレポートすること。

課題・評価方法

個人研究の内容と発表を評価対象とする。

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

特になし

参考図書

研究テーマ別に紹介する。
内藤耕『サービス産業 労働生産性の革新』旅行新聞社
内藤耕『サービス産業 生産性向上入門』日刊工業新聞
Kotler『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション
M.E.Poter『競争の戦略』ダイヤモンド社
Jay B. Barney『企業戦略論』ダイヤモンド社

留意事項

発表者は欠席してはならない。病気等欠席の場合は他のゼミ生に発表をかわってもらうこと。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	d		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石原 敬子	必修	2				

授業の到達目標

ネイティブの英語音声の特徴と日本語話者の英語音声の特徴について理解する／分析した内容について考察をする／各自の卒業研究のテーマに沿った調査を進める／このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）、In（国際性）を養う

授業の概要

英語音声について日本語音声と比較しながら研究する。またテキスト、文献等の調査から得られた情報を基に、日本語話者と英語話者の英語発音の違いについて考察をし、レポートにまとめる。さらに卒業研究執筆に向けて各自のテーマに沿った文献調査やデータ収集を進めながら、発表および討論を通して、自分で考え、それを自分のことばで表現する。

授業計画

1. 導入
2. 文強勢、強形と弱形
3. 日本語のリズム・英語のリズム
4. フットと等時性
5. 英語のリズムと音楽
6. 卒業研究に関する中間報告
7. イントネーション(役割)
8. イントネーション(核)
9. イントネーション(有標・無標)
10. イントネーション(まとめ)
11. 発表とディスカッション
12. 発表とディスカッション
13. まとめ
14. まとめ
15. 卒業研究口頭試問

授業の方法

講義とディスカッションを中心とする。

準備学修

文献調査を進める／毎週音読の宿題と小テストを課す

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

課題のフィードバック：小テストは基本的に翌授業週に返却、発表時は時間内に口頭及び事後にメモでフィードバック、レポートは個別にフィードバックする。

欠席について

1) 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること(ishihara@kaisei.ac.jp)。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3) 欠席日の提出物や小テストは、翌週授業日までの間に限り受け取り・対応する。

テキスト

服部範子著、『入門英語音声学』（研究社）
神崎正哉著、『新TOEIC TEST 出る順で学ぶボキャブラリー990』（講談社）

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけること。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication 100	100-1/100-2		13901	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Tina D. MATHERS	必修	1				

授業の到達目標

This course will develop a sense of intelligence, internationality, and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills, including intonation and stress, in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include jobs, cultures, vacations, comedy, sports, feelings, and weather.

授業計画

1. Introduction

2. Unit 1 Nice to Meet You

3. Unit 1 Nice to Meet You

4. Unit 2 Around the World

5. Unit 2 Around the World

6. Review

7. Presentations

8. Mid Term

9. Unit 3 Going Places

10. Unit 3 Going Places

11. Unit 4 Around Town

12. Unit 4 Around Town

13. Review

14. Presentations

15. Presentations

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be Familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 20%

Tests and Quizzes 10%
Presentations 40%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Longman *Cutting Edge Starter*, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor

参考図書

Will be assigned as required

留意事項

Active participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication 100	100b		13901	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
國本 恵理香	必修	1				

授業の到達目標

This course will develop a sense of intelligence, internationality, and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills, including intonation and stress, in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include jobs, cultures, vacations, comedy, sports, feelings, and weather.

授業計画

1. Introduction

2. Unit 1 Nice to Meet You

3. Unit 1 Nice to Meet You

4. Unit 1 Nice to Meet You

5. Unit 1 Nice to Meet You

6. Review

7. Presentations

8. Mid Term

9. Unit 2 Around the World

10. Unit 2 Around the World

11. Unit 2 Around the World

12. Unit 2 Around the World

13. Review

14. Presentations

15. Presentations

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be Familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 20%

Tests and Quizzes 10%
Presentations 40%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Longman *Cutting Edge Starter*, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor

参考図書

Will be assigned as required

留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading 101	101-1/101-2		13903	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
和泉 有香／佐伯 瑠璃子	必修	1				

授業の到達目標

Locate and understand main ideas and details, Show increasing ability to understand readings using skills such as skimming, scanning, and pronoun reference. Write main idea sentences. Express opinions about readings. Develop intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, taking notes, predicting, and cause and effect.

授業計画

1. Introduction
2. Chapter 1 Popular Sports
3. Chapter 1 Popular Sports
4. Chapter 2 Healthy Eater
5. Chapter 2 Healthy Eater
6. Chapter 3 Dream Home
7. Chapter 3 Dream Home
8. Mid Term
9. Chapter 4 Greetings
10. Chapter 4 Greetings
11. Chapter 5 City Without Oil
12. Chapter 5 City Without Oil
13. Chapter 6 Can't Please Everyone
14. Chapter 6 Can't Please Everyone
15. Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbooks: preview and review

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford *Select Readings Elementary*, 2nd edition. Linda Lee
Oxford Bookworms *Sherlock Holmes and the Duke's Son* by Sir Arthur Conan Doyle retold by Jennifer Bassett

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading 101	101b		13903	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
入江 和子	必修	1				

授業の到達目標

Locate and understand main ideas and details, Show increasing ability to understand readings using skills such as skimming, scanning, and pronoun reference. Write main idea sentences. Express opinions about readings. Develop intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, taking notes, predicting, and cause and effect.

授業計画

1. Introduction
2. Chapter 1 Popular Sports
3. Chapter 1 Popular Sports
4. Chapter 1 Popular Sports
5. Chapter 1 Popular Sports
6. Chapter 2 Healthy Eater
7. Chapter 2 Healthy Eater
8. Chapter 2 Healthy Eater
9. Chapter 2 Healthy Eater
10. Mid Term
11. Chapter 3 Dream Home
12. Chapter 3 Dream Home
13. Chapter 3 Dream Home
14. Chapter 3 Dream Home
15. Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbooks: preview and review

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford *Select Readings Elementary*, 2nd edition. Linda Lee
Oxford Bookworms *Sherlock Holmes and the Duke's Son* by Sir Arthur Conan Doyle retold by Jennifer Bassett

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Writing 102	102-1/102-2		13905	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Andy RUSHTON	必修	1				

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, and understand and utilize the writing process.

授業計画

1. Introduction

2. Unit 1 Who am I?

3. Unit 1 Who am I?

4. Unit 2 An Important place

5. Unit 2 An Important place

6. Unit 3 An ideal partner

7. Unit 3 An ideal partner

8. Mid Term

9. Unit 4 My favorite photo

10. Unit 4 My favorite photo

11. Unit 5 My seal

12. Unit 5 My seal

13. Unit 6 Party time

14. Unit 6 Party time

15. Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Report 20%
Tests and Quizzes 10%
Class Participation 20%
Homework 50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Cambridge *Writing from Within Level 1*, 2nd edition. Curtis Kelly & Arlen Gargagliano

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Writing 102	102b		13905	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
和泉 有香	必修	1				

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, and understand and utilize the writing process.

授業計画

1. Introduction

2. Unit 1 Who am I?

3. Unit 1 Who am I?

4. Unit 1 Who am I?

5. Unit 1 Who am I?

6. Unit 2 An Important place

7. Unit 2 An Important place

8. Unit 2 An Important place

9. Unit 2 An Important place

10. Mid Term

11. Unit 3 An ideal partner

12. Unit 3 An ideal partner

13. Unit 3 An ideal partner

14. Unit 3 An ideal partner

15. Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Report 20%
Tests and Quizzes 10%
Class Participation 20%
Homework 50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Cambridge *Writing from Within Level 1*, 2nd edition. Curtis Kelly & Arlen Gargagliano

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Grammar 103	103-1/103-2		13907	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
吉野 美智子／入江 和子	必修	1				

授業の到達目標

In this class, students will strengthen their sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion, learners will be able to comprehend and use: simple present and present progressive, simple past and past progressive

授業計画

1. Introduction
2. Chapter 1 The Simple Tenses
3. Chapter 1 The Progressive Tenses, Spelling of -ing and -ed Form
4. Chapter 2 Simple Present
5. Chapter 2 Simple Present
6. Chapter 2 Simple Present
7. Chapter 2 Present Progressive
8. Chapter 2 Present Progressive
9. Mid Term
10. Chapter 2 Simple Past
11. Chapter 2 Simple Past
12. Chapter 2 Simple Past
13. Chapter 2 Past Progressive
14. Chapter 2 Past Progressive
15. Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%

Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Pearson *Understanding and Using English Grammar*, 4th edition.
B.A. Azar & S.A. Hagen

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Grammar 103	103b		13907	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐伯 瑠璃子	必修	1				

授業の到達目標

In this class, students will strengthen their sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion, learners will be able to comprehend and use: be and have, simple present, and present progressive.

授業計画

1. Introduction
2. Chapter 1 Using Be
3. Chapter 1 Using Be
4. Chapter 1 Using Be
5. Chapter 2 Using Be and Have
6. Chapter 2 Using Be and Have
7. Chapter 2 Using Be and Have
8. Chapter 2 Using Be and Have
9. Review
10. Mid Term
11. Chapter 3 Using the Simple Present
12. Chapter 3 Using the Simple Present
13. Chapter 3 Using the Simple Present
14. Chapter 3 Using the Simple Present
15. Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%

Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Pearson *Basic English Grammar*, 4th Edition. B.S. Azar & S.A. Hagen

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication 200	200春/200-1/200-2		13909	I	春／秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Andy RUSHTON	必修	1				

授業の到達目標

The course will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include jobs, cultures, vacations, comedy, sports, feelings, and weather.

授業計画

1. Introduction

2. Unit 7 Your Time

3. Unit 7 Your Time

4. Unit 8 You Can Do It!

5. Unit 8 You Can Do It!

6. Review

7. Presentations

8. Mid Term

9. Unit 9 Now and Then

10. Unit 9 Now and Then

11. Unit 10 Famous Lives

12. Unit 10 Famous Lives

13. Review

14. Presentations

15. Presentations

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 20%
Tests and Quizzes 10%

Presentations 40%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Longman *Cutting Edge Starter*, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication 200	200b/再履春		13909	I／II	秋／春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
國本 恵理香／佐伯 瑠璃子	必修	1				

授業の到達目標

The course will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include jobs, cultures, vacations, comedy, sports, feelings, and weather.

授業計画

1. Introduction

2. Unit 3 Going Places

3. Unit 3 Going Places

4. Unit 3 Going Places

5. Unit 3 Going Places

6. Review

7. Presentations

8. Mid Term

9. Unit 4 Around Town

10. Unit 4 Around Town

11. Unit 4 Around Town

12. Unit 4 Around Town

13. Review

14. Presentations

15. Presentations

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 20%
Tests and Quizzes 10%

Presentations 40%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Longman *Cutting Edge Starter*, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading 201	201春/201-1/201-2/再履春		13911	I / II	春 / 秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
惣谷 美智子 / 佐伯 瑠璃子 / 入江 和子 / 石原 敬子	必修	1				

授業の到達目標

This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, taking notes, predicting, and word forms.

授業計画

1. Introduction
2. Chapter 8 Bicycles
3. Chapter 8 Bicycles
4. Chapter 9 Cooking
5. Chapter 9 Cooking
6. Chapter 10 Travel
7. Chapter 10 Travel
8. Mid Term
9. Chapter 11 An Able Man
10. Chapter 11 An Able Man
11. Chapter 12 Traditions
12. Chapter 12 Traditions
13. Chapter 13 Emergency
14. Chapter 13 Emergency
15. Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbooks: preview and review

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%

Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford *Select Readings Elementary*, 2nd edition, Linda Lee
Oxford Bookworms *A Little Princess* by Hodgson Burnett retold by Jennifer Bassett

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading 201	201b		13911	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
岡村 祥子	必修	1				

授業の到達目標

This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, taking notes, predicting, and cause and effect.

授業計画

1. Introduction
2. Chapter 4 Greetings
3. Chapter 4 Greetings
4. Chapter 4 Greetings
5. Chapter 4 Greetings
6. Chapter 5 City Without Oil
7. Chapter 5 City Without Oil
8. Chapter 5 City Without Oil
9. Chapter 5 City Without Oil
10. Mid Term
11. Chapter 6 Can't Please Everyone
12. Chapter 6 Can't Please Everyone
13. Chapter 6 Can't Please Everyone
14. Chapter 6 Can't Please Everyone
15. Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbooks: preview and review

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%

Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford *Select Readings Elementary*, 2nd edition, Linda Lee
Oxford Bookworms *Sherlock Holmes and the Duke's Son* by Sir Arthur Conan Doyle retold by Jennifer Bassett

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Writing 202	202春/202-1/202-2		13913	I	春／秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Tina D. MATHERS／Andy RUSHTON	必修	1				

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, and understand and utilize the writing process.

授業計画

1. Introduction

2. Unit 7 Thank you note

3. Unit 7 Thank you note

4. Unit 8 Movie review

5. Unit 8 Movie review

6. Unit 9 Friendship

7. Unit 9 Friendship

8. Mid Term

9. Unit 10 Superhero powers

10. Unit 10 Superhero powers

11. Unit 11 Advertisements

12. Unit 11 Advertisements

13. Unit 12 Lessons learned

14. Unit 12 Lessons learned

15. Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Report 20%
Tests and Quizzes 10%
Class Participation 20%
Homework 50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Cambridge *Writing from Within Level 1*, 2nd edition. Curtis Kelly & Arlen Gargagliano

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Writing 202	202b/再履春		13913	I／II	秋／春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
國本 恵理香／吉野 美智子	必修	1				

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, and understand and utilize the writing process.

授業計画

1. Introduction

2. Unit 4 My favorite photo

3. Unit 4 My favorite photo

4. Unit 4 My favorite photo

5. Unit 4 My favorite photo

6. Unit 5 My seal

7. Unit 5 My seal

8. Unit 5 My seal

9. Unit 5 My seal

10. Mid Term

11. Unit 6 Party time

12. Unit 6 Party time

13. Unit 6 Party time

14. Unit 6 Party time

15. Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups

準備学修

Be familiar with the contents of the textbooks

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Report 20%
Tests and Quizzes 10%
Class Participation 20%
Homework 50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Cambridge *Writing from Within Level 1*, 2nd edition. Curtis Kelly & Arlen Gargagliano

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Grammar 203	203春/203-1/203-2/再履春		13915	I / II	春 / 秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
小野 礼子／石原 敬子／入江 和子	必修	1				

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要

Upon completion, learners will be able to comprehend and use: present perfect and present perfect progressive, past perfect and past perfect progressive, all future tenses, including "going to" future, simple future, future progressive, and future perfect.

授業計画

1. Introduction
2. Chapter 4 Future
3. Chapter 4 Future Progressive
4. Chapter 4 Future in Time Clauses
5. Chapter 3 Present Perfect
6. Chapter 3 Present Perfect
7. Chapter 3 Present Perfect Progressive
8. Mid Term
9. Chapter 3 Past perfect
10. Chapter 3 Past Perfect
11. Chapter 3 Past Perfect Progressive
12. Chapter 4 Future Perfect
13. Chapter 4 Future Perfect Progressive
14. Chapter 5 Review of Verb Tenses
15. Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups.

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%

Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Pearson *Understanding and Using English Grammar*, 4th edition.
B.A. Azar & S.A. Hagen

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Grammar 203	203b		13915	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
吉野 美智子	必修	1				

授業の到達目標

In this class, students will strengthen their sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion, learners will be able to comprehend and use: present progressive and past tense

授業計画

1. Introduction
2. Chapter 4 Using Present Progressive
3. Chapter 4 Using Present Progressive
4. Chapter 4 Using Present Progressive
5. Chapter 4 Using Present Progressive
6. Chapter 4 Using Present Progressive
7. Review
8. Mid Term
9. Chapter 8 Past Time
10. Chapter 8 Past Time
11. Chapter 8 Past Time
12. Chapter 8 Past Time
13. Chapter 8 Past Time
14. Chapter 8 Past Time
15. Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups.

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%

Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Pearson *Basic English Grammar*, 4th edition. B.S. Azar & S.A. Hagen

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication 300	300秋/300-1/300-2		13917	I / II	秋 / 春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Andy RUSHTON / Tina D. MATHERS	必修	1,2				

授業の到達目標 The course will develop a sense of internationality and autonomy. 授業の概要 The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include idioms, architecture, colors, manners, games, family, DIY (Do-It-Yourself), trash, and cleanliness. 授業計画 1. Introduction 2. Unit 1 People and Places 3. Unit 1 People and Places 4. Unit 2 People and Things 5. Unit 2 People and Things 6. Review 7. Presentations 8. Mid Term 9. Unit 3 Your Life 10. Unit 3 Your Life 11. Unit 4 Likes and Dislikes 12. Unit 4 Likes and Dislikes 13. Review 14. Presentations 15. Presentations 授業の方法 Students will work individually, in pairs, and in groups 準備学修 Be familiar with the content of the textbook: preview and review 課題・評価方法 Your final grade will be determined using the following scale: Final Exam 20% Tests and Quizzes 10%	Presentations 40% Class Participation 20% Homework 10% 欠席について As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given. テキスト Longman <i>Cutting Edge Elementary</i>, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor 参考図書 Will be assigned as needed 留意事項 Active participation is essential
---	--

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication 300	300b/再履秋		13917	II	春 / 秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
釜須 久夫 / 小野 礼子	必修	2				

授業の到達目標 The course will develop a sense of internationality and autonomy. 授業の概要 The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include jobs, cultures, vacations, comedy, sports, feelings, and weather. 授業計画 1. Introduction 2. Unit 7 Your Time 3. Unit 7 Your Time 4. Unit 7 Your Time 5. Unit 7 Your Time 6. Review 7. Presentations 8. Mid Term 9. Unit 8 You Can Do It! 10. Unit 8 You Can Do It! 11. Unit 8 You Can Do It! 12. Unit 8 You Can Do It! 13. Review 14. Presentations 15. Presentations 授業の方法 Students will work in groups and individually 準備学修 Be familiar with the textbook: preview and review 課題・評価方法 Your final grade will be determined using the following scale: Final Exam 20% Tests and Quizzes 10%	Presentations 40% Class Participation 20% Homework 10% 欠席について As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given. テキスト Longman <i>Cutting Edge Starter</i>, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor 参考図書 Will be assigned as needed 留意事項 Active participation is essential
---	---

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading 301	301秋/301-1/301-2/再履秋		13919	I / II	秋／春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
入江 和子／國本 恵理香／石原 敬子／吉野 美智子	必修	2				

授業の到達目標

This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, locating supporting details, inferences, and word forms.

授業計画

1. Introduction
2. Chapter 1 Sleep
3. Chapter 1 Sleep
4. Chapter 2 Homestay in London
5. Chapter 2 Homestay in London
6. Chapter 3 Not Black and White
7. Chapter 3 Not Black and White
8. Mid Term
9. Chapter 4 Helping Others
10. Chapter 4 Helping Others
11. Chapter 5 Generation Z
12. Chapter 5 Generation Z
13. Chapter 6 Being Successful
14. Chapter 6 Being Successful
15. Review

授業の方法

Be Familiar with the textbooks before class

準備学修

Be familiar with the textbooks: preview and review

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%

Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford *Select Readings Pre-Intermediate*, 2nd edition. Linda Lee & Erik Gundersen
Oxford Bookworms *New Yorkers Short Stories* by O Henry retold by Diane Mowat

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading 301	301b		13919	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
岡村 祥子	必修	2				

授業の到達目標

This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, locating supporting details, inferences, and word forms.

授業計画

1. Introduction
2. Chapter 1 Sleep
3. Chapter 1 Sleep
4. Chapter 1 Sleep
5. Chapter 1 Sleep
6. Chapter 2 Homestay in London
7. Chapter 2 Homestay in London
8. Chapter 2 Homestay in London
9. Chapter 2 Homestay in London
10. Mid Term
11. Chapter 3 Not Black and White
12. Chapter 3 Not Black and White
13. Chapter 3 Not Black and White
14. Chapter 3 Not Black and White
15. Review

授業の方法

Students will work on activities from the textbook in pairs, groups and alone.

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%

Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford *Select Readings Pre-Intermediate*, 2nd edition. Linda Lee & Erik Gundersen
Oxford Bookworms *A Little Princess* by Hodgson Burnett retold by Jennifer Bassett

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Writing 302	302秋/302-1/302-2		13921	I / II	秋／春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Tina D. MATHERS／Andy RUSHTON	必修	2				

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, understand and utilize the writing process, explain a process, and write about spatial order, time order, and order of importance.

授業計画

1. Introduction

2. Unit 1 About me

3. Unit 1 About me

4. Unit 2 Career consultant

5. Unit 2 Career consultant

6. Unit 3 A dream come true

7. Unit 3 A dream come true

8. Mid Term

9. Unit 4 Invent

10. Unit 4 Invent

11. Unit 5 It changed my life!

12. Unit 5 It changed my life!

13. Unit 6 Exciting destinations

14. Unit 6 Exciting destinations

15. Review

授業の方法

Students will work in groups and individually

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Report 20%
Tests and Quizzes 10%
Class Participation 20%
Homework 50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Cambridge *Writing from Within Level 2*, 2nd edition. Curtis Kelly & Arlen Gargagliano

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active Participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Writing 302	302b/再履秋		13921	II	春／秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
國本 恵理香／石原 敬子	必修	2				

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, and understand and utilize the writing process.

授業計画

1. Introduction

2. Unit 1 About me

3. Unit 1 About me

4. Unit 1 About me

5. Unit 1 About me

6. Unit 2 Career consultant

7. Unit 2 Career consultant

8. Unit 2 Career consultant

9. Unit 2 Career consultant

10. Mid Term

11. Unit 3 A dream come true

12. Unit 3 A dream come true

13. Unit 3 A dream come true

14. Unit 3 A dream come true

15. Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Report 20%
Tests and Quizzes 10%
Class Participation 20%
Homework 50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Cambridge *Writing from Within Level 2*, 2nd edition. Curtis Kelly & Arlen Gargagliano

参考図書

Will be assign as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Grammar 303	秋/303-1/303-2/再履秋		13923	I / II	秋／春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
和泉 有香／吉野 美智子／木下 奈美	必修	2				

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要

Upon completion, learners will be able to comprehend and use modals of certainty, necessity, polite requests, expectations and suggestions, and advisability.

授業計画

- 1.Introduction
- 2.Chapter 9 Modals of Necessity
- 3.Chapter 9 Modals of Necessity
- 4.Chapter 9 Polite Requests
- 5.Chapter 9 Polite Requests
- 6.Chapter 9 Modals of Advisability
- 7.Chapter 9 Modals of Advisability
- 8.Mid Term
- 9.Chapter 9 Expectations and Suggestions
- 10.Chapter 9 Expectations and Suggestions
- 11.Chapter 10 Modals of Certainty
- 12.Chapter 10 Modals of Certainty
- 13.Chapter 10 Ability and Preferences
- 14.Chapter 10 Ability and Preferences
- 15.Review

授業の方法

Students will work in groups and individually

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%

Class Participation 20%

Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Pearson *Understanding and Using English Grammar*, 4th edition.
B.A. Azar & S.A. Hagen

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Grammar 303	303b		13923	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
和泉 有香	必修	2				

授業の到達目標

In this class, students will strengthen their sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion, learners will be able to comprehend and use past progressive, comparatives, and superlatives

授業計画

- 1.Introduction
- 2.Chapter 8 Past Time, Part 1
- 3.Chapter 8 Past Time, Part 1
- 4.Chapter 9 Past Time, Part 2
- 5.Chapter 9 Past Time, Part 2
- 6.Chapter 9 Past Time, Part 2
- 7.Review
- 8.Mid Term
- 9.Chapter 15 Comparatives and Superlatives
- 10.Chapter 15 Comparatives and Superlatives
- 11.Chapter 15 Comparatives and Superlatives
- 12.Chapter 15 Comparatives and Superlatives
- 13.Chapter 15 Comparatives and Superlatives
- 14.Chapter 15 Comparatives and Superlatives
- 15.Review

授業の方法

Students will work in groups and individually

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%

Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Pearson *Basic English Grammar*, 4th edition. B.S. Azar & S.A. Hagen

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication 400	400春/400-1/400-2		13925	Ⅱ	春／秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Andy RUSHTON／Tina D. MATHERS	必修	2				

授業の到達目標 The course will develop a sense of internationality and autonomy.
授業の概要 The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include idioms, architecture, colors, manners, games, family, DIY (Do-It-Yourself), trash, and cleanliness.
授業計画 1. Introduction 2. Unit 8 Fact or Fiction? 3. Unit 8 Fact or Fiction? 4. Unit 9 Buy and Sell 5. Unit 9 Buy and Sell 6. Review 7. Presentations 8. Mid Term 9. Unit 10 Look Good 10. Unit 10 Look Good 11. Unit 11 Nature 12. Unit 11 Nature 13. Review 14. Presentations 15. Presentations
授業の方法 Students will work individually and in groups
準備学修 Be familiar with the textbook: preview and review
課題・評価方法 Your final grade will be determined using the following scale: Final Exam 20% Tests and Quizzes 10%

Presentations 40% Class Participation 20% Homework 10%
欠席について As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.
テキスト Longman <i>Cutting Edge Elementary</i> , 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor
参考図書 Will be assigned as needed
留意事項 Active participation is essential for success

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication 400	400b		13925	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
吉野 美智子	必修	2				

授業の到達目標 The course will develop a sense of internationality and autonomy.
授業の概要 The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include jobs, cultures, vacations, comedy, sports, feelings, and weather.
授業計画 1. Introduction 2. Unit 9 Now and Then 3. Unit 9 Now and Then 4. Unit 9 Now and Then 5. Unit 9 Now and Then 6. Review 7. Presentations 8. Mid Term 9. Unit 10 Famous Lives 10. Unit 10 Famous Lives 11. Unit 10 Famous Lives 12. Unit 10 Famous Lives 13. Review 14. Presentations 15. Presentations
授業の方法 Students will work in groups and individually
準備学修 Be familiar with the textbook: preview and review
課題・評価方法 Your final grade will be determined using the following scale: Final Exam 20% Tests and Quizzes 10%

Presentations 40% Class Participation 20% Homework 10%
欠席について As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.
テキスト Longman <i>Cutting Edge Starter</i> , 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor
参考図書 Will be assigned as needed
留意事項 Active Participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading 401	401春/401-1/401-2		13927	Ⅱ	春／秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐伯 瑠璃子／木下 奈美	必修	2				

授業の到達目標

This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including understanding meaning from context, compound words, prefixes, and collocations.

授業計画

1. Introduction
2. Chapter 8 Live Forever?
3. Chapter 8 Live Forever?
4. Chapter 9 Baseball Fans
5. Chapter 9 Baseball Fans
6. Chapter 10 Mobile Phones
7. Chapter 10 Mobile Phones
8. Mid Term
9. Chapter 11 A Musician
10. Chapter 11 A Musician
11. Chapter 12 A Day of a Freshman
12. Chapter 12 A Day of a Freshman
13. Chapter 13 Love at First Sight
14. Chapter 13 Love at First Sight
15. Review

授業の方法

Students will work on activities from the textbook in pairs, groups and alone.

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%

Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford *Select Readings Pre-Intermediate*, 2nd edition. Linda Lee & Erik Gundersen
Oxford Bookworms *Anne of Green Gables* by L. M. Montgomery

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active Participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading 401	401b		13927	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
國本 恵理香	必修	2				

授業の到達目標

This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, locating supporting details, inferences, and word forms.

授業計画

1. Introduction
2. Chapter 4 Helping Others
3. Chapter 4 Helping Others
4. Chapter 4 Helping Others
5. Chapter 4 Helping Others
6. Chapter 5 Generation Z
7. Chapter 5 Generation Z
8. Chapter 5 Generation Z
9. Chapter 5 Generation Z
10. Mid Term
11. Chapter 6 Being Successful
12. Chapter 6 Being Successful
13. Chapter 6 Being Successful
14. Chapter 6 Being Successful
15. Review

授業の方法

Students will work on activities from the textbook in pairs, groups and alone.

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%

Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford *Select Readings Pre-Intermediate*, 2nd edition. Linda Lee & Erik Gundersen
Oxford Bookworms *A Little Princess* by Hodgson Burnett retold by Jennifer Bassett

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active Participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Writing 402	402春/402-1/402-2		13929	Ⅱ	春／秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Tina D. MATHERS／Andy RUSHTON	必修	2				

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, understand and utilize the writing process, explain a process, and write about spatial order, time order, and order of importance.

授業計画

1. Introduction

2. Unit 7 Classifying classmates

3. Unit 7 Classifying classmates

4. Unit 8 The job interview

5. Unit 8 The job interview

6. Unit 9 Personal goals

7. Unit 9 Personal goals

8. Mid Term

9. Unit 10 Architect

10. Unit 10 Architect

11. Unit 11 My role models

12. Unit 11 My role models

13. Unit 12 Be a reporter

14. Unit 12 Be a reporter

15. Review

授業の方法

Students will work in groups and individually

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Report 20%
Tests and Quizzes 10%
Class Participation 20%
Homework 50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Cambridge *Writing from Within Level 2*, 2nd edition. Curtis Kelly & Arlen Gargagliano

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active Participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Writing 402	402b		13929	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐伯 瑠璃子	必修	2				

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, and understand and utilize the writing process.

授業計画

1. Introduction

2. Unit 4 Invent

3. Unit 4 Invent

4. Unit 4 Invent

5. Unit 4 Invent

6. Unit 5 It changed my life!

7. Unit 5 It changed my life!

8. Unit 5 It changed my life!

9. Unit 5 It changed my life!

10. Mid Term

11. Unit 6 Exciting destinations

12. Unit 6 Exciting destinations

13. Unit 6 Exciting destinations

14. Unit 6 Exciting destinations

15. Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Report 20%
Tests and Quizzes 10%
Class Participation 20%
Homework 50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Cambridge *Writing from Within Level 2*, 2nd edition. Curtis Kelly & Arlen Gargagliano

参考図書

Will be assign as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Grammar 403	403春/403-1/403-2		13931	Ⅱ	春／秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐伯 瑠璃子／和泉 有香	必修	2				

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要

Upon completion, learners will be able to comprehend and use: the passive, noun clauses, and adjective clauses

授業計画

1. Introduction
2. Chapter 11 (THE PASSIVE): Active vs. passive
3. Chapter 11 Tense form of the passive, Using the passive
4. Chapter 11 Modals and phrasal modals
5. Chapter 12 (NOUN CLAUSES): Beginning with a question word
6. Chapter 12 Beginning with a question word
7. Chapter 12 Beginning with that
8. Mid Term
9. Chapter 12 Quoted speech, Reported speech
10. Chapter 12 Using -ever words
11. Chapter 13 (ADJECTIVE CLAUSES): Used as the subject
12. Chapter 13 Used as the object
13. Chapter 13 Using whose/where/when
14. Chapter 13 Using whose/where/when
15. Review

授業の方法

Students will work in groups and individually

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%

Class Participation 20%

Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Pearson *Understanding and Using English Grammar*, 4th edition.
B.A. Azar & S.A. Hagen

参考図書

Will be assigned as required

留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Grammar 403	403b		13931	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
吉野 美智子	必修	2				

授業の到達目標

In this class, students will strengthen their sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion, learners will be able to comprehend and use: count and non count nouns, the future tense,

授業計画

1. Introduction
2. Chapter 10 Future Time, Part 1
3. Chapter 10 Future Time, Part 1
4. Chapter 10 Future Time, Part 1
5. Chapter 10 Future Time, Part 1
6. Chapter 11 Future Time, Part 2
7. Chapter 11 Future Time, Part 2
8. Review
9. Mid Term
10. Chapter 7 Count and Non-count Nouns
11. Chapter 7 Count and Non-count Nouns
12. Chapter 7 Count and Non-count Nouns
13. Chapter 7 Count and Non-count Nouns
14. Chapter 7 Count and Non-count Nouns
15. Review

授業の方法

Students will work in groups and individually

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%

Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Pearson *Basic English Grammar*, 4th edition. B.S. Azar & S.A. Hagen

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈異文化理解〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ホスピタリティ精神論			13272	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
國本 恵理香	必修	2				

授業の到達目標

ホスピタリティという単語は、「もてなし」「思いやり」「気配り」「歓待」という言葉で説明されているが、この言葉はそのような表面的な説明では網羅しきれない深い意味を持っている。それは人間精神にかかわるもので、単なるマナーや知識、技能ではなく、人に幸せを与えるもので、その真髄は、自分と他者を尊重し、大切にするという人間愛が基本にある。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を目指す。

授業の概要

最初に「ホスピタリティ」という言葉の語源とその内容の起源について学んだ後、この概念の東西文化圏における考え方や実践について概観する。授業の中盤に入って、ホスピタリティを日常生活の中で生きている私たちに視点を移して考察し、日本におけるホスピタリティの伝統を、「もてなし」、慣習、食文化、茶道という局面から学ぶ。授業の後半は、現代のホスピタリティ産業の代表であるディズニーランド及び宿泊業におけるホスピタリティのあり方を検討する。

授業計画

- ホスピタリティの語源
- ホスピタリティの起源
- 古代西洋のホスピタリティ文化ーケルト、ゲルマン、スラブ
- キリスト教とイスラム教のホスピタリティ文化
- 古代東洋のホスピタリティ文化ー儒教及びヒンドゥー教
- 日本のもてなし文化
- 日本の慣習とホスピタリティ 慶事及び結婚におけるホスピタリティ
- 日本の慣習とホスピタリティ 葬儀及び祭りにおけるホスピタリティ
- 「おくりびと」に見るホスピタリティ
- 日本の食文化とホスピタリティ
- 日本のホスピタリティ文化ー茶道の精神
- 西洋料理とホスピタリティ
- 宿泊業におけるホスピタリティ
- ディズニーランドにおけるホスピタリティ
- ホスピタリティ精神論のまとめ

授業の方法

パワーポイントを使用した講義形式が中心となるが、授業中に小グループで話し合うなど、ディスカッションも取り入れる。DVDを1回見る。

準備学修

旧約聖書の創世記18章を読んでくる。毎回配布される資料の復習をする。今までに自分が受けたホスピタリティ、もしくは他人に対するホスピタリティを考えてみる。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は1回につき、平常点と定期試験より算出した評価点から2点減点とする。

テキスト

授業中にプリントを配布する。

参考図書

服部勝人「ホスピタリティ学のすすめ」（丸善株式会社）
塹江隆「ホスピタリティと観光産業」（文理閣）
福島文二郎「ディズニーのホスピタリティ」（中経出版）
山上徹「ホスピタリティ精神の深化」（法律文化社）

基礎科目〈異文化理解〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
異文化理解			13409	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	必修	2				

授業の到達目標

現代社会はよりグローバル化が進み、多様な文化を持つ人々との国際交流社会になってきた。しかし時として文化情報の不足のため考え方や感じ方の違いが異文化間の相互理解を難しくしている。こうした文化摩擦をさけるための異文化理解の基礎と異文化間コミュニケーションの留意点を理解する事を目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

この授業では西洋文化、特に欧米の文化の理解を中心にして「目に見える文化」から「見えない文化」、つまり習慣や行動の仕方の背景にある価値観などの由来をテキストを中心に解説する。グループ課題として欧米の主要国について国別の特徴をまとめ、国際理解を促進する時間も設ける。なお毎回の授業にあたりテキストの内容を十分予習しておく事が重要である。

授業計画

- ガイダンス。カルチャー・ショックと文化摩擦
- 異文化理解の知識 文化とは何か
- 異文化理解の知識 必要な文化情報
- 価値観の理解
- 異文化間コミュニケーション
- 衣食住の文化
- 人間関係の文化
- 遊びと仕事の文化
- イスラム世界の文化・規律
- 世界史の中の英語と文化その1
- 世界史の中の英語と文化その2
- 国際理解・国別グループ課題 イギリス
- 国際理解・国別グループ課題 アメリカ
- 国際理解・国別グループ課題 カナダ
- 国際理解・国別グループ課題 オーストラリア

授業の方法

主要国についてグループに分け、国別に異文化理解の課題を討議し発表する時間を取り入れる。

準備学修

毎回授業で取り上げる範囲を指示するので必ず事前にテキストで予習して出席する事。

課題・評価方法

グループ課題での発表では教員によるフィードバックを行う。評価は平常点70%、定期試験30%

欠席について

特別の理由のない欠席1回につき5点減点する。その他は学則に従う。

テキスト

『異文化理解のストラテジー』（最新版） 佐野正之・水落一朗・鈴木龍一著 大修館書店

参考図書

『しぐさの比較文化』リージャー・プロズナハン著 岡田 妙・斉藤紀代子 訳 大修館書店
『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』 久米昭元・長谷川典子著 有斐閣選書
『実例で見る日米コミュニケーション・ギャップ』 西田ひろ子 大修館書店

留意事項

出席と授業態度、国別の担当課題についてのチームでの準備と発表も重視する。異文化理解の比較として日本の文化を英語で伝えられる勉強も望まれる。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本文化論			13273	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

日本文化、特に古典芸能を理解し、その概要を語れるようになる。
このクラスではKAISEIパーソナリティのI n（国際性）とI（知性）とを養う。

授業の概要

芸能は地域に根差し発展する。まずは、各芸能を、身近なものとして考察したい。そして、現代において、各芸能がどのような発展をしているかを、ときに映像資料を用いて確認する。随時関西で上演される芸能を紹介するので、受講中に実際に劇場に足を運んでもらいたい。

授業計画

1. 落語（前座の役割「寿限無」「芝浜」）
2. 落語（海外へ：英語落語の可能性・「鷺取り」）
3. 落語（創作落語：グリム童話「死神の名づけ親」と落語「死神」）
4. 歌舞伎（江戸荒事 「勧進帳」）
5. 歌舞伎（現代歌舞伎：野田秀樹による新しい脚本「研辰の討たれ」）
6. 歌舞伎（日本作品を海外へ：和事歌舞伎の新演出 故中村勘三郎の「夏祭浪花鑑」ニューヨーク公演）
7. 歌舞伎（海外作品を日本へ：NINAGAWA歌舞伎シェークスピア「十二夜」）
8. 伝統芸能鑑賞
9. 文楽（世界に紹介された杉本文楽「曾根崎心中」と三谷幸喜による「其成礼心中」）
10. 文楽（人形浄瑠璃における太夫、く語り〉の役割）
11. 能楽（狂言：「附子」大藏流茂山狂言と和泉流野村狂言）
12. 能楽（能：野村萬斎主演映画「陰陽師」と丑の刻詣り）
13. 能楽（能：シテ方・ワキ方・狂言方「鉄輪」）
14. ニッポンの漫画（鳥獣戯画から手塚治虫まで）
15. 世界に羽ばたく日本の文化。まとめと試験。

授業の方法

講義が中心となるが、その他に劇場で実際に古典芸能を鑑賞する。

準備学修

歴史において、それぞれがどの時代にどのように発展したかを確認しておく。
また、図書館にあるDVDを各自鑑賞（予習復習にかかる時間約2時間）し、古典芸能への理解を深めておく。

課題・評価方法

毎回、授業内小レポートを提出する。このレポートは、次の週に教員が評価して返却する。平常点70%、定期試験30%

欠席について

毎回、授業内小レポートを提出するため、欠席の場合はこのレポート点も減点となる。

テキスト

随時紹介する

参考図書

随時紹介する

留意事項

劇場や映画館で、実際に古典芸能に触れる時間を持つ。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ことばと社会			13405	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐伯 瑠璃子	必修	2				

授業の到達目標

ことばと社会の関係を学び、ことばの使われ方やことばを使う人々に対する関心を高める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

社会は多様なものであり、その多様な社会と接触する言語にはいったいどのようなものがあり、その言語社会に暮らす人々は、どのようにしてそれらの言語を使い分けなのか。共通の言語をもたない人同士、異なる地域・社会階級・性・年齢に属する人々は、どのようにコミュニケーションをし、影響し合っているのかを学ぶ。
言語を中心に、身の回りの社会から世界まで、大きな視野を持つことを目指す。

授業計画

1. 社会言語学とは何か
2. 言語の選択(1): 多言語社会、ダイグロッシア
3. 言語の選択(2): ドメイン
4. 言語の選択(3): 二言語話者とコードスイッチング
5. 言語の選択(4): ビジンとクレオール
6. 言語のバリエーション(1): ウィリアム・ラボフの古典的研究
7. 言語のバリエーション(2): 方言
8. 言語のバリエーション(3): 地域方言とはなにか
9. 言語のバリエーション(4): 社会方言とはなにか
10. 振り返り
11. 言語のバリエーション(5): 黒人英語
12. 言語のバリエーション(6): 国家と言語
13. 言語のバリエーション(7): ジェンダーと言語
14. 言語のバリエーション(8): 年齢と言語
15. まとめ

授業の方法

講義を聞き、学生間のコミュニケーションなどを通してワークシートを完成させる。自身の考えや調べたことを発表する。

準備学修

授業前にはテキストの指定された箇所を読み予習を行う。また、授業後には授業内容を復習した上で再度テキストを読み返し理解を深める。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき出席点より4点減点する。遅刻・早退も減点対象。

テキスト

東照二『社会言語学入門（改訂版）一生きた言葉のおもしろさに迫る』（研究社）
適宜ハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

クラスへの積極的参加、予習・復習が求められる。

教員連絡先

saeki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英米文学入門			13413	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
吉野 美智子	必修	2				

授業の到達目標

長い歴史と伝統を持つイギリスと近代になってから成立したアメリカそれぞれの文学の世界に対する理解を深め、人間の生きる世界の多様性を学ぶとともに異文化理解の複合的視点を養うことを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

イギリス文学とアメリカ文学の歴史的、文化的、社会的背景を概観し、それぞれの時代と文化が反映された主要な文学作品を鑑賞する。同時に、詩や演劇、小説、随筆など多様な作品を鑑賞することにより、豊かな人間の想像力や内面の世界に触れ、英米文学作品の持つ面白さを味わう。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.イギリス 古英語・中英語の文学
- 3.ルネサンスの散文と詩と演劇
- 4.シェイクスピア(創作第一期から第二期)
- 5.シェイクスピア(創作第三期)、王政復古後の文学
- 6.小説の誕生
- 7.ロマン主義時代の詩
- 8.ヴィクトリア朝の小説(大都市が舞台)
- 9.ヴィクトリア朝の小説(地方都市が舞台)と詩
- 10.20世紀の詩と小説
- 11.現代イギリス文学
- 12.アメリカ・ロマンティズム時代の文学(独立革命前後)
- 13.アメリカ・ロマンティズム時代の文学(アメリカン・ルネッサンス)
- 14.アメリカ・リアリズム時代の文学(辺境消滅から第一次大戦まで)
- 15.アメリカ・リアリズム時代の文学(第一次大戦から第二次大戦まで)、現代アメリカ文学

授業の方法

講義を中心に、レポート提出や発表を多く取り入れる。

準備学修

初回講義時に配布するスケジュール表・作品リストに沿って作品を

読み、期日までにレポートを二回提出すること。講義の中でフィードバックを行う。課題のレポート提出は期日厳守。遅れた場合には受け付け不可。また教科書は指示された範囲を必ず読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点30%、レポート40%、定期試験30%

欠席について

出席点は平常点の10%とし、欠席は1回につき2点減点する。その他は学内の規定に準じる。

テキスト

川崎寿彦『イギリス文学史入門』研究社、1986。他にハンドアウトを配布する。

参考図書

大橋吉之輔『アメリカ文学史入門』研究社他、毎回のハンドアウトで紹介する。

留意事項

授業が始まるまでに下記の何れかに目を通しておくこと。河野哲也著『レポート・論文の書き方入門 第3版』慶応義塾大学出版会、2010年。小笠原喜康著『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2009年。澤田昭夫著『論文の書き方』講談社学術文庫、1991年。

教員連絡先

yoshino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ことばの意味・文化			13417	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐伯 瑠璃子	必修	2				

授業の到達目標

ことばの意味と文化の関係、様々なかたちで伝えられることばから読み取ることができるその意味や文化を学び、ことばの意味と文化の関係についての関心を高める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

私たち人間はこれまでことばと共に進化し、文化を形成してきた。つまり私たちの生活や文化からことばを切り離すことは出来ない。私たちが普段当たり前に目にし、耳にしていることばの意味を探りそこにある文化について共に考えたい。また、同時に異文化理解へのアプローチの一端として、日英の比較を元に文化の類似点や相違点をことばの側面から探り、他文化への関心を深めたい。

授業計画

- 1.イントロダクション
- 2.意味とは何か
- 3.ことばと文化(1):文化とは何か
- 4.ことばと文化(2):ことばと文化の関係
- 5.文学と文化(1):文学から文化を読み取る
- 6.文学と文化(2):文学から文化を読み取る
- 7.言語運用と文化(1):日英比較による類似と相違
- 8.言語運用と文化(2):日英比較による類似と相違
- 9.振り返り
- 10.言語運用と意味(1):身近にあることばとその意味
- 11.言語運用と意味(2):発話の意味
- 12.言語運用と意味(3):意味と効力
- 13.言語運用と意味(4):会話の含意
- 14.言語運用と意味(5):ポライトネス
- 15.まとめ

授業の方法

基本的に講義形式をとるが、学生主体となるよう演習形式も取り入れる。積極的な授業への参加が求められる。

準備学修

事前学習では、授業の最後に出題される課題について考えてくること。また事後学習では、授業で配布した資料を元に、授業内容を必ず復習すること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき出席点より4点減点する。遅刻・早退も減点対象。

テキスト

使用しない。毎回資料配布を行う。

参考図書

ジェニー・トマス著 浅羽亮一監修『語用論入門 話し手と聞き手の相互交渉が生み出す意味』(研究社出版)

留意事項

クラスへの積極的参加、予習・復習が求められる。

教員連絡先

saeki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
翻訳・通訳論入門			13301	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
和泉 有香	選択	2				

授業の到達目標

英語と日本語という構造の全く異なった2言語の中に共通点を見出し、特に英語知識の深化を図ることにより、文字と音声において2言語を自由に行き来する能力を身につける。また日本と日本文化への理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティーのI（知性）とIn（国際性）の涵養を目指す。

授業の概要

単なる「英文和訳」・「和文英訳」ではない翻訳技術・通訳技術の基本を身につける。

授業計画

- 1.Introduction, Unit 1 家族
- 2.Unit 2 大学生活
- 3.Unit 3 趣味(スポーツ、音楽、読書)
- 4.Unit 4 海外文化
- 5.Unit 5 国際交流(1) 実践演習1
- 6.Unit 6 国際交流(2) 実践演習2
- 7.復習
- 8.Unit 7 日本の文化(和食、温泉、回転寿司)
- 9.Unit 8 数字で説明する私たちの世界
- 10.Unit 9 観光
- 11.Unit 10 社会事情1 少子高齢化
- 12.Unit 11 社会事情2 都市化と過疎化
- 13.Unit 12 コミュニケーション 実践演習3
- 14.総復習、通訳・翻訳発表
- 15.期末考査

授業の方法

大量の演習が中心となる。なお授業計画については柔軟に対応する。

準備学修

事前課題が多く課される。授業中に指示した課題を身につけるため、復習はしっかり行うこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

Developing Interpreting Skills for Communication Revised Edition（南雲堂）、必要に応じてオリジナルプリント

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

英和辞書（紙版、電子辞書いずれでも可）を必ず持参すること。

基幹科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童文学	ET		13501	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
福智 佳代子／箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

初等国語の一貫として、日本及び西洋の児童文学を学ぶことにより、それぞれの文化におけるこども観を理解するとともに、文学作品の読解力を養うことを目的とする。このクラスではKAISEIパーソナリティーのI（知性）を養う。

授業の概要

(日本児童文学)近代の児童文学を取り上げる。日本の児童文学は、初めは大人の側に立ったものであった。そこには、当時の日本文化が反映され、大人が子どもに求めた理想がわかりやすい言葉で表現されている。その近代児童文学が現代児童文学に与えた影響を読み取っていく。（箕野聡子）
(西洋児童文学)児童文学には感性を育む豊かな想像の世界が広がっている。リズムカルな伝承詩・ナーサリーライム(マザーグース)、児童が主人公として体験できる夢と冒険のファンタジーの世界、歴史小説としても価値のある日常・家族を描いた作品などを取り上げる。（福智佳代子）

授業計画

- 1.巖谷小波「日本昔噺其一桃太郎」と芥川龍之介の「桃太郎」(箕野)
- 2.小川未明「赤い蠟燭と人魚」とディズニーの「リトルマーメイド」(箕野)
- 3.浜田広介「泣いた赤鬼」とあまんきみこ「おにたのぼうし」(箕野)
- 4.宮沢賢治「注文の多い料理店」と木村裕一「あらしのよるに」(箕野)
- 5.坪田譲治「河童のはなし」と映画「河童のクウと夏休み」(箕野)
- 6.有島武郎「一房の葡萄」と岡田淳「学校ウサギをつかまえる」(箕野)
- 7.松谷みよ子「貝になった子供の話」と「わたしのいもうと」(箕野)
- 8.岡田淳「竜退治の騎士になる方法」前半のまとめ。(箕野)
- 9.日常に生きている伝承唄・ナーサリー・ライム(マザーグース)の世界(福智)
- 10.エリック・カール「ブラウン・ベア」の絵本の世界(福智)
- 11.マーク・トウェイン「トムソーヤとハックルベリー・フィン」自由と冒険の世界(福智)
- 12.ローラ・インガルス・ワイルダー「大草原の小さな家」少女が見たアメリカ開拓史(福智)
- 13.ジョナサン・スウィフト「ガリバー旅行記」(福智)
- 14.アントワヌ・ド・サン・テグジュベリ「星の王子様」(福智)
- 15.ミヒヤエル・エンデ「はてしない物語」(福智)

授業の方法

児童文学とされている作品の内容、作者と社会の背景などを理解し、その価値などを他者に自ら発信する。

準備学修

作品をあかじめ読んでおくこと。未読の本に関しては、図書館等で借りておくこと。日本の児童文学（箕野担当）のテキストは、プリントを配布する。（予習復習にかかる時間：約2時間）授業で扱う作品以外にも、様々な児童文学に触れる時間を作るため、毎日20分程度の読書の時間を設けておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%
日本児童文学（箕野担当）の授業では、毎回ノートの提出を求めます。ノートは、次の週に教員が評価して返却します。

欠席について

規定に従う。

テキスト

本田英明、桂宥子、小峰和子『英米児童文学』（ミネルヴァ書房）（福智）

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

教員連絡先

mino@kasei.ac.jp(箕野)
fukuchi@kaisei.ac.jp（福智）

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語学概論			13713	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐伯 瑠璃子	選択	2				

授業の到達目標

本講義は英語の成り立ちや英語の仕組みを幅広く理解することを目的とし、英語を科学的にひもといていく。KAISEIパーソナリティーのIn(国際性)を養うと同時に、より理解を深めるためのグループワークを通してK(思いやり)を学ぶ。

授業の概要

英語学の分野で取り扱われている研究領域全体を次の授業計画に従って概観する。英語が人と歩んできた歴史とその今、語や文の構造や仕組み、英語が伝える意味について講義をする。基本的に講義形式をとるが、より深い理解のため、様々な理論を踏まえながらグループワークやディスカッションを通して考える。

授業計画

- 1.オリエンテーション 授業の進め方や履修条件、言語学研究の概説を行います。
- 2.英語史(1) 英語の成り立ちから現在までの歴史を概観、古期英語
- 3.英語史(2) 中期英語・近代英語
- 4.世界の中の英語 世界で使用される英語、現在の国際共通語として使用されている英語
- 5.音韻論(1) 発音する際の身体の器官、英語の音の構造
- 6.音韻論(2) 英語の音の構造
- 7.形態論(1) 分野の概観
- 8.形態論(2) 語の内部構造、語形成のパターン
- 9.統語論(1) 分野の概観
- 10.統語論(2) 文構造とそのパターン
- 11.意味論(1) 分野の概観
- 12.意味論(2) 語の意味と文の意味の関連
- 13.語用論(1) 分野の概観
- 14.語用論(2) 言葉の意味と話し手の意図
- 15.振り返り

授業の方法

講義を聞き、学生間のコミュニケーションなどを通してワークシートを完成させる。自身の考えや調べたことを発表する。

準備学修

授業前にはテキストの指定された箇所を読み予習を行う。また、授業後には授業内容を復習した上で再度テキストを読み返し理解を深める。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき出席点より4点減点する。遅刻・早退も減点対象。

テキスト

稲木昭子、堀田知子、沖田知子『新えいご・エイゴ・英語学』（松柏社）
その他適宜プリントを配布

参考図書

影山太郎、日比谷潤子、ブレント デ・シェン 著『First Steps in English Linguistics 英語言語学の第一歩』（くろしお出版）

留意事項

クラスへの積極的参加、予習・復習が求められる。

教員連絡先

saeki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
インターンシップ（海外）			13967	Ⅱ	集	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐伯 瑠璃子	選択	2				

授業の到達目標

海外で就業体験をすることで、自国の文化のみならず他国の文化をも理解し、異文化との交流を通してグローバルな精神を培い、相手の考えに耳を傾け、自分の意見を発信しながらコミュニケーション能力を高める。実践的な活動を通し、将来の職業選択に備え自らの適性・能力を知る機会とする。このクラスではKAISEIパーソナリティーのA(自律)、In(国際性)とS(奉仕)を養う。

授業の概要

興味のある学生は各担当教員に問い合わせてください。
【アシスタント・ティーチャープログラム】
カリフォルニア州トランス市にある公立小学校で、専任教員のアシスタントとして子どもたちの指導に携わる。
・対象学科・学年：ET学科、PC学科2年次生以上
・期間：春季休暇中10日間以上
・委託機関：ライトハウス
・担当：佐伯
【イベントコース：まつりインハワイ】
「まつりインハワイ」の運営業務、「旅行管理主責任・取得研修」プログラム。
・対象学科・学年：ET学科2年次生以上
・期間：6月中旬の1週間と国内における3回の事前研修
・委託機関：近畿日本ツーリスト
・担当：石原
【観光ビジネスコース】
ハワイ州の観光業、ウェディング業、教育業などで、インターンシップを体験する。
・対象学科・学年：ET学科2年次生以上
・期間：夏季休暇もしくは春季休暇を利用して3～4週間
・委託機関：一般社団法人日本国際人材育成協会、他米国NPO法人
・担当：下田

授業計画

- 1.事前学習
- 2.事前学習
- 3.現地実習
- 4.現地実習

- 5.現地実習
- 6.現地実習
- 7.現地実習
- 8.現地実習
- 9.現地実習
- 10.現地実習
- 11.現地実習
- 12.現地実習
- 13.現地実習
- 14.現地実習
- 15.ポートフォリオの提出(日報、レポートなど)及び発表

授業の方法

各自に設定されたプログラムに従うインターンシップ

準備学修

原則としてTOEIC400点以上を取得し、プログラム参加に必要な最低限の英語力をつけておくこと。

課題・評価方法

課題は委託機関の基本方針に基づいて実施され、詳細は委託機関及び本学による。
各々のインターンシップは以下のプログラムによって構成される。
①2～3回の事前学習（英語研修や実習準備など）
②現地実習
③ポートフォリオの提出（日報、レポートなど）と発表

教員連絡先

saeki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光概論			13426	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	選択	2				

授業の到達目標

新成長戦略の分野として観光は注目されている。観光を単なる物見遊山と見るのではなく、学問として捉えていく。観光学の入門講座である。観光観光概論において履修者の到達目標は、①観光「Tourism」を理解する②観光の歴史を理解する③観光の背景と文化を理解する。このクラスは、KAISEIパーソナリティのIn(国際性)とE(倫理)を養う。

授業の概要

観光とは何か。観光の成り立ちから現代までの観光に関する基礎的な知識の修得。特に我が国の国際交流と地域観光における歴史、文化の変遷を基本として講義は進められる。その上で、観光が果たす役割や、地域への影響を考え、観光の重要性を理解する。観光概論は、観光領域の入門講座である。

授業計画

1. 観光の定義:観光の定義と意味
2. 観光の歴史と国際観光:ヨーロッパにおける旅と観光
3. 国内観光:日本の旅と風俗
4. 観光文化:観光と地域文化
5. 観光経済:観光の経済効果
6. 観光政策:観光行政と政策
7. 観光心理:観光行動
8. 観光と交通:鉄道事業と観光
9. 国際観光:航空運送事業と観光
10. 旅と宿:宿泊業と観光
11. 交流型観光:観光と旅行業役割
12. 滞在型観光:滞在型観光とテーマパーク
13. 地域振興:地域と観光
14. 情報化社会:ICTにおける観光への影響
15. まとめ:観光概論のまとめ

授業の方法

テキストとパワーポイントを併用して講義する。講義だけでなくグループディスカッションも取り入れていく。

準備学修

図書館に定期購読されている「観光経済新聞」や旅関連の雑誌等を読んでおくこと。

課題・評価方法

課題30％ 統括試験70％

欠席について

本学の規定通り。

テキスト

白土健他『観光を学ぶ』八千代出版 2015

参考図書

デービット・アトキンソン『新・観光立国論』東洋経済新報社
岡本伸之『観光学入門』有斐閣
北川宗忠『現代の観光事業』ミネルヴァ書房
イザベラバード『日本奥地紀行』平凡社

留意事項

観光領域の基礎科目である。
(重要)3年次、4年次に観光を専攻する学生(観光領域ゼミ選択希望者)は必ず履修すること。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
国際観光交流論			13427	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
釜須 久夫	選択	2				

授業の到達目標

観光先進国フランスの現状を学び、フランスと比較しながら日本の観光行政、観光資源・宿泊・交通・見本市・国際会議場・エンタテインメントなどの各インフラの問題点を探る。(このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)を養う。)世界観光機関(UNWTO)や国土交通省、観光庁のデーターをもとにフランス、イタリア、スペイン、アメリカなどの先進事例を参照し日本の現状と今後の歩むべき方向を考える。

授業の概要

このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)を養います。視座を観光先進国フランスおよびヨーロッパの観光先進国に定め日本の観光資源・観光行政・観光産業を俯瞰する。世界観光機構(UNWTO)、OECD、日本の観光庁などのデータを基に日本の観光政策、国際観光、Two-way Tourismの意味、Outbound、Inboundの健全なバランス、Tourism Exchangeの実例、国際交流の意義を理解する。

授業計画

1. 国際観光交流論概要、フランスはどのような国か?観光立国とは何か、シラバス概要、教科書、評価方法、講師プロフィール
2. 観光大国を支える組織ー観光行政の組織
3. 観光大国フランスから学ぶこと。観光産業の地位、産業としての国際観光
4. フランスの魅力、日本の魅力、外国人からみた日本の魅力と問題点。ケールジャパン
5. 国際観光客到着数ランキング、外客誘致法、ウエルカムプラン21、新ウエルカムプラン、ビジットジャパンキャンペーン
6. フランス人のバカンス実態、バカンスを支える制度、先進国の余暇事情
7. 日本の余暇事情 休暇に対する日本人の考え方 観光大国の条件
8. ヨーロッパの出国率、日本の出国率、低迷するアウトバウンド
9. 国際観光交流と観光産業、MICE、おもてなし、国際会議場、Two-way tourism 21、
10. フランスの観光関連インフラ(宿泊、交通、見本市・国際会議場)、
11. 国際観光交流とはなにか。姉妹都市、音楽祭、映画祭、フェスティバル、スポーツイベント

12. 観光産業とIT革命、マルチメディアとツーリズム
13. 持続可能な開発、環境とツーリズム、
14. フランスの問題点、まとめ(結論)
15. 試験

授業の方法

教科書を必ず一読しておくこと。煩雑なデーターは無視して最後まで読み通しアウトラインを理解しておくことが重要。国際性を養うため海外からの目線で日本を客観視する習慣を身につける。

準備学修

各種メディアを通じて日ごろから世界や日本の観光業界の動きなど情報収集すると楽しく学ぶことができます。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

止むを得ない欠席以外は認めない。授業中の活動に重点を置いているので、遅刻、欠席は減点の対象になる。

テキスト

観光大国フランスーゆとりとバカンスの仕組みー(現代図書)青木幹生著 教室で直接販売する。割引価格2000円

参考図書

「平成24、25、26年度版観光白書」国土交通省編
「やさしい国際観光」財団法人国際観光サービスセンター、岐部武、原 祥隆著

留意事項

与えられた課題に取り組み結果を教室で発表してもらう。双方向の実りある授業を目指したい。

教員連絡先

sam@alohawalker.net

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
手話コミュニケーションⅠ			13428	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
若生 茂嗣／大川 能子	選択	1				

授業の到達目標

- ・ 外見から分かりにくい聴覚障害者の暮らし、歴史などを学ぶ事によって同じ社会に生きる事を学ぶ。
- ・ 聞こえないという事を理解し、接し方やコミュニケーション方法を習得する。
- ・ 手話で自己紹介が出来るようにする
- ・ 簡単な会話が出来るようにする

このクラスでは、K A I S E I パーソナリティのK（思いやり）を養う。

授業の概要

- ・ 音声言語と視覚言語の違いを理解する。
- ・ 手話を言語とする聴覚障害者の歴史・文化などの問題を学ぶ。
- ・ 聴覚障害者の暮らしを知り、情報バリアフリーについて考える。
- ・ 聴覚障害者の聞こえのしくみと制度を学ぶ。
- ・ 手話で自己紹介する。
- ・ 基本的な会話手話を習得する。
- ・ レクリエーション

授業計画

1. オリエンテーション「聞こえないこととは」「コミュニケーションとは」／手話表現／指文字
2. 実技（伝え合ってみよう）
3. DVD映画「ゆずり葉」鑑賞
4. 実技（名前）
5. 聴覚障害者の課題1
6. 実技（趣味）
7. 実技（仕事）
8. 聴覚障害者の課題2
9. 実技（家族）
10. 実技（地図1）
11. 聴覚障害者の課題3
12. 実技（地図2）
13. 実技（自己紹介しましょう）
14. 実技試験
15. まとめ

授業の方法

DVDを使って進める。
視覚的ゲーム
手話実技・講義

準備学修

単語学習

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校規に従う。

テキスト

未定

参考図書

日本語・手話辞典

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
手話コミュニケーションⅡ			13429	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
若生 茂嗣／大川 能子	選択	1				

授業の到達目標

- ・ 外見から分かりにくい聴覚障害者の暮らし、歴史などを学ぶ事によって同じ社会に生きる事を学ぶ。
- ・ 聞こえないという事を理解し、接し方やコミュニケーション方法を習得する。
- ・ 手話で会話が出来るようにする。
- ・ 講師の手話が理解でき、聴覚障害者と交流が出来るようにする
- ・ 全国手話検定5級取得

このクラスでは、K A I S E I パーソナリティのK（思いやり）を養う。

授業の概要

- ・ 音声言語と視覚言語の違いを理解する。
- ・ 手話を言語とする聴覚障害者の歴史・文化などの問題を学ぶ。
- ・ 聴覚障害者の暮らしを知り、情報バリアフリーについて考える。
- ・ 手話の基本的な会話を習得する。
- ・ 障害者福祉の基礎を学ぶ。
- ・ レクリエーション

授業計画

1. 春学期の復習（夏休みの報告）
2. 実技（1日のこと）
3. 実技（1ヶ月のこと）
4. 聴覚障害者の課題4
5. 実技（1年のこと）
6. 実技（行事のお知らせ）
7. 聴覚障害者の課題5
8. 実技（会話してみましよう1）
9. 実技（会話してみましよう2）
10. 聴覚障害者の課題
11. 実技（会話してみましよう3）
12. 実技（応用編1）
13. 実技（応用編2）
14. 実技試験
15. まとめ

授業の方法

※

準備学修

※

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校規に従う。

テキスト

未定

参考図書

日本語・手話辞典

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
環境ツーリズム論			13430	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	選択	2				

授業の到達目標

近年になり地球規模での温暖化防止策と環境問題が世界で議論されている。この授業では自然環境を守ることの重要性を考える。その中で人間を取り巻く環境とツーリズムの関係を考え、近年世界各地で実践されている「持続可能なツーリズム」について理解することを目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養います。

授業の概要

まず地球温暖化傾向の原因について解説し、人間環境を守ることの重要性を理解する。次にこれまでの世界的な環境保全運動と国連会議で採択された「持続可能な開発」即ちサステイナブル・デベロップメントの基本概念を理解する。これを受けて世界各地で環境保全と観光の両立を図る新たなツーリズム、即ちエコツーリズムに代表される持続可能なツーリズムが実践されていることについて、授業後半で学生が先進的な国別の事例を課題研究しまとめる。

授業計画

1. ガイダンス
2. 地球温暖化と京都議定書・パリ協定
3. 地球環境保全へのながれ、その1
4. 地球環境保全へのながれ、その2
5. アメリカの自然保護と国立公園制度
6. エコツーリズムとエコツアー
7. 日本におけるエコツーリズム その1
8. 日本におけるエコツーリズム その2
9. 環境ツーリズムの先進事例研究 その1
10. 環境ツーリズムの先進事例研究 その2
11. 環境ツーリズムの先進事例研究 その3
12. 環境ツーリズムの先進事例研究 その4
13. イギリスのナショナルトラスト運動
14. イギリスのナショナルトラストを訪ねる
15. 環境ツーリズムのまとめ

授業の方法

講義を中心にしますが、先進事例ではエコツーリズムの観点から学生が国別に課題研究し発表を行う時間を設ける。

準備学修

温暖化防止について「パリ協定」の内容についての新聞報道に注目しておく事。エコツーリズムと自然環境保護に関する参考図書をあらかじめ伝えるので講義までに読んで出席する事。

課題・評価方法

課題レポートの提出を求め（全2回）講義の中でフィードバックを行う。評価は平常点50%、定期試験50%

欠席について

特別の理由のない欠席は1回につき5点減点する。その他は学則に従う。

テキスト

特に指定しない。随時プリントを配布する。講義内容によりDVDなどで映像でも紹介する。

参考図書

『観光学入門』 岡本伸之著 有斐閣アルマ
『ナショナル・トラスト（新版）』 木原啓吉著 三省堂
『エコツーリズムってなに？』 小林寛子著 河出書房新社
『アメリカの環境保護運動』 岡島成之著 岩波新書

留意事項

普段から地球環境問題に意識を持ちエコロジーについて考える習慣を持つ事。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光事業総論			13431	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	選択	2				

授業の到達目標

観光業は、観光政策を担う行政と観光産業に携わる業界とで構成される。観光事業の全体を理解し、観光政策と産業との関わりを把握する。観光政策の歴史や観光立国への取り組みを理解する。また、産業としての観光事業を各業界別に理解する。観光関連産業に興味を持つ学生にとっては履修が不可欠である。このクラスは、KAISEIパーソナリティのS(奉仕)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

観光概論に続く講義である。観光とは何か。その成り立ちと観光について具体的に解説する。特に観光行政における政策、観光産業の2本分野を中心に学ぶ。具体的には、国家戦略としての観光事業を法整備の観点から理解し、観光を支える宿泊業、旅行業、航空業、鉄道・運輸業等の役割を学ぶ。

授業計画

1. ガイダンス
2. 観光と観光事業
3. 観光立国と観光政策
4. 国内観光振興事業
5. 国際観光事業
6. イベントコンベンション事業
7. イベントコンベンション事業
8. テマパーク事業
9. 旅行事業
10. ホテル・旅館事業
11. 航空輸送事業
12. 鉄道事業
13. 地域観光:地域と観光
14. 地域観光:地域と観光
15. まとめ

授業の方法

授業はパワーポイントを用いて進められる。また、クラスをグループに分け課題に取り組み発表し、学生によるディスカッションを行う。

準備学修

講義毎に図書館で購読されている旅行関連の雑誌等を紹介します。受講生は事前学習として読むこと。

課題・評価方法

課題50%、統括試験50%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

北川宗忠『現代の観光事業』ミネルヴァ書房

参考図書

デービット・アトキンソン『新・観光立国論』東洋経済新報社
岡本伸之『観光学入門』有斐閣
イザベラバード『日本奥地紀行』平凡社

留意事項

観光概論を発展した内容である。観光領域を学ぶ学生（観光領域ゼミ）は必ず履修すること。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光と世界遺産			13432	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	選択	2				

授業の到達目標

世界遺産は毎年20～30件が新規登録され、その国の観光資源となっている。この授業では国際観光の中心的存在である世界遺産を保全と観光との視点から日本と世界の主要な世界遺産を事例に取り上げる。ユネスコで採択される世界遺産の理念を理解することを目標とする。また学内で実施する世界遺産検定（2級・3級）合格も目標の一つにしている。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

現在、世界には1050以上の世界遺産が登録されている。日本ではこの5年連続で「富士山」、「富岡製糸場と絹産業遺産群」、「明治日本の産業革命遺産」、「国立西洋美術館」、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」が世界文化遺産に登録され、現在登録数は21になった。授業では世界遺産検定の必須項目であるユネスコ世界遺産の意義から登録までの過程、日本の世界遺産、代表的な世界遺産の種類と国別の分布の概要を把握し解説する。その上で特に人気のある世界遺産については観光資源としてツーリズムの視点から考察する。また国別に各自が世界遺産について調べ事例発表する時間を設ける。

授業計画

- 1. ガイダンス・観光資源として人気の世界遺産
- 2. 世界遺産条約と世界遺産登録の仕組み
- 3. 世界遺産の基本知識・種類・国別分布
- 4. 日本の世界遺産（文化遺産）その1
- 5. 日本の世界遺産（文化遺産）その2
- 6. 日本の世界遺産（文化遺産）その3
- 7. 日本の世界遺産（自然遺産）
- 8. 世界の危機遺産と課題・負の遺産
- 9. 世界の産業遺産
- 10. 世界遺産検定の模試と対策
- 11. 海外の顕著な世界遺産を調べる その1
- 12. 海外の顕著な世界遺産を調べる その2
- 13. 海外の顕著な世界遺産の発表
- 14. 巡礼と世界遺産
- 15. 観光と世界遺産のまとめ

授業の方法

世界遺産検定合格を目指し必要な世界遺産の知識を解説する。また後半では国別に顕著な世界遺産を各自が選び、事例研究として発表する機会を取り入れる。

準備学修

世界遺産検定のテキストを毎回勉強して出席する。また世界遺産のニュース、新聞記事などには日頃から注目し、観光との関わりを常に考えておく。

課題・評価方法

各自の世界遺産の事例発表のあと、教員によるフィードバックを行う。評価の配分は平常点70%、定期試験30%

欠席について

特別の理由のない欠席は1回につき5点減点する。その他は学則に準じる。

テキスト

『世界遺産検定公式テキスト』2級または3級、 NPO法人世界遺産アカデミー（最新版）

参考図書

『ユネスコ世界遺産年報（各年次）』、平凡社
『死ぬまでに絶対行きたい世界遺産300』 小林克己 PHP

留意事項

新規登録物件、危機遺産など日頃から世界遺産に関するニュースには特に留意する事。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光ビジネス実務論			13434	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	選択	2				

授業の到達目標

この授業では観光ビジネスの中核をなす3つの業界である旅行業界、ホテル業界、航空業界での実務に必要な基本用語、業界の常識などを解説する。2020年の東京オリンピックを控え観光立国を目指すこれからの日本の観光業界で活躍するための観光ビジネスの基礎を理解することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

観光ビジネスの中核の3つの観光関連業界を順に解説する。まず日本の観光立国への現状を理解する。次いで旅行業界について海外旅行、訪日観光などを例に取り上げ、観光業界全体を理解する。次に宿泊業界・航空業界のそれぞれの仕組み、基本業界用語、業務の流れ、業界の常識などを順に学習する。それぞれの業界の実務内容によりテキストやDVDなどの映像も使用し理解を深め、観光ビジネスの全体像と実務についての仕事の流れと観光業界の基礎知識を学ぶ。

授業計画

- 1. ガイダンス/観光立国と観光の力
- 2. 旅行業の実務Ⅰ 旅行会社の種類と業務
- 3. 旅行業の実務Ⅱ 旅行商品と旅行業界の基本用語
- 4. 旅行業の実務Ⅲ 海外旅行市場の現況と流通・販売・実務
- 5. 旅行業の実務Ⅳ 国内旅行・訪日外国人旅行の現況と実務
- 6. ホテル業の実務Ⅰ ホテル業界の現況 国内・外資系の系列
- 7. ホテル業の実務Ⅱ フロント実務 チェックイン
- 8. ホテル業の実務Ⅲ フロント実務・チェックアウト
- 9. ホテル業の実務Ⅳ ホテル業界用語
- 10. ホテル業の実務Ⅴ サービス・接遇の実務
- 11. 航空業の実務Ⅰ 航空業界の近年の動向
- 12. 航空業の実務Ⅱ 航空業界の仕事と基礎知識
- 13. 航空業の実務Ⅲ 空港旅客業務の実務と業界用語その1
- 14. 航空業の実務Ⅳ 空港旅客業務の実務と業界用語その2
- 15. 航空業の実務Ⅴ ホスピタリティ産業としての基本的な心構え・まとめ

授業の方法

観光ビジネスの3つの中核となる業界の実務をそれぞれ解説する。

学生はそれぞれの課題に対してグループで討論し、発表する時間を取り入れる。

準備学修

旅行業界・ホテル業界・航空業界の最新ニュースや新聞記事に日頃から注意し関心をもつ事。授業予定範囲を予め伝えるので授業前に指定テキスト・参考図書を読み内容を把握して出席する事。

課題・評価方法

3つの業界でそれぞれ課題についてグループ発表を行い、教員によるフィードバックを行う。またそれぞれの業界でテストを行う。平常点50%、定期試験50% の配分で評価する。

欠席について

理由のない欠席は1回に付き5点減点する。また1つの業界での授業において3回の欠席は履修単位を与えない。その他、学則に準じる。

テキスト

旅行業界は適宜プリントを配布する。
ホテル業界は『ホテルの基本サービス・フロント編』（日本ホテル協会発行）をテキストとする。
航空業界は『エアポートビジネス入門（第2版）』（株）ジェイティービー能力開発

参考図書

『観光概論』・『旅行業概説』（いずれもジェイティービー能力開発）、『よくわかる航空業界』（日本実業出版社）

留意事項

観光ビジネス実務士の認定資格を取得するための必修科目の一つ。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
企業研究			13440	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理／一尾 敏正	選択	2				

授業の到達目標

戦後、日本は高度成長を続けた。社会はますますグローバル化を加速している。企業が生まれ、成長し、発展していくがその企業は何のために存在し、誰のために活動するのか。女性が活躍できる企業とはどこなのか。今、企業が問われる社会的責任や社会貢献など営利目的以外にも焦点を当て企業を理解し、就職を念頭に社会を理解する。このクラスはKAISEIパーソナリティの(A)自律と(In)国際性を養う。

授業の概要

企業をより深く知ることから始まる。各業界において進化している企業とは何か。企業が生き残るために何が必要なのか。成長分野であるのか。差別化はできているのかなどをポイントに企業分析をする。対象は国内企業である。講義の主な業種はホスピタリティ産業で同業種や他産業の比較の中で企業の姿を明らかにしていく。企業だけでなく業界研究も講義の内容に含まれる。

授業計画

1. ガイダンス
2. 事例研究:宿泊業・ホスピタリティ産業などを中心に企業研究
3. 事例研究と発表
4. 事例研究と発表
5. 事例研究と発表
6. 事例研究と発表
7. 事例研究と発表
8. まとめ
9. 事例研究 航空業・旅行業・金融・製造業界などを中心に企業研究
10. 企業研究シートと発表
11. 企業研究シートと発表
12. 企業研究シートと発表
13. 企業研究シートと発表
14. 企業研究シートと発表
15. まとめ

授業の方法

企業研究は2名の教員によって行われる。講義と学生の発表とで構成される。自ら調べ、まとめ、発表する。発表はパワーポイントを使

い行う。

準備学修

授業前の1週間の日経新聞の企業活動をよく読み、社会に関心を持つこと。
授業で注目した企業を紹介する。

課題・評価方法

学生が注目した企業について教員がコメント・フィードバックを行う。
評価基準は平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は平常点に反映する。各教員の3分の1を超えて欠席した場合に評価不能となる。

テキスト

日経業界地図 2018 (日本経済新聞出版社)

参考図書

会社四季報

留意事項

適宜アドバイスする。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp(一尾 敏正) または arimura@kaisei.ac.jp(有村 理)

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海外ツーリズム研修			13445	Ⅱ	集	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理／一尾 敏正	選択	2				

授業の到達目標

- 海外ツーリズム研修では以下の4点を現地体験することを目標とする。
1. 訪問地での観光資源（特に世界遺産）と宿泊施設の視察、環境保全型のツーリズムを体験する。
 2. JTB支店での海外支店業務を現地支店訪問で把握し、現地ツーリズムの概要を学ぶ。
 3. グループワーク課題を実践する。
 4. 実際の海外旅行行程で添乗員業務、グループの行程管理などの実務を体験する。
- このクラスではKAISEI パーソナリティのA（自律）、S（奉仕）、In（国際性）を養う。

授業の概要

春休みの1週間を利用して観光先進国を訪問し、現地のツーリズムについて実体験する。合わせてそれぞれの現地文化を学び異文化理解を促進することを目的とする。現地ではJTB支店の協力を得ながらホテル視察、インバウンド観光の観光資源の体験、現地企業の実情視察などを行う。また研修参加者はグループワークを実践し役割分担によって空港視察、添乗員業務、行程管理、現地観光資源などを現地体験する。

授業計画

1. オリエンテーション・事前準備の確認
2. 事前研修・訪問地の世界遺産などの地域観光資源研究
3. 事前研修・JTB支店の海外組織と現地支店の役割
4. 事前研修・グループワークの課題準備 その1
5. 事前研修・グループワークの課題準備 その2
6. 現地研修1日目:関空出発ー目的地
7. 現地研修2日目:ホテル研修・JTB支店訪問他
8. 現地研修3日目:研修地でのエコツーリズム・世界遺産訪問・異文化体験他
9. 現地研修4日目:研修地の移動
10. 現地研修5日目:ホテル研修・JTB支店訪問他
11. 現地研修6日目:日系企業訪問
12. 現地研修7日目:帰路の空港見学・帰国
13. 現地でのグループワークの事後発表の準備
14. 現地でのグループワークの事後発表
15. 全体の研修での課題点の洗い出し・まとめ

授業の方法

研修前に訪問地の歴史・自然・文化・観光資源などを事前研究する。また研修中は行程管理・空港見学・機内サービスの実地体験を含めグループワーク課題を実践する。

準備学修

事前研修で訪問地の歴史・自然・文化・観光資源を地域研究として政府・州観光局の情報と観光資料、インターネットを利用し調査し準備する。

課題・評価方法

グループでの行動・責任感・事前事後レポート内容などを総合して評価する。

欠席について

参加登録者は研修旅行当日の病気などによる正当な事由がない限り不参加はできない。事前研修は参加登録者全員が受講の事。

テキスト

基本は配布資料を参考にする。その他は政府・州観光局ホームページから関連事項をインターネットで調べる。

参考図書

事前研修時に適宜指示する。

留意事項

研修中は参加者全員が各自の役割分担に責任を持ちグループ行動が円滑に遂行されるように協力する態度が求められる。旅費の高騰、安全面など諸般の事情で研修先が変更になる事がある。また研修実施には最低催行人員の規定が適用される。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp または ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ツーリズム実務特論			13450	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	選択	1				

授業の到達目標

2003年に始まったビジットジャパンキャンペーンにより、訪日外国人旅行者は急増している。目標は2020年に4000万人である。国家を挙げての取り組みである。このツーリズムの学びには二つの領域がある。一つは行政分野であり、もう一つが事業分野である。本講義は、事業分野に焦点を当てる。座学での理論の枠を超え、事業の現場の学びである。ツーリズムの各事業分野における問題点を理解し、新たな解決策を考えることができることを到達目標とする。このクラスは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

本講義は、ツーリズム分野の第一線で活躍するビジネスパーソンにより構成される。各事業分野の市場環境やビジネスの仕組み、問題点、さらにビジネスに必要なスキルなどを現職のビジネスパーソンが生の声として講義する。座学では得られない、観光領域の学びをより深める。

授業計画

1. 導入
2. 講義 1
3. 講義 2
4. 講義 3
5. 講義 4
6. 講義 5
7. 講義 6
8. まとめ

授業の方法

各回、ツーリズム分野の第一線で活躍するビジネスパーソンが特別講義を行う。

準備学習

「観光経済新聞」（図書館にあり）や旅関連雑誌、ニュースなどで、ツーリズムに関連する最近の動向を確認する。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

全7.5回の講義のため、2.5回を超えた欠席は時数不足となる。

テキスト

なし

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業回により講義の時間が異なる可能性があるため、必ず時間の確認をすること。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光文化地理論			13838	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
釜須 久夫	選択	2				

授業の到達目標

海外旅行地理の基礎と海外の国々の観光と文化に関する知識を学び、このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とIn（国際性）を養う。

授業の概要

海外の国々を、アジア、ヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニア、太平洋の島、中東、アフリカ等に分けて、世界の国、都市、地域、島、観光ポイントなどの必修知識を学習する。また同時に地図、写真、動画などのビジュアル資料から現地情報を学習する。

授業計画

1. 「世界の地勢」1.大陸と太平洋 2.各地域の地勢
2. 「アジア」韓国 台湾 中国
3. 「アジア」香港 マカオ フィリピン
4. 「アジア」ベトナム カンボジア マレーシア
5. 「アジア」シンガポール インドネシア タイ インド ネパール
6. 「ヨーロッパ」イギリス オランダ ベルギー
7. 「ヨーロッパ」北欧4国 ドイツ
8. 「ヨーロッパ」スイス オーストリア フランス
9. 「ヨーロッパ」イタリア スペイン ポルトガル ギリシャ
10. 「ヨーロッパ」チェコ ハンガリー ポーランド ロシア連邦
11. 「南北アメリカ」アメリカ ハワイ
12. 「南北アメリカ」カナダ メキシコ キューバ パハマ ペルー ブラジル アルゼンチン
13. 「オセアニア 太平洋の島」オーストラリア ニュージーランド グアム サイパン 南太平洋の島々
14. 「中東 アフリカ」トルコ イスラエル エジプト ケニア タンザニア
15. 「総括」と試験

授業の方法

学習内容とリンクして、関連サイト（地図、写真、動画）などのビジュアル資料を通して現地情報を学習する。

準備学習

事前に指示された個所を予習してくること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は原則として認めない。欠席の場合は原点の対象とする。

テキスト

『すぐに役立つ海外旅行地理ベーシック400』JTB総合研究所

留意事項

必要に応じて、授業中に指示を行う。

教員連絡先

sam@alohawalker.net

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Business English			13935	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
釜須 久夫	選択	2				

授業の到達目標

このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を学ぶ。CDを聴きネイティブスピーカーの英語に慣れるようにする。ビジネスで実際に使われる慣用的な表現を学ぶ。TOEIC受検対策を兼ねている。また就活の社会常識として、実社会の現状について具体的に解説する。

授業の概要

仕事の仕組みや、標準的なビジネス・コミュニケーションを学ぶ。Fax、e-mail、ビジネスレター、封筒書き、ファイリング、などのオフィスワークの常識的な事務についても学ぶ。

授業計画

1. 講義概要、教科書、評価方法、シラバス（講義計画）
2. Unit 1. Job Hunting(1), Writing a resume
3. Unit 2. Job Hunting(2), Writing an application letter
4. Unit 3. Job Hunting(3), Arranging an interview
5. Unit 4. Job Hunting(4), A job interview
6. Unit 5. Job offer
7. Unit 6. The first day at work
8. Unit 7. Preparing to work
9. Unit 8. Telephoning (1) Answering
10. Unit 9. Telephoning (2) Taking a message
11. Unit 10. Telephoning (3) Making an appointment
12. Unit 11. Visiting a client
13. Unit 12. Receiving a visitor(1) Preparation
14. Unit 13. Receiving a visitor(2) Meeting at Narita Airport
15. 試験

授業の方法

シラバス通りに進むので予習、復習を励行すること。

準備学修

予習、復習の励行

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

教室での学習に50%の評価をしているので欠席は減点の対象になる。

テキスト

「Business Talkやさしいオフィス英語」城由紀子、島田拓司、Edward J. Schaefer著、成美社

参考図書

「国際秘書英語」亀山和夫、成美社

「国際ビジネスコミュニケーション入門」亀山和夫、八尾 晃共著、成美堂

留意事項

毎回予習、復習を励行すること。単語テストを随時行うので普段から正確に単語を書けるようにしておくこと。

教員連絡先

sam@alohawalker.net

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
English for Tourism			13937	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
釜須 久夫	選択	2				

授業の到達目標

このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）について学ぶ。観光産業に必要な基本的な英語を勉強する。全国語学ビジネス観光教育協会が実施している民間資格の観光英語検定試験（Tourism English Proficiency Test）の受検指導を行う。

授業の概要

シラバス通りに授業を進めるが、教科書以外の関連英語についても説明するので遅刻、欠席しないこと。

授業計画

1. 講義概要、シラバス、教科書、参考書、授業の進め方、予習・復習、観光英検、授業の規律
2. Tokyo Station
3. Exploring Metropolitan Tokyo
4. Restaurant at Ginza
5. Kakunodate: A Town of Samurai and Cherry Blossoms
6. Old Private Houses in Takayama
7. Hatcho Miso in Okazaki
8. Toyota Automobile Museum
9. Cormorant Fishing
10. Uji Byodoin
11. Kyoto Studio Park
12. International Phone Calls
13. Bakery Shops in Kobe
14. White Heron Castle
15. 試験

授業の方法

CDを活用し授業を進める。遅刻、欠席は減点になるばかりか、試験にも不利になる。

予習・復習をして成果を高めること。

準備学修

CDを聞き予習を行うこと。また分からないことは必ず質問して理解をすること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

平常の授業評価が高いので欠席は減点の対象になる。試験で100点満点とっても評価は50%となる。

テキスト

Discovering Japan through Tourism English「観光英語で日本発見！」英宝社

河原俊昭、榎木蘭鉄也、岡戸浩子、小宮富子、吉川 寛、石川有香、徳地慎二、ジェイムズ・ドレイトン

参考図書

観光英語検定試験全国語学ビジネス観光教育協会が実施している民間資格の観光英語検定試験（Tourism English Proficiency Test）2級、3級の問題集

留意事項

毎回予習、復習の励行。遅刻、欠席無いに努力すること。

教員連絡先

sam@alohawalker.net

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ハワイ文化研究			13965	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
釜須 久夫	選択	2				

授業の到達目標

ハワイの文化を研究する上で、文化を育んだハワイの歴史とその背景を学び、文化が伝わるプロセスと様々なハワイ特有の文化を学び理解をより深める。またハワイの精神である「アロハスピリット」を学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

授業のテーマに関連した講義の他に、ビジュアルやビデオなどを用いてハワイ文化を視覚的に学習する。また小テストや問題集などを取り入れて、ポイントとなる箇所を復習する。

授業計画

1.ハワイの歴史(1) ポリネシア文化圏とハワイ諸島の誕生

2.ハワイの歴史(2) ハワイ王国の歴史

3.ハワイの歴史(3) ハワイの神話とパワースポットの地を巡る

4.ハワイの歴史(4) ハワイのフラの歴史 古典フラと現代フラ

5.ハワイの歴史(5) 日本人移民の歴史

6.ハワイの言語(1) ハワイ語の特徴と文法(1)

7.ハワイの言語(2) ハワイ語の特徴と文法(2)

8.ハワイの言語(3) ハワイ語の特徴と文法(3)

9.ハワイの言語(4) ハワイ語の特徴と文法(4)

10.ハワイの文化(1) ハワイの伝統文化

11.ハワイの文化(2) ハワイの食文化と暮らしの習慣

12.ハワイの文化(3) ハワイのミュージックと楽器

13.ハワイの文化(4) ハワイのお祭りといイベント

14.ハワイの文化(5) ハワイの観光の歴史とアロハスピリット

15.ハワイの文化(6) ハワイの伝統文化継承と自然保護 & 試験

授業の方法

講義とビジュアル、ビデオなどのプレゼンテーション、小テストを中心とする。

準備学修

事前に指示されたテーマについて、予習してくること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は原則として認めない。欠席の場合は原点の対象とする。

テキスト

なし

留意事項

必要に応じて、授業中に指示を行う。

教員連絡先

sam@alohawalker.net

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication 500	秋/a/b		13939	Ⅱ／Ⅲ	秋／春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Andy RUSHTON／Tina D. MATHERS	選択	2				

授業の到達目標

This class will strengthen the students' sense of internationality and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. The students will participate in group discussions and interviews, identify main ideas and supporting details from listening materials, make inferences and give advice, ask for and give reasons and supporting opinions, and identify facts and opinions.

授業計画

1.Introduction

2.Unit 1 Leisure and Sport

3.Unit 1 Leisure and Sport

4.Unit 2 Firsts and Lasts

5.Unit 2 Firsts and Lasts

6.Review

7.Presentations

8.Mid Term

9.Unit 3 Work and Rest

10.Unit 3 Work and Rest

11.Unit 4 Special Days

12.Unit 4 Special Days

13.Review

14.Presentations

15.Presentations

授業の方法

Students will work together in pairs and groups.

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 20%
Tests and Quizzes 10%
Presentations 40%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Longman *Cutting Edge Pre-Intermediate*, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation in class is essential

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading 501	秋／春		13941	Ⅱ／Ⅲ	秋／春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Andy RUSHTON／惣谷 美智子	選択	2				

授業の到達目標

Locate and understand main ideas and details, show increasing ability to understand readings using skills such as skimming, scanning, and pronoun reference. Write main idea sentences. Express opinions about readings. Develop intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, taking notes, predicting, and cause and effect.

授業計画

- 1.Introduction
- 2.Chapter 1 Answering 6 Common Interview Questions
- 3.Chapter 1 Answering 6 Common Interview Questions
- 4.Chapter 2 Young Women Changing the World
- 5.Chapter 2 Young Women Changing the World
- 6.Chapter 3 Student Learning Teams
- 7.Chapter 3 Student Learning Teams
- 8.Mid Term
- 9.Chapter 4 Learning to Speak
- 10.Chapter 4 Learning to Speak
- 11.Chapter 5 The Man in the Moon Has Company
- 12.Chapter 5 The Man in the Moon Has Company
- 13.Chapter 6 Culture Shock
- 14.Chapter 6 Culture Shock
- 15.Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford *Select Readings Intermediate*, 2nd edition. Linda Lee & Erik Gundersen
Oxford Bookworms *A Tale of Two Cities* by Charles Dickens retold by Ralph Mowat

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Writing 502	秋／春		13943	Ⅱ／Ⅲ	秋／春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Andy RUSHTON／Tina D. MATHERS	選択	2				

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, understand and utilize the writing process, explain a process, and write about spatial order, time order, and order of importance

授業計画

- 1.Introduction
- 2.Unit 4 Descriptive Paragraph
- 3.Unit 4 Descriptive Paragraph
- 4.Unit 5 Comparison and Contrast Paragraph
- 5.Unit 5 Comparison and Contrast Paragraph
- 6.Unit 6 Process Paragraph
- 7.Unit 6 Process Paragraph
- 8.Mid Term
- 9.Unit 7 Narrative Paragraph
- 10.Unit 7 Narrative Paragraph
- 11.Unit 8 Summary Paragraph
- 12.Unit 8 Summary Paragraph
- 13.Unit 9 Analysis Paragraph
- 14.Unit 9 Analysis Paragraph
- 15.Review

授業の方法

Students will work in groups and individually

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Report 20%
Tests and Quizzes 10%
Class Participation 20%
Homework 50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Cengage *Learning Basic Steps to Academic Writing--From Paragraph to Essay*, Matthew Taylor & David Kluge

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active Participation is essential

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Pronunciation 504			13945	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石原 敬子	選択	2				

授業の到達目標

英語の音声的特徴、特に聞き手が理解する上で重要な英語特有のリズム（語強勢、文強勢、文のフォーカス）及び日本語に無い音素の特徴について理解し、中学校及び高等学校の生徒が理解しやすい英語の発音を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

英語の音声に関する理論的学習と実践的訓練を行う。「伝わる」英語の発話及び聴解力の向上を目指し、聞き手が理解しやすい発話の鍵となるポイントや、英語学習者が苦勞しがちな英語の音声的特徴を学ぶ。特に「内容を伝える」ために重要な役割を持つリズムを体得する訓練を重点的に行う。ペア・グループワークなどの練習、LL教室の個人ブースでの練習を通して、一人ひとりの苦手な部分を確認しながら、場面・状況等に応じて分かりやすい英語で発話できるようにする。

授業計画

1. 導入（英語学習における発音学習の位置づけ、事前診断テスト）
2. 事前診断テスト解答解説と練習
3. 音節（音節とリズム、カタカナ語と英語の音節数の違い）
4. 音節（語の音節数、現在形と過去形の音節数の違い）
5. 母音（アルファベット読みとフォニックス読み）
6. 英語特有の子音（アルファベット読みとフォニックス読み）
7. 語強勢（強勢と母音の長さ）
8. 語強勢（強勢と母音の音色、押韻）
9. 語強勢（語強勢の法則）
10. 文強勢（内容語と機能語、品詞）
11. 文強勢（文の内容に即した強勢）
12. 文強勢（強勢の付く機能語）
13. その他の子音（日本語との違い）
14. 文章の音読
15. 練習、復習、まとめ

授業の方法

実践的な発音・聴き取り訓練と講義を合わせて行う

準備学修

各回の復習小テストのための準備、各回に出される音読素材の練習

課題・評価方法

平常点50％、定期試験50％

課題に対するフィードバック：小テストは翌週に返却、音読素材については講義内で口頭又は翌週以降に紙面にてフィードバックをする

欠席について

1）普段の練習の積み重ねを重視するため、欠席1回につき、出席点より4点減点をする（遅刻も適宜減点する）。2）欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3）欠席日の提出物や小テストは、翌週授業日までの間に限り受け取り・対応する。

テキスト

Judy B. Gilbert, *Clear Speech: Basic Pronunciation and Listening Comprehension*, 4th ed. CUP.

留意事項

クラスへの積極的参加はもちろん、復習が求められる。また発音の習得は、各自の耳と口を駆使しなければ不可能であるため、授業をただ聞くだけでなく、普段から人の発音を意識して聴き、大きな声で積極的に発話をするよう心がけてほしい。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication 600	a/b		13947	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Tina D. MATHERS／Andy RUSHTON	選択	2				

授業の到達目標

This class will strengthen the students' sense of internationality and autonomy. Students will lead a group discussion, agree and disagree with opinions, ask for and give clarification, use a variety of intonation and word stress for key word.

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. The students will participate in group discussions and interviews, identify main ideas and supporting details from listening materials, make inferences and give advice, ask for and give reasons and supporting opinions, and identify facts and opinions.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 8 Places to Live
3. Unit 8 Places to Live
4. Unit 9 Old and New
5. Unit 9 Old and New
6. Review
7. Presentations
8. Mid Term
9. Unit 10 Take Care
10. Unit 10 Take Care
11. Unit 11 The Best Things
12. Unit 11 The Best Things
13. Review
14. Presentations
15. Presentations

授業の方法

Students will work together in pairs and groups.

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Exam 20%
Tests and Quizzes 10%
Presentations 40%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Longman *Cutting Edge Pre-Intermediate*, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation in class is essential

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading 601	a/b		13949	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Andy RUSHTON／和泉 有香	選択	2				

授業の到達目標

Locate and understand main ideas and details, show increasing ability to understand readings using skills such as skimming, scanning, and pronoun reference. Write main idea sentences. Express opinions about readings. Develop intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, taking notes, predicting, and cause and effect.

授業計画

1. Introduction
2. Chapter 8 A Young Blind Whiz
3. Chapter 8 A Young Blind Whiz
4. Chapter 9 How to Make a Speech
5. Chapter 9 How to Make a Speech
6. Chapter 10 Conversational Ball Games
7. Chapter 10 Conversational Ball Games
8. Mid Term
9. Chapter 11 Letters of Application
10. Chapter 11 Letters of Application
11. Chapter 12 Out to Lunch
12. Chapter 12 Out to Lunch
13. Chapter 13 Public Attitudes Toward Science
14. Chapter 13 Public Attitudes Toward Science
15. Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbooks: preview and review

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford *Select Readings Intermediate*, 2nd edition. Linda Lee & Erik Gundersen
Oxford Bookworms *Treasure Island* by Louis Stevenson retold by John Escott

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Writing 602			13951	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Andy RUSHTON	選択	2				

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, understand and utilize the writing process, explain a process, and write about spatial order, time order, and order of importance.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 10 Cause and Effect Paragraph
3. Unit 10 Cause and Effect Paragraph
4. Unit 11 Persuasive Paragraph
5. Unit 11 Persuasive Paragraph
6. Unit 12 Problem-Solution Paragraph
7. Unit 12 Problem-Solution Paragraph
8. Mid Term
9. Unit 13 About the Essay
10. Unit 13 About the Essay
11. Unit 14 Changing a Paragraph into an Essay
12. Unit 14 Changing a Paragraph into an Essay
13. Unit 15 Writing an Essay from the Beginning
14. Unit 15 Writing an Essay from the Beginning
15. Review

授業の方法

Students will work in groups and individually

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Report 20%
Tests and Quizzes 10%
Class Participation 20%
Homework 50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Cengage *Learning Basic Steps to Academic Writing--From Paragraph to Essay*, Matthew Taylor & David Kluge

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active Participation is essential

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Pronunciation 604			13953	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石原 敬子	選択	2				

授業の到達目標

英語の音声的特徴、特に日本語と異なる英語の音素の特徴について理解し、自然な発音ができるようになることを目標とする。また聞き手が理解する上で重要な英語特有のリズムを習得する。このクラスではKAISEIバーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

英語の音声に関する理論的学習と実践的訓練を行う。「伝わる」英語の発話及び聴解力の向上を目指し、英語音声の基礎となる母音と子音の特徴・調音法を体系的に学ぶ。各授業では、ターゲットとなる個々の音素を捉えることから始まり、ペア・グループワークなどの練習、L.L教室の個人ブースでの練習を通して、一人ひとりの苦手な部分を確認しながら、場面・状況等に応じて分かりやすい英語で発話できるようにする。

授業計画

- 1. 導入(事前診断テスト)
- 2. 発声・調音器官・アルファベット
- 3. 子音・母音とは
- 4. 英語の母音 (Central Vowels)
- 5. 英語の母音 (Front Vowels)
- 6. 英語の母音 (Back Vowels)
- 7. 復習
- 8. 英語の子音 (Plosives)
- 9. 英語の子音 (Fricatives)
- 10. 英語の子音 (Affricates)
- 11. 英語の子音 (Nasals)
- 12. 英語の子音 (Approximants)
- 13. 英語の子音 (Semi-Vowels)
- 14. 子音・母音の特徴
- 15. まとめ

授業の方法

実践的な発音・聴き取り訓練と講義を合わせて行う

準備学修

各回の復習小テストのための準備、各回に出される音読素材の練習

課題・評価方法

平常点50％、定期試験50％

課題に対するフィードバック：小テストは翌週に返却、音読素材については講義内で口頭又は翌週以降に紙面にてフィードバックをする

欠席について

1) 普段の練習の積み重ねを重視するため、欠席1回につき、出席点より4点減点をする（遅刻も適宜減点する）。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3) 欠席日の提出物や小テストは、翌週授業日までの間に限り受け取り・対応する。

テキスト

逐次プリントを配布する

留意事項

クラスへの積極的参加はもちろん、復習が求められる。また発音の習得は、各自の耳と口を駆使しなければ不可能であるため、授業をただ聞くだけでなく、普段から人の発音を意識して聴き、大きな声で積極的に発話をするよう心がけてほしい。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Academic Reading/Writing 3			13338	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Andy RUSHTON	選択	2				

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of internationality.

授業の概要

The goal of the course is to continue teaching reading skills and general English usage by reading an adapted version of the book ‘Rabbit-proof Fence’. By listening to the accompanying CD while reading the book, students will be able to improve reading and listening skills at the same time.

授業計画

- 1. Introduction
- 2. Discuss Chapters 1 & 2
- 3. Discuss Chapters 3 & 4
- 4. Discuss Chapters 5 & 6
- 5. Discuss Chapters 7 & 8
- 6. Discuss Chapters 9 & 10
- 7. Review
- 8. Midterm Exam
- 9. Discuss Chapters 11 & 12
- 10. Discuss Chapters 13 & 14
- 11. Discuss Chapters 15 & 16
- 12. Discuss Chapters 17 & 18
- 13. Discuss Chapters 19 & 20
- 14. Discuss Chapters 21 & 22
- 15. Prepare for Final Exam

授業の方法

Students will be working individually and in small groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70％、定期試験30％

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Ireland, Oxford University Press

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Debating and Persuasion			13345	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Andy RUSHTON	選択	2				

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of autonomy.

授業の概要

The objectives of the course are to enable students to engage with a variety of issues and working in small groups to critically analyze these and to respond with effective arguments and counter-arguments.

授業計画

1. Introduction

2. Conspiracy Theories

3. Do We Need Royals?

4. Bad Manners in Public

5. Bullying

6. Gambling

7. Alcohol and Drugs

8. Review

9. Sexual Harassment

10. Smacking Kids

11. The Death Penalty

12. Stalkers

13. Religion

14. Racism

15. Final Review

授業の方法

Students will mostly be working in pairs and in small groups.

準備学修

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking this class.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If the student is unable to attend a class, then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without notification then no credit will be given.

テキスト

Taboo Talk, Lynch, Cengage

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英米文学研究			13521	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
惣谷 美智子	選択	2				

授業の到達目標

英語文学を通して英語のさまざまな表現法を学び、また日本文化と比較しながら多文化を理解する。講義においては、「小説」というもっともポピュラーな読み物を楽しむとともに、そこに込められた作家の読者に対する真摯なメッセージを読み解く。このクラスでは、K A I S E I パーソナリティの I（知性）、In（国際性）と E（倫理）を考える。

授業の概要

授業では、英文学を代表するジェイン・オースティンのシンデレラ・アーキタイプの小説『高慢と偏見』を取り上げて研究する。この小説は、風習喜劇(the Comedy of Manners)に属し、主に社交界の軽薄・因習・愚行などを諷刺した機知に富んだ喜劇であり、ラブ・ロマンスが主筋であるが、その意味するところは深く、作家の鋭い洞察力が根幹を貫いている。授業では文学を通して古くて新しいテーマである人生について、そして自己に誠実に真摯に生きるとはどのようなことなのか等についても考えてみる。この講義に併行してRapid Readingの訓練も行う。またこの小説のCD,DVDといった視聴覚教材も用いて「読み、聴き、話す、書く」の英語の4分野のスキルを養成する。

授業計画

1. Introduction

2. The Language of Jane Austen's time

3. 18-19世紀のイギリスの時代的・文化的背景

4. 18-19世紀のイギリス女性の社会的地位と人生

5. "Pride and Prejudice"を読む Ch.1-3／研究発表

6. "Pride and Prejudice"を読む Ch.4-6／研究発表

7. "Pride and Prejudice"を読む Ch.7-10／研究発表

8. Discussion

9. "Pride and Prejudice"を読む Ch.11-14／研究発表

10. "Pride and Prejudice"を読む Ch.15-18／研究発表

11. "Pride and Prejudice"を読む Ch.19-20／研究発表

12. Fact Files "Socializing in Regency England"

13. Presentation／レポート提出

14. Discussion

15. Conclusion

授業の方法

講義のほかに、文学、あるいはそこに内在する文化の諸要素について学生同士でも自由に発言し、問題提起や議論の発展が可能なように、教師・学生の双方向性の授業形態を予定している。

準備学修

講義前に、テキストの各章を各自で予め読み、英語表現のみならず異文化を理解し、また作家のメッセージ等も考えて授業中の自由闊達な議論に備える。（毎回30-60分）
講義後は、興味ある課題に各自で取り組み、課題のレポート作成の準備をする。（毎回30-60分）

課題・評価方法

課題：発表、質疑応答、ディスカッション、レポート作成（随時レポート作成を課し、授業中、あるいは個人指導においてフィードバックを行う。）
評価方法：平常点30%、定期試験70%
授業中の積極的な意見交換を高く評価する。

欠席について

出席重視。一貫性を持った授業であるので、毎回、必ず出席すること。出席は平常点として評価する。

テキスト

Jane Austen,"Pride and Prejudice"CD付.London:Mary Glasgow Magazines (Scholastic Ltd.)

参考図書

翻訳書："Pride and Prejudice"(『高慢と偏見』あるいは『自負と偏見』)の翻訳書は、岩波、新潮、ちくま各文庫本でも入手可能である。
参考図書：授業で随時、指示する。
参考資料：配布。

留意事項

授業で取り上げる『高慢と偏見』は多数の翻訳書があるので、可能なかぎり予め読んでおくこと。

教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
女性と社会			13525	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

ジェンダーの視点から現代社会の問題を読み解くことができる。国内外の社会事象とその中に生きる女性について、総合的にとらえ、自分の意見をもつことができる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養い、A（自律）やIn（国際性）を考える。

授業の概要

日本だけでなく海外も含めた女性に関する諸問題について、様々な研究分野の蓄積を学ぶ。社会的文化的性差・性別（ジェンダー）のもたらず現実や課題は、どのようにとらえられ解決されているか、解説する。そして、男女共同参画社会、少子高齢社会、国際化・情報化社会と女性の生き方について考える。

授業計画

- 1.文化と歴史の中の女性
- 2.女性のライフコース
- 3.女性と教育
- 4.女性と労働・女性のキャリア形成
- 5.女性と結婚・離婚
- 6.女性と出産・子育て
- 7.ワークライフバランス
- 8.女性と暴力
- 9.女性とメディア・表現
- 10.女性と階層
- 11.女性と加齢
- 12.女性と病
- 13.女性とケア
- 14.女性と社会参画・社会政策
- 15.女性と国際社会

授業の方法

講義に加えてプレゼンテーションやディスカッションをとりいれる。

準備学修

ジェンダーに関する入門書を読む。準備学修のプリントを配布する

ので、記入しておく。60時間。

課題・評価方法

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。平常点30％、定期試験70％

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

参考図書

内閣府男女共同参画局『男女共同参画白書』
授業中に必要に応じて指示する。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ビジネス翻訳			13621	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
榎本 雄三	選択	2				

授業の到達目標

文芸翻訳とは違う実務翻訳の特徴を理解し、ビジネス文書、業務資料、観光パンフレットなどの英文和訳および和文英訳ができるようになるための、訳文作成技術と背景知識を取得する。このクラスではKAISEI/パーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を目指す。

授業の概要

和文英訳および英文和訳の技術を説明し、新聞や雑誌などの記事や実際のビジネス文書を使って演習を行う。翻訳に必要な背景知識の調査方法の習得も行う。

授業計画

- 1.実務翻訳の特徴/翻訳という仕事
- 2.英文和訳の基本技術/自然な文章表現
- 3.適語を探す/単語のニュアンスをつかんで訳す
- 4.品詞の転換/無生物主語の処理
- 5.順送りの訳、逆送りの訳
- 6.分詞構文、関係詞構文、挿入構文
- 7.長文の攻略
- 8.和文英訳の基本技術/ライティングの3C
- 9.可算名詞、不可算名詞/定冠詞、不定冠詞/前置詞
- 10.適語を探す/単語のニュアンスをつかんで訳す
- 11.長い修飾語の処理
- 12.無生物主語構文
- 13.英文マニュアルの表現
- 14.制限言語/Simplified Technical English
- 15.翻訳支援ツール(翻訳メモリ/機械翻訳ソフト)

授業の方法

訳文作成実習と翻訳内容の検討を中心とする。

準備学修

パソコンを用いた文書作成およびインターネット検索ができること。

課題・評価方法

課題の提出を数回求め、講義内でフィードバックを行う。定期試験を行わず、最終レポートおよび平常点により評価を行う。

欠席について

欠席した回も、その回の課題を提出すれば考慮する。

テキスト

特定のテキストを使用せず、英字新聞や英文雑誌などの記事を教材にする。

参考図書

翻訳のレッスン、高橋さきの・深井裕美子・井口耕二・高橋聡、講談社
プロが教える基礎からの翻訳スキル、田辺希久子・光藤京子、三修社
技術系英文ライティング教本、中山裕木子、日本工業英語協会

留意事項

ほぼ毎回課題を出すので、自分の訳文を作成して授業に臨むこと。
授業計画の内容や順序は状況により変わることがある。

教員連絡先

yzkashimoto@hop.ocn.ne.jp

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
比較文化論			13830	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

異文化を理解し自文化が発信できるグローバル社会で活躍できる人材の育成を目指す。ヨーロッパ、中東、アラブ諸国での紛争、難民問題、日本経済社会情勢など、日本を取り巻く国際社会は厳しさを増している。世界情勢を的確に把握し、広い視野、幅広い知識と洞察力を持って積極的に行動できる人材が求められている。過去から現在に至る時間軸での比較文化理解力と多文化間の比較文化理解力を身につけたグローバル人材の育成を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのln(国際性)を身につける。

授業の概要

本授業では、古今東西の日本と日本を取り巻くグローバル社会の文化を比較し、歴史的・風土的経緯、地政学的観点から、自文化と異文化に対する幅広い知識と洞察力を養う。同時にそれを活用して、自身が企画した文化比較についてプレゼンテーションを行い、自己発信力を育成する。

授業計画

1. 比較文化論 「身近にある異文化理解と自文化不理解」
2. 歴史的比較文化(1) 小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)がみた日本と西洋
3. 歴史的比較文化(2) 小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)がみた日本と西洋
4. 歴史的・風土的比較文化(3) 「食」文化比較「主食のある国・主食のない国」
5. 歴史的・風土的比較文化(4) スイーツ文化(西洋と日本)
6. プレゼンテーション(1)「神戸スイーツ」
7. プレゼンテーション(2)「神戸スイーツ」
8. 比較生活文化(1)「日本とアメリカとメキシコ」
9. 比較生活文化(2)「日本とオーストラリアとカナダ」
10. 比較生活文化(3)「日本と韓国と台湾」
11. 古今東西文化比較(1)「ものと人間の文化史」
12. 古今東西文化比較(2)「ものと人間の文化史」
13. 古今東西文化比較(3)「ものと人間の文化史」
14. プレゼンテーション(3)「ものと人間の文化史」
15. プレゼンテーション(4)「ものと人間の文化史」

授業の方法

教員の講義と学生のプレゼンテーションとによる参加型授業

準備学修

発表を行った次の週には、その内容のレポートの提出を求める。発表は、各自レジュメを用意する。(予習復習にかかる時間;約2時間)また、現在の文化を知るため、毎日15分以上は新聞を読む習慣を身に付けておく。

課題・評価方法

出席状況(30%)、発表(30%)、レポート(40%)により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて紹介する

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
インターンシップ (国内)			13969	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正／有村 理	選択	2				

授業の到達目標

観光・ホスピタリティ産業関連企業(旅行代理店、宿泊業、航空関連企業、ウェディング業他)で就業体験をすることにより自己の適正を知り、職業観を築くことを目的とする。実際の現場経験で仕事、社会を理解する。このクラスは、KASISEIパーソナリティのS(奉仕)とA(自律)を養う。

授業の概要

インターンシップは、事前研修と就業体験からなる。事前研修では、外部から招へいする特別講師によるマナーや言葉遣いなど社会人として最低限必要な訓練を実施する(キャリアセンタープログラム等)。就業体験は夏期(夏休み)に実施される。実施期間は、インターンシップ受け入れ先により5日～1か月となる。受講生は、事前レポート、日報、事後レポートを提出する。インターンシップ先企業は①観光・ホスピタリティ企業②キャリアセンター幹旋企業③その他認定企業など。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 業界別受け入れ企業について
3. グループワーク①
4. グループワーク②
5. グループワーク③
6. 学生と受け入れ企業のマッチング
7. キャリアプログラム
8. キャリアプログラム
9. キャリアプログラム
10. 事前レポート提出・直前説明会
11. 企業実習①
12. 企業実習②
13. 企業実習③
14. 企業実習④
15. 企業実習⑤

授業の方法

グループワークやDVDを活用した講義である。さらに、講義の一部でキャリアプログラム講座を受講する。

事前研修・事前レポート・インターンシップ(実習)・事後レポートにて単位認定される。

準備学修

社会常識的なマナーを身につけておくこと。実習先企業についてよく調べておくこと。

課題・評価方法

学内講義における評価50%

企業実習評価50%

欠席について

事前研修の欠席者は単位認定がなされない。また、欠席が多い場合はインターンシップ参加が取り消される。

テキスト

なし

参考図書

会社四季報など

留意事項

インターンシップ受入先は、主に観光・ホスピタリティ産業対象である。それ以外にキャリアセンター扱いの企業も実習先として認める。また、学生自身がインターンシップ企業を選定した場合は、事前審査を経て認める。受け入れ先の受け入れ人数制限が有るため、事前選考する。尚、一部、受け入れ先で選考がなされる場合もある。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ホスピタリティ・マネジメント			13831	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	選択	2				

授業の到達目標

ビジネスにはWin-Winの関係が必要不可欠である。製造業の組織管理とホスピタリティ産業の組織管理の違いを学ぶ。ホスピタリティ産業は、形のない製品やサービスを提供している。それだけに顧客の反応は厳しい。ホスピタリティ産業の組織は、どのようにに管理されるべきか、どのように運営すべきかを学ぶ。ホスピタリティ産業のマネジメント＆マーケティングを理解することで、経営能力を身に付ける。このクラスは、KAISEIパーソナリティのS(奉仕)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

講義は、理論と事例研究に分けて構成されている。前半は、ホスピタリティとサービスの違い、マネジメントの理論とマーケティングの基本を中心に講義される。市場における競争優位は、製品の差別化で達成できるのか、模倣されない差別化とは何かを学ぶ。後半は、ホスピタリティ産業の事例に取り上げ、その本質を解説する。特に、理念と組織行動に焦点をあて、おもてなしとは何か、収益とはどこからくるのかを学ぶ。市場における外部環境を理解しながら競争力について理解する。特に、コア・コンピタンス経営に焦点を当て、成長する企業（ホテル・旅館・テーマパーク等）から学ぶ。

授業計画

1. ガイダンス
2. ホスピタリティの歴史と文化
3. ホスピタリティ・サービスの語源
4. ホスピタリティ産業の製品特性
5. マーケティング戦略・マーケティングミックス
6. マーケティング戦略・インターナルマーケティング
7. マーケティング戦略・労働生産性
8. 「加賀屋」のマネジメントを学ぶ(プロが選ぶホテル・旅館NO1の戦略を学ぶ)
9. 再生事業「星野リゾート」の戦略
10. 世界に名声を残すホテルマネジメント手法(マリオット・ザ・リッツカールトンホテル)
11. 旅行業とマネジメント(ニッコートラベルを事例に)
12. ホスピタリティ産業における企業戦略
13. ホスピタリティ産業における企業戦略
14. ホスピタリティ産業における企業戦略

15.まとめと総括試験

授業の方法

パワーポイントを使い講義を進める。テキストは使用しないのでノートをとること。また、DVDを利用して事例研究をおこなう。

準備学修

ホスピタリティ関連の書籍を読むこと。日刊紙、経済新聞等を読むこと。

課題・評価方法

授業での積極的参加評価30%
総括試験70%

欠席について

大学の規定通りとする。

テキスト

特に予定していない。

参考図書

服部勝人『ホスピタリティマネジメント入門』丸善
Jay B. Barney（岡田正大訳）『企業戦略論』ダイヤモンド社
P.F.Drucker（上田惇生訳）『マネジメント』
Kotler（平井祥訳）『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション

留意事項

講義だけでなく、講義で得た知識で社会を観る事で講義の内容が活かされる。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ビジネス中国語			13832	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
王 嬌	選択	2				

授業の到達目標

中国語の発音、基礎単語と基礎文法を学び、練習問題を通して、中国語の基本表現を身につける。中国人の生活習慣を紹介し、中国文化への理解を広げる。自己紹介が流暢にできるように繰り返し練習する。中国語会話を楽しく勉強して、コミュニケーション能力を養う。この授業ではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)とA(自律)を身につける。

授業の概要

中国語学習の中に一番大事な部分は発音である、正確な発音を覚えるために、発音練習以外に聞くの練習もたくさんする。中国語の基礎単語と基礎文法をいろんな形で練習して覚える。異文化を理解するために、中国の文学作品及び唐詩を紹介する。中国の歌も一曲歌えるように挑戦する。中国語検定試験問題の指導を行う。

授業計画

1. 第1課、どうぞよろしく
※否定を表す「私」は「××ではありません」
2. 第2課、到着ロビーで
※形容詞の使い方「彼は仕事が忙しいです」
3. 第3課、明日のスケジュール
※時を表すことばの位置「彼は明日日本に来ます」
4. 第4課、喫茶店で
※動詞「喜欢」について「(××)をするのが好きです」
5. 第5課、コンビニで買い物
※人民元の教え方「(お水1本は1.50円です)」
6. 第6課、電子辞書がほしい
※疑問文について「(バソコン)は高いですか」
7. 第7課、京劇を見る
※完了を表わす「了」：「(××)をしました」
8. 第8課、ファーストフード店で昼食
※変化を表す「了」：「(昼)になりました」
9. 第8課、ファーストフード店で昼食
※「有」と「在」について「(近く)にファーストフード店があります」
10. 第9課、カラオケ店で
※「できる」についての表現「(私は)車を運転することができます」
11. 第9課、カラオケ店で

※「給」について：(私は)友達に手紙を書きます)

12. 第10課、万里の長城に登る
※時刻の言い方：(私は)明日の午後3時に出発します)
13. 第10課、万里の長城に登る
※動作の回数を表す言い方：(彼女は)日本に2回来たことがあります)

14. ※自己紹介の言い方
※中国語検定試験についての指導
15. ※復習
※授業のまとめ

授業の方法

まずは発音の指導を行う。次は語彙、文法と文型の説明をする。最後に読む練習と話す練習を行う。

準備学修

毎回の内容を復習すること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

大学の規定に従う。

テキスト

「1冊目の中国語（購読クラス）」 劉穎、喜多山幸子、松田かの子著、白水社

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光マーケティング論			13833	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	選択	2				

授業の到達目標

ビジネスにはWin-Winの関係が必要不可欠である。ホスピタリティ産業では形のない製品やサービスを提供している。それだけに顧客の反応は厳しい。ホスピタリティの原点を理解し、どのように実践すればホスピタリティ精神が、顧客の購買意欲に結びつくのかを理解する。このクラスは、KAISEIパーソナリティのS(奉仕)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

ホスピタリティとサービスの違いを語源に遡り学ぶ。ホスピタリティマネジメントとはホスピタリティ産業の経営、運営について学ぶことである。評価される企業を事例に取り上げ、その本質を解説する。特に、理念と組織行動に焦点をあて、おもてなしとは何か、収益とはどこからくるのか、企業のコア・コンピタンスを探る。事例として、宿泊産業（ホテル・旅館）やテーマパークの成功の秘密を紐解く。それ以外にも注目すべき企業体の事例を取り上げる。講義はコトラ「ホスピタリティ&ツーリズムマーケティング」の内容を中心に構成される。

授業計画

- 1.ホスピタリティマネジメント概要
- 2.マーケティングとは
- 3.ホスピタリティ&ツーリズムマーケティングの商品特性
- 4.戦略計画におけるマーケティングの役割
- 5.マーケティング環境
- 6.マーケティング情報システム
- 7.消費者の心理と購買行動
- 8.競争市場の原理
- 9.市場細分化における戦略
- 10.マーケティングミックス(製品)
- 11.マーケティングミックス(価格)
- 12.マーケティングミックス(流通)
- 13.マーケティングミックス(プロモーション)
- 14.ディズニーランドのマネジメント
- 15.まとめ

授業の方法

パワーポイントでの講義とグループでのディスカッションから構成される。

準備学修

新聞の経済欄や観光経済新聞を読むこと。

課題・評価方法

課題30％統括試験70%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

なし。資料配布します。

参考図書

Kotler『ホスピタリティ&ツーリズムマーケティング』ピアソン・エデュケーション
M.E.Poter『競争の戦略』ダイヤモンド社
Jay B. Barney『企業戦略論』ダイヤモンド社

留意事項

基礎科目（観光概論、観光事業論）の発展科目である。本学唯一のマーケティング講座です。観光領域を学ぶ学生は履修すること。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
宿泊事業論			13835	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	選択	2				

授業の到達目標

新国家戦略として観光は位置づけられ、観光立国を目指す。この観光立国の中心となる産業が、宿泊産業である。宿の誕生から、現代のホテル産業までを歴史と経営の観点から学ぶ。グローバル時代における宿泊産業の基礎を理解し、宿泊業のマネジメントを学ぶ。このクラスは、KAISEIパーソナリティのIn(国際性)とE(倫理)を養う。

授業の概要

宿の歴史から始まる本講座は、日本の宿泊と欧米におけるホテル業の歴史を学ぶ。次に、産業としてのホテル業を学び、特に現代ホテル産業の組織及び経営方式などを理解する。グローバル化する宿泊産業の収益構造や組織運営を学ぶ。宿泊産業の基礎講座である。

授業計画

- 1.ガイダンス
- 2.ホテル産業史Ⅰ
- 3.ホテル産業史Ⅱ
- 4.ホテル産業史Ⅲ
- 5.宿泊産業の市場特性
- 6.ホテルの組織と役割
- 7.宿泊事業1
- 8.宿泊事業2
- 9.宿泊事業3
- 10.料飲事業
- 11.パンケット事業
- 12.ブライダル事業
- 13.ケータリング事業
- 14.購買とFBCC
- 15.まとめ

授業の方法

テキストとパワーポイントを使い講義をする。受講生はノートを取ること。また、ディスカッション等のグループワークも取り入れる。

準備学修

図書館で購読されている「ホテルレストラン」「月刊ホテル旅館」を読むこと。事前にテキストを一読すること。

課題・評価方法

レポート及び総括試験を総合して評価する。

欠席について

大学の規定通りとする。

テキスト

鈴木博、大庭祺一郎『基本ホテル経営教本』柴田書店

参考図書

適宜紹介
オータパブリケーション『ホテルレストラン』
柴田書店『ホテル旅館』

留意事項

観光における中心的な産業は、宿泊業である。ツーリズムを学ぶ上で必要不可欠である。合わせて、観光マーケティング論を履修すること。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
航空ツーリズム論			13836	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	選択	2				

授業の到達目標

空の規制緩和がオープンスカイを押し進め、2010年に羽田空港も国際化し、近年昼間の長距離路線も拡大し一層便利になっている。また2012年からできた国内LCCも定着し、航空ツーリズムとして国内旅客だけではなく訪日観光客の利用も急増している。一方でグローバル化を進める3大アライアンスや国際ハブ空港の競争も注目しながら、ツーリズム産業の中核をなす航空業界の全体の動きと現代のツーリズムに果たす役割を理解することを目標とする。このクラスではKAISEI パーソナリティのIn（国際性）を養う。

授業の概要

まず社会基盤としての航空事業の特性と日本と世界の航空業界の主要な歴史を解説し、ツーリズム産業での重要な役割を理解していく。次に航空ツーリズムのキーワードになる「オープンスカイ政策」から世界の航空業界の動きをアメリカ、ヨーロッパ、アジアと日本でそれぞれ考察する。その上で世界のグローバルアライアンスとLCC、国際ハブ空港の動向を調べ、航空業界の現状を把握する。2020年の訪日観光客4000万人達成の目標に向け日本が観光立国を目指す中で航空ツーリズムを考える。

授業計画

1. ガイドンス
2. 社会基盤としての航空事業
3. アメリカの規制緩和とオープンスカイ政策
4. ヨーロッパの規制緩和とEU
5. アジアの規制緩和とASEAN
6. 日本の規制緩和と新規航空会社
7. アメリカのLCC
8. 欧州とアジアのLCC
9. 日本のLCC
10. アジア・ゲートウェイ構想と羽田の国際化
11. 世界の国際ハブ空港の競争
12. グローバルアライアンス
13. JALとANA
14. 航空機の進化とツーリズム
15. 航空業界の地球環境対策・まとめ

授業の方法

講義を中心とするが学生への課題ではグループディスカッションを取り入れる。

準備学修

航空業界の用語集を初回にまとめて配布し授業で1ページごとに確認していくので、毎回必ず予習して出席する事。また日本経済新聞などで航空関連記事がないか事前に調べる事。

課題・評価方法

グループでのディスカッションでは教員によるフィードバックを行う。評価は平常点50%、定期試験50%

欠席について

特別の理由のない欠席は1回につき5点減点する。

テキスト

特に指定しない。適宜プリントを配布する。授業内容によりDVDなどの映像でも紹介する。

参考図書

『航空産業入門 第2版』（株）ANA総合研究所
『日本の空を問う』 伊藤元重・下井直毅 日本経済新聞出版

留意事項

世界の航空業界の動きや日本の観光立国に向けた訪日観光客や観光業界に関するニュースなどは常に注目しておくこと。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光フランス語			13837	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	2				

授業の到達目標

＜観光客としてフランスを旅行する＞ための最低限必要な知識と会話を学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。

授業の概要

フランス（首都、地方）、衣食住を含むフランス人の日常生活、社会の動向、文化などフランス諸事情全般について、関連項目の映像資料を参考にしながらテキストを講読し、フランスに関する理解を深める。

授業計画

1. Orientation, "La France"
2. "La France" "Pairs"
3. "Paris"
4. "Les cafés"
5. "La vie des étudiants"
6. "Le pain, le vin et le fromage"
7. "La Bretagne"
8. "La Bretagne"
9. "La Provence"
10. "La Provence"
11. "L'Alsace"
12. "L'Alsace", 映画鑑賞(フランス語)
13. "Trois grands personnages de l'histoire française"
14. "Le français dans le monde"
15. まとめと試験

授業の方法

多彩なテーマについて書かれた関連資料の講読と学生の発表による。

準備学修

テキストにあるフランス語1～2の総復習と毎回出現する語彙や表現の予習は必須。また日頃からフランス語、フランス文化関連の出来事、ニュースに関心をよせて欲しい。

課題・評価方法

出席点10%、平常点30%、研究発表30%、学期末試験30%

欠席について

授業出席は必要不可欠。止むを得ない場合、授業で進んだところまでの内容について自らの補習が必要である。

テキスト

Amicalement plus（2018 駿河台出版社）

参考図書

必要があれば授業で紹介する。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

予め直接に、またはメールで予約すれば時間調整は可能。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
WEBトラベルプレゼンテーション			13839	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
釜須 久夫	選択	2				

授業の到達目標

旅行関連やサービス業のホームページの分析を通して、WEBプレゼンテーションの役割とポイントを学習し、基本条件や専門知識を習得する。また実習では理想的なWEBプレゼンテーションと役に立つプレゼンテーションのテクニックを養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

WEBプレゼンテーションに必要な基本条件と専門知識を学び、実習でテーマに基いた企画書、日程表、パンフレットなどの作成作業や発表等のプレゼンテーションを通して、効果的な作成方法や発表のテクニックを学ぶ。

授業計画

1. WEBトラベル・プレゼンテーション概要(テーマの説明と内容の紹介)
2. 旅行業界のホームページやブログの分析
3. WEBプレゼンテーションの基本条件(テーマ・イメージ・キーワード)
4. WEBプレゼンテーションの基本条件(ページレイアウトとデザイン制作フロー)
5. プレゼン資料の作成方法と発表のポイント
6. WEBプレゼンテーション実習(1)
7. WEBプレゼンテーション実習(2)
8. WEBプレゼンテーション実習(3)
9. WEBプレゼンテーション実習(4)
10. WEBプレゼンテーション実習(5)
11. WEBプレゼンテーション実習(6)
12. WEBプレゼンテーション実習(7)
13. WEBプレゼンテーション実習(8)
14. WEBプレゼンテーション実習の総括
15. 理想的なWEBプレゼンテーション&試験

授業の方法

講義と小テスト、プレゼンテーションの資料作成と発表等の実習を中心とする。

準備学修

事前に指示された個所を予習しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は原則として認めない。欠席の場合は原点の対象とする。

テキスト

なし

留意事項

必要に応じて、授業中に指示を行う。

教員連絡先

sam@alohawalker.net

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
神戸学			13841	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

地元神戸の成り立ちを知り、その特徴がどのように文化的資源として活用されているかを考える。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要

神戸を舞台とした文学作品に触れながら、神戸文化の特徴を学ぶ。観光資源としての価値にも注目するため、各自神戸の「まち歩き」をプランし、神戸への理解を深める。

授業計画

1. 西求塚古墳 森嶋外「生田川」
二人の男に愛された処女
2. 王子公園 横光利一「灘にいたころ」/ 岡部伊都子「ザークの孤独」
癒される孤独
3. 異人館通り 宮本輝「花の降る午後」
戦争を乗り越えた外国人たち
4. トーアロード 稲垣足穂「星を造る人」
元町 マジック！
5. 元町大通り 堀辰雄「旅の絵」
東京からのお客様をご案内
6. 小磯良平美術館 竹中郁「黄蜂と花粉」
神戸から旅立つ画家たち プランスへ
7. 神戸海洋博物館 久坂葉子「ドミノのお告げ」
カワサキワールド
8. 新開地 横溝正史「虹のある風景」
偽物のお嬢様
9. 祥福寺 夏目漱石「明暗」
臨濟宗の寺
10. 兵庫県中央労働センター玄関前庭(旧居跡) 小泉八雲「怪談」
居留地で活動する外国人
11. 海外移住と文化の交流センター 石川達三「蒼氓」
神戸から旅立つ移民たち ブラジルへ
12. 神戸市立博物館 玉岡かおる「お家さん」
世界を掴んだ鈴木商店
13. 神戸高校からの坂道 村上春樹「ノルウェイの森」

- 埋め立てられた海岸線
14. 私を作る「まち歩き」発表
15. 私を作る「まち歩き」発表

授業の方法

前半は講義形式となるが、後半は、各自がプランした「まち歩き」についての発表と、それについてのディスカッションを行う。

準備学修

「まち歩き」プランを作るには、事前にそのまちを実際に歩いておく必要がある。安全性も含めて検討するには、何度も繰り返し歩いて見るが必要となる。事前調査として、既にあるプランの検討も必要である。毎回の授業の予習復習とともに、この準備も必要となる。(予習復習にかかる時間：約2時間)

課題・評価方法

毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて随時紹介し、プリントを配布する。

参考図書

必要に応じて随時紹介する。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童英語教育概論			13701	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
福智 佳代子	選択	2				

授業の到達目標

本講義では、多言語・多文化社会となっている世界の外国語教育の現状、言語習得、児童期からの外国語教育のあり方の理論を学び、これからの児童外国語（英語）教育の指導者としての素養を育成する。小学校の外国語活動・外国語科の学習指導の知識、第2言語習得の基礎的な知識、授業に必要な英語コミュニケーション能力、教材や評価の基礎知識を、小・中・高等学校の連携も視野に入れて身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要

学習指導要領における「3つの資質・能力」を踏まえた「5つの領域」の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法指導について、小学校の外国語教育に必要な基礎的な知識及び複数の領域を統合した指導法を、以下の「授業計画」の具体的項目に従って身に着ける。

授業計画

1. 小学校英語教育の目的 (1)
2. 小学校英語教育の目的 (2)
3. 小学校英語教育の目的 (3)
4. 第2言語習得研究 (1)
5. 第2言語習得研究 (2)
6. 第2言語習得研究 (3)
7. 第2言語習得研究 (4)
8. 第2言語習得研究 (5)
9. 第2言語習得研究 (6)
10. 技能の育成 (1)
11. 技能の育成 (2)
12. 技能の育成 (3)
13. 技能の育成 (4)
14. 児童の英語能力の測定と評価
15. まとめ

授業の方法

理論を理解し、ディベート、プレゼンテーションなどで、主体的・

創造的に理論を実践に活かす方法を発信する。

準備学修

各回の課題について調べ、レポートを仕上げる。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規定に従う。必ず出席し、討議に参加すること

テキスト

青木昭六編著『英語科教育のフロンティア』保育出版社（教育情報出版）

参考図書

アレン玉井光江「小学校英語の教育法 理論と実践.」大修館書店；ISBN：9784469245486

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語科教育法 I			13705	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
福智 佳代子	選択	2				

授業の到達目標

小学校・中学校・高等学校における英語学習・指導の知識、授業指導、学習評価の基礎を、次に続く英語科教育法Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの授業との連携も視野に入れて身に着ける。英語教師として学習指導を行うための基礎づくりを目指す。英語そのものに関する知識や運用能力を向上させながら、第二言語習得のプロセスや運用のメカニズムに関する基礎知識を学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、In（国際性）、E（倫理）を学ぶ。

授業の概要

授業の概要：学習指導要領における「3つの資質・能力」を踏まえた「5つの領域」の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法指導についての基礎的な知識及び複数の領域を統合した指導法を、以下の「授業計画」の具体的項目に従って身につける。教師にとってもっとも重要なのは、自分に与えられた実際の「教育の場」という現実から最善の方策を生み出す能力であると思われるが、そのためには、実際の英語学習指導にどのようなファクターがどのように作用しているかを見極めることができないといけない。それぞれの生徒に各自の持っている潜在能力を学習面で最大限に発揮させることが教師にとって重要課題になるが、そのためにこの授業では、教師が一方向的に講義するのではなく、学生に問題提起し、資料を提供し、それに基づいて積極的に考え、実践してもらう予定である。

授業計画

1. 英語教育の目的 (1)
2. 英語教育の目的 (2)
3. 第2言語習得研究 (1)
4. 第2言語習得研究 (2)
5. 第2言語習得研究 (3)
6. 英語教材研究 (1)
7. 英語教材研究 (2)
8. 英語教材研究 (3)
9. 英語教材研究 (4)
10. 音声言語指導
11. 音声言語指導

12. 書記言語指導
13. 言語能力の測定と評価 (1)
14. 言語能力の測定と評価 (2)
15. 総括

授業の方法

講義のほかに発表を多く取り入れる。

準備学修

必ず、あらかじめテキストを読み、予習して授業に臨むこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席・遅刻については一定の比率で減点する。

テキスト

青木昭六編著『英語科教育のフロンティア』保育出版社（教育情報出版）

参考図書

白井恭弘著『外国語学習の科学』（岩波書店）他。必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

授業中の意欲、積極的学習態度を評価する。課題発表にさいしては、発表者と聞く側の学生が質疑応答を通して議論を深めること。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語科教育法Ⅱ			13709	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
惣谷 美智子	選択	2				

授業の到達目標

中学校・高等学校の英語教師として学習指導を行うための基礎づくりを目指す。英語そのものに関する知識や運用能力に関する知識を深め、指導法の基礎知識を学ぶ。後半は語彙指導・文法のレスンプランを立て、模擬授業を行う。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、In（国際性）、E（倫理）を学ぶ。

授業の概要

教師は、生徒が各自もっている潜在能力を学習場面で最大限に発揮させることが、重要課題となるが、そうした各教育現場に応じた柔軟な適応能力を養うためには、知識の詰め込みだけでは十分ではない。この授業では、教師から学生への一方的な知識の伝授ではなく、以下の授業計画のリストにある各項目に関して、それぞれに研究テーマを課し、授業中の口頭発表、レポート提出を通して、学生が自発的に英語教育における諸問題に取り組む双方向性の授業を予定している。

授業計画

- 1.はじめに:授業の概要について
- 2.学習指導要領の理解
- 3.英語の指導目標と内容
- 4.学習者の要因
- 5.言語習得の理論と諸問題
- 6.発音の指導
- 7.文字と綴りの指導
- 8.語彙表現、文法の指導
- 9.リスニングの指導
- 10.スピーキングの指導
- 11.リーディングの指導
- 12.ライティングの指導
- 13.言語技術を統合した指導
- 14.異文化理解
- 15.総括(複数領域を統合した言語活動の指導を中心に)

授業の方法

講義のほかに各自の発表を多く取り入れる。
講義とグループディスカッション、および発表を中心とする。
活発な議論を可能とするため、教師・学生の双方向性の授業形態を予定している。

準備学修

予習としてテキストの指定ページを講義前に読んで理解しおき、また難解な箇所は授業中に質問できるように準備しておく。（毎回30-60分）
講義の後は講義内容を復習し、各章の発展的課題に各自で取り組み、自分の考えを整理しておいて、レポート作成の際の論考に集約できるようにしておく。（毎回1-3時間）

課題・評価方法

課題：講義のテーマによってはレポート作成を課し、講義中、あるいは個人指導においてフィードバックを行う。
評価方法：平常点30%、定期試験70%
授業中の積極的な質疑応答を高く評価する。

欠席について

欠席・遅刻については一定の比率で減点する。

テキスト

土屋澄男・広野威志『新英語科教育法入門』研究社
Keiichiro Fukui. "Basic English Expressions and Short Readings". Asahi Press

参考図書

白井恭弘『外国語学習の科学——第二言語習得論とは何か』（岩波書店）
高梨芳郎『〈データ〉で読む英語教育の常識』（研究社）
大学英語教育学会監修/石田雅近他編『英語教師の成長——求められる専門性』（「英語教育学体系 第7巻」）（大修館書店）
以上の他、必要に応じ授業中に随時指示および紹介する。

留意事項

- ①課題担当者は、発表の内容のみならず、プレゼンテーションの方法も工夫すること。
- ②課題発表にさいしては、発表者と聞く側の学生が質疑応答を通して議論を深めること。

教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目 くキッズ・イングリッシュ・教職	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュ I	ET		13725	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
福智 佳代子	選択	2				

授業の到達目標

本授業では、児童英語教育に効果的な教授法について、小学校学習指導要領における「5つの領域」の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法指導について、児童期の学習者の特性と英語授業のあり方を踏まえた知識と技術を、以下の「授業計画」の具体的項目に従って身に着ける。この授業ではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、A（自律）、I（知性）を養う。

授業の概要

本授業では、児童英語教育に効果的な教授法について、小学校学習指導要領における「5つの領域」の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法指導について、児童期の学習者の特性と英語授業のあり方を踏まえた知識と技術を、以下の「授業計画」の具体的項目に従って身に着ける。

授業計画

1. 小学校外国語教育の目標 (1)
2. 小学校外国語教育の目標 (2)
3. 小学校外国語教育の目標 (3)
4. コミュニケーション能力を育成する指導法
5. コミュニケーション能力を育成する指導法
6. 小学校英語教材研究 (1)
7. 小学校英語指導法「ワークショップ」(1)
8. 小学校英語教材研究 (2)
9. 小学校英語指導法「ワークショップ」(2)
10. 小学校英語教材研究 (3)
11. 小学校英語指導法「ワークショップ」(3)
12. 小学校英語教材研究 (4)
13. 小学校英語指導法「ワークショップ」(4)
14. 小学校英語授業運営
15. 児童の英語能力の測定と評価

授業の方法

ワークショップで体験した授業法を、学生自身が、主体的に創造し、プレゼンテーションを行う。

準備学修

プレゼンテーションの準備をしておくこと

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規定に従う。参加・発表型の授業であるので、必ず出席すること

テキスト

アレン玉井光江「小学校英語の教育法 理論と実践」大修館書店；ISBN：9784469245486

参考図書

青木昭六編著『英語科教育のフロンティア』保育出版社（教育情報出版）

留意事項

子供に英語を教える授業を、自らが積極的に創る。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目 くキッズ・イングリッシュ・教職	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュ II	ET		13729	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
福智 佳代子	選択	2				

授業の到達目標

キッズ・イングリッシュ I で体験した授業法を活用し、年齢・発達過程にあった授業案を作成する。学生自身が、将来、幼稚園、小・中学校、高校、英会話学校等での指導に役立つ授業創りを考え、幼稚園、小学校などで、実際に授業を体験する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）を考える。

授業の概要

春学期で体験した授業法とその意義を理解し、児童期の学習者の特性と英語授業のあり方を踏まえた音声、文字、語彙・表現、文法指導についての知識と技術を活用し、授業案作成、教材教具作成、模擬授業を行う。その上で、実際に小学校現場などでの授業体験を通じて、学生自身が将来の児童英語指導者としての実践力を身につける。

授業計画

1. 児童の発達段階にあった英語活動を創る (1)「活動案作成のポイント」
2. 児童の発達段階にあった英語活動を創る (2)「絵カード・教具・ワークシート作成法」
3. 児童の発達段階にあった英語活動を創る (3)「活動案発表」
4. 小学校英語活動 観察実習
5. 実習授業活動案作成(1)『教材研究』
6. 実習授業活動案作成(2)『教具作成』
7. 実習授業活動案作成(3)『評価の観点と振り返りカード作成』
8. 実習授業活動案発表と模擬授業
9. 第1回小学校英語活動 実習体験
10. 実習授業活動案作成(4)『教材研究』
11. 実習授業活動案作成(5)『教具作成』
12. 実習授業活動案作成(6)『評価の観点と振り返りカード作成』
13. 実習授業活動案発表と模擬授業
14. 第2回小学校英語活動 実習体験(3)
15. まとめ 授業評価、ポートフォリオ作成

授業の方法

活動案作成、教材・ワークシート作成、模擬授業をした上で、小学

校英語活動の支援を実際に現場で体験する。

準備学修

教材を作成し、模擬授業の練習をしておくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

参加・発表型授業であるので必ず出席すること

テキスト

アレン玉井光江「小学校英語の教育法 理論と実践」大修館書店；ISBN：9784469245486

参考図書

「小学校英語教育の進め方」岡秀夫、金森強 成美堂

留意事項

子供に英語を教える授業を、自らが積極的に創る。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュⅢ（実習）			13733	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
福智 佳代子	選択	1				

授業の到達目標

グローバル化に対応した英語教育改革が実施され、2020年度小学校英語は教科化される。小学校英語指導者養成のキッズ・イングリッシュ・プログラムの最終段階として、学生自身が、英語活動・英語教育を、活動内容の企画、活動案・教具作成、模擬授業で練習した後、幼稚園や小学校現場で指導者として、実習体験する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)を考える。

授業の概要

本授業では、キッズ・イングリッシュⅠ、Ⅱで学習した小学校英語教育を、幼稚園・小学校現場で出前授業の形で授業体験する。この体験から、理論を踏まえた実践、かつ、実践から理論の再構築へと、理論と実践の融合を計り、児童英語学とは何かを体系的に考える。

実習計画

- ①実習する授業案・教材教具を作成し、授業準備を行う。
- ②作成した授業案で自身が小学校現場で授業できるように、模擬授業で練習する。
- ③実習園・実習校の通常授業で、実習授業を行う。
- ④実習授業の結果を評価し、次の段階を目指す。

授業計画

1. 小学校英語教育実習授業
2. 第1回 小学校英語教育実習授業
3. 第1回 小学校英語教育実習授業
4. 第1回 小学校英語教育実習授業
5. 第1回 小学校英語教育実習授業体験
6. 第2回 小学校英語教育実習授業
7. 第2回 小学校英語教育実習授業
8. 第2回 小学校英語教育実習授業体験
9. 第3回 小学校英語教育実習授業
10. 第3回 小学校英語教育実習授業
11. 第3回 小学校英語教育実習授業体験
12. 第4回 小学校英語教育実習授業
13. 第4回 小学校英語教育実習授業
14. 第4回 小学校英語教育実習授業体験
15. 総括

「指導目標・授業・評価の一体化」

授業の方法

理論、ワークショップでの授業法体験を活かし、自らが活動案を作成、実際小学校現場での英語活動を支援する

準備学修

教材研究、教材製作、模擬授業練習などを行っておく。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

参加・発表型授業であり、小学校英語活動実習を行うので必ず出席すること。

テキスト

授業時にハンドアウト、及び、PCで教材配布

参考図書

「小学校英語教育の進め方」岡秀夫、金森強 成美堂
アレン玉井光江「小学校英語の教育法 理論と実践」大修館書店；ISBN：9784469245486

留意事項

実習に出かけるときは、指導者としてふさわしい服装・態度で臨むこと。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語科教育法Ⅲ			13737	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
吉野 美智子	選択	2				

授業の到達目標

中学校・高等学校の英語教師として学習指導を行うために必要な、外国語教育に関する理論と教授法の基礎知識及び教室での基礎的な指導技術を修得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

英語教育の第一目標である英語のコミュニケーション能力を、ほぼ日本語だけで日常生活を送る生徒たちに身につけさせるには、授業において、どのような創意工夫が必要であるかを、第1・第2言語習得や言語教育に関する様々な理論を踏まえながら、模擬授業やディスカッション等を通して考える。

授業計画

1. 英語教育の目標と学習指導要領
2. 第1言語習得と第2言語習得
3. 主な外国語教授法の流れ(1) 文法・翻訳法・ダイレクト・メソッド
4. 主な外国語教授法の流れ(2) オーディオ・リンガル・メソッド
5. コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチング(CLT)の言語理論と指導原理(Dell Hymes)
6. コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチング(CLT)の言語理論と指導原理(Canale and Swaine, Henry Widdowson)
7. コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチング(CLT)の言語理論と指導原理(Keith Johnson)
8. 授業の準備、学習指導案の作成
9. 授業の工夫(1): Warm-upとreview、文法・文型の導入
10. 授業の工夫(2): 文法・文型の練習と発展活動
11. 授業の工夫(3): 語彙の導入と指導、本文の読解指導
12. 模擬授業(Grammarを中心に)
13. 模擬授業(Readingを中心に)
14. 模擬授業(Communicationを中心に)
15. まとめ

授業の方法

講義、ワークショップ、DVD視聴、模擬授業、ディスカッションによって授業を進める。

準備学修

・次回のテーマについて、テキストの該当箇所を読んでおくこと。
・Grammar ⅠⅢを徹底的に復習するなどして、常に文法力の向上に努めること。
・中学校及び高等学校の学習指導要領を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の20％とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

米山朝二・杉山敏・多田茂 『[新版]英語科教育実習ハンドブック』（大修館）
土屋澄男（編著）他『新編 英語科教育入門』（研究社）
文部科学省 『中学校学習指導要領解説 外国語編』（開隆堂）
文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』（開隆堂）
必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

- ・平常点には、模擬授業、出席状況、授業への参加・貢献度の評価が含まれる。
- ・毎授業に出席することはもちろんであるが、それだけではなく、熱意をもって学習する態度が必要である。

教員連絡先

yoshino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語科教育法Ⅳ			13741	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
吉野 美智子	選択	2				

授業の到達目標

中学校・高等学校の英語教師として学習指導を行うために必要な、外国語教育に関する基礎知識及び教室での基礎的な指導技術を修得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

英語科教育法ⅠⅢで修得した英語教育に関する知識や指導技術を各々の模擬授業において実践する。そして、模擬授業における改善すべき点や指導上の困難点及びその解決方法等についてディスカッションを行い、教育実習での授業に備える。また、学習指導上の評価と及び評価方法の一つであるテストについても学ぶ。

授業計画

1. 学習指導要領における各科目の目標と内容
2. 模擬授業の準備(1):1時間の授業の流れ(中学校)
3. 模擬授業の準備(2):1時間の授業の流れ(高等学校)
4. 模擬授業の準備(3):教科書全体の構成、扱う単元の教材研究
5. 模擬授業の準備(4):授業の構成と学習指導案の作成
6. 模擬授業の準備(5):ALT等とのチーム・ティーチャング
7. 模擬授業の準備(6):英語でのインタラクション
8. 模擬授業の準備(7):授業における各活動の目的と工夫1
9. 模擬授業の準備(8):授業における各活動の目的と工夫2
10. 評価とテスト(Evaluation and Testing)
11. 模擬授業と授業観察(Grammarを中心に)
12. 模擬授業と授業観察(Readingを中心に)
13. 模擬授業と授業観察(Communicationを中心に)
14. 模擬授業と授業観察(Writingを中心に)
15. 模擬授業の総括、教育実習に向けて

授業の方法

DVDの視聴、ワークショップ、模擬授業を中心とする。各活動の後にはディスカッションを行う。

準備学修

1単元の学習指導案を作成し、それに基づいた模擬授業（各自2回程

度）を行うための準備（教材研究、教具の作成、授業の練習等）をすること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の15%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

米山朝二・杉山敏・多田茂 『[新版] 英語科教育実習ハンドブック』（大修館）
土屋澄男（編著）他『新編 英語科教育入門』（研究社）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』（開隆堂）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』（開隆堂）
必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

- ・評価は、学習指導案の作成、模擬授業、模擬授業の観察・参加の記録、出席状況、日頃の学習態度を基準にして行う。
- ・毎授業に出席することはもちろんであるが、それだけではなく、熱意をもって授業に参加・貢献する態度が必要である。

教員連絡先

yoshino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
外国語教授法			13745	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
福智 佳代子	選択	2				

授業の到達目標

本講義では、グローバル化に対応した英語教育改革のゴールを考え、小学校から中学校・高校への英語学習・指導の知識、授業指導、学習評価の連携が図れる「外国語教授法」のあり方を考える。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

日本では、英語学習に相当な時間と労力を費やしている。英語がペラペラに使える人は多くはないが、日本語がペラペラに使えない日本人はいない。外国語教育を成功させるための秘訣とは何か？ 本授業では、小学校英語教科化を見据えた外国語教育のあり方そのものを考える。外国語教授法の理論と指導法の実践を学習し、指導者側における効果的な外国語教授法、そして、学習者側においては効果的な外国語学習法の理論と実践状況を学ぶ。

授業計画

1. 外国語授業法の歴史
2. 教授法の理論的背景(1)
3. 教授法の理論的背景(2)
4. ディベート(1)[授業法]
5. 教授法の理論的背景(3)
6. 教授法の理論的背景(4)
7. 教授法の理論的背景(5)
8. 教授法の理論的背景(6)
9. ディベート(2)[指導法]
10. 英語教師の資質と能力
11. 学習者の特質
12. 小中連携英語教育
13. プレゼンテーション
14. 評価
15. ディベート(3)

授業の方法

教授法の理論と実際の授業での応用から、理論と実践の融合を体験する。

準備学修

項目・内容について下調べをしておくこと。テキストの該当章を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

授業時に、講義内容に関するレポートを提出、プレゼンテーションを行う。評価の対象とするので、公欠などの連絡を必ずすること。

テキスト

英語科教育のフロンティア ―充実した実践を目指して― 青木昭六 ISBN978-4-905493-03-7

参考図書

現代英語教授法総覧 田崎清忠編集責任者 大修館書店

留意事項

参考図書、参考文献をあらかじめ読んでおくこと

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論（初等）			13809	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
森 晴美	選択	2				

授業の到達目標

教職の意義や教員の役割を理解する。学校教育や教員をめぐる今日的な課題と対応の事例などから学校教育に期待される役割や教員の役割を学ぶ。そして、今後の教員に求められる資質能力について知り、学修内容全てを通じて自己の教職への適性を見出す。KAISEI パーソナリティのA(自律)とI(知性)の育成を目指す。

授業の概要

社会の急激な変化に伴い様々な課題に直面している学校教育の現状について詳述し調査、発表の機会をもつ。チームとして諸課題に対応する学校の在り方や教員の職務内容、服務や身分上の義務について理解する。この教科の学びを通して教職への適性を考え、目指す教師像を明確にもつようにする。

授業計画

- 1.「教職概論」科目の特性と概要について
- 2.教職の意義
- 3.幼稚園教育と小学校教育
- 4.教員の歴史、女性と教職
- 5.学校の組織と運営
- 6.教員の職務内容
- 7.教員の身分と服務・身分保障について
- 8.学び続ける教員へ(教員のライフステージと研修制度)
- 9.国際化・情報化と教員の役割
- 10.学校における社会体験とキャリア教育
- 11.様々な問題行動とカウンセリングマインド
- 12.特別な支援を要する幼児・児童への対応
- 13.学校(園)・地域・家庭の連携と役割
- 14.チーム学校の意義と実際について
- 15.今後の教員に求められる資質能力(専門職としての教員)

授業の方法

講義を主とするが、ディスカッションと発表を取り入れる。またリフレクションシートや用語シート他の作成により自己の考えを深め、知識の定着を図る。

準備学修

指示された部分のテキストを事前に読んで理解したり、教育・保育

関連の情報を積極的に収集したりすること。そのために事前学修として、授業計画に示した予習に2時間、復習に2時間要する。

課題・評価方法

- ①リフレクションシート他の提出を2回求め、講義中にフィードバックを行う。
- ②平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点の減点とする。

テキスト

古橋和夫(編)『改訂 教職入門 未来の教師に向けて』2007年(株)萌文書林

参考図書

秋田喜代美、佐藤学編著 『新しい時代の教職入門』改訂版 有斐閣
アルマ 文部科学省『小学校学習指導要領』『幼稚園教育要領』
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

留意事項

保育士と関連する部分も解説するが「保育教諭」として採用されることが増えていることから、教師を目指す者としての意識をもって授業に臨んでもらいたい。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育・学校心理学（中等）	ET		13815	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
濱田 誠二郎	選択	2				

授業の到達目標

主に幼児期、児童期における乗り越えるべき課題を、心理学的な切り口で捉えて活路見出そうとする。教育課程上の様々な場面への有効な心理学的なアプローチを理解する。子どもの健やかな成長のために、発達・学習・人格・適応・保育者との関係性や特別支援教育等の現場の実際と課題の概略を理解する。このクラスでは、KAISEI パーソナリティのI（知性）とE（倫理）をめざす。

授業の概要

ほめて育てることが大切だと言われるが、「本当にそうなのか」とまず自分で考える。自分の考えの背景となる根拠・理由を話せるようにを努力する。さらに対人専門職をめざす学生が、子どもとの関係づくりのコツを理解することで、子どもにより良い支援や理解ができるようになることをめざす。

授業計画

1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するエリクソンの理論と方法
2. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するピアジェの理論と方法
3. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する道徳的なコールバーグの理論と方法
4. 幼児期から青年期において、社会性の発達から人間関係について学ぶ
5. 幼児期から青年期における現代の発達加速現象について理解する。
6. 認知発達を知識や知覚、記憶、学習などの認知機構の変遷から理解する
7. 主体的な学びの開発と体系化
8. 学習内容、発達に応じた適切な学習形態について知る。
9. 学習内容、発達に応じた適切な学習形態について知る。
10. 人間関係づくり 3 リフレーミング
11. 主体的な学習の成果を的確に捉える、「知識・理解」「思考・判断・表現」のあり方を理解する。
12. 学習成果を的確に捉える「技能」「関心・意欲・態度」のあり方を理解する。
13. 主体的な学習、思考力を育む学習集団について理解する
14. 発達障害の理解と支援

15. 振り返りとまとめ

授業の方法

講義が中心ではあるが、時には双方向のコミュニケーションを採り入れて、各自の考えを交流しながら進める。

準備学修

各自の幼児期・学童期を振り返り、良かった支援や今でも疑問に思えることを整理しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

濱田誠二郎著『心理学を生かしたクラスづくり』株式会社E R P

参考図書

授業中に紹介する

留意事項

マスコミでとり上げられる子どもに関する記事に興味・関心を持っておく。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
道徳教育指導論（中等）	教職中等		13829	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
堀 正人	選択	2				

授業の到達目標

道徳教育の基本的な概念を学習し、道徳的な実践力を養う。さらに学校での道徳教育の指導法を考察し、道徳教育指導案の作成と授業を経験する。このクラスではKAISEIパーソナリティーⅠ（知性）を養い、プレゼン等の過程でK（思いやり）の諸能力を生かす。

授業の概要

レジュメを中心に教科書「学習指導要領解説（道徳編）」を参考資料に授業を進める。道徳教育の在り方について考察し、実際の取り組みについて学ぶ。

授業計画

- 1.はじめに・道徳教育の基礎理論
- 2.道徳教育の歴史(江戸～明治～戦前)
- 3.道徳教育の歴史(戦後～現代)
- 4.道徳教育の目標について
- 5.道徳教育と教育課程の関連について
- 6.生徒の心理と道徳教育の関わり
- 7.学校における道徳教育指導体制
- 8.道徳教育の指導計画について
- 9.道徳教育指導法(内容項目の詳細)
- 10.道徳教育指導法(指導案の書き方)
- 11.道徳教育指導法Ⅲ(ロールプレイ)
- 12.保育所・幼稚園・小学校における道徳教育
- 13.中学校・高等学校における道徳教育
- 14.諸外国の道徳教育事情
- 15.道徳教育の今日的な課題、まとめ

授業の方法

レジュメや資料を中心に授業を進める。発表、模擬授業、ロールプレイも取り入れる。

準備学修

過去に学校で学習した道徳の時間や道徳的な行事を思い返しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえず欠席する時は事前事後に届けること

テキスト

文部科学省編「中学校学習指導要領解説（道徳編）」ぎょうせい出版

留意事項

授業中に配布した資料をもとに、毎回レポートを作成してもらう。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育課程論（中等）	ET		13850	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
堀 正人	選択	2				

授業の到達目標

学習指導要領を基準として各学校で編成される教育課程について学ぶ。この教育課程の意義や編成の方法を理解し、カリキュラム編成の基礎を習得することで、カリキュラムマネジメントの意義や重要性を考察する。そして、総合的な学習の時間について実際の学校での実践例を参考に、自らも教育課程の模擬編成を試みる。この講義ではKAISEIパーソナリティーⅠ（知性）を養い、自ら考察した教育課程をプレゼンテーションする過程でA（自律：発信力）を習得する。

授業の概要

教育課程の原理を学ぶ中で、公的な性格を有する学習指導要領の意義を考察する。そして、総合的な学習の時間の変遷や教育課程の歴史等において諸外国との比較をしながら現行の特徴や各時代の改訂の意図を考察する。最後に総合的な学習の時間を中心とした教育課程の模擬編成も試みる。

授業計画

- 1.はじめに、教育課程とは
- 2.教育課程に関する法制度について
- 3.教育課程の歴史について(前半)
- 4.教育課程の歴史(後半)と総合的な学習の時間の誕生について
- 5.中学校・高等学校の教育課程について
- 6.総合的な学習の時間の実践例(前半)
- 7.総合的な学習の時間の実践例(後半)
- 8.総合的な学習の時間とカリキュラム・マネジメントのあり方
- 9.教育課程の編成と学校教育評価について
- 10.学校種間の連携と教育課程について
- 11.地域社会との連携と総合的な学習の時間のあり方
- 12.今日的な課題とカリキュラム・マネジメント
- 13.諸外国の教育課程と教育課程の模擬編成(前半)
- 14.諸外国の教育課程と教育課程の模擬編成(後半)
- 15.教育課程のプレゼンテーションと未来の学校教育における教育課程の考察

授業の方法

レジュメに従って授業を行い、毎回レポートの提出を求める。

準備学修

文部科学省HPより、「教育課程特区」の情報を検索しておくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえない事情が発生したときには、当日の朝までに授業に連絡し、届け出ること

テキスト

文部科学省編「中学校学習指導要領解説（総則編）」ぎょうせい出版

文部科学省編「中学校学習指導要領解説（総合的な学習の時間編）」教育出版

参考図書

文部科学省編「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編）」教育出版

留意事項

毎回の授業中に資料を配布する。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育方法論（中等）	ET		13851	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
堀 正人	選択	2				

授業の到達目標

学校教育の研究、教育課程、生徒理解、指導方法、教育評価について理解し、授業の設計技術を習得する。この講座ではKAISEIパーソナリティーのI（知性）を学び、計画力、想像力を養います。さらに、模擬授業でディスカッションや発表を取り入れてA（自律：発信力）、K（思いやり：傾聴力）をつける訓練をする。

授業の概要

学校教育の理念に基づいて、教育課程の理論、学習指導要領の仕組み、授業実践の知識及びその技術を学ぶ。また、実際の学校での教育実践例を参考に学校教育の課題を考察をする。

授業計画

1. 教育方法学の歴史
2. カリキュラム論
3. 学習指導要領について
4. 教育課程と教科外(道徳、総合的な学習の時間、特別活動)の授業の役割
5. 教科書と学校教育の関係
6. 授業の構造論
7. 学校における集団学習の意義と方法(組織、計画、指導体制)
8. 教育技術論
9. 情報教育の内容と構成について
10. 授業の方法と実践について
11. 学力論と教育評価について
12. 特別支援教育論
13. 模擬授業実践と考察(道徳教育)
14. 模擬授業実践と考察(特別活動)
15. 教育方法学のまとめ

授業の方法

毎回レジメを配布し授業を進め、レポート作成やロールプレイに取り組む。

準備学修

中学校学習指導要領（総則編）を読んでおくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえない事情があるときは、事前事後に届け出ること

テキスト

文部科学省編「中学校学習指導要領解説（総則編）」ぎょうせい出版

留意事項

授業中に配布した資料をもとに毎回レポートを作成する

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育相談(カウンセリングを含む)（中等）	教職中等		13852	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
濱田 誠二郎	選択	2				

授業の到達目標

中高の児童・生徒が自己理解を深め、さらに他者受容へとつなぐ受講生に子どもの心理的な特徴や課題を引き出し支援する基礎的な知識と技術を身につけるようになることをめざす。このクラスではKAISEIパーソナリティーのK（思いやり）、I（知性）、S（奉仕）をめざす。

授業の概要

日本には数多くのカウンセラーの資格があるが、来談者が望んでいることは、心の叫びやつぶやきをきちんと受け止めてくれることであろう。対人専門職をめざす者は、現在の主たるカウンセリング理論を概観した上で、自分に合ったスタイルの技法を学び続けてほしい。授業では、事例を多く採り入れて、実践に生かせるよう学習する。

授業計画

1. 学校での教育相談を学ぶにあたってその意義を理解する。
2. 学校独自の課題の把握の必要性を学ぶ。
3. 傾聴、共感など学校におけるカウンセリングマインドキーワードについて知る。
4. カウンセリングマインド等教育相談に必要な基本を体験する。
5. 学校でのいじめで、児童・生徒のシグナルや早期発見方法を理解する。
6. 個々の問題行動の本質理解に必要なカウンセリングマインドを生かしたコミュニケーションを体験する。
7. カウンセリングを通じて自己理解、他者受容する技術について知る。
8. 気持ちの良いクラスづくりに欠かせない相互受容の大切さを理解する。
9. 学級内を明るく気持ちの良い雰囲気にするための心理教育を体験する。
10. 非行・問題行動の善後策としての保護者への対応の仕方を理解する。
11. 学級崩壊が生じたときの教育相談としての役割を理解してその教育技術について学ぶ。
12. 学校で虐待を発見する手立て、確認した後の動きや支援の在り方を学ぶ。

13. 児童・生徒の発達課題を学び、保護者相談に生かせるように事例から学ぶ。
14. 不登校などの問題を一人が抱え込むことがないように校内体制の整備計画について学ぶ。
15. 学校だけでは支援しきれない事案に備えて地域の医療、福祉等専門職との連携の必要性を理解する。

授業の方法

講義を主とするが、双方向の討議もとり入れて受講者が主体的に参加できる授業形式もとり入れる。

準備学修

子どもに関する社会問題等、自分の生活経験から判断するだけではなく、複数の視点で考える習慣を身につける。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

桜井美加著『教育相談ワークブック』北樹出版

参考図書

授業時に紹介する

留意事項

本授業は、教育現場では誰もが直面する課題を数多く取り上げるので、授業後に自分の考えを持つことが大切である。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育経営論（中等）			13853	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
堀 正人	選択	2				

授業の到達目標

社会の変化が学校教育にもたらす影響、そこから生じる課題や教育制度について、法的な知識をふまえながら、その概要を把握し、経営という観点から、学校を総合的・多面的に理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

現在の教育システムのあり方をとらえ、学校・学級経営の様々な場面に応じて、組織を有効に活用する教育経営論を学ぶ。学校教育について、制度及び経営という側面から考察していく。また、学校制度や教育関係法規から、学校教育の目的や教職員の職務等を学び、学校における危機管理の在り方を学ぶ。

授業計画

1. 学校教育と公教育について
2. 教育行政の仕組みについて
3. 教育改革の歴史概要
4. 学校教育における法制度について
5. 学校の組織と運営について
6. 学校における教員の在り方について
7. 学校経営と教師力
8. 学校と地域の連携について
9. 学校教育の評価について
10. 変容する子どもの生活と教育的な課題
11. 安全教育・安全管理の取り組み
12. 学級経営の効果的な指導法について
13. 災害時に学校が果たす役割について
14. 学校における危機管理のあり方
15. 開かれた学校づくりについて・まとめ

授業の方法

レポートを書くこと、グループディスカッション等を多く取り入れる。

準備学修

世界各国の教育制度や教育の現状、教育法等について事前に調べたり、レポートを作成したりすること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむを得ず欠席する場合は事前に届け出ること。

テキスト

文部科学省編「中学校学習指導要領解説（総則編）」ぎょうせい出版

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度、レポートを重視する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈英語・観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC/TOEFL入門 1	a		13806	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
和泉 有香	選択	1				

授業の到達目標

TOEIC(R)テスト400点到達を目指す。そのために必要な英語力（特にTOEIC必須英単語）の習得と問題への取り組み方、学習のコツを身につける。またTOEFL受験のための基礎英語力強化を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

到達目標を目指し、必須語彙や文法事項を身につけていく。頻出文書ごとの語彙、言い回しに習熟し、TOEICテスト形式の問題演習を組み入れていく。また知識固定の一助とするため音読にも力を入れる。小テストは基本的に毎回実施する。

授業計画

1. ガイドンス、Unit 1 人物の動作と状態、表・用紙
2. UNIT 2 疑問詞を使った疑問文、広告、小テスト1
3. UNIT 3 日常場面での会話、品詞、小テスト2
4. UNIT 4 アナウンス・ツアー、動詞、小テスト3
5. UNIT 5 物の状態と位置、チャット 小テスト4
6. UNIT 6 基本構文と応答の決まり文句、手紙・Eメール、小テスト5
7. Unit 7 電話での会話、代名詞・関係代名詞、小テスト6
8. UNIT 8 ラジオ放送・宣伝、接続詞・前置詞、小テスト7
9. UNIT 9 Yes/No疑問文、ダブルパッセージ、小テスト8
10. UNIT 10 オフィスでの会話1、Part 5の復習、小テスト9
11. Unit 11 留守番電話、トリプルパッセージ、小テスト10
12. Unit 12 オフィスでの会話2、Part 7の復習、小テスト11
13. Unit 13 Part 1とPart 2の復習、時制・代名詞・語彙問題、小テスト12
14. Unit 14 トーク・スピーチ・会議の一部、つなぎ言葉・文の挿入、小テスト13
15. 期末考査

授業の方法

問題演習や音読、その場での暗記などの「作業」が中心となる。

準備学修

授業の復習、授業中に指示された課題をしっかりとこなすこと、小テスト課題の暗記

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

Mastery Drills for the TOEIC(R) L&R Test All in One（桐原書店）、TOEIC(R) L&R Test出る単特急銀のフレーズ（朝日新聞出版）

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

英和辞書（紙版、電子辞書いずれでも可）を必ず持参すること。

資格科目〈英語・観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC/TOEFL入門 1	b		13806	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
入江 和子	選択	1				

授業の到達目標

TOEIC(L&R)スコア400点到達を目指す。そのために英文を「聞く、読む、解答する」量と速さに慣れ、TOEIC特有の設問への取り組み方や学習のコツを身につける。またTOEFL受験の基礎英語力強化を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティーのI（知性）を養う。

授業の概要

各章ごとに設定されたビジネスシーンにおいてテーマとなる基本的な重要語句を習得して語彙力を鍛え、文法事項を学習して確認問題で理解の定着を図る。TOEIC形式の問題に挑戦しながら出題傾向やスピード感に慣れ、文脈の中で必須の単熟語・フレーズ、ビジネスタームの活用法を身につけていく。単語テストは基本的に毎回実施する。

授業計画

- 1.Introduction, Pre-test
- 2.Unit1 Shopping ― 動詞
- 3.Unit2 Daily Life ― 名詞
- 4.Unit3 Transportation ― 代名詞
- 5.Unit4 Jobs ― 形容詞と副詞
- 6.Unit5 Meals ― 時制
- 7.Unit6 Communication ― 受動態・分詞
- 8.Review, Mid Term
- 9.Unit7 Fun ― 動名詞、不定詞
- 10.Unit8 Office Work ― 助動詞
- 11.Unit9 Meeting ― 比較
- 12.Unit10 Travel ― 前置詞
- 13.Unit11 Finance ― 接続詞
- 14.Unit12 Business ― 関係詞
- 15.Review, Post-test

授業の方法

リスニングとリーディングの問題演習や、音読・ディクテーションなどの作業が中心となる。

準備学修

テキスト付属CDを用いて復習し、小テストの準備をする。予習として指定された範囲の問題は必ず仕上げてくる。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点から2点減点する。その他は学内の規定に準じる。

テキスト

First Time Trainer for the TOEIC Test、Cengage Learning

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

授業には辞書（紙版／電子辞書）を必ず持参する。

資格科目〈英語・観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC/TOEFL入門 2	a		13807	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
和泉 有香	選択	1				

授業の到達目標

TOEIC(R)テスト500点到達を目指す。そのために必要な英語力（特にTOEIC必須英単語と読解力）の習得と問題への取り組み方、学習のコツを身につける。またTOEFL受験のための英語力強化を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティーのI（知性）を養う。

授業の概要

到達目標を目指し、必須語彙や文法事項を身につけていく。頻出の場面設定や文書ごとの語彙、言い回しに習熟し、TOEICテスト形式の問題演習を組み入れていく。単語テストは基本的に毎回実施する。

授業計画

- 1.Lesson 01 写真描写問題、短文穴埋め問題1
- 2.Lesson 02 応答問題1、長文穴埋め問題1
- 3.Lesson 03 会話問題、1つの文書1
- 4.Lesson 04 説明文問題1、複数の文書1
- 5.Lesson 05 写真描写問題2、短文穴埋め問題2
- 6.Lesson 06 応答問題2、長文穴埋め問題2
- 7.Lesson 07 復習 (Lesson 01-06)
- 8.Lesson 08 写真描写問題3、短文穴埋め問題3、応答問題3、1つの文書2
- 9.Lesson 09 会話問題2、長文穴埋め問題3、説明文問題2
- 10.Lesson 10 写真描写問題4、短文穴埋め問題4、応答問題4、複数の文書2
- 11.Lesson 11 会話問題3、複数の文書2、説明文問題3
- 12.Lesson 12 応答問題5、短文穴埋め問題5、会話問題4、1つの文書3
- 13.Lesson 13 説明文問題4、1つの文書4
- 14.Lesson 14 復習 (Lesson08-13)
- 15.期末試験

授業の方法

問題演習や音読、その場での暗記などの「作業」が中心となる。

準備学修

授業の復習、授業中に指示された課題をしっかりとこなすこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

Extreme Strategies for the TOEIC(R) Listening and Reading Test（松柏社）、TOEIC(R) L&R Test出る単特急銀のフレーズ（朝日新聞出版）

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

- ・テキスト付属CD/ダウンロード音声を用いて確実に復習すること。毎回、英和辞書（紙版、電子辞書）を必ず持参すること。

資格科目〈英語・観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC/TOEFL入門 2	b		13807	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
入江 和子	選択	1				

授業の到達目標

TOEIC(L&R)スコア500点到達を目指す。そのために必要な語彙力、文法力、読解力を向上させ、問題への取り組み方や学習のコツを身につける。またTOEFL受験のための英語力強化を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

TOEIC形式の出題傾向や量・スピードに慣れるため、模擬テストを解きながらリスニングとリーディングの基礎力を向上させる。TOEIC必須の語彙や表現は繰り返し学習して理解の定着を図る。また文法知識はTOEIC頻出の項目に沿って復習し、学習内容が確実に身につくようにする。単語テストは基本的に毎回実施する。

授業計画

- 1.Introduction, Unit1 TOEICについて
- 2.Unit2 Travel
- 3.Unit3 Hotels
- 4.Unit4 Dining
- 5.Unit5 Sports and Hobbies
- 6.Unit6 Phone Calls and Emails
- 7.Unit7 Health
- 8.Review, Mid Term
- 9.Unit8 Ecology
- 10.Unit9 Shopping
- 11.Unit10 Transportation
- 12.Unit11 Computers
- 13.Unit12 Offices
- 14.Unit13 Jobs
- 15.Review, MINI TOEIC

授業の方法

リスニングとリーディングの問題演習や、音読・ディクテーションなどの作業が中心となる。

準備学修

テキスト付属CDを用いて復習し、小テストの準備をする。予習とし

て授業中に指示された範囲の問題を仕上げてくる。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点から2点減点する。その他は学内の規定に準じる。

テキスト

Raising Your Level! For the TOEIC Listening and Reading Test, Nanun-do

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

英和辞書（紙版／電子辞書）を必ず持参する。

資格科目〈英語・観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC/TOEFL 1	ET		13822	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
和泉 有香	選択	2				

授業の到達目標

TOEIC(R)テスト500点到達を目指す。そのために必要な英語力（特にTOEIC必須表現）の習得と問題への取り組み方、学習のコツを身につける。またTOEFL受験のための基礎英語力強化を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

到達目標を目指し、必須語彙や文法事項を身につけていく。頻出文書ごとの語彙、言い回しに習熟し、TOEICテスト形式の問題演習を組み入れていく。また知識固定の一助とするため音読にも力を入れる。単語テストは基本的に毎回実施する。

授業計画

- 1.ガイダンス、【TEST1使用】Part1対策、Part7(1つの文書)対策
- 2.Part2対策、Part7(1つの文書)対策／単語テスト1
- 3.Part2対策、Part5対策／単語テスト2
- 4.Part3対策、Part5対策／単語テスト3
- 5.Part3対策、Part7(2つの文書)対策／単語テスト4
- 6.Part4対策、Part6対策／単語テスト5
- 7.Part4対策、Part6対策／単語テスト6
- 8.【TEST2使用】Part1対策、Part7(1つの文書)対策／単語テスト7
- 9.Part2対策、Part7(1つの文書)対策／単語テスト8
- 10.Part2対策、Part5対策／単語テスト9
- 11.Part3対策、Part5対策／単語テスト10
- 12.Part3対策、Part7(2つの文書)対策／単語テスト11
- 13.Part4対策、Part6対策／単語テスト12
- 14.Part4対策、Part6対策／単語テスト13
- 15.Part7(2つの文書)対策／単語テスト14

授業の方法

問題演習や音読、その場での暗記などの「作業」が中心となる。

準備学修

小テストの準備、授業中に指示された課題はしっかりこなすこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

公式TOEIC(R) Listening & Reading問題集1（IIBC）、新TOEIC(R) TEST出る単特急 金のフレーズ（朝日新聞出版）

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

・テキスト付属CDも用いて確実に復習すること。・英和辞書（紙版、電子辞書いずれでも可）を必ず持参すること。

資格科目〈英語・観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC/TOEFL 2	ET		13823	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
和泉 有香	選択	2				

授業の到達目標

TOEIC(R)テスト600点到達を目指す。そのために必要な英語力（特にTOEIC必須英単語）の習得と問題への取り組み方、学習のコツを身につける。またTOEFL受験のための基礎英語力強化を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

到達目標を目指し、必須語彙や文法事項を身につけていく。頻出文書ごとの語彙、言い回しに習熟し、TOEICテスト形式の問題演習を組み入れていく。また知識固定の一助とするため音読にも力を入れる。単語テストは基本的に毎回実施する。

授業計画

1. ガイダンス、【TEST1使用】Part1対策、Part7(1つの文書)対策
2. Part2対策、Part7(1つの文書)対策／単語テスト1
3. Part2対策、Part5対策／単語テスト2
4. Part3対策、Part5対策／単語テスト3
5. Part3対策、Part7(複数文書)対策／単語テスト4
6. Part4対策、Part6対策／単語テスト5
7. Part4対策、Part6対策／単語テスト6
8. 【TEST2使用】Part1対策、Part7(1つの文書)対策／単語テスト7
9. Part2対策、Part7(1つの文書)対策／単語テスト8
10. Part2対策、Part5対策／単語テスト9
11. Part3対策、Part5対策／単語テスト10
12. Part3対策、Part7(複数文書)対策／単語テスト11
13. Part4対策、Part6対策／単語テスト12
14. Part4対策、Part6対策／単語テスト13
15. Part7(複数文書)対策／単語テスト14

授業の方法

問題演習や音読、その場での暗記などの「作業」が中心となる。

準備学修

小テストの準備、授業中に指示された課題はしっかりこなすこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

公式TOEIC(R) Listening & Reading問題集2 (IIBC)、TOEIC L&R TEST出る単特急 金のフレーズ (朝日新聞出版)

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

・テキスト付属CDも用いて確実に復習すること。・英和辞書（紙版、電子辞書いずれでも可）を必ず持参すること。

資格科目〈英語・観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光英検3級	ET		13845	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
國本 恵理香	選択	1				

授業の到達目標

観光英語検定試験3級を受験する際に必要となる語彙・文法を確認しながら、読解・リスニング力を深めるために資格取得に向けた演習を行う。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

毎回、基本的に一つのユニットを行い、様々な場面での専門用語の習得を目指す。試験に合格するための対策として観光英検3級の問題演習も随時採り入れながら、観光・旅行に必要な英語表現と語彙を半期でマスターすることを目標とする。

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1 Travel
3. Unit 2 Jobs and People
4. Unit 3 Getting on the Plane
5. Unit 4 At the Immigration and Customs
6. Unit 5 At the Airport
7. Unit 6 Hotel(Accommodations)
8. Unit 7 Restaurant(Breakfast and Fast Food)
9. Unit 8 Sightseeing
10. Unit 9 Shopping
11. Unit 10 Transportation
12. Unit 11 Problems and Complaints
13. Traveling in Japan 1～6
14. Traveling in Japan 7～12
15. まとめ、定期試験

授業の方法

毎回、1ユニットの演習問題と過去の試験問題を行う。

準備学修

毎回1時間必ず指示された箇所の予習または配布する過去問題をしてくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

English for Tourism Basic, Sanshusha、他にハンドアウトを配布する。

参考図書

山口百々男著 全国語学ビジネス観光教育協会編『観光英検3級の過去問題 解答と解説』三修社
『観光のための初級英単語と用例-観光英検3級～2級対応』三修社

留意事項

英語辞書必携。

資格科目〈英語・観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光英検2級	ET		13846	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
入江 和子	選択	1				

授業の到達目標

英語の一般的能力だけでなく、観光・旅行分野の英語力を身につけ、観光英語検定試験2級の取得を目指す。このクラスではKAISEI パーソナリティーのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

日本の国際化が進行する中、国内外の旅行者に対応する職業では国際人としての高い英語力が求められている。授業では、その基本ともいべき旅行や観光に関連する専門用語や独特の表現などを習得する。また語学面だけでなく、世界の国々の文化や習慣、国際儀礼、および観光に必須の地理や歴史も学びながら筆記とリスニング両面から観光英検2級対策を行う。

授業計画

- 1.オリエンテーション、観光英語キーワード演習 1
- 2.観光英語キーワード演習 2、観光英検 2 級(観光用語)
- 3.観光英語キーワード演習 3、観光英検 2 級(写真説明)
- 4.観光英語キーワード演習 4、観光英検 2 級(英語コミュニケーション)
- 5.観光英語キーワード演習 5、観光英検 2 級(イラスト説明)
- 6.観光英語キーワード演習 6、観光英検 2 級(英文構成)
- 7.観光英語キーワード演習 7、観光英検 2 級(英語コミュニケーション)
- 8.観光英語キーワード演習 8、観光英検 2 級(英文読解)
- 9.観光英語キーワード演習 9、観光英検 2 級(状況把握)
- 10.観光英語キーワード演習 1 0、観光英検 2 級(海外・国内の観光と文化)
- 11.観光英検 2 級(観光・旅行事情)
- 12.観光英検過去問 2 級
- 13.観光英検過去問 2 級
- 14.観光英検過去問 1 級
- 15.観光英検過去問 1 級

授業の方法

実践演習、解説を中心に行う。

準備学修

予習として指定ページの問題は必ず仕上げておく。毎日30分程度キーワード問題の復習をする。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席 1 回につき、平常点から2点減点する。その他は学内の規定に準じる。

テキスト

全国語学ビジネス観光教育協会編 『観光英語検定試験 問題と解説 2級』 研究社。他にハンドアウトを配布する。

参考図書

全国語学ビジネス観光教育協会観光英検センター編『観光のための初級英単語と用例―観光英検3級～2級対応』三修社。

留意事項

受講者は、英検準2級/2級取得者を対象とする。

資格科目〈英語・観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光英検 1 級			13847	II	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
入江 和子	選択	2				

授業の到達目標

観光・旅行業に必要な実務英語力とコミュニケーション能力を身につけ、観光英語検定試験1級の取得を目指す。このクラスでは、KAISEI/パーソナリティーのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

日本の国際化が進行する中、国内外の旅行者に対応する職業に必要な不可欠な国際人としての英語力全般を高め、専門用語・表現に習熟して具体的かつ実践的な対応力を養っていく。また語学面だけでなく、世界の国々の文化や習慣、国際儀礼、および観光に必須の地理や歴史も学びながら観光英検 1 級対策を行う。

授業計画

- 1.オリエンテーション、観光英語キーワード演習 1
- 2.観光英語キーワード演習 2、観光英検過去問1級
- 3.観光英語キーワード演習 3、観光英検過去問1級
- 4.観光英語キーワード演習 4、観光英検過去問1級
- 5.観光英語キーワード演習 5、観光英検過去問1級
- 6.観光英語キーワード演習 6、観光英検過去問1級
- 7.観光英語キーワード演習 7、観光英検過去問1級
- 8.観光英検過去問1級
- 9.観光英検過去問1級
- 10.観光英検過去問1級
- 11.観光英検過去問1級
- 12.観光英検過去問1級
- 13.観光英検過去問1級
- 14.観光英検過去問1級
- 15.観光英検過去問1級

授業の方法

実践演習問題、解説を中心に行う。

準備学修

予習として指定されたページを必ず仕上げておく。また常日頃、世界の国々の文化や歴史・地理に関連する書籍に目を通して知識を広めておく。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席 1 回につき、平常点から 2 点減点する。その他は学内の規定に準じる。

テキスト

全国語学ビジネス観光教育協会編『第35回観光英語検定試験 1 級解説書』。他にハンドアウトを配布する。

参考図書

山口百々男著 全国語学ビジネス観光教育協会編『観光のための中級英単語と用例―観光英検 2 級～1 級対応―』三修社

留意事項

観光英語検定試験 2 級取得者、および英語検定準1級/ 1 級取得者を対象とする。

現代人間学部 心理こども学科
専 門 科 目

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅰ	a		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
濱田 誠二郎	必修	2				

授業の到達目標

人は互いに影響しあって暮らしている。そこで、対人関係（家族、仲間、教師、保護者、組織）における自他の行動を、科学的に考え分析する。さらに、心理的援助者として必要な自己理解、カウンセリング技法、SST、ストレスマネジメント、アングーマネジメント等、子ども(人)を理解、支援するために役立つであろう技法の基本を習得する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）を養う。

授業の概要

益々価値観が複雑、多様化する現代社会において、保育・幼稚園・学校で課題となっている実際のケースを取り上げて、学校・園現場を含め、社会に出た時に即戦力となるテーマを見つけられるように支援する。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.ケーススタディーその1子ども
- 3.ケーススタディーその2子ども
- 4.ケーススタディーその3保護者等
- 5.ケーススタディーその4保護者等
- 6.共有するテーマの絞り込みその1
- 7.共有するテーマの絞り込みその2
- 8.各自が研究の方向性について報告・意見交換その1
- 9.各自が研究の方向性について報告・意見交換その2
- 10.kj法によるテーマ分類1 小表札討議
- 11.kj法によるテーマ分類2 中表札討議
- 12.グループ発表準備1
- 13.グループ発表準備2
- 14.発表会
- 15.総括

授業の方法

講義中心ではなく、学生同士が双方向の討議することもとり入れて、主体的に参加できるようにする。自分の意見を話し、相手の考えを聞くことから、自己受容、他者理解を深め、コミュニケーション能力を培う。

準備学修

日常生活で見聞きしたことに、自分なりの考えを持つ習慣を意識すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

必要に応じて紹介する

参考図書

必要に応じて紹介する

留意事項

自分の考えを整理する目的で、レポートの提出を求めることがある。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅰ	b		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
森 晴美	必修	2				

授業の到達目標

乳幼児教育に関する様々な理論の学習や教育実習他の経験を活かし、自分が興味関心をもったことについて、文献を活用して新たな知識と確かな情報を得る。また、発表することを通して、記録する力、伝える力などの表現力を高める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

課題の文献・資料を講読し、調査結果と考察をまとめて発表する。ディスカッションを経て新たな課題を見出すようにする。考察力や伝える力を高める一つの方法として、栽培活動や教材制作を行う。そして、自分の研究したい内容や方向性に見通しをもつようにする。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.自然体験に関する課題文献・資料の講読
- 3.文化体験に関する課題文献・資料の講読
- 4.子育て支援に関する課題文献・資料の講読
- 5.特別支援教育に関する課題文献・資料の講読
- 6.防災教育に関する課題文献・資料の講読
- 7.認定こども園、小規模保育園に関する課題文献・資料の講読
- 8.食育に関する課題文献・資料の講読
- 9.乳幼児期におけるESD
- 10.各自の興味関心ある内容の調査と発表①
- 11.各自の興味関心ある内容の調査と発表②
- 12.各自の興味関心ある内容の調査と発表③
- 13.各自の興味関心ある内容の調査と発表④
- 14.文献検索と主な研究方法
- 15.まとめ

授業の方法

講義とディスカッションを中心とする。毎回資料作成や発表、ディスカッションを通して、多面的な理解や気づきを得られるようにする。

準備学修

指示された課題レポートを作成し、討議資料としての準備をすること。ネット検索ではなく図書検索を行い、多方面からの理解に努めること。そのために授業計画に示した予習に2時間、復習に2時間を要する。

課題・評価方法

- ①課題レポートやリフレクションシート他の提出を毎回求め、授業内にフィードバックを行う。
- ②平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点の減点、遅刻1回につき2点の減点とする。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

必要に応じて提示、紹介する。

留意事項

自ら進んで課題研究に取り組み、提出物の期限を守ること。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	c		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中植 満美子	必修	2				

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、問題意識を持って具体的なデータに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

様々な心理臨床領域における心理学論文の研究事例を文献講読する。学生が各自、関連する文献を収集・要約・発表し、その研究方法や課題について話し合う中で、各自の卒業研究のテーマを見出す機会を設ける。要約文は各自毎回提出とする。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.全員での共通の文献講読 1
- 3.全員での共通の文献講読 2
- 4.全員での共通の文献講読 3
- 5.共同研究のためのリサーチの準備
- 6.リサーチ・結果の処理 1・データ入力
- 7.リサーチ・結果の処理 2・データ入力
- 8.リサーチ・結果の処理 3・データ入力
- 9.リサーチ・結果の処理 4・データ入力
- 10.リサーチ・結果の処理 5・データ入力
- 11.リサーチ・結果をまとめて各自で発表原稿を作成
- 12.共同研究の発表の準備
- 13.共同研究の発表の準備
- 14.共同研究の発表の準備
- 15.各自の興味のあるテーマについて発表

授業の方法

教材とする研究論文を熟読することで、研究論文のスタイルについて学ぶ。また、自分の関心のあるテーマや研究法を探しながら、要約文を作成し、発表することで、論文作成に必要な姿勢を身につける。

準備学修

できるだけ多くの関連するテーマについての文献や論文を普段から集めて目を通す習慣をつける。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

一回の欠席につき5点、遅刻は2点の減点とする。欠席が5回以上で不合格とする。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

必要に応じて提示、紹介する。

留意事項

要約文は毎回の授業で提出とする。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	d		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	必修	2				

授業の到達目標

絵本における「絵と言葉」の力に関する卒業研究を進めるために、文献や資料を読んで、意見交換を行う。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）の育成を目指す。

授業の概要

作家や絵本研究者が子どもたちに読ませたい本として紹介している絵本を取り上げて、作品世界の分析を行う。また、絵本の種類、読み聞かせの仕方、挿絵の読み方、作家の経歴等について学び、研究テーマの方向性を定めていく。

授業計画

- 1.受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、絵本の基本概念
- 2.世界の絵本の歩み
- 3.日本の絵本の歩み
- 4.現代の絵本（1）
- 5.現代の絵本（2）
- 6.文の機能と絵の機能
- 7.画面展開と描写の手法
- 8.絵本の表現
- 9.絵本の画材と技法
- 10.子どもの発達と絵本
- 11.赤ちゃん絵本、幼児絵本と絵本
- 12.小・中学生と絵本
- 13.障がい者と絵本
- 14.絵本の読み聞かせ、絵本の選び方
- 15.まとめ

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

テキストの指定ページを要約すること。絵本の作者や作品について調べたり、読み聞かせの練習をしたりすること。予習・復習、レポートの作成に計60時間以上費やすこと。

課題・評価方法

- ①レポートの提出（10回）について、担当教員による評価とアドバイスを行う。
- ②評価方法は平常点50%、定期試験50%とする。

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

生田美秋・石井光恵・藤本朝巳『ベーシック絵本入門』ミネルヴァ書房

参考図書

授業中に、随時紹介する。

留意事項

自分から進んで研究に取り組み、主体的に授業に臨むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅰ	e		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐原 信江	必修	2				

授業の到達目標

教育・保育について、文献を読んで協議したり、実技等の研修をしたりする中で、「幼児教育」の重要性を認識するとともに、研究の方法や方向性を見出していく。このクラスでは、K A I S E I パーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

幼児期にふさわしい園生活の展開等について学びながら、各自が関心のある事柄を模索していく。また、図書の読後感発表などを通して、卒業研究への具体的な方向性を定めていく。

授業計画

- オリエンテーション、演習の取り組み方
- 「幼児期の教育」について資料を読み協議する。
- 「幼稚園の園生活～四季を感じて～」①グループで教材を作成
- 「幼稚園の園生活～四季を感じて～」②グループで教材を作成
- 「幼稚園の園生活～四季を感じて～」③グループで発表し協議する。
- 「幼稚園の園生活～四季を感じて～」④グループで発表し協議する。
- 図書館の利用・情報検索について
- 幼児教育に関する文献を読んで協議する①
- 幼児教育に関する文献を読んで協議する②
- 幼児教育に関する文献を読んで協議する③
- 研究の意義と方法について①
- 研究の意義と方法について②
- 研究の意義と方法について③
- 研究の意義と方法について④
- まとめ・演習Ⅱに向かって

授業の方法

収集した資料や文献をもとに、書いてまとめる、協議する、発表するといった方法を取り入れ、特に文章表現力の向上に向けた授業とする。

準備学修

授業で活用する資料等は、事前に伝えるので、調査収集に努めること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する

参考図書

必要に応じて提示、紹介する

留意事項

主体的に授業に臨み、自分から進んで研究に取り組む気持ちを培うこと。
授業外、学外のボランティアや幼稚園行事に積極的に参加して学ぶように。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	a		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
濱田 誠二郎	必修	2				

授業の到達目標

科学的かつ客観的な視点で事象を判断できる能力を培う。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）を養う。

授業の概要

共同研究として、一つのテーマを多様な視点で見つめ、検証する。その中で、クリティカルシンキングの基本を習得することで、次年度の卒業研究において、客観的な根拠を示して他者に説明できるような能力を養う。

授業計画

- 演習Ⅱにおけるオリエンテーション
- 各自の興味関心を聞き合う。
- 各自の興味関心の集団討議
- 各自のテーマを分類し、共同研究テーマを設定する。
- 研究計画・文献・資料に関する指導 1
- 研究計画・文献・資料に関する指導 2
- 研究計画・文献・資料に関する指導 3
- 研究テーマの検討と討議 1
- 研究テーマの検討と討議 2
- 研究テーマの検討と討議 3
- 各自の研究進捗報告会 1
- 各自の研究進捗報告会 2
- 各自の研究進捗報告会 3
- 卒業研究に向けての質問会
- まとめ

授業の方法

グループ討議により自分のテーマを複数の視点から見つめなおしながら進める。

準備学修

先行研究のリサーチを行ったうえで研究テーマを絞り込む。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

必要に応じて紹介する。

参考図書

必要に応じて紹介する。

留意事項

ボランティア活動等でネットワークを広げ、さまざまな分野で生の声を調査できるようになることを期待する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	b		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
森 晴美	必修	2				

授業の到達目標

演習Ⅰで見出した各自の研究したい内容や方向性に基づいて、関連する文献や資料を収集し研究テーマを設定する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

各自が研究したい内容について、文献や資料を検索したり実習の記録をもとに調査を進めたりする。さらに、発表・討議を通して研究テーマを設定し、具体的な研究計画を立てるようにし、演習Ⅲへの見通しをもつ。

授業計画

1. 演習Ⅱの進め方について
2. 質問紙法について
3. 非構造的面接法について
4. 概念抽出までの手続き
5. 研究活動における倫理
6. 先行論文調査の発表と討議①
7. 先行論文調査の発表と討議②
8. 先行論文調査の発表と討議③
9. 研究マップ作成
10. 研究マップ発表
11. 仮研究テーマでのミニ論文発表①
12. 仮研究テーマでのミニ論文発表②
13. 仮研究テーマでのミニ論文発表③
14. 研究計画、研究方法の検討
15. まとめ

授業の方法

伝えやすく、分かりやすい資料作成をもとに、毎回発表し合う。ディスカッションにより、根拠や理由、原因や課題などを見出すようにし、互いの発表内容を高めていくようにする。

準備学修

「調べる」「まとめる」を主とした研究活動に丁寧に取り組むこと。ネット検索ではなく図書による調査を継続すること。そのた

め、準備学修として授業計画に示した予習に2時間、復習に2時間を要する。

課題・評価方法

- ①作成した資料の提出と発表を毎回実施し、そのフィードバックは授業内に行う。
②平常点70％、定期試験30％

欠席について

欠席1回につき5点の減点、遅刻1回につき2点の減点とする。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

『保育学研究倫理ガイドブック』（株フレーベル館）『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説書』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

留意事項

提出物は設定された期限までに提出すること。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	c		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中植 満美子	必修	2				

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

卒業研究の作成に向けての文献の収集・要約・調査などを行う。自分の研究テーマに関する先行研究を読解し、共同研究を通じて必要な研究法・手続きについて学び、最後に自分の研究テーマと研究計画の設定を試みる。要約文は毎回提出とする。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 共同研究発表の準備
3. 共同研究発表の準備
4. 共同研究発表の準備・反省会
5. 各自のリサーチ発表1
6. 各自のリサーチ発表2
7. 各自のリサーチ発表3
8. 研究法・手続きについての話し合い1
9. 研究法・手続きについての話し合い2
10. 各自のリサーチ発表4
11. 各自のリサーチ発表5
12. 各自の研究計画の立案と発表1
13. 各自の研究計画の立案と発表2
14. 卒業研究発表・質疑応答の練習
15. まとめ

授業の方法

共同研究の発表後、各自で論文のリサーチ・要約・発表を実施し、論文作成に必要な研究法や手続き、調査を実際に体験する。

準備学修

図書館などで、論文を検索し、集め、できるだけ多くの文献に目を

通す。また、必要な手続き（統計法など）を復習しておく。

課題・評価方法

平常点50％、定期試験50％

欠席について

一回につき、欠席で5点、遅刻で2点の減点とする。5回以上の欠席で不合格となる。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

必要に応じて提示、紹介する。

留意事項

論文の要約文は毎週提出とする。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	d		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	必修	2				

授業の到達目標

卒業研究のテーマを設定するために、児童文学作品に関する文献や資料を分析し、意見交換を行う。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）の育成を目指す。

授業の概要

様々なジャンルの絵本や、作家に関する文献・資料を収集する。登場人物の描かれ方、作家の生き方、作品の魅力等についての発表や討議を行う。このような取組を通して各自の研究テーマを設定し、研究計画を立案していく。

授業計画

1. 今後の研究の進め方について、絵本の種類
2. 創作(物語)絵本
3. 昔話絵本・童話絵本
4. ファンタジー絵本
5. ナンセンス絵本・パロディ絵本
6. 文字なし絵本
7. ことばの絵本・詩の絵本
8. 認識絵本・生活絵本
9. 科学絵本・写真絵本
10. 教材としての絵本
11. 仕掛け絵本
12. 名作絵本から学ぶ①
13. 名作絵本から学ぶ②
14. 名作絵本から学ぶ③
15. 研究の方向性とテーマ

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

テキストの指定ページを要約すること。絵本の作者や作品について調べたり、読み聞かせの練習をしたりすること。予習・復習、レポートの作成に計60時間以上費やすこと。

課題・評価方法

①レポート（提出10回）は、担当教員による評価とアドバイスをを行う。
②評価方法は平常点50%、定期試験50%とする。

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

演習Ⅰのテキストを継続して使用する。

参考図書

授業中に、随時紹介する。

留意事項

研究を進めるために必要な文献・資料を収集し、読んでおくこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	e		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐原 信江	必修	2				

授業の到達目標

討議を重ねて互いに学び合いながら、各自が研究したい内容について熟考する。そして研究テーマの方向性を確かなものにしていく。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とI(知性)を養う。

授業の概要

幼児教育における環境構成や教材研究を中心に学びながら、幼児教育の重要性を認識する。あわせて、各自の興味・関心に応じた研究テーマを見出せるように段階を追って授業を進める。

授業計画

1. 演習Ⅱの進め方について共通理解する。
2. 課題レポートの推敲をし、考察を深めて再作成する(1)
3. 課題レポートの推敲をし、考察を深めて再作成する(2)
4. 絵本をテーマに作ってみよう考えてみよう(1)
5. 絵本をテーマに作ってみよう考えてみよう(2)
6. 秋をテーマに保育を考えてみよう(1)
7. 秋をテーマに保育を考えてみよう(2)
8. 秋をテーマに保育を考えてみよう(3)
9. 秋をテーマに保育を考えてみよう(4)
10. 教育実習での学びを研究テーマに生かす(1)
11. 教育実習での学びを研究テーマに生かす(2)
12. 卒業研究に向けて見通しを立てる(1)
13. 卒業研究に向けて見通しを立てる(2)
14. 卒業研究に向けて見通しを立てる(3)
15. 演習Ⅱを振り返り、学びの確認をする

授業の方法

文献を読み考察しレポート作成を中心にしつつ、教材研究・教材作成・模擬保育などを取り入れて、主体的に学べるようにする。

準備学修

論文の検索を通して多くの論文から、研究とは何か、論文内容のいろいろなどを事前学修に努める。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回につき5点減点とし、遅刻は2点減点とする。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

必要に応じて提示、紹介する。

留意事項

主体的に授業に臨み、研究に自ら取り組むこと。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	a		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
濱田 誠二郎	必修	2				

授業の到達目標

漠然とした研究のテーマを先行文献や資料を読み深めることで、具現化する。仲間の研究過程を聞き合い、コミュニケーション能力も身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティーのⅠ（知性）A（自律）を育成する。

授業の概要

参考図書、先行文献、関連資料の収集から始めてそれらの考え方との類似、相違を模索しながら、発見と納得による研究を進める。

授業計画

- 1. テーマについて
- 2. 先行文献について知る
- 3. 先行文献の感想を発表し合う 1
- 4. 先行文献の感想を発表し合う 2
- 5. 問題と目的を明らかにする
- 6. 問題と目的について討議する 1
- 7. 問題と目的について討議する 2
- 8. 問題と目的について討議する 3
- 9. 問題と目的について討議する 4
- 10. 研究の方法を知る
- 11. 個々の研究方法を討議する 1
- 12. 個々の研究方法を討議する 2
- 13. 個々の研究方法を討議する 3
- 14. 個々の研究方法を討議する 4
- 15. 卒業研究のアウトラインを完成させる

授業の方法

学生相互で討議しながら、互いの考え方を客観的に捉えることができるようにする。

準備学修

テーマに関連するニュースや資料を、出典を明確にして収集すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

必要に応じて指示する

参考図書

必要に応じて指示する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	b		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
森 晴美	必修	2				

授業の到達目標

演習Ⅱで見出した研究テーマと研究計画に基づき、具体的な調査を通して、研究テーマに迫るための必要なデータの収集と分析を行い考察を深める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのA(自律)、I(知性)、E(倫理)を養う。

授業の概要

研究計画に沿って、先行文献調査と実地調査の両方を実施する。また、現場での適切な調査方法や分析方法について解説し、各自の調査を指導・支援する。調査結果についての発表や討議を踏まえ、今後の研究の見通しをもつようにする。

授業計画

- 1. 演習Ⅲの進め方について
- 2. 卒業研究・論文のまとめ方について
- 3. 研究対象と調査期間について
- 4. 研究方法と分析方法について
- 5. 調査の進捗報告と討議①
- 6. 調査の進捗報告と討議②
- 7. 各自の先行文献調査のまとめ①
- 8. 各自の先行文献調査のまとめ②
- 9. 「問題と目的」の発表・討議①
- 10. 「問題と目的」の発表・討議②
- 11. 「研究計画と研究方法」の発表・討議①
- 12. 「研究計画と研究方法」の発表・討議②
- 13. 仮説と今後の見通しについて発表・調整①
- 14. 仮説と今後の見通しについて発表・調整②
- 15. まとめ

授業の方法

各自の報告内容が授業の根幹となる。全体討議では積極的に自己の発表や他者への発言を行い学び合う姿勢を重視する。互いに研究推進へのよい刺激を受け、研究意欲と研究内容を高め合うようにする。

準備学修

現場での調査や数々のデータ収集など自己の研究テーマに迫るため、主体的に行動すること。その結果を毎回発表し、データの整理を資料としてまとめておくこと。そのため、準備学修として授業計画表に示した予習に2時間、復習に2時間を要する。

課題・評価方法

①作成した資料の提出と発表を毎回実施し、そのフィードバックは授業内に行う。②平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点とする。

テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

各自で研究推進への確かな目標をもち、計画的に進めること。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	c		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中植 満美子	必修	2				

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

卒業研究の作成に向けて文献の収集、講読、要約、発表、討議を行う。各自が自分の研究テーマに関する先行研究を読解し、紹介する機会を通じて、自分の研究テーマと研究計画を作成する。心理学研究方法や分析の方法についても復習する。

授業計画

- オリエンテーション
- リサーチ・発表・ディスカッション1
- リサーチ2
- リサーチ3
- リサーチ4
- 各自の研究の問題と目的について設定・発表
- 各自の研究の研究法、調査、手続きについて進行報告、ディスカッション1
- 進行報告2
- 進行報告3
- 調査報告1
- 調査報告2
- 調査報告3
- 結果のまとめ方について1
- 結果のまとめ方について2
- 結果のまとめ方について3

授業の方法

文献研究、要約、発表、研究計画の作成、ディスカッション、研究法・手続きの理解、調査の実施。

準備学修

調査、研究に必要な文献を熟読しておく。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

一回の欠席で5点、遅刻で2点の減点とする。欠席5回で不合格とする。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

必要に応じて提示、紹介する。

留意事項

要約文や発表レジュメは毎週提出とする。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	d		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	必修	2				

授業の到達目標

演習Ⅰ・Ⅱで取り組んだ内容からテーマを決定し、卒業研究を作成する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）の育成を目指す。

授業の概要

研究テーマに沿って提出までの計画を立て、必要な文献や資料の収集に自主的に取り組み、卒業研究を進めていく。

授業計画

- 演習の進め方
- 卒業研究のテーマ
- 研究発表と討議①
- 研究発表と討議②
- 研究発表と討議③
- 研究発表と討議④
- 研究発表と討議⑤
- 研究発表と討議⑥
- 研究発表と討議⑦
- 研究発表と討議⑧
- 研究の進め方①
- 研究の進め方②
- 研究の進め方③
- 研究の進め方④
- まとめと今後の取組

授業の方法

自分と他者の考えを比較・検討し、討議することを重視する。

準備学修

研究テーマに沿って作家や作品について調べ、レポートを作成すること。予習・復習、レポートの作成に計60時間以上費やすこと。

課題・評価方法

①レポート（提出12回）は、担当教員による評価とアドバイスをを行う。

②評価方法は平常点50%、定期試験50%とする。

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

研究テーマを念頭に置いて、文献・資料を自主的に収集すること。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	e		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐原 信江	必修	2				

授業の到達目標

演習Ⅰ・Ⅱの成果を踏まえてテーマを確定し、研究計画を立案して卒業研究を進めていく。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を育成する。

授業の概要

研究計画をもとに、文献や資料等の収集と読書に努め、研究テーマに沿って、主体的に研究を進めていく。また互いの研究文をもとに協議し、考察を深められるようにする。

授業計画

1. 研究テーマと研究方法の確認(1)
2. 研究テーマと研究方法の確認(2)
3. 研究計画の立案(1)
4. 研究計画の立案(2)
5. 各自の研究内容について発表とディスカッション(1)
6. 各自の研究内容について発表とディスカッション(2)
7. 各自の研究内容について発表とディスカッション(3)
8. 各自の研究内容について発表とディスカッション(4)
9. 各自の研究内容について発表とディスカッション(5)
10. 研究の進捗状況について報告(1)
11. 研究の進捗状況について報告(2)
12. 研究の進捗状況について報告(3)
13. 研究の進捗状況について報告(4)
14. まとめと今後の展望(1)
15. まとめと今後の展望(2)

授業の方法

研究内容や取組み状況の報告・発表を通して、討議しあうことを中心とする。

準備学修

文献や資料を熟読して授業に臨むこと。

課題・評価方法

その他

欠席について

欠席1回につき5点減点とし、遅刻は2点減点とする。

参考図書

「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説書」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

留意事項

研究テーマに関する文献や資料を主体的に収集すること。発表当日は必ず資料を持参すること。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	a		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
濱田 誠二郎	必修	2				

授業の到達目標

自分のこだわり・気がかりを大切にテーマを決める。そのテーマにそって研究を続けながら文章表現の力もつける。それらの成果を卒業研究としてまとめる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）A（自律）を育成する。

授業の概要

個々のテーマに即してディスカッションを多く採り入れて指導する。さらに、正確な情報を選択、採用する資質能力を養い卒業研究を完成させる。

授業計画

1. 卒業研究の概略説明
2. 卒業研究の計画・作成の確認
3. 卒業研究の報告と討議 1
4. 卒業研究の報告と討議 2
5. 卒業研究の報告と討議 3
6. 卒業研究の報告と討議 4
7. 卒業研究の報告と討議 5
8. 卒業研究の報告と討議 6
9. 卒業研究の報告と討議 7
10. 卒業研究の報告と討議 8
11. 卒業研究の報告と討議 9
12. 論文推敲 1
13. 論文推敲 2
14. 最終報告と討議
15. まとめ

授業の方法

学生同士で論文の方向性や課題を発表し合い、コミュニケーション能力を高める手立てとする。

準備学修

選考文献を多く収集し、熟読すること

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

個々に応じて指示する

参考図書

個々に応じて推薦する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	b		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
森 晴美	必修	2				

授業の到達目標

演習Ⅲに引き続き、具体的な調査結果に基づき考察を繰り返し、卒業研究としてまとめる。様々な視点から研究を見直すことや見解の違いを受け入れ、改善に向けて努力するなど自己の研究内容を高めるようにする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)A(自律)I(知性)E(倫理)に重点を置く。

授業の概要

各自の調査における分析結果を発表・討議する。他者の考え方や見方、分析結果の読み取り方に触れることで考察をより深めるようにする。

授業計画

1. 分析結果報告・仮説の検証①
2. 分析結果報告・仮説の検証②
3. 分析結果と考察①
4. 分析結果と考察②
5. 分析結果と考察③
6. 分析結果と考察④
7. 分析結果と考察⑤
8. 研究のまとめと総合考察①
9. 研究のまとめと総合考察②
10. 今後の課題について
11. 分析結果一覧表の作成
12. 卒業研究の校正①
13. 卒業研究の校正②
14. 最終報告とまとめ①
15. 最終報告とまとめ②

授業の方法

各自の調査結果報告とその読み取りに関して、個人やグループでの発表・討議を通して考察を深める。

準備学修

調査結果を適切な図表にまとめ、資料として発表にいかす。そのため、毎回予習や資料整理に2時間、復習に2時間以上を要する。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%。作成した資料の提出と発表を毎回実施し、そのフィードバックは授業内に行う。

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点する。

テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

口頭試問まで主体的に取り組み、研究に対する意識と責任感を持ち続けるようにすること。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	c		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中植 満美子	必修	2				

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とA(自律)とI(知性)とE(倫理)とを養う。

授業の概要

卒業研究作成のために、全体指導と個別指導を実施する。研究経過の発表や討議を重ねながら、卒業研究を完成させる。

授業計画

1. 調査結果のまとめ方1
2. 調査結果のまとめ方2
3. 調査結果のまとめ方3
4. 結果報告1
5. 結果報告2
6. 結果報告3
7. 結果報告4
8. まとめと考察1
9. まとめと考察2
10. まとめと考察3
11. 研究の修正・発表1
12. 研究の修正・発表2
13. 研究の修正・発表3
14. 各自の最終報告とまとめ1
15. 各自の最終報告とまとめ2

授業の方法

卒業研究の進捗状況の報告、プレゼンテーションと質疑応答が中心となる。

準備学修

秋学期開始までに調査を実施し、結果を簡単にまとめておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回の欠席で5点、遅刻で2点の減点とする。欠席が5回以上で不合格となる。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

必要に応じて提示、紹介する。

留意事項

心理統計法を受講していることが望ましい。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	d		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	必修	2				

授業の到達目標

各自の研究テーマに沿って文章を作成・推敲し、卒業研究を完成する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）の育成を目指す。

授業の概要

卒業研究を進めるために、全体指導や個別指導を行う。研究経過の発表や討議を重ねながら、卒業研究を完成していく。

授業計画

- 1.今後の卒業研究の進め方
- 2.卒業研究の発表と討議①
- 3.卒業研究の発表と討議②
- 4.卒業研究の発表と討議③
- 5.卒業研究の発表と討議④
- 6.卒業研究の発表と討議⑤
- 7.卒業研究の発表と討議⑥
- 8.卒業研究の発表と討議⑦
- 9.卒業研究の発表と討議⑧
- 10.卒業研究の発表と討議⑨
- 11.卒業研究の推敲①
- 12.卒業研究の推敲②
- 13.卒業研究の内容報告と討議①
- 14.卒業研究の内容報告と討議②
- 15.まとめ

授業の方法

自分と他者の考えを比較・検討し、討議することを重視する。

準備学修

研究テーマに沿って作家や作品について調べ、レポートを作成すること。予習・復習、レポート作成に計60時間以上費やすこと。

課題・評価方法

- ①各回提出のレポートは、担当教員による評価とアドバイスをを行う。

②評価方法は平常点50%、定期試験50%とする。

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

参考図書

研究テーマに沿った文献を適宜紹介する。

留意事項

自主的に卒業研究に取り組むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	e		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐原 信江	必修	2				

授業の到達目標

テーマを深く掘り下げて研究を進め、その成果を卒業研究としてまとめる。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

研究テーマに沿って文献や資料の分析を行い、それをもとに報告と考察を繰り返しながら、研究内容を作成・完成していく。

授業計画

- 1.研究の進捗状況の確認(1)
- 2.研究の進捗状況の確認(1)
- 3.研究の進捗状況の確認(1)
- 4.研究の報告と討議(1)
- 5.研究の報告と討議(2)
- 6.研究の報告と討議(3)
- 7.研究の報告と討議(4)
- 8.研究の報告と討議(5)
- 9.研究の報告と討議(6)
- 10.研究の報告と討議(7)
- 11.研究の修正とまとめ(1)
- 12.研究の修正とまとめ(1)
- 13.研究の修正とまとめ(1)
- 14.最終報告とまとめ
- 15.最終報告とまとめ

授業の方法

各自の報告と全体討議とともに、個別指導を取り入れて授業を進める。

準備学修

図書館での文献収集やPCでの情報検索に努めること。

課題・評価方法

その他

欠席について

1回の欠席につき5点減点とし、遅刻は2点の減点とする。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「保育所保育指針解説書」フレーベル館

留意事項

自ら責任をもって計画的に取り組むこと。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門基礎科目〈専門基礎科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
発達心理学			17201	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
濱田 誠二郎	必修	2				

授業の到達目標

人間の心身の発達と行動を、完成されたものとして丹念に記述するだけでなく、それが現状に至る経緯を跡付けるとともに、現在も変化あるものとしてそれを捉え、その形成を実践の中で支援することができる視点を育成する。

このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

本講義では、人間の心というもの他者を含む環境との相互的かわりを通して発達していくことを、精神活動の成立と展開についての初期経験の重要性、生涯発達という視点の大切さに触れながら、各時期における具体的な保育・教育実践の課題と関連付けて解説しゆく。

授業計画

1. 精神機能を発生的に把握すること:生物としての発生
2. 精神機能を発生的に把握すること:遺伝と環境
3. 発達段階論とPiagetの発達理論の成立
4. 知的精神機能の発達:感覚運動期1(新生児期)
5. 知的精神機能の発達:感覚運動期2(乳幼児期)
6. 知的精神機能の発達:前操作期1(幼児期)
7. 知的精神機能の発達:前操作期2(幼児期)
8. 知的精神機能の発達:具体的操作期(学童期)
9. 知的精神機能の発達:形式的操作期(学童期・青年期以降)
10. 初期経験と発達:野生児の例から
11. 対人関係と発達:愛着、社会性、遊びの発達
12. 対人関係の発達:コミュニケーション能力の発達
13. 発達研究における生態学的視点
14. 発達における障害の位置づけと診断・療育
15. 人格としての生涯発達およびまとめ

授業の方法

講義と単元内容に相応した発達に関連する課題に毎時間回答しながら学習を進める。

準備学修

講義は各回が前回を前提として進められるので、毎回の講義内容をよく復習して授業に臨むようにしてください。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

1回の欠席につき3点の減点とし、欠席5回以上で不合格とする。

テキスト

坂上裕子他 問いからはじまる発達心理学 有斐閣ストゥディア

参考図書

佐藤真子編 『人間関係の発達心理学 2 乳幼児期の人間関係』 培風館
川島一夫、渡辺弥生編著 『図で理解する発達—新しい発達心理学への招待—』 福村出版 2010

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門基礎科目〈専門基礎科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容総論			17205	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐原 信江	必修	2				

授業の到達目標

幼児期の教育・保育及び保育者の役割などについて、基礎的・総括的な学びを積む。この科目ではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を読み解きながら、保育内容・子ども理解・教師の役割・保護者との連携などについて、段階を追って学修を進め、指導実践力の基礎作りをしていく。

授業計画

1. 保育の基本① 幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園等について
2. 保育の基本② 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の重要性について
3. 保育内容の歴史の変遷
4. 子どもの発達の特徴
5. 環境を通して行う教育・遊びを通しての総合的な指導
6. 養護と教育・乳児保育・長時間保育
7. 保育内容(5つの領域、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿)
8. 遊んでみよう(1)歌って手遊び(教材研究)
9. 遊んでみよう(2)歌って手遊び(教材研究)
10. 遊んでみよう(3)歌って手遊び(グループ発表)
11. 保育の展開(1)発達や学びの連続性・小学校教育との円滑な接続
12. 保育の展開(2)保護者との連携・家庭生活との連続性
13. 保育の展開(3)子育ての支援・多文化共生の保育
14. 保育の展開(4)特別な支援を必要とする子どもの保育
15. 乳幼児期の保育・教育についてのまとめ

授業の方法

講義を中心とするが、ワークやグループディスカッションなどを多く取り入れる。

準備学修

「幼稚園教育要領解説」等を読み、内容はもちろん保育・教育に関

する用語の把握に努めること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点減点

テキスト

「あそびうた大全集200」(永岡書店)

参考図書

「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説書」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」
幼稚園教育指導資料 第5集「指導と評価に生かす記録」(チャイルド社)
「ようちえん あしたもいききたいな」(全国公立幼稚園長会)

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
感情・人格心理学			17311	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
吉村 友子	選択	2				

授業の到達目標

心理学の様々な理論、人格の形成要因や発達過程、感情が行動におよぼす影響、心の病などの視点から人格とは何かを学び、人間の個別性を理解することで人間の心に関する理解を深める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を学ぶ。

授業の概要

人間の行動の仕方には個人差があることから人格という言葉が生まれた。その複雑な個人差を測定する方法を知るとともに、人格の形成過程や人格理論、さらには不適応の問題についても学び、自己と他者のより深い理解をめざす。

授業計画

- 1.はじめに:人格の定義と歴史
- 2.人格を理解する視点と理論Ⅰ:理論
- 3.人格を理解する視点と理論Ⅱ:類型論
- 4.人格を理解する視点を理論Ⅲ:特性論
- 5.人格の発達Ⅰ:人格形成の要因
- 6.人格の発達Ⅱ:ライフサイクル
- 7.人格と関係性
- 8.適正とは
- 9.人格の傷つき
- 10.心理査定:風景構成法
- 11.心理査定:バウムテスト
- 12.心理査定:TEGⅡ
- 13.感情に関する理論および感情喚起の機序
- 14.感情が行動に及ぼす影響
- 15.総括

授業の方法

講義とグループワークを中心とする。また、適宜心理検査を実施する。

準備学修

授業後の復習が必要である。

課題・評価方法

定期試験(50%)、小レポート(20%)、出席状況(15%)、授業後の感想レポート(15%)

欠席について

欠席が5回以上で不合格とする。

テキスト

適宜配布する。

参考図書

詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊『性格心理学への招待 自分を知り他者を理解するために』サイエンス社

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
感情心理学			17317	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
濱田 誠二郎	選択	2				

授業の到達目標

人間が集団生活する上での「感情」の発達や反応を理解することは、協働や相互理解を深化させることに有益である。これらを踏まえ、対人専門職の基礎基本を身につける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

感情と認知、感情と脳の働きを切り口にして、対人専門職をめざす人の基礎を養う。感情は人間関係づくりににおいて大きな役割を果たす分野である。自己を知ることから始め、他者を理解しようとする意欲を高める。

授業計画

- 1.感情心理学とは
- 2.心理学における感情の定義
- 3.感情と表情
- 4.感情を作り出す脳のメカニズム
- 5.社会や文化によって影響を受ける感情のしくみ
- 6.感情がどのように行動を選択するのか
- 7.安全と生存にかかわる感情 不安、恐怖のしくみと解放
- 8.意図的な感情制御と心理療法の活用
- 9.感情一致効果
- 10.感情と自己特にうつ傾向と若者に多い新型うつについて
- 11.感情と言語その1感情経験と「ことば」
- 12.感情と言語その2独り言やつぶやきの役割
- 13.感情と言語その3感情経験を共有すること
- 14.感情と言語その4感情経験を文字にする
- 15.感情と病理

授業の方法

講義を主とするが、双方向の討議も取り入れて受講者が主体的に参加できる形式もとり入れる。

準備学修

現代社会でおこる家族・親しい関係間での事件に関連する「感情」に関心を持つ。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内の規定に準ずる

テキスト

福井康之著 感情の心理学 川島書店

参考図書

授業時に紹介する

留意事項

自分の考えを持ち、表現しようとする努力を望む

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人格発達心理学			17321	Ⅱ	集	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中植 満美子	選択	2				

授業の到達目標

人格の発達にとって、年齢によって変化する身体と社会的な諸関係、文化というものが重要な役割を果たすことについて、各発達段階ごとの課題や危機の理解をふまえた説明ができることを目標とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とS（奉仕）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

人間の心理的発達の特殊性は、文化を担った社会的環境の中で他者との関係を築き上げながら変化していくことにあると考えられる。また、その変化は、具体的な身体を有する人間と人間との各時期に応じた葛藤をはらんで展開するものであると考えられる。本講義では、主に精神の情動的側面の意義についての考察をふまえ、エリクソンの人格発達理論に依拠しながら、他者との関係性の発達としての人格発達について論じてゆく。

授業計画

- 1.オリエンテーション 人間の発達における情動のもつ本質的役割
- 2.人格発達における対人関係の葛藤とその克服の意義
- 3.自他未分化の世界における信頼関係:自己を映し出す鏡としての他者
- 4.活動における自立性と自我の発生:自我の芽生えと対人的葛藤
- 5.社会的役割関係への関心:幼児期における親世代との葛藤
- 6.人格発達の躰き1(乳幼児期)
- 7.規範性の世界への参入:学童期の同世代の仲間関係の中での自己
- 8.自我同一性と同一性拡散:「私とは何か」という問いと進路選択
- 9.人格発達の躰き2(学童期・青年期)
- 10.成人他者との社会的関係の維持・発展:生活の共有関係における自己実現と妥協
- 11.次世代(子ども)との安定した関係の構築:次世代を育てる関係の維持
- 12.喪失体験と死を前にした人生の統合:過去経験の統合と受容
- 13.人格発達の躰き3(成人期・老年期)
- 14.人格発達を背後で支える自然・社会環境について
- 15.まとめ

授業の方法

講義と単元内容に相応した、人間関係の様式やその危機に関する作業課題に毎回の授業で回答しながら学習をすすめる。

準備学修

発達の変化に着目できるように、前回の講義内容をよく念頭に入れて受講するようにしてください。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

集中講義のため、遅刻、欠席は認められない。

テキスト

必要な文献は適宜紹介する。

参考図書

戸田まり・サトウタツヤ・伊藤美奈子 共著『グラフィック性格心理学』サイエンス社エリクソン,E.H. 『幼児期と社会 I、II』みすず書房

留意事項

講義内容を理解してゆく前提として、「発達心理学」を受講しておくことが望ましい。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
臨床心理学			17325	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
津田 明子	選択	2				

授業の到達目標

臨床心理学の誕生から現在までの歴史の変遷を概観し、臨床心理学の中核を成す人格理論・発達理論について学習する。その上で、臨床心理学の実践としての心理アセスメントと基本的な心理療法について学ぶ。そして最終的に、臨床心理学的に人間を理解するという視点を獲得する事を目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）について考える。

授業の概要

本講義では、臨床心理学の歴史の変遷を概観し、その発展を支え、臨床心理学の基礎となった代表的な学者の考え方（人格理論・精神発達理論）を中心に解説していく。また、実際の臨床場面において使われている心理アセスメントや代表的な心理療法についても紹介していく。そして、最終的に臨床心理学的観点から人間を理解することについて考えてもらう。

授業計画

- 1.臨床心理学とは
- 2.臨床心理学の歴史
- 3.こころのしくみとパーソナリティ①フロイトの考え方
- 4.こころのしくみとパーソナリティ②ユングの考え方
- 5.こころの発達理論①エリクソンの考え方
- 6.こころの発達理論②クラインの考え方
- 7.こころの発達理論③マラーの考え方
- 8.こころの発達理論④ウイニコットの考え方
- 9.臨床心理学の実践ー心理アセスメントについて
- 10.臨床心理学の実践ー心理療法とは
- 11.心理療法①精神分析療法・分析心理学派
- 12.心理療法②クライエント中心療法
- 13.心理療法③森田療法・内観療法・遊戯療法
- 14.心理療法④芸術療法・認知行動療法・家族療法
- 15.総括

授業の方法

講義を中心に進めていくが、授業時間中にわからなかったところを確認するために、感想レポートなどの提出も適宜課していく。

準備学修

授業開始までに臨床心理学に関係すると思われる書籍で関心のあるものを1冊以上読んでおくこと。授業開始後は、適宜そのテーマにあった書籍を参考資料として紹介していく。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

実習などの特別な欠席を除き、1回の欠席につき、2点を減点する。

テキスト

特に決まったテキストは用いない。

参考図書

授業の中でその都度紹介する。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
認知心理学			17329	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中植 満美子	選択	2				

授業の到達目標

人間が身体と心を動員して環境に臨むなかで、それを知覚し、判断し、行動するシステムが機能することを、その成り立ちとともに解説し、人間が「環境内存在」であることの理解を深める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

見る、聞く、触れる、思考する、記憶するという人間の基本的な精神機能は、常に主体と環境との連続した循環的な反応の環のなかで実現している。人間が能動的かつ協同的な存在であるがゆえに、これらの基本的な機能は実現されているということを、心理学的システムとして理解し、その成り立ちについて、進化心理学的あるいは発生心理学的な視点から考察してゆく。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.人間の知覚的特性:視覚
- 3.人間の知覚的特性:聴覚
- 4.人間の知覚的特性:運動感覚と認知
- 5.人間の知覚的特性:空間知覚
- 6.注意と記憶1
- 7.注意と記憶2
- 8.イメージ処理
- 9.言語と談話理解1
- 10.言語と談話理解2
- 11.推論と問題解決
- 12.思考と言語1
- 13.思考と言語2
- 14.社会的認知
- 15.まとめ

授業の方法

講義と単元内容に相当した、感覚、知覚、文章記憶、意味表象、物語認知、出来事認知、日常の問題解決などについての課題に毎時間回答しながら学習をすすめる。

準備学修

心理学概論で学んだ感覚、知覚、記憶、思考などの基本的な概念をよく理解しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

一回の欠席で3点、遅刻で2点の減点とし、5回以上の欠席は不合格とする。

テキスト

必要な文献は適宜紹介する。

参考図書

末田啓二 編著 『心理学の最先端』2013 あいり出版 他適宜紹介する。

留意事項

毎週実験を実施するため、欠席した場合は補習等を受けること。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理統計学			17337	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
須崎 暁世	選択	2				

授業の到達目標

統計の基本的な技法とその考え方を、心理学的な領域のデータを扱いながら、自ら活用できるような力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

心理学研究の解析手法を支える統計学について、その理論的な意味について解説する。講義は、できる限り具体的なデータを扱いながら、記述統計から推測統計まで、処理プロセスと統計手法、個々の概念について学ぶ。

授業計画

- 1.データの性質について:変数と尺度水準
- 2.データの性質について:尺度水準と変数変換
- 3.データの表現:棒グラフやヒストグラムの作成
- 4.代表値(平均値など)と散布度
- 5.標準化とは何か
- 6.相関係数とは何か:散布図・共分散
- 7.相関係数とは何か:二つの変数の関係
- 8.標本と母集団①
- 9.標本と母集団②
- 10.統計的仮説検定の考え方①
- 11.統計的仮説検定の考え方②
- 12.ノンパラメトリックな検定:カイ二乗検定
- 13.平均値の差の検定:t検定
- 14.データの分散と条件の比較:分散分析の読み取り方
- 15.まとめ

授業の方法

講義と単元内容と相応した、確率、変数の性質、データ分布、代表値、散布度、標準化、相関係数、カイ二乗検定、t検定など具体的な計算や検定作業を行いながら、レジメを用いて学習を進める。

準備学修

事前に記述統計の基本について、復習しておくこと。授業ごとに、教科書とレジメを読み込み、毎日20分程度、予習・復習すること。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

通常欠席は5回を超えると不合格とする。遅刻・早退は減点する。特例欠席において、補填を希望する場合には、必ずその旨を申し出る事。

テキスト

山田剛史・村井潤一郎 2004 よくわかる心理統計 ミネルヴァ書房

参考図書

石村貞夫 1993 すぐわかる統計解析 東京図書
吉村寿夫 1998 本当にわかりやすいごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本 北大路書房
田中敏・山際勇一郎 1992 ユーザーのための教育心理統計と実験計画法 教育出版
南原風朝和 2002 心理統計学の基礎 有斐閣

留意事項

本講義では「統計学入門」を履修しておくことを前提として進める。講義では電卓を使用することがあるので準備しておくこと。授業は教科書にそって進めるため、教科書を購入すること。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学基礎実験			17341	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中園 佐恵子	選択	2				

授業の到達目標

心理学研究のとりわけ実験的な手法について、問題と目的の設定、実験計画の方法、実験手続き、結果の処理、考察にいたるまでのプロセスを学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自律）を養う。

授業の概要

知覚から動機までの広い範囲にわたる基礎的な実験心理学の課題に、学生各自が実験者・被験者となって取り組みながら、その手法を学んでいく。各実験毎にレポートを課す。各実験とレポートの書き方、説明とがワンセットになっているので、いずれか一方を欠席するとレポートは書けないことになるので注意すること。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.知覚1 ― ミューラー・リヤー錯覚
- 3.知覚2 ― ミューラー・リヤー錯覚
- 4.認知・学習1―鏡映描写
- 5.認知・学習2―鏡映描写
- 6.レポートに関するコメント(1)
- 7.記憶と忘却1
- 8.記憶と忘却2
- 9.要求水準1
- 10.要求水準2
- 11.情報伝達1
- 12.情報伝達2
- 13.レポートに関するコメント(2)
- 14.イメージ測定
- 15.総合レポートの作成

授業の方法

主に実習（実験）形式で行う。

準備学修

平均値の求め方を復習しておく。レポートの書き方に慣れておく。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

2週で1セットになっているので、いずれか一方を欠席するとレポートが書けないことになる。

テキスト

なし

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

結果の処理にあたり、各自電算機を用意しておくこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理検査法実習			17343	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中植 満美子	選択	2				

授業の到達目標

基本的な心理検査法を通じて自己分析し、自己理解につなげる。また、子ども理解を深める為に、子どもの発達状況を捉える発達検査や知能検査について知り、実施方法を学ぶことを目的とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

基本的な心理検査・発達検査・知能検査等を、検査者・被験者の両方の立場で体験し、検査の背景・実施方法・検査結果のまとめ方を学び、身に付ける。課題ごとに検査結果の所見をレポートにして提出する。

授業計画

- 1.はじめに：心理検査法概論
- 2.東大式エゴグラム TEG
- 3.矢田部・ギルフォード性格検査
- 4.コーネルメディカルインデックス CMI
- 5.BIG FIVE 尺度
- 6.津守・稲毛式乳幼児発達診断
- 7.津守・稲毛式乳幼児発達診断
- 8.遠城寺式乳幼児分析的発達診断検査
- 9.新版K式発達検査①
- 10.新版K式発達検査②
- 11.新版K式発達検査③
- 12.WISC知能検査①
- 13.WISC知能検査②
- 14.WISC知能検査③
- 15.総括

授業の方法

主に実習形式で行い、検査結果の所見をレポートで提出させる。

準備学修

授業前に各心理検査についての基礎知識を得ておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

実習なので、基本欠席は認めない。

テキスト

その都度紹介する。

参考図書

その都度紹介する。

留意事項

検査についての事前学習・事後学習を行い、理解を深めること。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理調査・データ処理法			17345	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
須崎 暁世	選択	2				

授業の到達目標

心理学における研究方法、特に調査法の基本的な考え方を理解するとともに、それを実際に実施し、得られたデータを統計的な解析に持ち込み、評価できるまでの心理統計的な技法と理論を活用する力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

心理学における研究方法、とりわけ調査法について、統計的な手法を用いたデータ解析を取り入れた研究方法について学ぶ。論文などの具体的な調査を参考にしつつ、調査の実施法を、問題の設定、質問紙等の作成から、データの収集の方法、統計解析手法、結果の解釈、結果の表現にいたるまでのプロセスを実践的に学んでゆく。また、その際に必要な研究倫理についても学ぶ。

授業計画

1. 調査研究の方法:実験法・観察法との比較 1
2. 調査研究の方法:実験法・観察法との比較 2
3. 調査研究の方法:面接調査法・検査法との比較
4. 質問紙作成の基礎
5. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:調査の実施法 1
6. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:調査の実施法 2
7. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:調査結果の集計とデータ表現
8. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:心理尺度の作成 1
9. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:心理尺度の作成 2
10. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:心理尺度の作成 3
11. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:応用 1
12. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:応用 2
13. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:応用 3
14. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:応用 4
15. まとめ

授業の方法

講義と単元内容に相応した、質問紙の作成、調査の実施、統計などの具体的な手順をレジメ等の資料を基に学びながら、学習を進める。

準備学修

事前に心理統計学の基本的な用語や計算手法を復習しておくこと。授業ごとに、教科書とレジメを読み込み、毎日20分程度、予習・復習すること。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

通常欠席が5回を超えると不合格とする。遅刻・早退は減点する。特例欠席において、補填を希望する場合には、必ずその旨を申し出る事。

テキスト

鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤 1998 心理学マニュアル質問紙法 北大路書房

参考図書

田中敏・山際勇一郎 1992 ユーザーのための教育心理統計と実験計画法 教育出版
宮本聡介・字井美代子編 2014 質問紙調査と心理測定尺度―計画から実施・解析まで― 株式会社サイエンス社

留意事項

この講義を受講する学生は「情報リテラシーⅡ」「統計学入門」および「心理統計学」についても受講すること。授業は教科書にそって進めるため、教科書を購入すること。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人格発達障害論			17361	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中植 満美子	選択	2				

授業の到達目標

人格形成に影響を与える諸要因について学び、他者理解や自己理解、そして自己成長の手がかりとなる知識を得る。人格理論を学びながら、よりよい人間関係を築くための思いやりの心や共感性を養う。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

人格の発達の諸理論と、人格形成に影響を与える要因について、また、人格の成長を阻害する要因と、人格の障害とはどのようなことであるかについて理解を深める。また心理査定や心理療法の事例を通じて、「自分」や「他者」のこころを理解し、人格心理学の知識を今後の人生や社会生活の中で活かしていけるように、演習等を交えながら、体験的に知識を身につける方法を学ぶ。

授業計画

1. 人格とは
2. 人格を知る方法(心理テスト)
3. 人格の発達について 1
4. 人格の発達について 2
5. 人格の発達について 3
6. 人格形成に影響を与える要因について 1
7. 人格形成に影響を与える要因について 2
8. 人格の成長を阻害する要因について 1
9. 人格の成長を阻害する要因について 2
10. こどもの心の問題
11. 問題行動と性格
12. 不適応と病理(演習) 1
13. 不適応と病理(演習) 2
14. 不適応と病理(演習) 3
15. 不適応と病理(演習) 4

授業の方法

人格理論を復習後、心理査定の各自の結果と事例報告とを比較検討する。人格に影響する要因について実際のケース報告を元に討議する。人格の病理について演習を実施する。

準備学修

演習で与えられるテーマについて可能な限り多くの文献に目を通しておく。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

一回の欠席で3点、遅刻で2点の減点とし、5回以上の欠席は不合格とする。

テキスト

適宜紹介する。

参考図書

鈴木乙史・佐々木正弘著 『人格心理学―パーソナリティと心の構造―』 2006 河出書房新社

留意事項

講義内で紹介された文献、文学作品、映像作品について、各自で確認しておく。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
臨床心理学実習 1（心理テスト法）			17373	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中植 満美子	選択	1				

授業の到達目標

心理臨床現場（保健所、児童相談所、病院など）における幼児期の発達状況を捉え発達検査や心理判定の際に役立つ基本的な心理検査について知り、身につけることを目標とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

各心理検査の意図を理解し、各心理検査において検査場面を想定したロールプレイを行い、検査者と被検者のそれぞれを体験し、検査の実施方法や検査結果のまとめ方を学び、身につける。課題ごとに検査結果の所見をレポートにして提出する。

授業計画

1. はじめに：心理テスト概論
2. 心理検査法実習の復習
3. PFスタディ①
4. PFスタディ②
5. 文章完成法 SCT
6. 内田クレペリン作業検査
7. 新版K式発達検査④
8. 新版K式発達検査⑤
9. WISC知能検査④
10. WISC知能検査⑤
11. バウムテスト
12. 風景構成法
13. スクィグル法
14. 箱庭療法①
15. 箱庭療法②・総括

授業の方法

主に実習形式で行い、検査結果の所見をレポートで提出させる。

準備学修

授業前に各心理検査についての基礎知識を得ておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

実習なので、基本欠席は認めない。

テキスト

その都度紹介する。

参考図書

その都度紹介する。

留意事項

レポート課題の提出は、実習の翌週とする。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
臨床心理学実習 2（カウンセリング法）			17377	Ⅲ	秋	18
担当者名	区分	単位	特記事項			
津田 明子	選択	1				

授業の到達目標

授業の中でさまざまな実習を体験し、そこからカウンセリングにおける人間関係やカウンセラーに必要な姿勢など、カウンセリングの専門性とは何かについて考えてもらう。そして、さまざまな実習体験の中で自身がどのように感じ、考えたか、自身のこころの動きをしっかりと見つめ、レポートにまとめられるようになることを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）について考えます。

授業の概要

心理療法、特にカウンセリングについての基本的な知識、カウンセラーとクライエントとの関係性を中心に実習と講義を行う。そして実習を通して「信頼感」、「共感」、「純粋性」などについて考える。最終的には、疑似ケースを使ったカウンセリング実習を行い、実際のカウンセラーとクライエントの心の動きやプロセス、カウンセラーに必要な姿勢などを自身の振り返りやカンファレンスから考えていく。自身がどのように感じ、考えるかを大事にし、授業を進めていく。

授業計画

1. 自己紹介実習
2. 信頼実習
3. 感情と行動の実習
4. コミュニケーション実習①
5. コミュニケーション実習②
6. 助言の実習
7. ロールプレイ実習
8. 心理臨床を学ぶー心理療法とカウンセリング
9. 「宝探しの地図」実習
10. コンセンサスの実習
11. 共感と純粋性の実習
12. カウンセリング実習・振り返り①
13. カウンセリング実習・振り返り②
14. カウンセリング実習・振り返り③
15. カウンセリング実習・振り返り④、総括

授業の方法

グループやペアによる実習とその振り返りを中心に授業を進めていく。

準備学修

臨床心理学の授業の内容を復習しておくこと。また、毎日社会で起きている様々なニュースに関心を持ち、臨床心理学的な観点でそれらについて考えてみる。

課題・評価方法

- ①毎時間、実習終了後に全員でのディスカッションと担当教員によるフィードバックを行う。
- ②平常点70%、定期試験30%にて評価を行う。

欠席について

実習が中心のため、事前連絡なしの欠席は大幅な減点の対象とする。

テキスト

特になし

参考図書

その都度紹介する

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学文献講読 1			17385	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中園 佐恵子	選択	2				

授業の到達目標

心理学研究をすすめるうえで基礎となる幅広い分野の実験論文や研究レビューの論文について、国内の文献を原典にあたりながら、読解をすすめてゆく。心理学的な視点で現象をみてゆく基本的な方法の習得と同時に、研究をすすめるうえでの文献参照および論文展開の方法についても同時に学んでゆく。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を目指す。

授業の概要

母親の育児態度・感情が子どもの心理的発達にどのような影響を与えていくかについての論文を購読する。発表者は割当てられた論文について、要点を簡潔にまとめたレジュメを作成し、それに基づいて皆にわかるように説明していく。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 母親の育児態度・感情に関する研究論文の購読(1)
3. 母親の育児態度・感情に関する研究論文の購読(2)
4. 母親の育児態度・感情に関する研究論文の購読(3)
5. 母親の育児態度・感情に関する研究論文の購読(4)
6. 母親の育児態度・感情に関する研究論文の購読(5)
7. 母親の育児態度の検査に関する研究論文の購読(1)
8. 母親の育児態度の検査に関する研究論文の購読(2)
9. 母親の育児態度の検査に関する研究論文の購読(3)
10. 子どもから見た母親の育児態度に関する論文の購読(1)
11. 子どもから見た母親の育児態度に関する論文の購読(2)
12. 子どもから見た母親の育児態度に関する論文の購読(3)
13. 母親の育児態度・感情の変化に関する論文の購読(1)
14. 母親の育児態度・感情の変化に関する論文の購読(2)
15. 今後の研究課題

授業の方法

ゼミ形式で行う。

準備学修

レジュメの作り方と口頭発表の仕方について考えておく。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

適宜配布する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

発表者は発表の仕方を工夫すること。発表を聞く側は質問をし、また自分の意見、感想を記述すること。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
生活文化概論			17405	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
渋谷 美智	選択	2				

授業の到達目標

子どもの生活は、遊びそのものであり、子どもの人格は遊びを通して形成されるものであるとも言える。日本は四季に富み、四季にまつわる様々な子どもを取り巻く記念日・行事がある。この素晴らしい日本の文化を後世に伝えていくことの重要性を理解し、子どもの生活文化の様々な側面を学ぶことを目的とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を考える。

授業の概要

現代社会に生きる子どもたちの生活や文化に焦点をあて、そこに生きる子どもたちの諸相を見ていく。体験的学習を織り交ぜ、学生が自らの体験を通して、子ども文化のイメージがもてるようにする。

授業計画

1. 授業の目的 生活科を踏まえて考える生活文化概論
2. 子ども文化の意義、定義とその構造
3. 子どもを取り巻く生活環境の変化
4. 子どもを取り巻く生活環境について
5. 現代の子どもたちの遊びと生活
6. 集団遊びの重要性(室内)
7. 集団遊びの重要性(戸外)
8. 自然とのかかわりについて
9. 地域、公共物とのかかわりについて
10. 児童文化財について
11. 1年を通して、季節の子どもの文化と遊び
12. 伝承遊びについて
13. 季節の遊びについて(お正月)
14. 基本的な生活習慣、慣習、礼儀作法
15. まとめ

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

自分の身のまわりにある文化財について調べる。子ども文化財を作ってみる。子ども文化に実際体験として触れる機会をもつ。（学

習時間として、60時間を必要とする）

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

必要書類については、随時プリントを配布する。

参考図書

子どもとあそび 仙田満著 岩波新書
児童文化 皆川美恵子、武田京子著 ななみ書房
子どもに伝えたい年中行事・記念日 萌文書林

留意事項

実践を多く取り入れるため、授業計画についてはかなり変更があるので、教学課前のボードを確認しておくこと。

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育・学校心理学（幼小）	PC		17411	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
濱田 誠二郎	選択	2				

授業の到達目標

幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえて、学習活動を支援する方法、理論を理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのI（知性）とE（倫理）をめざす。

授業の概要

幼児、児童及び生徒の心身の発達や特徴を知った上で、理論や実践例を、代表的な研究者の考え方、日常的な具体例を取り上げながら学習することを通して深く理解する。

授業計画

1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するエリクソンの理論と方法
2. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するピアジェの理論と方法
3. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する道徳的なコールバーグの理論と方法
4. 幼児期から青年期において、社会性の発達から人間関係について学ぶ。
5. 幼児期から青年期における現代の発達加速現象について理解する。
6. 認知発達を知識や知覚、記憶、学習などの認知機構の変遷から理解する。
7. 主体的な学びの開発と体系化
8. 主体的、対話的で深い学びの実践例から個々の視野を広げる。
9. 学習内容、発達に応じた適切な学習形態について知る。
10. 動機づけ、意欲を引き出す学習形態の在り方に関して事例を通して学ぶ。
11. 主体的な学習の成果を的確に捉える、「知識・理解」「思考・判断・表現」のあり方を理解する。
12. 学習成果を的確に捉える「技能」「関心・意欲・態度」のあり方を理解する。
13. 主体的な学習、思考力を育む学習集団について理解する。
14. 発達障害の理解と支援
15. 振り返りとまとめ

授業の方法

講義が中心ではあるが、時には双方向のコミュニケーションを採り

入れて、各自の考えを交流しながら進める。

準備学修

各自の幼児期・学童期を振り返り、良かった支援や今でも疑問に思えることを整理しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

濱田誠二郎著『心理学を生かしたクラスづくり』 株式会社E R P

参考図書

授業中に紹介する

留意事項

マスコミでとり上げられる子どもに関する記事に興味・関心を持っておく。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽1	①/②/③/④/⑤		17417	I	春	15
担当者名	区分	単位	特記事項			
由井 敦子／南 夏世	選択	2				

授業の到達目標

幼児・児童の豊かな感性と表現を育むために、実践に必要な音楽の基礎的能力を修得することがねらいである。子どもの発達や現代の環境等を踏まえ、幅広い表現活動が展開できる保育者・指導者を目指し、「楽典」「歌唱・弾き歌い」「ピアノ演奏」を軸に、個人の音楽技能を伸ばす。

このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を身につける。

授業の概要

「楽典」については、コード習得のための音楽理論を中心に、読譜に必要な音楽記号の基礎知識を学習する。「歌唱・弾き歌い」については、こどもの歌・小学校歌唱教材の楽曲研究を行いながら、明瞭な日本語で表情豊かに歌えるようにするとともに、学習したコードによるコード伴奏での弾き歌いの演習をする。「ピアノ演奏」については、各自の進度に応じたピアノ曲を個人レッスンし、読譜力とピアノ技術の向上を目指す。その際、各自の進度に応じて定められている曲数を合格しなければならない。授業は、前・後半に分けられ、前半は音楽の基礎学習と歌唱・弾き歌い等の演習をクラス全体で行い、後半はピアノの個人レッスンを行う。

授業計画

1. 楽典。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
2. 楽典。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
3. 音楽表現活動について。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
4. コードの学習。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
5. コードの学習。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
6. コードの学習。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
7. コードの学習。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
8. コードの学習。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
9. コード演奏演習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
10. コード演奏演習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
11. コード演奏演習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
12. 発声と子どもの歌の歌唱法。進度に応じたピアノ個人レッスン。
13. コード伴奏での弾き歌い。進度に応じたピアノ個人レッスン。
14. コード伴奏での弾き歌い。進度に応じたピアノ個人レッスン。
15. コード伴奏での弾き歌い。進度に応じたピアノ個人レッスン。

授業の方法

クラス全体での演習と、ピアノの個人レッスン。

準備学修

毎時間の復習とピアノの課題曲の練習が必至である。毎日30分以上続けることが望ましい。授業時間外に補講としてピアノ個人レッスンの時間が設定されているので、できる限り受講すること。

課題・評価方法

平常点70% 定期試験30%

定期テストは、ピアノ演奏、弾き歌い、筆記の3項目を実施する。授業内で行われる歌唱・コード等の小テストは平常点に反映する。

欠席について

欠席回数が評価に大きく関与する。5回を越えると単位修得できない。

テキスト

「マイレパートリー」（YAMAHA MUSIC MEDIA）ピアノテキスト「大学ピアノ教本」「ブルグミュラー25の練習曲」「ソナチネアルバム1」等は各自の進度に応じて使用する。

参考図書

授業内で随時提示する。

留意事項

入学時にピアノ経験を参考にクラス編成を行う。鍵盤楽器初心者の場合、次年度も受講が必要となる場合もある。配布する「個人カード」に各自の進度を記入し、毎回持参すること。これがなければテストを受けられない。授業時には、必ず爪を切っておくこと。

教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワー、またはピアノ補講時間を活用すること。日時については、教務課前掲示板を確認すること。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽 2	①/②/③/④/⑤/再履用		17421	I	秋／春	15
担当者名	区分	単位	特記事項			
由井 敦子／南 夏世	選択	2				

授業の到達目標

幼児・児童の豊かな感性と表現を育むために、実践に必要な音楽の基礎的能力を高めることがねらいである。子どもの発達や現代の環境をふまえ、幅広い表現活動が展開できる保育者・指導者を目指し、「楽典」「歌唱・弾き歌い」「ピアノ演奏」を軸に、個人の音楽技能を伸ばす。
このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を身につける。

授業の概要

「楽典」については、コード学習に加え、調性やカデンツの学習と演習を重ねる。「歌唱・弾き歌い」については、弾き歌いのレパートリーを増やすとともに、楽曲にふさわしい伴奏型でコード奏ができるように演習する。さらに、「ピアノ演奏」については、各自の進度に応じたピアノ曲を、表情豊かに演奏できるようにピアノ技能を高めていく。その際、各自の目標として定められている曲数を合格しなければならない。

授業計画

- 1.コード復習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 2.調性とカデンツ。弾き歌いと進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 3.調性とカデンツ。弾き歌いと進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 4.調性とカデンツ。弾き歌いと進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 5.調性とカデンツ。進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 6.調性とカデンツ。進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 7.調性とカデンツ。進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 8.コード伴奏と実演。進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 9.弾き歌い演習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 10.弾き歌い演習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 11.弾き歌い演習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 12.こどもの発達と歌唱教材。連弾。
- 13.こどもの発達と歌唱教材。連弾
- 14.様々な表現活動について。進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 15.様々な表現活動について。進度に応じたピアノ個人レッスン。

授業の方法

クラス全体での演習と、ピアノ個人レッスン。

準備学修

毎時間の復習とピアノの課題曲の練習が必至である。毎日30分以上

続けることが望ましい。
授業外に補講としてピアノ個人レッスンの時間が設定されているので、できる限り受講すること。

課題・評価方法

平常点70％ 定期試験30％
定期テストは、ピアノ演奏、弾き歌い、筆記の3項目を実施する。授業内で行われる連弾・コード等の小テストは平常点に反映する。個人の進度に応じて与えられた課題を終えなければ定期試験を受けることはできない。

欠席について

欠席回数が評価に大きく関与する。5回を越えると単位修得できない。

テキスト

「マイレパートリー」（YAMAHA MUSIC MEDIA）
ピアノテキスト「大学ピアノ教本」「ブルグミュラー 2 5 の練習曲」「ソナチネアルバム 1」等は各自の進度に応じて使用する。

参考図書

授業内で随時提示する。

留意事項

必要に応じてクラス再編成を行う。
配布する「個人カード」に各自の進度を記入し、毎回持参すること。これがなければテストを受けられない。
授業の前には、必ず爪を切っておくこと。

教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワー、またはピアノ補講時間を活用すること。
日時については、教務課前掲示板を確認すること。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童文学	PC		17437	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
福智 佳代子／箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

初等国語の一貫として、日本及び西洋の児童文学を学ぶことにより、それぞれの文化におけるこども観を理解するとともに、文学作品の読解力を養うことを目的とする。
このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

（日本児童文学）近代の児童文学を取り上げる。日本の児童文学は、初めは大人の側に立ったものであった。そこには、当時の日本文化が反映され、大人が子どもに求めた理想がわかりやすい言葉で表現されている。その近代児童文学が現代児童文学に与えた影響を読み取っていく。（箕野聡子）
（西洋児童文学）児童文学には感性を育む豊かな想像の世界が広がっている。リズムカルな伝承詩・ナーサリーライム（マザーグース）、児童が主人公として体験できる夢と冒険のファンタジーの世界、歴史小説としても価値のある日常・家族を描いた作品などを取り上げる。（福智佳代子）

授業計画

- 1.巖谷小波「日本昔噺其一桃太郎」と芥川龍之介の「桃太郎」(箕野)
- 2.小川未明「赤い蠟燭と人魚」とディズニーの「リトルマーメイド」(箕野)
- 3.浜田広介「泣いた赤鬼」とあまんきみこ「おにたのぼうし」(箕野)
- 4.宮沢賢治「注文の多い料理店」と木村裕一「あらしのよるに」(箕野)
- 5.坪田譲治「河童のはなし」と映画「河童のクウと夏休み」(箕野)
- 6.有島武郎「一房の葡萄」と岡田淳「学校ウサギを捕まえる」(箕野)
- 7.松谷みよ子「貝になった子供の話」と「わたしのいもうと」(箕野)
- 8.岡田淳「竜退治の騎士になる方法」・前半のまとめ。(箕野)
- 9.日常に生きている伝承唄・ナーサリー・ライム(マザーグース)の世界(福智)
- 10.エリック・カール「ブラウン・ベア」の絵本の世界(福智)
- 11.マーク・トウェイン「トムソーヤとハックルベリー・フィン」自由と冒険の世界(福智)
- 12.ローラ・インルス・ワイルダー「大草原の小さな家」 少女が見たアメリカ開拓史(福智)
- 13.ジョナサン・スウィフト「ガリバー旅行記」 (福智)
- 14.アントワーン・ド・サン・テグジュペリ「星の王子様」(福智)

- 15.ミヒャエル・エンデ「はてしない物語」(福智)

授業の方法

児童文学とされている作品の内容、作者と社会の背景などを理解し、その価値などを他者に自ら発信する。

準備学修

作品をあかじめ読んでおくこと。未読の本に関しては、図書館等で借りておくこと。日本の児童文学（箕野担当）のテキストは、プリントを配布する。（予習復習にかかる時間：約2時間）授業で扱う作品以外にも、様々な児童文学に触れる時間を作るため、毎日20分程度の読書の時間を設けておくこと。

課題・評価方法

平常点50％、定期試験50％
日本児童文学（箕野担当）の授業では、毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。

欠席について

規定に従う。

テキスト

本田英明、桂有子、小峰和子『英米児童文学』（ミネルヴァ書房）（福智）

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp（箕野）
fukuchi@kaisei.ac.jp(福智)

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
学習・発達論			17441	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中植 満美子	選択	2				

授業の到達目標

他の動物とは異なる人間の発達の特異性が、文化を学習してゆくという点にあることを、学習・発達理論の研究の歴史や人間の発達のプロセス、環境や状況による発達への影響、教育実践や臨床場面での課題について各自のサーチと演習を通じて説明できるようになることを目標とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

人間発達の歴史について、学習・発達の視点から考えてゆく。基礎的な学習理論について学び、発達と共に活性化する社会的活動に伴い、環境との相互作用の中で、学習の機会は更に増加する。その様子を基礎的な学習過程、社会的学習、言語や思考、遊びの発達について概観し、教育場面、臨床場面での応用に結び付けてゆく。また、ピアジェとヴィゴツキーの理論について比較検討する。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.人間の学習・発達の歴史
- 3.認知能力の変容 1
- 4.認知能力の変容 2
- 5.状況に埋め込まれた学習 1・社会的学習
- 6.状況に埋め込まれた学習 2・問題解決
- 7.思考と言語
- 8.認知能力の変容 3
- 9.「話し言葉」から「書き言葉」への移行
- 10.発達と学習 1：年齢期の問題をめぐる
- 11.実習 1 学習を役立てるために 1
- 12.発達と学習 2：遊びの中の学習・人はなぜ学ぶのか
- 13.精神発達の障害と学習：臨床場面・教育現場での学習理論の応用
- 14.発達をめぐるピアジェとヴィゴツキーの論争について
- 15.総論

授業の方法

講義と単元内容に相応した学習や認知能力の発達に関するグループごとの演習課題の発表や個人での作業課題を毎時間行いながら学習を進める。

準備学修

演習形式の授業なので、担当するテーマについて各自・各グループごとにリサーチし、レジュメにまとめて発表できるよう準備を進めておくこと。

課題・評価方法

演習発表40%、定期試験40%、小テストなど20%

欠席について

一回の欠席で3点、遅刻で2点の減点とし、5回以上の欠席で不合格とする。

テキスト

柏崎秀子編著 『教職ベーシック 発達・学習の心理学』2010 北樹出版

参考図書

学習心理学 理論と実践の統合をめざして

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
乳幼児心理学			17445	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
吉村 友子	選択	2				

授業の到達目標

乳幼児期の運動・知覚・認知・知性・言葉・社会性・遊びの発達について学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

新生児や乳幼児が獲得する能力の豊かさと多様性についての知識を深めるとともに、保育場面においてそれらを育み、促進する大人のかかわりについて検討する。

授業計画

- 1.はじめに：乳幼児心理学とは
- 2.乳幼児の心の発達Ⅰ：錯覚と発達
- 3.乳幼児の心の発達Ⅱ：錯覚から脱錯覚へ
- 4.胎児の発達
- 5.新生児の能力
- 6.人との関係の中で育つ子どもⅠ：アタッチメントの基本的性質
- 7.人との関係の中で育つ子どもⅡ：生涯発達におけるアタッチメントの意味
- 8.知的能力と学び
- 9.乳幼児期の発達Ⅰ：言葉
- 10.乳幼児期の発達Ⅱ：自己と感情
- 11.乳幼児期の発達Ⅲ：社会性
- 12.発達臨床心理的援助の基礎Ⅰ：子育て
- 13.発達臨床心理的援助の基礎Ⅱ：親としての成長
- 14.乳幼児虐待
- 15.発達の偏りと支援

授業の方法

講義とグループワークを行う。

準備学修

授業のあとに復習が必要である。

課題・評価方法

定期試験（50%）、小レポート（20%）、出席（15%）、授業後の

感想文（15%）

欠席について

5回を超えた欠席は不合格とする。

テキスト

適宜配布する。

参考図書

遠藤俊彦・佐久間路子・徳田治子・野田順子 『乳幼児のこころ 子育ち・子育ての発達心理学』 有斐閣

専門分野科目 くこどもの生活世界	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ことばの発達・学習	PC		17461	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中園 佐恵子	選択	2				

授業の到達目標

私たちは、言語（音声言語には限定しない）を持つことでコミュニケーション行動が活発になる。表情や振る舞いなどのノンバーバルが意思伝達の多くを占めることは否めないが、それとて内言語として言葉と行動が密接に連携している。子どもが言語を取得していく過程を知ること、より確かな支援ができるようにすることを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティーのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

現行小学校・中学校指導要領では、改めて「ことば」の育成が重点課題としてあげられている。それは、グローバル社会において、諸外国との意思伝達手段として必要不可欠であるとともに、日本人としての伝統と文化を守り、つなぐ上でも大切だからである。子どもの言葉の発達過程を理解し、より良い支援方法を学ぶ。

授業計画

1. ことばの発達の基礎にあるもの
2. コミュニケーション行動の働き方
3. 言語が成立するまで
4. ノンバーバルコミュニケーション
5. ことばに障害がある子どもの理解その1 視覚障害
6. ことばに障害がある子どもの理解その2 聴覚障害
7. 発音の発達とことば
8. 聞く力を育てる
9. 発声をふやす
10. 音をまねる
11. 音の明瞭さを育てる
12. 発音につまずきのある子の指導その1 ことばにふれる機会が少ない子
13. 発音につまずきのある子の指導その2 鼻から空気がもれてしまう子の支援
14. 発音につまずきのある子の指導その3 口腔器官に障害がある子
15. 就学前教育としての「ことば」

授業の方法

講義を主とするが、双方向の討議も取り入れて受講者が主体的に参

加できる形式もとり入れる。

準備学修

日常生活の一コマを、一つの考え方にこだわらずに複数の視点で考えてみる姿勢を望む。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

松川利広監修 横山真貴子編著 『子どもの育ちとことば』保育出版

参考図書

授業中に紹介する

留意事項

授業でのフィードバックシートを配布したときは、しっかりと取り組むこと

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目 くこどもの生活世界	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュⅠ	PC		17465	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
福智 佳代子	選択	2				

授業の到達目標

グローバル化に対応した英語教育改革が実施され、2018年度から段階的に2020年度、小学校英語は教科化される。言語習得理論から授業法の実践まで、小学校から中学校・高校英語に連携する一貫した英語教育を担う教員養成が必要とされている。本授業では、小学校外国語教育における背景知識や教材、多様な指導技術、評価などを、ワークショップ形式で体験し、小学校の役割及び中・高等学校の外国語教育との連携を視野に入れて、指導者として教育現場で「授業ができる」資質を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)を考える。

授業の概要

児童英語教育に効果的な教授法について、小学校学習指導要領における「5つの領域」の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法指導について、児童期の学習者の特性と英語授業のあり方を踏まえた知識と技術を、以下の「授業計画」の具体的項目に従って身につける。本授業では、基本的な授業法をワークショップ形式で体験、実際にこれらの授業法を使った活動のプレゼンテーションを行い、秋学期の実習準備をする。

授業計画

1. 小学校外国語教育の目標 (1)
2. 小学校外国語教育の目標 (2)
3. 小学校外国語教育の目標 (3)
4. コミュニケーション能力を育成する指導法 (1)
5. コミュニケーション能力を育成する指導法 (2)
6. 小学校英語教材研究 (1)
7. 小学校英語指導法「ワークショップ」(1)
8. 小学校英語教材研究 (2)
9. 小学校英語指導法「ワークショップ」(2)
10. 小学校英語教材研究 (3)
11. 小学校英語指導法「ワークショップ」(3)
12. 小学校英語教材研究 (4)
13. 小学校英語指導法「ワークショップ」(4)

14. 小学校英語授業運営
15. 児童の英語能力の測定と評価

授業の方法

ワークショップで体験した授業法を、学生自身が、主体的に創造し、プレゼンテーションを行う。

準備学修

項目・内容に関して、あらかじめテキストなどで下調べをしておく。プレゼンテーションの準備をしておくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

参加・発表型の授業であるので、必ず出席すること

テキスト

アレン玉井光江「小学校英語の教育法 理論と実践」大修館書店；ISBN：9784469245486

参考図書 「小学校英語教育の進め方」岡秀夫、金森強 成美堂

参考図書

青木昭六編著『英語科教育のフロンティア』保育出版社（教育情報出版）

留意事項

子供に英語を教える授業を、自らが積極的に創る。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目 <こどもの生活世界>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュⅡ	PC		17469	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
福智 佳代子	選択	2				

授業の到達目標

キッズ・イングリッシュⅠで体験した授業法を活用し、年齢・発達過程にあった授業案を作成する。学生自身が、将来、幼稚園、小・中学校、高校、英会話学校等での指導に役立つ授業創りを考え、幼稚園、小学校などで、実際に授業を体験する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)を考える。

授業の概要

春学期で体験した授業法とその意義を理解し、異なることばや文化・生活に自然にふれる楽しい活動を考える。授業では、発信型英語能力開発の一環として、

1. 発達過程を考えた幼稚園・小学校での英語教育のあり方を踏まえ、
2. 発達過程を考えた園児・小学生英語の授業創りを考え、
3. 授業案作成、教材教具作成、模擬授業を行った後に、実際に小学校現場などでの授業体験を通じて、学生自身が将来の児童英語指導者としての実践力を身につける。

授業計画

1. 児童の発達段階にあった英語活動を創る (1) [活動案作成のポイント]
2. 児童の発達段階にあった英語活動を創る (2) [絵カード・教具・ワークシート作成法]
3. 児童の発達段階にあった英語活動を創る (3) [活動案発表]
4. 小学校英語活動 観察実習
5. 実習授業活動案作成(1)[教材研究]
6. 実習授業活動案作成(2)[教具作成]
7. 実習授業活動案作成(3)[評価の観点と振り返りカード作成]
8. 実習授業活動案発表と模擬授業
9. 第1回小学校英語活動 実習体験
10. 実習授業活動案作成(4)[教材研究]
11. 実習授業活動案発表と模擬授業
12. 実習授業活動案作成(5)[教具作成]
13. 実習授業活動案作成(6)[評価の観点と振り返りカード作成]
14. 実習授業活動案発表と模擬授業
15. 第2回小学校英語活動 実習体験(3)
15. まとめ 授業評価、ポートフォリオ作成

授業の方法

活動案作成、教材・ワークシート作成、模擬授業をした上で、小学校英語活動の支援を実際に現場で体験する。

準備学修

教材を作成し、模擬授業の練習をしておくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

参加・発表型授業であるので必ず出席すること

テキスト

アレン玉井光江「小学校英語の教育法 理論と実践」大修館書店；ISBN：9784469245486

参考図書

「小学校英語教育の進め方」岡秀夫、金森強 成美堂

留意事項

子供に英語を教える授業を、自らが積極的に創る。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目 <こどもの生活世界>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽3	①/②/③		17473	Ⅱ	秋	16
担当者名	区分	単位	特記事項			
南 夏世	選択	2				

授業の到達目標

豊かな感性と表現を育てることができる指導者を目指すために、領域「表現」についてのねらい・内容を理解し、子どもの発達や現代の環境等を踏まえた幅広い表現活動が展開できるよう教材を研究し、実践する方法を修得する。この授業ではKAISEIパーソナリティーのI（知性）とS（奉仕）を身につける。

授業の概要

子どもの歌、生活の歌、季節の歌等を、明瞭な日本語で、コード奏による弾き歌いができるように演習する。また、表現活動のために、音楽の基本となるリズムについての理解を深め、ピアノ演奏や身体表現の音楽が表情豊かに演奏できるよう実践を重ねる。さらに、ピアノのできる音楽効果や変奏の技術を学び、場面に応じた音楽が提供できるよう演習する。

授業計画

1. 初等音楽1・2で習得したコードの復習と弾き歌いの演習。
2. 子どもの発達を踏まえた表現活動のねらいと内容。
3. 生活の歌、コード奏による弾き歌い。
4. 生活の歌、コード奏による弾き歌い。
5. 表現活動のためのピアノの個人レッスン。楽典。
6. 季節の歌、遊びの歌、研究と演習。
7. 場面に応じた音楽の研究。
8. ピアノの特殊効果と変奏。
9. 身体表現のための変奏の習得。
10. 身体表現のための変奏の習得と発表
11. 表現活動のためのピアノの個人レッスン。楽典。
12. 和太鼓の打法と演奏。
13. 音楽会プロデュース、計画、指導、演奏の総合演習。
14. 音楽会プロデュース、計画、指導、演奏の総合演習。
15. 音楽会プロデュース、計画、指導、演奏の総合演習。

授業の方法

演習が中心である。個人であるいはグループで発表や実演を行う。個人レッスンを行う回もある。

準備学修

授業で演習した楽曲の復習や、提示された楽曲の練習に60時間必要である。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

項目ごとに確認テストを行う。また、適宜、レポート提出も行う。

欠席について

授業毎の発表や演習が評価対象になるので、できるだけ欠席しないこと。

テキスト

『マイレパートリー』（YAMAHA MUSIC MEDIA）
『リズム曲集』（サーベル社）

参考図書

授業時に指示する。

留意事項

授業時に提示される課題や準備をして授業に臨むこと。初回に配る個人カードに毎回の学習や演習を必ず記録し、定期試験の際に提出すること。

教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽 4	①/②		17477	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
南 夏世	選択	2				

授業の到達目標

豊かな感性と表現を育てることができる指導者を目指すために、領域「表現」についてのねらい・内容を理解し、子どもの発達や現代の環境等を踏まえた幅広い表現活動が展開できるよう教材を研究し、実践する方法を修得する。
この授業ではKAISEIパーソナリティーのI（知性）とA(自律)とS（奉仕）を身につける。

授業の概要

領域「表現」の目標・内容を学び、子どもの成長に合わせた活動内容や指導法を修得する。まず合奏の演習を通して、手拍子・リズム奏・リズム遊び等からリズムについての理解を深め、合わせて楽譜の書き方を学習し、楽典の基礎を固める。そして、日々の活動に必要な弾き歌いの演習を通して、実習に向けて模擬授業の実践を行う。さらに、実習や表現活動に必要なピアノ演習やグループのテーマによる活動の練習から、総括として現場で実践するための指導力を身につけていく。

授業計画

1. 領域「表現」の概説。子どもの成長と音楽の関わりについて。
2. 歌唱教材研究。子どもの歌とわらべうた。
3. 表現活動のためのピアノ個人レッスン。楽典。
4. リズムについて。(リズム遊び、リズム奏、手拍子など)
5. 打楽器の奏法とリズム合奏。
6. 合奏演奏と編曲法。
7. 合奏演奏と編曲法。楽譜の書き方。
8. 合奏演奏と編曲法。楽譜の書き方。
9. 表現活動のためのピアノ個人レッスン。楽典。
10. 歌唱指導の実践。
11. 歌唱指導の実践。
12. さまざまな表現活動とそのまとめ。
13. グループが定めたテーマによる表現活動の総合演習。
14. グループが定めたテーマによる表現活動の総合演習。
15. グループが定めたテーマによる表現活動の総合演習。

授業の方法

各自の練習を基に、個人であるいはグループで発表や実演を行う。

準備学修

授業で演習した楽曲を復習するとともに、提示された楽曲をできるだけたくさん弾きこなしておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

項目ごとに確認テストを行う。また、適宜、レポート提出も行う。

欠席について

授業毎の発表や演習が評価対象になるので、できるだけ欠席しないこと。

テキスト

『弾こう♪歌おう♪子どもとともに』（YAMAHA MUSIC MEDIA）
『リズム曲集』（サーベル社）

参考図書

授業時に指示する。

留意事項

授業時に提示される課題や準備をして授業に臨むこと。
初回に配る個人カードに毎回の学習や演習を必ず記録し、定期試験の際に提出すること。

教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育相談(カウンセリングを含む) (小)	教職小		17497	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
濱田 誠二郎	選択	2				

授業の到達目標

小中高の児童・生徒が自己理解を深め、さらに他者受容へとつなぐ受講生に子どもの心理的な特徴や課題を引き出し支援する基礎的な知識と技術を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティーのK（思いやり）、I（知性）、S（奉仕）をめざす。

授業の概要

学校園における教育相談の意義、実態、課題について知り、チームで対応できる必要性を理解する

授業計画

1. 学校での教育相談を学ぶにあたってその意義を理解する。
2. 学校独自の課題の把握の必要性を学ぶ。
3. 傾聴、共感など学校におけるカウンセリングマインドキーワードについて知る。
4. カウンセリングマインド等教育相談に必要な基本を体験する。
5. 学校でのいじめで、児童・生徒のシグナルや早期発見方法を理解する。
6. 個々の問題行動の本質理解に必要なカウンセリングマインドを生かしたコミュニケーションを体験する。
7. カウンセリングを通じて自己理解、他者受容する技術について知る。
8. 気持ちの良いクラスづくりに欠かせない相互受容の大切さを理解する。
9. 学級内を明るく気持ちの良い雰囲気にするための心理教育を体験する。
10. 非行・問題行動の善後策としての保護者への対応の仕方を理解する。
11. 学級崩壊が生じたときの教育相談としての役割を理解してその教育技術について学ぶ。
12. 学校で虐待を発見する手立て、確認した後の動きや支援の在り方を学ぶ。
13. 児童・生徒の発達課題を学び、保護者相談に生かせるように事例から学ぶ。
14. 不登校などの問題を一人が抱え込むことがないように校内体制の整備計画について学ぶ。
15. 学校だけでは支援しきれない事案に備えて地域の医療、福祉等専

門職との連携の必要性を理解する。

授業の方法

講義を主とするが、双方向の討議もとり入れて受講者が主体的に参加できる授業形式もとり入れる。

準備学修

子どもに関する社会問題等、自分の生活経験から判断するだけではなく、複数の視点で考える習慣を身につける。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

桜井美加著『教育相談ワークブック』北樹出版

参考図書

授業時に紹介する

留意事項

本授業は、教育現場では誰もが直面する課題を数多く取り上げるので、授業後に自分の考えを持つことが大切である。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子育て支援と地域社会			17501	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
渋谷 美智	選択	2				

授業の到達目標

子育て支援とは何か。子育て支援に対する保育者の役割がこれまでになく明確化される中で、幼稚園や保育所はどのような子育て支援ができるのか、保育所や地域社会での子育て支援に積極的に取り組んでいける実践力のある教諭、保育士を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を考え、I（知性）を養います。

授業の概要

子育てを社会全体で支える「子ども・子育て支援新制度」がスタートし、幼稚園・保育所・地域で子育て支援が盛んに行われている状況の中、子育て支援とは何かを考え、保育者を目ざしている学生が、地域社会で取り組まれている様々な子育て支援の実状を知り、なぜ子育て支援が必要なのか、親子が求めている支援とは何かを考え、親子が育ちあうような子育て支援のあり方を学習する。また、子育て支援の実践の場にも積極的に参加し体験する。

授業計画

1. 子育て支援とは何か。(DVD視聴「子育て支援とは」)
2. 地域の子育て支援について知り、計画実践
3. 地域の子育て支援について知り、計画実践
4. 地域の子育て支援事業への参加
5. 子育ての変化と子育て支援の必要性(母子を取り巻く環境と少子化時代の子育て)
6. 地域の子育て支援事業を探る
7. 幼稚園での子育て支援の取り組み
8. 地域社会での子育て支援の取り組み、見学・参加
9. 地域社会での子育て支援の取り組み、見学・参加
10. 地域子育て支援センターの役割
11. 家庭の役割、親子が求めている支援とは
12. 保育所での子育て支援の取り組み 保育所の子育て支援の実例
13. 子育ての変化と子育て支援の必要性
14. 親子の遊びの実践、相談支援の方法
15. まとめ

授業の方法

講義と演習を中心とし、実際体験によって理解を深める。

準備学修

各種新聞に子育て支援についての記事が多く掲載されていたり、実習園で子育て支援が実践されていたりしている。それらの子育て支援のあり方について関心を持ち、子育てについての記事を抜粋し書きだしてくる。自分の周りの子育て支援の実際を体験する。（学習時間として60時間を必要とする）

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

実践を多く取り入れているので、1回欠席につき5点の減点とする。

テキスト

必要資料については、随時プリントを配布する。

参考図書

子育ての変貌と次世代育成支援 原田正文著
世界に学ぼう！子育て支援 汐見稔幸著
地域で子育て 渡辺顕一郎編著
あそびうた大全集 永岡書店

留意事項

実際の支援の様子を見学・参加するフィールドワークを多く取り入れ、子育て支援の理解を深める。フィールドワークが多いので、授業計画についてはかなり変更がある為、日程については授業課の前を常に見ておく。受講者は子育て支援に関心のある者。また、灘区の子育て支援事業への参加については、10月第2、第4土曜日に行うので、必ず日程調整できるようにしておくこと。

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ボランティア論			17505	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
加藤 雅典	選択	2				

授業の到達目標

わが国のボランティア活動は、幅広い分野において多様な形態で展開されている。授業では、ボランティアの理念・原則・分野の基本を学習しながら、「興味」「得意なテーマ」「専門的学習への動機」などの契機を個々人で具体化し、体験活動に参加することを目標とする。体験活動を振り返ることを通じて、福祉の対象者への関心や能動性を高め、将来の社会参加や社会貢献に繋げることを目指す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）A（自律）S（奉仕）を養う。

授業の概要

授業では、講義、討議、実践、プレゼンテーションを織り込みながら、参加のモチベーションを主体的に高めることを促す。「自分にとってのボランティアは何か」「どんな活動ができるか」「ボランティアのあり方は」などについて、グループを基本に交流し全員で考える。次に、基本理念、歴史、組織や活動の実際について事前学習を行い、体験活動に参加する（必須）。体験活動後の討議、交流、プレゼンテーションなど事後学習を通じて、それぞれにとってのボランティアの意義や参加意識を深めていく。

授業計画

1. ボランティアとは？＝グループ討議＝
2. グループ発表
3. ボランティア活動のキーワードを見つける
4. 基本理念
5. 歴史
6. 地域での活動の実際
7. 社会福祉施設等での活動の実際
8. ボランティアセンターの機能と役割
9. 体験活動のための知識と準備
10. ボランティア活動の体験(1)
11. ボランティア活動の体験(2)
12. 災害と学生ボランティア
13. 体験活動の記録化と振り返り
14. グループ討議と発表
15. プレゼンテーション(体験活動の成果)

授業の方法

ボランティア体験を基本として事前学習と事後学習により進める。グループ討議とプレゼンテーションを多く取り入れる。

準備学修

発表に向けた事前準備やグループでの準備作業が必要になることがある。

課題・評価方法

ボランティア体験活動（必須）のレポート、及び平常点（随時進行情報の提出がある）による。

欠席について

グループ討議や作業を行うため原則認めない。

テキスト

特に指定しない。

参考図書

特にはない。必要な資料を配布する。

留意事項

3日間の体験活動への参加をはじめ、集団学習に主体的に取り組むことが必要である。体験の実践にあたっては個別相談・指導を行う。

関連科目 くこども関連科目	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
図画工作	①/②		17509	I	春	20
担当者名	区分	単位	特記事項			
森 晴美	選択	2				

授業の到達目標

改訂の趣旨を踏まえ、図画工作科の目標と内容を演習・実習を通して理解する。また、造形表現の発達過程や特徴について知る。そして、自己表現の喜びや達成感を得られ、豊かな情操をはぐくむ指導の在り方を理解することを目指す。表現意欲や鑑賞活動を重視することで、個々の表現の多面的理解に努める。実習を通して児童の思いを推測し、適切な評価ができる力を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

子どもの発達に即した表現方法や、材料・用具の基本的な扱い方について、講義と実習を行う。また、鑑賞の機会を重視し、各自の表現のよさや工夫等を見出すため評価シートや情報機器を活用して発表の機会をもつ。そして、感性を高め合い、実践力を養うようにする。作品の一部は地域の子育て支援活動にいかす。

授業計画

1. 図画工作科の改訂のポイントと資質能力
2. 図画工作科の内容と幼稚園からの接続、中学校への接続
3. 造形的な視点 色と形の出会い
4. 造形遊びをする活動 並べたり積んだりして
5. 絵に表す活動 パスを使って
6. 絵に表す活動 筆やペンを使って
7. 立体に表す活動 土粘土を使って
8. 立体に表す活動 粘土を使って
9. 工作に表す活動 伝統文化と関連して
10. 工作に表す活動 様々な用具を扱いながら
11. 身近な材料を使った表現 リサイクルの視点で
12. 生活に役立つものを作る
13. 生活を楽しく豊かにする鑑賞の活動
14. 情報機器を活用した活動
15. 図画工作における外部資源の活用と連携

授業の方法

講義と実習・演習を主とする。制作した作品をもとに鑑賞活動を深め、学び合いの機会をもつ。

準備学修

授業に必要な構想の立案他、日頃から「つくる・かく」ことに親しむこと。また材料・用具に慣れ、扱い、活用するように努めること。準備学修として、授業計画に示した予習に2時間、復習に2時間を要する。

課題・評価方法

- ①実習課題の構想シート、制作物、作品カード、リフレクションシートの提出を求める。講義においてフィードバックを行う。
②平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点とする。

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』

参考図書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』

留意事項

実習・演習は、学習課題により個人・及び小グループで行う。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目 くこども関連科目	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等英語			17511	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
福智 佳代子	選択	2				

授業の到達目標

本講義では、多言語・多文化社会となっている世界の外国語教育の現状、言語習得、児童期からの外国語教育のあり方の理論を学び、これからの児童外国語（英語）教育の指導者としての素養を育成する。小学校の外国語活動・外国語科の学習指導の知識、第2言語習得の基礎的な知識、授業に必要な英語コミュニケーション能力、教材や評価の基礎知識を、小・中・高等学校の連携も視野に入れて身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要

学習指導要領における「3つの資質・能力」を踏まえた「5つの領域」の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法指導について、小学校の外国語教育に必要な基礎的な知識及び複数の領域を統合した指導法を、以下の「授業計画」の具体的項目に従って身に着ける。

授業計画

1. 小学校英語教育の目的 (1)
2. 小学校英語教育の目的 (2)
3. 小学校英語教育の目的 (3)
4. 第2言語習得研究 (1)
5. 第2言語習得研究 (2)
6. 第2言語習得研究 (3)
7. 第2言語習得研究 (4)
8. 第2言語習得研究 (5)
9. 第2言語習得研究 (6)
10. 技能の育成 (1)
11. 技能の育成 (2)
12. 技能の育成 (3)
13. 技能の育成 (4)
14. 児童の英語能力の測定と評価
15. まとめ

授業の方法

理論を理解し、ディベート、プレゼンテーションなどで、主体的・

創造的に理論を実践に活かす方法を発信する。

準備学修

各回の課題について調べ、レポートを仕上げる。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規定に従う。必ず出席し、討議に参加すること

テキスト

青木昭六編著『英語科教育のフロンティア』保育出版社（教育情報出版）

参考図書

アレン玉井光江「小学校英語の教育法 理論と実践」大修館書店；ISBN：9784469245486

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈くども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等体育	①/②		17513	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
木岡 正雄	選択	2				

授業の到達目標

小学校学習指導要領、及び幼稚園要領に基づき、教材の実技を体験する。教材の概略を知って、運動学習の工夫を学ぶ。グループワークを通して他への思いやり、協調、規律、実行力を養う。

授業の概要

体育の教材内容を実技することで、体で動くことや、運動の楽しさを感じ取る。またグループ活動を通じて他への思いやりや仲間とのつながりの大切さを学ぶ予定である。

授業計画

1. オリエンテーション。自己紹介。運動学習について概略を講義する。
2. 体づくり運動 体ほぐしの運動の実技をする。
3. 体づくり運動 体力を高める運動の実技をする。
4. 陸上運動系 かけっこの実技をする。
5. 陸上運動系 障害走の実技をする。
6. 陸上運動系 リレーの実技をする。
7. 器械運動系 マット運動の実技をする。
8. 器械運動系 跳び箱の実技をする。
9. 器械運動系 鉄棒の実技をする。
10. ゲーム 鬼遊びの実技をする。
11. ボール運動 ベースボール型のゲームをする。
12. ボール運動 ネット型の運動をする。
13. ボール運動 ゴール型のゲームをする
14. ボール運動 ゴール型のゲームをする
15. 学習のまとめ。体育学習の工夫等について講義する。

授業の方法

体育の実技を行う。グループ活動を主として、自ら運動の工夫を話し合い、ともに楽しく運動する予定である。

準備学修

小学校学習指導要領 体育 を読んでおくとう理解しやすい。

課題・評価方法

その他

欠席について

欠席はなるべくしない。実技なので参加することに意義がある。

参考図書

特になし

留意事項

登校できるなら欠席をしない。見学も学習であることを学ぶ予定である。

教員連絡先

〒651-2277 神戸市西区美賀多台4-7-20
自宅電話&F a x 078-962

関連科目〈くども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育原理（小）	教職小		17521	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
澤井 一夫	選択	2				

授業の到達目標

- 1 教育の理念と目的について理解する。
 - 2 教育に関する歴史及び思想について理解する。
 - 3 日本と諸外国の学校制度について理解する。
 - 4 現代社会における教育の現状と課題について理解する。
- このクラスではK A I S E I パーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

教育学上の重要な理念について理解した上で、教育思想及び学校制度の歴史の変遷について理解を深める。このことを踏まえ現在の社会における教育課題や学校教育の在り方について考察する。

授業計画

1. 講義の進め方と講義概要について説明する。
2. 人とは？教育とは？
3. 学校の歴史 その1 諸外国の教育の思想と歴史
4. 学校の歴史 その2 日本における学校制度の成立と展開
5. 教育に関する法規
6. 現行法における日本の学校教育の目的
7. 教育課程と教育内容
8. 学習指導要領の変遷
9. 教師の仕事と専門性
10. よい授業とは
11. 現代社会と教育問題ーいじめ・不登校問題など
12. 教育改革の新しい動きと方向
13. 日本と諸外国の教育制度
14. 生涯学習の意義と生涯学習の機会
15. まとめとテスト

授業の方法

講義を中心に討議や発表を設ける。

準備学修

本講義は、「教育とは何か」「学校制度」などを歴史的な視点や諸外国との比較で研究し考察する。教育に関しての思想家や法規など耳慣れない事項がでてくるため、関連する事柄について予習と復習

を必ず行うこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内の規定に準ずる。

テキスト

必要に応じ資料を配付する。

参考図書

必要に応じて紹介する。

留意事項

教職を目指す学生として、講義内容をただ受容するのではなく、自ら問題意識を持って主体的に研究し学ぶこと。

関連科目 くこども関連科目	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童家庭福祉			17526	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
久松 睦典	選択	2				

授業の到達目標

現代を生きる子ども達の状況は、厳しい社会状況を反映し、大きく変化しつつある。社会の歪から子どもの発達を守り、健やかな成長を促すためには、社会、学校、家庭の三者教育のバランスのとれた教育と、それを積極的にバックアップする行政の取り組みの必要性が求められている。そうした状況下では、子育て支援や健全育成のためのより高度な専門的な知識を要求する「児童家庭福祉」の指導者としての資質が一層問われることになる。KAISEIパーソナリティのK（思いやり）をベースにしてコミュニケーション能力を養う。

授業の概要

最近の児童を取り巻く社会環境も変容し、価値観も大幅に多様化するとともに、様々な問題群も続出してきた。児童が社会構成の一員として、大人社会にあっても常に暖かく迎えられるよう児童家庭の問題と児童福祉に対する正しい概念を身につけなければならない。どのようにして地域社会の保障と支援が行えるか、児童福祉の今日的課題を考察し、その実態とその基本的な知識の習得、目的と方策を学ぶ。

授業計画

1.オリエンテーション

2.子ども家庭福祉とは

3.子ども家庭福祉のあゆみ

4.子どもと家庭の支援活動指針としての子どもの権利条約

5.子どもと家庭を支援する法律の体系

6.子どもと家庭を支援する制度の体系

7.子どもと家庭を支援する施設の体系

8.子どもと家庭を支援する専門職

9.子どもと家庭を支援する活動方法

10.子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応ー虐待について

11.子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応ー親子関係

12.子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応ー非行

13.子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応ー保育

14.子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応ー一人親家庭

15.子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応ー貧困

授業の方法

講義のテーマや単元に応じて作業課題を実施する。テーマについて、グループ討議し、発表する。またミニテストも実施する。

準備学修

できるだけ日常の新聞報道などで児童福祉に関する記事に目を通す。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

一回の欠席で3点、遅刻で2点減点し、欠席が5回以上で不合格とする。

テキスト

吉田眞理 編 「児童の福祉を支える児童家庭福祉」2012 萌文書林

参考図書

適時紹介する。

関連科目 くこども関連科目	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情緒・学習障害の心理			17537	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
濱田 誠二郎	選択	2				

授業の到達目標

社会の縮図と言われる学校・園で、子どもたちが生きづらさを感じる様々な要因について指導者の理解を深める。絡み合った要因を学校・園、家庭、関係諸機関とどのように連携してきたか、また、さらに将来的な支援のベクトルについて自分の考えを持つ。このクラスはKAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の観点から、インクルーシブ教育を理解し、実践する意欲を養う。

授業の概要

情緒・自閉症特別支援学級の教育課程上の課題を知り、試みられてきた問題解決策を検証する。学校・園に在籍する発達に課題がある子どもへの対応は、決してセオリー通りにはいかない。事例をできるだけ多く採り入れて、対応の共通点を見出して理解することが基礎・基本である。それらをベースにして支援の方法、留意点を解説する。

授業計画

1.発達に課題がある子の「困り感」への気づき

2.保育士・教師としてできる個別配慮

3.介助者が加わったときの役割

4.室内トラブルへの対応その1 解決のポイント

5.室内トラブルへの対応その2 たち歩きやエスケープ

6.室内トラブルへの対応その3 人間関係のトラブル

7.室内トラブルへの対応その4 パニックを起こしたときの対処

8.保護者とともに子どもを育てるその1 保護者面談の進め方

9.保護者とともに子どもを育てるその2 親から学ぶ支援のあり方

10.周りの子どもやその保護者への対応その1 周辺の子ども

11.周りの子どもやその保護者への対応その2 保護者に対して

12.チーム支援その1 確かな情報を共有する

13.チーム支援その2 実態の把握方法

14.チーム支援その3 組織的支援の進め方

15.学校・園に合ったチェックリストを作成

授業の方法

講義が中心となるがペアトーク、グループトークを採り入れて各自の考えが発信できるよう工夫する。

準備学修

マスコミ等でとり上げられる子どもに関する記事について、複数の視点で考える習慣を期待する。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

杉山 登志郎 『子どもの発達障害と情緒障害』（健康ライブラリーイラスト版）

参考図書

必要に応じて紹介する。

留意事項

ユニバーサルデザイン、インクルーシブシステム等特別支援教育に係るマスコミ報道に興味・関心を持つ。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・表現（造形表現）	①/②		17601	I	秋	20
担当者名	区分	単位	特記事項			
森 晴美	必修	1				

授業の到達目標

乳幼児の造形表現を指導するための理論と保育実践例を学び、自らの表現力を高める。教材や用具の扱い方の基礎基本を理解し環境を構成する力や作品を読み取る力、保育指導案を立案し実践する力を身に付ける。KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とI(知性)の育成を目指す。

授業の概要

造形表現における乳幼児の発達や特徴について詳述する。造形表現で扱う材料用具の基礎基本事項と技法について演習を行い、鑑賞活動を通して感性をより高める。教材研究を継続して行い、保育指導案作成のポイントを学び、実践力を身に付ける。造形表現に使う材料を自ら収集し、それらを使って模擬保育を行う。授業での制作物の一部は地域の子育ての支援活動に活かす。

授業計画

1. 領域「表現」のねらいと内容、乳幼児の造形表現の意義について
2. 造形表現における乳幼児の発達と他領域との関連
3. 情報機器、視聴覚教材の活用法及び保育指導案の構成と展開
4. 地域や美術館との連携、小学校教育への接続
5. 園行事やごっこ遊び、お話の世界と造形表現
6. 様々な技法や身近な材料、自然物を使った楽しい造形表現
7. 模擬保育と評価及び反省
8. 模擬保育の改善とまとめ

授業の方法

講義と実習を中心とする。学修のまとめとして模擬保育を行い学び合いの機会をもつ。

準備学修

次時の課題の構想を立案したり、必要な材料を準備したりしておくこと。そのために事前学修として、授業計画に示した予習に2時間、復習に2時間を要する。また教材収集に4時間要する。

課題・評価方法

①製作遊びの作品提出、鑑賞レポート、シミュレーションシート、

収集した教材の提出、保育指導案の作成と実践を課題とする。講義においてフィードバックを行う。
②平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点とする。

テキスト

渡辺一洋『幼児の造形表現』2015年 有限会社ななみ書房

参考図書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』、厚生労働省『保育所保育指針解説書』、
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育原理 I			17605	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
成木 智子	選択	2				

授業の到達目標

1. 保育の意義について理解する。
2. 保育所保育指針についての基本的知識を得る。
3. 保育内容と方法についての基本的知識を得る。
4. 保育の制度・思想についての基本的知識を得る。
5. 保育の現状と未来について、自分なりに考えをまとめ、発言できる。

このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

1. 保育・幼児教育に携わる者に求められる基本的知識を得ていながら、保育・幼児教育の根幹をなす原理を理解する。
2. 現代における保育・幼児教育の社会的役割を理解する。

授業計画

1. 保育原理を学ぶ意義について
2. 保育の方向性と保育実践の基礎になる発達観
3. 保育に関する諸法令からみる保育の原理
4. 保育所保育指針と幼稚園教育要領にみる保育の原理(1)
5. 保育所保育指針と幼稚園教育要領にみる保育の原理(2)
6. 養護と教育の一体化について
7. 認定こども園について学ぶ
8. 保育実践の基本構造について
9. 保育内容とその方法
10. 保護者支援について学ぶ
11. 西洋と日本の保育の創成期
12. 西洋の保育実践の発展過程
13. 日本の保育実践の発展過程
14. 保育者の在り方を考える
15. これからの保育に向けて、定期試験

授業の方法

前回の講義の振り返り、講義、討論、確認小テストで構成される。

準備学修

確認小テストの範囲を音読すること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

「改訂2版 新保育士養成講座 第1巻 保育原理」新保育士養成講座編纂委員会／編 全国社会福祉協議会出版、2015年

参考図書

授業時に紹介する。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論（幼小）	教職幼小		17613	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
森 晴美	選択	2				

授業の到達目標

教職の意義や教員の役割を理解する。学校教育や教員をめぐる今日的な課題と対応の事例などから学校教育に期待される役割や教員の役割を学ぶ。そして、今後の教員に求められる資質能力について知り、学修内容全てを通じて自己の教職への適性を見出す。KAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)の育成を目指す。

授業の概要

社会の急激な変化に伴い様々な課題に直面している学校教育の現状について詳述し調査、発表の機会をもつ。チームとして諸課題に対応する学校の在り方や教員の職務内容、服務や身分上の義務について理解する。この教科の学びを通して教職への適性を考え、目指す教師像を明確にもつようにする。

授業計画

- 1.「教職概論」科目の特性と概要について
- 2.教職の意義
- 3.幼稚園教育と小学校教育
- 4.教員の歴史、女性と教職
- 5.学校の組織と運営
- 6.教員の職務内容
- 7.教員の身分と服務・身分保障について
- 8.学び続ける教員へ(教員のライフステージと研修制度)
- 9.国際化・情報化と教員の役割
- 10.学校における社会体験とキャリア教育
- 11.様々な問題行動とカウンセリングマインド
- 12.特別な支援を要する幼児・児童への対応
- 13.学校(園)・地域・家庭の連携について
- 14.チーム学校の意義と実際について
- 15.今後の教員に求められる資質能力(専門職としての教員)

授業の方法

講義を主とするが、ディスカッションと発表を取り入れる。またリフレクションシートや用語シート他の作成により自己の考えを深め、知識の定着を図る。

準備学修

指示された部分のテキストを事前に読んで理解したり、教育・保育関連の情報を積極的に収集したりすること。そのために事前学修として、授業計画に示した予習に2時間、復習に2時間要する。

課題・評価方法

- ①リフレクションシート他の提出を2回求め、講義中にフィードバックを行う。
②平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点の減点とする。

テキスト

古橋和夫(編)『改訂 教職入門 未来の教師に向けて』2007年(株)萌文書林

参考図書

秋田喜代美、佐藤学編著 『新しい時代の教職入門』改訂版 有斐閣アルマ 文部科学省『小学校学習指導要領』『幼稚園教育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

留意事項

保育士と関連する部分も解説するが「保育教諭」として採用されることが増えていることから、教師を目指す者としての意識をもって授業に臨んでもらいたい。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児教育学原理			17617	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
須河内 優子	選択	2				

授業の到達目標

幼児教育の意義や目的、歴史、さらに今日の幼児教育の課題について学び、幼児教育の原理について理解する。また、幼児教育における「環境」「あそび」や、幼稚園教育要領についての理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を目指す。

授業の概要

幼児教育の意義や目的、歴史を学び、そのことを踏まえた上で、幼稚園教育要領を、具体的な園での子どもの姿と照らし合わせながら学んでいく。また、幼児教育におけるさまざまな問題について、ディスカッションや発表を通して、関心を深めていく。

授業計画

- 1.オリエンテーション 幼児教育の意義
- 2.幼児教育を取り巻く環境
- 3.幼児教育の歴史
- 4.幼稚園教育要領の歴史
- 5.幼児教育の課題
- 6.教育観と子ども観の変遷 ①
- 7.教育観と子ども観の変遷 ②
- 8.幼児教育に影響を与えた人物 ①日本
- 9.幼児教育に影響を与えた人物 ②諸外国
- 10.幼稚園教育要領 ①幼稚園教育の基本
- 11.幼稚園教育要領 ②幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
- 12.幼児教育における「環境」
- 13.幼児教育における「あそび」 ①子どもにとっての「あそび」
- 14.幼児教育における「あそび」 ②保育者の「あそび」へのかかわり
- 15.まとめ

授業の方法

参考資料を配布し、それに沿って講義する。また、DVD視聴やディスカッション、発表も取り入れる。

準備学修

「教育原理」の復習

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

幼稚園教育要領

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児教育課程の研究			17621	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐原 信江	選択	2				

授業の到達目標

教育課程を編成する重要性の理解と指導計画作成の具体的な方法の習得をめざす。
このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とI(知性)を養う。

授業の概要

幼児が健やかに成長していくためには、しっかりとした教育課程・保育課程編成のもと指導計画が作成され、それに基づく教育実践が必要であることを、講話を通して理解する。それとともに、教育現場での実践事例やDVD視聴等を通しながら、幼児の主体性と指導者の教育的意図のバランスを理解し、指導計画の作成と評価反省についての習得をめざす。

授業計画

- 幼稚園教育要領改訂の経緯と幼稚園教育の基本
- 幼児期の特性と幼稚園教育の役割の重要性
- 幼稚園教育における教育課程の意義と目的
- 教育課程の編成から指導計画の作成と実践
- 指導計画(長期・短期)作成の際の留意事項
- 園生活を通した幼児の発達と学び①3歳児の生活
- 園生活を通した幼児の発達と学び②4歳児の生活
- 園生活を通した幼児の発達と学び③5歳児の生活
- 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の考え方
- 月の指導計画作成の実際①長期的な視野で教育内容をとらえ月案を作成
- 月の指導計画作成の実際②グループ発表
- 週の指導計画作成の実際①領域を総合的にとらえ豊かな体験がえられる週案を作成
- 週の指導計画作成の実際②グループ発表
- 日の指導計画作成の実際①幼児期にふさわしい生活を考慮し日案を作成
- 教育課程及び指導計画の実践から評価と改善の重要性・カリキュラムマネジメントの意義について

授業の方法

参考資料を配付し、それに沿って講義する。DVD視聴や実践演習をもとにグループで話し合い意見発表をして、互いに学び合えるようにする。

うにする。

準備学修

「幼稚園教育要領解説」等の熟読

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回の欠席につき、3点の減点とする。

テキスト

「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説書」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」
(フレーベル館)

参考図書

幼稚園教育指導資料集第1集「指導計画の作成と保育の展開」フレーベル館 第3集「幼児理解と評価」ぎょうせい「保育とカリキュラム」ひかりのくに

留意事項

図書館にある「保育とカリキュラム」や各領域の指導書を読んだり、様々な絵本や歌曲に親しんだりして、保育に関する視野を広げおくこと。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育課程論（小）	教職小		17625	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
都賀 純	選択	2				

授業の到達目標

教育課程の意義、法的根拠、外観を理解する。現行の教育課程編成の要点、配慮事項について、その意味するところ、ポイントをブレゼン、討議を通して深めていく。KAISEIパーソナリティーのI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

学校現場での具体的な教育課程、カリキュラム・マネジメントの進め方を伝えていく。法令や学習指導要領解説と学校現場の実践と成果（そこにある課題や悩み、子供たちの姿、地域の教育力）とをつないで学生の理解を図っていく。

授業計画

- 改訂の経緯・基本方針・要点
- 教育課程の基準(意義と法制)
- 学習指導要領の改訂の変遷
- 教育課程の原則
- 生きる力を育む各学校の特色ある教育活動の展開
- カリキュラム・マネジメント
- 教育課程の編成
- 教育課程の編成における共通的事項
- 教育課程の授業改善
- 教育課程の学習評価
- 児童の発達を支える指導の充実
- 特別な配慮を必要とする児童への指導
- 学校運営上の留意事項
- 道徳教育推進上の配慮事項
- ふりかえり

授業の方法

教育課程に対する学生の発表、論述を大切にし、そこから生まれる疑問について討議をする中で理解を深めていく。

準備学修

予習・復習としてテキストの指定ページを読むこと。発表課題・レポート課題については論述も含めてしっかり準備しておくこと。上

記の準備学修を毎日20分程度行うこと。

課題・評価方法

- 課題 レポート提出3回、課題発表5回程度を求め、講義の中でフィードバックを行う。
- 評価方法 平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は1回につき4点減点。

テキスト

「小学校学習指導要領解説 総則編」 東洋館出版（H29.6）

留意事項

出席と授業態度を重視する。意欲と積極性を持って授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・人間関係			17629	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
成木 智子	必修	2				

授業の到達目標

乳幼児期における子どもの人間関係づくりの基礎を学ぶ。幼稚園教育要領と保育指針に基づき、戦後から現代までの保育に係る「人間関係」の変化とその捉え方を理解する。さらに、今回の改訂で重視されている地域子育て支援センターの役割や保育者の使命についても理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティーのI（知性）とA（自律）をめざす。

授業の概要

幼稚園教育要領の「人間関係」では、身近な人と親しみ、かかわりを深め、愛情や信頼感を持つこととある。つまり、身近な人とかかわるに留まらず深めていかなければならない。時には自己主張のぶつかり合い、いたわり合いなどの心の交流を、保育士、教師は積極的に仕組んでいく必要がある。子どもたちが友だちと楽しく活動する中で、共通の目的を見出して自然な形で協力することの良さを理解させたい。そのために役立つ技法、遊び、観察法等を学ぶ。

授業計画

1. 幼児教育の目的と領域・領域「人間関係」
2. 乳幼児期の発達と領域「人間関係」①親や保育者との出会いと関わり
3. 乳幼児期の発達と領域「人間関係」②友達との出会いと関わり
4. 子どもと保育者の関わり①信頼関係・子ども同士の関係をつなぐ。
5. 教育実習やボランティア活動なども活用して、保育を改善する視点を身につける。
6. 遊びの中の人との関わり①遊びと子どもの育ち
7. 計画的な保育実践のための指導案を作成することができる。
8. 教師のかかわり方、狙いや内容について評価方法を理解する。
9. 幼稚園の環境の構成の評価方法を理解する。
10. 個と集団の育ち①一人ひとりの理解・個と小学校へつなぐ集団の関係を理解する。
11. 発達や学びの連続性として小学校に円滑につなぐ必要性を理解する。
12. 人との関わりを見る視点①自己の発達と人との関わり
13. 遊びを広げるための情報機器の活用について学ぶ。
14. 子どもたちが自ら考え遊びを創造する情報機器環境を理解する。

15. 子ども同士の人間関係の形成を効果的に援助し、促進するための知識を習得する、定期試験

授業の方法

主に講義形式で進めるが、適宜小集団でも話し合いや討議の機会を持つ。

準備学修

個々人の人間関係づくりの経験、問題点を整理しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

谷田貝公昭 監修 谷口明子 編集『人間関係（実践 保育内容シリーズ）』一藝社

参考図書

授業時に紹介する。

留意事項

教育・福祉施策に関心を持つておく。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・言葉			17633	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
森 晴美	必修	2				

授業の到達目標

乳幼児期の言葉の発達の概要を理解する。言葉を獲得し思いを伝え合うようになるための環境や遊び、指導援助の方法について学ぶ。発達や生活の流れに即した教材選定力や保育指導案の作成力と実践力を身に付ける。KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とI(知性)の育成を目指す。

授業の概要

乳幼児の言葉の発達を詳説し、視聴覚教材を活用して、さらにイメージを確かなものにする。そして、言葉の育ちを促す絵本やお話の教材研究や、保育指導案作成と模擬保育を行う。また、発達に即した教材制作を通して言語環境を整え、乳幼児の豊かな言葉と言語活動を育む保育を学ぶ。

授業計画

1. 領域「言葉」・育みたい資質能力について
2. 乳幼児の言葉の育ちを支える要因
3. 乳児期の発達と言葉の獲得
4. 乳児期の言葉の発達を促す保育と教材
5. 満1歳以上満3歳未満児の発達と言葉の獲得
6. 満1歳以上満3歳未満児の言葉の発達を促す保育と教材
7. 満3歳以上の幼児の発達と言葉の獲得
8. 満3歳以上の幼児の言葉の発達を促す保育と教材
9. 言葉の獲得において特別な支援を要する乳幼児への保育
10. 豊かな言葉を育む児童文化(歌、手遊び、言葉遊び)
11. 豊かな言葉を育む児童文化(絵本や紙芝居)
12. 豊かな言葉を育む児童文化(人形劇やペープサート、パネルシアターやエプロンシアター等)
13. 伝え合い分かり合う楽しい劇遊び
14. 模擬保育①と振り返り
15. 模擬保育②と振り返り、まとめ

授業の方法

講義を主とするが、言葉をはぐくむ保育実践についての発表を加える。また、教材を制作し教育実習や保育実践にいかす。知識の定着を図るため小テストを1回行う。

準備学修

毎回、授業計画に示した予習に2時間、復習に2時間を要する。また、自身の保育技術を高めるため、わらべ歌や言葉遊び、絵本などに日頃から親しんでおくこと。地域の図書館での企画展示や子ども向けイベントに関心をもつこと。

課題・評価方法

- ①教材シートや、リフレクションシートの提出を2回、視聴覚教材制作と、保育指導案の立案と実践を課題とする。講義の中でフィードバックを行う。
②平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点、遅刻1回につき1点の減点とする。

テキスト

岸井勇雄・無藤隆、柴崎正行[監修]太田光洋[編著]『保育・教育ネオシリーズ20 保育内容・言葉 第二版』2006年(株)同文書院

参考図書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』、厚生労働省『保育所保育指針解説書』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会的養護			17638	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐々木 勝一	選択	2				

授業の到達目標

社会的養護の理念、歴史、制度と実施体系等について理解する。社会的養護の背景にある社会や家庭における児童問題を学ぶとともに、社会的養護における児童の人権擁護と支援の実際について理解を深めることを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのS(奉仕)を目指す。

授業の概要

児童養護とは何か、なぜ児童問題が起きるのか、社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割等について学ぶとともに、子どもたちを積極的に護るための実践を裏づける原理原則について学習する。特に、社会的に子どもを保護する施設では、子どもの人権擁護を基本として、子どもと家族の育成に積極的にかかわっていくための知見や技術が必要となっている。このため、(1)社会的養護が必要となる養護問題の現状や背景、(2)社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割、(3)児童福祉施設などにおける養護の実際を理解し、児童観や施設養護観を養うことを目標とする。

授業計画

1. 子どもの社会的養護
2. 日本における社会的養護のしくみ
3. 社会的養護に携わる専門職
4. 家庭支援の理論と実践
5. 児童虐待の現状と対応
6. 家庭的養護の理念と里親制度
7. 乳幼児の生命と健やかな育ちの保障
8. 児童養護施設の歴史と自立支援
9. 非行のある子どもの自立支援
10. 情緒障がいのある子どもの社会的養護
11. 知的・身体的障がいのある子どもの社会的養護
12. 児童養護施設における子どもの権利擁護
13. 当事者から見た日本の社会的養護
14. 児童福祉施設職員に求められるもの
15. まとめ、質問タイム

授業の方法

講義を主とするが、必要に応じてVTR、DVD等で児童養護の現状に

ついて理解を深める。また、双方向の授業であるから積極的に参加をすること。

準備学修

日ごろから、現代の子どもを取り巻く環境に対して関心を深めておくこと。

課題・評価方法

その他

欠席について

公欠以外の欠席は認めない。

テキスト

『保育の質を高める相談援助・相談支援』晃洋書房、西尾 祐吾監修、立花 直樹・安田 誠人・波田埜 英治編、ISBN 978-4-7710-2607-0

留意事項

児童福祉分野に関心がある、また、就職を希望する人はぜひ履修をすること。また、「社会的養護」「相談援助」「保育相談支援」科目と関連しているので、教科書は必ず購入すること。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの保健ⅠA			17642	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
藪内 順子	選択	2				

授業の到達目標

保育現場では疾病や障害を抱えた多様な子どもも入所しており、子どもの保健・安全の領域が重視されている。心身の健やかな成長を見守り援助していくために、子どもの特性を把握し、発育・発達についての知識を習得することが大切である。さらに、子どもを取り巻く家庭や社会環境などにも目をむけ総合的に判断し、対応できる力量を形成する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)を考える。

授業の概要

命の誕生から身体の発育・生理機能・運動機能・精神機能についての知識を習得し、子どもの心身の健康増進を図るための保健活動の意義や、子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について学ぶ。また子どもの疾病の特徴を知り、その予防とその対応について学ぶ。また子どもの心の健康とその課題について家庭・専門機関・地域との連携についても学ぶ。

授業計画

1. 子どもの健康と保育の意義①生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的
2. こどもの健康と保育の意義②子どもの健康概念と健康指標
3. こどもの健康と保育の意義③地域における保健活動と児童虐待
4. 子どもの発育・発達①生物としてのヒトの成り立ち
5. 子どもの発育・発達②身体発育
6. 子どもの発育・発達③生理機能の発達
7. 子どもの発育・発達④生理機能の発達
8. 子どもの発育・発達⑤運動機能の発達
9. 子どもの発育・発達⑥運動機能の発達
10. 子どもの発育・発達⑦精神機能の発達
11. 子どもの発育・発達⑧精神機能の発達
12. 子どもの精神保健①子どもの生活環境と精神保健
13. 子どもの精神保健②子どもの心の健康とその課題
14. 環境および衛生管理管理並びに安全管理①保育環境整備と保健
15. 環境および衛生管理管理並びに安全管理②保育現場における衛生管理

授業の方法

主に講義形式で進める。ディスカッションやグループワークや発表も取り入れる。DVD等も使用する。

準備学修

日頃から子どもの発育・発達に関心をもつ。感染症の発症や流行に関する情報を身近なこととして捉える。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は減点対象とする。また、提出期限を守らない場合も減点対象とする。

テキスト

子どもの保健Ⅰ 佐藤益子編著ななみ書房

参考図書

国民衛生の動向(財)厚生統計編

留意事項

レポートの提出について未提出の場合は加点0点。グループワークや発表への取り組み姿勢も評価対象とする。

教員連絡先

juno73@yahoo.co.jp

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの保健Ⅱ			17646	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
藪内 順子	選択	1				

授業の到達目標

乳幼児期の基本的生活への援助の仕方、保育現場で起こりうる子どもの疾病とその予防、救急時の対応や事故防止、安全管理に関する知識や技術を習得し実践力を身につける。保育における保健活動を理解し子どもの個別対応と集団全体の健康と安全・衛生管理について理解する。このクラスではK A I S E I パーソナリティーのK（思いやり）を考える。

授業の概要

子どもの安全で衛生的な生活を保障し、日々快適に過ごせるための健康・安全に係る保健活動の計画や実践について学ぶ。また、子どもの基本的な生活への関わりや援助の仕方、子どもの疾病とその予防および事故防止や応急処置、救急救命法など演習や実習をとおして実践力を身につける。

授業計画

1. 保育における保健活動①保健計画の作成と活用
2. 保育における保健活動②健康の取り組みの実践。成長・発達の観察と測定
3. 子どもの保健と環境①子どもの健康増進と望ましい保育環境
4. 子どもの保健と環境②子どもの生活習慣と心身の健康
5. 子どもの保健と環境③子どもの発達援助と保健活動
6. 子どもの疾病と適切な対応①感染症の予防と対策
7. 子どもの疾病と適切な対応②個別的な配慮を必要とする子どもへの対応
8. 事故防止および健康管理・安全管理①けがや急な病気への対応の基本と救急法
9. 事故防止および健康管理・安全管理②子どもに起きやすい事故の応急処置
10. 事故防止および健康管理・安全管理③子どもの救急蘇生法
11. 事故防止および健康管理・安全管理④子どもの救急蘇生法
12. 事故防止および健康管理・安全管理⑤保育における看護
13. 事故防止および健康管理・安全管理⑥災害への備えと危機管理
14. 心とからだの健康問題と地域保健活動①子どもの養育環境と心の健康問題
15. 心とからだの健康問題と地域保健活動②心とからだの健康づくりと地域保健活動

授業の方法

講義および演習と実習。DVD視聴、グループワークや発表も取り入れる。

準備学修

日頃より衛生管理や安全管理を認識し、自己の健康管理にも注意を払う。

課題・評価方法

平常点40％ 定期試験60％
平常点は授業態度および出席状況、レポートの評価による。実習にふさわしくない服装や髪型の場合等は減点対象とする。
提出期限を守らない場合も減点の対象となる。

欠席について

原則として欠席は認めないが、感染症による出席停止となった場合は認める。

テキスト

- ①子どもの保健Ⅱ 佐藤益子 編著 ななみ書房 必要時プリント配布
②子どもの保健Ⅱ演習 白野幸子 著

参考図書

授業時に適時紹介する。

留意事項

演習には身なりを整え、動きやすい服装で出席すること（スカート、踵の高い靴は不可。顔にかかる髪はゴムで束ねる。）
予定として、AED講習を受講する。日程は後日連絡する。

教員連絡先

juno73@yahoo.co.jp

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの食と栄養			17650	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石畠 多恵	選択	2				

授業の到達目標

子どもの発育・成長に伴う食と栄養の基本を理解し、自ら考え、現場で対応できる力をつける。子どもの食生活がその後の人生の基盤となり身体が育成されることを学び、適切な食生活の在り方を指導できる力をつける。保育者は、子どもに最も近い距離にあり、多くを伝え、学ぶ機会を与えることの出来る立場となる。特に学ぶべきことは、栄養・食生活・身体発育の知識はもちろんであるが、その知識を思いやりを持って現場で伝える実践力を養うことにある。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)、A(自律)、S(奉仕)を養う。

授業の概要

乳幼児期は、食生活の基礎が形作られる時期であり、子どもが健康な体を育成するためには食生活の正しい習慣付けは重要である。また、小児期の栄養は、保育者に委ねられることから、保育者が正しい栄養の知識と摂取方法、身体発育の仕組みおよび発達などを理解する必要がある。子どもの段階的な発育・発達を的確に捉え、その時期に必要な食生活と栄養について、現場で指導出来るように、多角的な栄養・健康の知識のみならず、自ら考える力や、実行する力も養うための発表形式の演習も取り入れる。食育基本法や児童福祉施設における食生活の現状や課題、及び特別な配慮を要する子どもの食生活と栄養について理解し対応出来る知識および方法を学ぶ。

授業計画

1. 保育における子どもの食と栄養
2. 子どもの心身の健康と食生活
3. 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能
4. 食事の摂取基準と献立作成・調理の基本
5. 胎児期、乳児期の授乳・離乳の意義と食生活
6. 幼児期の心身の発達と食生活
7. 学童期、思春期の心身の発達と食生活
8. 保育所における食育
9. 食育の内容と計画および評価
10. 食を通じた地域の関係機関や職員間の連携
11. 食生活指導および食を通した保護者への支援
12. 家庭における食と栄養
13. 児童福祉施設における食と栄養

14. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養
15. 子どもの食生活の現状と課題

授業の方法

講義および実践演習により行う。担当者による発表形式も取り入れる。

準備学修

テキストを一読しておくこと。出された課題に前向きに取り組むこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

子どもの食と栄養 岡井紀代香 吉井美奈子 編 ミネルヴァ書房

参考図書

必要に応じて随時紹介する。

教員連絡先

ishihata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については、教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・表現（身体表現）	①/②		17653	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
成木 智子	必修	1				

授業の到達目標

乳幼児が心をはずませ、のびのびと身体を動かし、表現の喜びを存分に味わえるための指導法を理解する。また、様々な表現方法を学習し、感性を磨き創造的な発想で身体を動かす力を身につける。さらに、情報機器や身体表現を促す教材の活用、環境構成の在り方、表現活動に関する国内外の取り組みなどを学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

身体表現は、心と体を解放し創造性を引き出す意義ある活動である。乳幼児の素朴な表現を受け止め、内容や活動を広めたり深めたりする指導法や、発達の過程、豊かな感性などについて情報機器も活用して詳説する。これらの学習を踏まえ、指導案を作成し、教材を活用した保育展開や環境を構成する力を身につける。まとめとして物語を通してイメージをふくらませ、グループで表現活動として発表する機会をもつ。

授業計画

1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携方認定こども園教育・保育要領の領域「表現」のねらいと内容の理解、身体表現の意義の理解
2. 領域「表現」や他の領域との関連、協同性や言葉による伝え合いを促す指導法
3. 発達段階に即した動き、基本リズムと模範表現
4. 身体の諸感覚を通し、身近な教材を用いた楽しい表現活動
5. 季節や行動、伝統芸能、伝承遊びなどの体験と表現活動
6. 情報機器や教材の活用と指導案作成
7. 豊かな表現活動と小学校の教科との関連
8. 物語を題材にした創作表現の発表と振り返りとまとめ、定期試験

授業の方法

色々な表現方法があることを知り、音楽に合わせて、又は自由に身体で表現する。又様々な動きに関心を持ち、創意工夫をして身体を自由に動かす。

準備学修

日ごろから身体を動かしておくこと。又周囲の事物の動きに関心を持ち、よく見ておくこと。

課題・評価方法

平常点30％ 定期試験・課題レポート70％

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

随時プリントを配布

参考図書

古市久子著 『身体表現』 北大路書房

留意事項

第2講義より2号館体育室で行う。体操服・体育館シューズ持参のこと。
分かりやすいところに名札を付けておくこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育方法論（幼小）	教職幼小		17657	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
濱田 誠二郎	選択	2				

授業の到達目標

激変する社会に対応できる子どもたちの育成に必要な資質や能力を高めるために、教育技術について理解を深めるとともに情報機器や教材作りへの関心を高める。また、アクティブラーニングの意味を理解するとともに、参加体験・ディスカッションを通して使える技術を習得する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）I（知性）の育成をめざす。

授業の概要

教育方法の概要、教育方法学の歴史、日本の授業と授業研究、教室の日常会話から学ぶこと、コンピューターと教育。などを軸として『学び』について深く考える。さらに、激変する社会に対応できる教育の方法や技術について学ぶとともにそれを生かした情報機器の活用能力を高める。今日の教育課題にも対応できるように、新学習指導要領からキーワードを解説する。

授業計画

1. 教育方法と授業について基礎的な理論を理解する。
2. 教育方法をより深く理解するために、日本と諸外国とを比較して学ぶ。
3. 授業と教育方法の基本原則の一つとして、系統学習と問題解決学習を理解する。
4. 個々の考え、意見を授業で分かち合い高めあう授業の創造。
5. 自分の考えと他者の意見を議論しながら、主体的・対話的な深い学びについて体験する。
6. 系統的な学び、単元を貫いた授業づくりのための教材選定、教室環境を理解する。
7. 育みたい資質・能力を育む教材研究と授業のありかたを理解する。
8. 聞き手によくわかる話し方（話法）について基礎的な技術を身につける。
9. めあてを共有できるような板書の工夫等、考える力を育てる。
10. 学習指導案での子どもの実態を把握する技術を理解する。
11. 学習指導案での教材の持っている価値を見抜く技術を理解する。
12. 学習指導案での指導観の意義と書き方を理解する。
13. 学習指導案での展開部について、時間配分や軽重を考えながら書けるようにする。

14. 幼児の興味関心を高める情報機器、ソフトウェアを選定し活用することができる。
15. 子どもたちの実態や効果的な時期にあった情報機器を活用しその能力を高めかつ、情報モラルも理解する。

授業の方法

講義、発表とワークショップ

準備学修

参考図書からレポートを指示することがある

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内の規定に準ずる

テキスト

小田 豊 「保育・幼児教育方法」 建帛社

参考図書

必要に応じて指示する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等国語科指導法			17661	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	選択	2				

授業の到達目標

小学校「国語科」の教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。児童の発達段階や特性、障がい等を理解し、情報機器及び教材の活用等を理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

国語科の目標と内容、授業方法、授業の構造、指導計画等、小学校における国語科学習指導法を把握するための講義を行う。また、教科書教材の指導案の作成や模擬授業を通して、国語科の指導力を身に付ける。

授業計画

1. 受講の心構え・授業規律・授業内容についてのガイダンス、国語と国語科
2. 国語科教育の意義と役割
3. 国語科の目標と内容
4. 学習指導要領に基づいた学習指導計画
5. 国語科の指導法と評価
6. 話すこと・聞くことの指導
7. 書くことの指導
8. 説明的な文章の指導（情報機器及び教材の活用を含む）
9. 文学的な文章の指導（情報機器及び教材の活用を含む）
10. 音読・朗読の指導
11. 伝統的な言語文化の指導（情報機器及び教材の活用を含む）
12. 国語の特質に関する指導
13. 模擬授業（低学年）
14. 模擬授業（高学年）
15. これからの国語科教育の課題

授業の方法

発表やディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

テキストの指定ページを読んだり、指導案を作成したりしておくこと。復習として毎回の授業の振り返りを行うこと。予習・復習、指導案の作成に計60時間以上費やすこと。

課題・評価方法

- ①指導案と模擬授業について、評価とアドバイスをを行う。
- ②評価方法は平常点30%、定期試験70%とする。

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

牛頭哲宏・森篤嗣『現場で役立つ小学校国語科教育法』ココ出版

参考図書

文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版

留意事項

出席と授業態度（模擬授業の準備やレポート等を含む）を重視する。小学校国語科の指導法を身に付けようとする意欲をもって授業に臨むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等社会科指導法			17665	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
山本 博	選択	2				

授業の到達目標

1. 「小学校学習指導要領 社会」の目指す理念や目標を理解することができる。
2. 「小学校学習指導要領 社会」の変遷と今求められている社会科学力について、理解することができる。
3. 具体的な資料を用いた学習指導案を作成し、模擬授業を展開することができる。
4. 社会の出来事に関心を持つことができる。
5. このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

「小学校学習指導要領 社会」の変遷を概観し、新しい「小学校学習指導要領 社会」に基づき、教育内容と指導法を考察し、教材研究の方法や学習指導法、評価方法の習得を目指す。グループワークとして、事例研究や模擬授業、教材研究の発表の場を設定する。さらに、学習者の視点に立った実践的な学びを展開することで、教師としての授業力、実践力を高める。

授業計画

1. 社会科とは何か、小学校社会科の成立と変遷
2. 「小学校学習指導要領 社会」の構成
3. 「小学校学習指導要領 社会」の内容
4. 社会科教育の今日的課題
5. 社会科の教材研究と授業の構想（資料の活用と教材化）
6. 社会科の教材研究と授業の構想（授業の仕組みと展開）
7. 社会科の教材研究と授業の構想（学習指導案の書き方と授業の見方・評価）
8. 地域学習の教材研究と授業化（教材研究と学習指導案の作成）
9. 地域学習の教材研究と授業化（模擬授業と相互評価）
10. 地理的学習の教材研究と授業化（教材研究と学習指導案の作成）
11. 地理的学習の教材研究と授業化（模擬授業と相互評価）
12. 歴史的学習の教材研究と授業化（教材研究と学習指導案の作成）
13. 歴史的学習の教材研究と授業化（模擬授業と相互評価）
14. 公民的学習の教材研究と授業化（教材研究と学習指導案の作成）
15. 公民的学習の教材研究と授業化（模擬授業と相互評価）

授業の方法

講義とグループワーク、模擬授業を中心に進める。

準備学修

文部科学省ホームページ小学校学習指導要領解説社会編（新学習指導要領）を熟読しておくこと。
普段から新聞の社会、政治、経済、文化等を読み、教材化を構想する。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

規則に従う

テキスト

文部科学省小学校学習指導要領解説社会編（新学習指導要領）がまだ刊行されていないので、必要に応じて配布する

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

出席と授業態度を重視する。積極性と意欲を持って、授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等算数科指導法			17669	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
都賀 純	選択	2				

授業の到達目標

算数科の教育内容と目標、及び指導法を習得する。子供が主体的・対話的で深い学びを進めるための授業づくりの工夫、留意点を教材研究、模擬授業を通して身に着ける。KAISEIパーソナリティーのI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

算数科の目標、内容、系統性、各領域の特徴を学ぶ。子供のつまづきやすい教材を取り上げ、具体的な指導法を現場での実践成果と絡ませながらプレゼン、討議する。45分の構成、指導案の書き方を学び、模擬授業も行う。

授業計画

- 1.オリエンテーション ・ 算数科の目標(その趣旨及び要点)
- 2.算数科の内容と構成(領域と概観)
- 3.授業45分間の構成上の留意点
- 4.学習指導案(1)内容と書き方
- 5.学習指導案(2)指導案を書く
- 6.第1学年の目標及び内容
- 7.第2学年の目標及び内容
- 8.第3学年の目標及び内容
- 9.第4学年の目標及び内容
- 10.第5学年の目標及び内容
- 11.第6学年の目標及び内容
- 12.低学年 模擬授業とふりかえり
- 13.中学年 模擬授業とふりかえり
- 14.高学年 模擬授業とふりかえり
- 15.指導計画の作成と内容の取扱い ふりかえり

授業の方法

講義と指導法についてのディスカッション、さらに模擬授業、事後の討議などの活動を大切にしていく。

準備学修

予習・復習としてテキストの指定ページを読むこと。出された課題

には前向きに取り組むこと。上記合わせて、毎日20分程度準備学修に取り組むこと。

課題・評価方法

- ①課題 レポートの提出6回、学習指導案の提出2回、模擬授業1回を求め、講義の中でフィードバックを行う。模擬授業の振り返りにおいて、担当教員によるフィードバックを行う。
- ②評価方法 平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき4点減点する。

テキスト

「小学校学習指導要領解説 算数編」 東洋館出版（H29.6）

留意事項

出席と授業態度を重視する。積極性と意欲を持って、授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等理科指導法			17673	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
山本 博	選択	2				

授業の到達目標

小学校理科の教育目標と指導方法を修得すること。また、自然科学の知識を習得し、指導計画の作成や学習指導のあり方について実践を通して学び、理科の授業作りの基礎を培うことを目的とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティーI（知性）とS（奉仕）の育成を目指す。

授業の概要

小学校理科学習指導要領の教科目標および学年目標・指導のあり方を把握する。生物・物質・地球を中心に具体的な内容を取り上げ、指導力、応用力を養う。さらに、理科の指導案作成や模擬授業を通して、実践力を育成していく。

授業計画

1. 現行の小学校学習指導要領理科と新学習指導要領理科の比較を通して理科指導の変遷をつかむ
2. 1単位時間の理科授業の流れと学習指導案の構成
3. 本時の学習の仕組みと書き方
4. 板書計画と子どもの思考の流れ
5. 評価規準の考え方と実際の評価
6. 教材研究と授業化に向けて(3年)
7. 模擬授業と相互評価(3年)
8. 教材研究と授業化に向けて(4年)
9. 模擬授業と相互評価(4年)
10. 教材研究と授業化に向けて(5年)
11. 模擬授業と相互評価(5年)
12. 教材研究と授業化に向けて(6年)
13. 模擬授業と相互評価(6年)
14. 教材研究と授業化に向けて(?年)
15. 模擬授業と相互評価(?年)

授業の方法

自然科学について、興味・関心が持てるよう具体的な事例を多く取り上げ、自作の資料やデジタル教材を使って講義をしていく。さらに、自分の考えを発表したりしながらディスカッションを深めてい

く。

準備学修

文部科学省ホームページ小学校学習指導要領解説理科編（新学習指導要領）を熟読しておくこと。
自然科学に関する報道等に関心を持って、情報を得ておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規則に従う

テキスト

文部科学省小学校学習指導要領解説理科編（新学習指導要領）がまだ刊行されていないので、必要に応じて配付する

参考図書

必要に応じて紹介する。

留意事項

理科学習が楽しいと感じられるよう、具体事例を挙げながら授業を進める。
出席と授業態度を重視する。
理科学習に対して、興味関心を深めるため、日頃から自然科学に関する報道等の情報に関心を持つこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等生活科指導法			17677	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
東内 則子	選択	2				

授業の到達目標

- ・生活科誕生の背景や経緯について理解する。
- ・生活科の目標を知り、他教科と違う特質について理解する。
- ・学習展開の基礎となる内容構成やそれぞれの内容の持つ役割について理解する。
- ・内容の組み合わせによる有効な単元活動や指導計画を探索。
- ・各内容を通して他教科や道徳との関連的な指導方法を理解する。

このクラスではK A I S E I パーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

低学年の子どもにとって極めて重要な役割を果たす生活科。その、誕生の経緯や特質を理解するとともに学習を展開するうえでの基礎となる内容構成や指導計画の工夫について理解を深める。

授業計画

- 1.オリエンテーション 「私が学んだ生活科」レポート
- 2.各自の生活科へのイメージの違いと学びの格差
- 3.生活科誕生の背景・生活科とはどんな教科か
- 4.生活科の目標（生活科の抱える課題と新指導要領のねらい）
- 5.生活科の内容（内容構成と階層性）
- 6.生活科の内容1 「学校と生活」
- 7.内容2 「家庭と生活」内容3「地域と生活」
- 8.内容4 「公共物や公共施設の利用」道徳との関連を考える
- 9.内容5 「季節の変化と生活」
- 10.内容の関連付けの意義を知り年間計画を考える
- 11.内容6 「自然や物を使った遊び」
- 12.内容7 「動植物の飼育・栽培」内容8「生活や出来事の交流」
- 13.内容9 「自分の成長」生活科の評価方法
- 14.学習指導案づくり
- 15.模擬授業

授業の方法

テキストによる講義を行うとともにワークショップやディスカッションを織りまぜながら理解を深める。
授業の初めは、身近な植物の観察「知っておきたい身近な植物」を行う。

準備学修

今の子どもたちの置かれている環境を意識してみる。なぜ生活科が必要かが見えてくる。

課題・評価方法

平常点30％、指導案・年間計画作成20％、定期試験50％

欠席について

欠席は2点減点し、遅刻は1点減点とする。

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領解説 生活編」

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別活動論（小）	教職小		17681	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
都賀 純	選択	2				

授業の到達目標

特別活動の意義、役割、今日的課題について学ぶ。子供の自己実現、人間関係づくり、望ましい集団活動のあり方について専門的な知識や指導力を身に着ける。KAISEIパーソナリティのI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

教育課程における特別活動の理念を把握し、目標、内容の理解を図る。学級活動の模擬体験や模擬授業を行う。さらに学校現場での実践、差風会活動等での映像を通して子供の姿を伝えることで、理解を深めていく。

授業計画

- 1.オリエンテーション、改訂の趣旨と目標
- 2.基本的な性格と意義
- 3.学級活動の目標と内容
- 4.学級活動の指導計画
- 5.学級活動の指導計画
- 6.学級活動の内容の取扱い
- 7.児童会活動の目標と内容
- 8.児童会活動の指導計画と内容の取扱い
- 9.クラブ活動の目標と内容、指導計画と内容の取扱い
- 10.学校行事の目標と内容
- 11.学校行事の指導計画と内容の取扱い
- 12.指導計画の作成に当たっての配慮事項 特別活動における主体的・対話的で深い学び
- 13.指導計画の作成に当たっての配慮事項 全体計画・年間計画の作成とその留意点
- 14.内容の取扱いについての配慮事項
- 15.特別活動の評価 ふりかえり

授業の方法

講義と演習（模擬授業、ディスカッション、プレゼンテーション

等）を合わせて、創造的思考力を養う。

準備学修

予習・復習としてテキストの指定ページを読むこと。出された課題には積極的に取り組むこと。上記のために毎日20分程度準備学修に取り組むこと。

課題・評価方法

- ①模擬授業1回、レポート提出（全3回程度）を求め、講義の中でフィードバックを行う。グループ発表後は、担当教員によるフィードバックを行う。
- ②評価方法 平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき4点減点する。

テキスト

「小学校学習指導要領解説 特別活動編」 東洋館出版社（H29.6）

留意事項

出席と授業態度を重視する。意欲と主体性をもって、授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育・教職実践演習（幼・小）			17686	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子／佐原 信江／石畠 多恵	選択	2				

授業の到達目標

保育・教職課程科目の学修や学校園での現場学習等を通じて、保育士・教員として必要な資質能力が、実践力としてどのように統合されたかを最終的に確認する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

実習で学んだことを振り返り、課題を確認するとともに保育者・教育者としての役割と責務についての認識を深めていく。職務への使命感、社会性や対人関係能力、また、学級経営能力や指導力を高め、保育者・教育者としての資質の向上を目指す授業を進める。

授業計画

1. 授業概要の説明、受講の心構え、これまでの学修の振り返り
2. 保育・教職の意義や保育士・教員の役割、職務内容、子どもに対する責任等についての討議
3. 社会性や対人関係能力（職場、保護者・地域との人間関係の構築等）についての講義・グループ討議
4. 幼児・児童理解や学級経営についての講義・グループ討議
5. 保育計画案・学級経営案の作成
6. 保育計画案・学級経営案の発表とグループ討議
7. 学校園現場の見学・調査①
8. 学校園現場の見学・調査②
9. 社会性、対人関係能力、幼児・児童理解、学級経営についてのグループ討議
10. 保育・教科の指導力についての講義・グループ討議
11. 模擬保育・模擬授業と討議①
12. 模擬保育・模擬授業と討議②
13. 事例研究とロールプレイング①
14. 事例研究とロールプレイング②
15. 目指す教師像と自己課題の確認

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

事前に課題を提示するので、レポートや作品等を作成すること。予習・復習、レポートや作品の作成等に計60時間以上費やすこと。

課題・評価方法

- ①レポートや作品等の提出物については、担当教員による評価とアドバイスを行う。
- ②評価方法は平常点70%、定期試験30%とする。

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

参考図書

厚生労働省『保育所保育指針解説書』、文部科学省『幼稚園教育要領解説』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』フレーベル館、文部科学省『小学校学習指導要領』、わかば社『教職実践演習 これまでの学びと教師への歩み』

留意事項

自己目標・課題をもって意欲的に授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習の研究Ⅰ（幼）	教職幼		17689	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐原 信江	選択	1				

授業の到達目標

教育実習とは何か、幼稚園に勤務する教師の仕事とは何かなど、教育実習に向けて準備すべき実際や心構えを学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）の育成をめざす。

授業の概要

1週間の観察・参加実習にあたり、教育実習の目的・意義、特に実習記録のとり方について具体的に学んでいく。加えて、人権感覚を養うなど教師としての資質向上をめざす内容を取り入れている。

授業計画

1. 幼稚園教諭とは
2. 教育実習の意義と目的
3. 教育実習園の選択と決定
4. 教育実習園の教育などの理解
5. 教員に求められる資質
6. 1週間実習に向け、園への依頼の仕方
7. 実習記録の取り方と記載について
8. 実習記録の記載に際しての留意事項
9. 実習に際しての具体的な留意事項
10. 実習後について（礼状の作成など）
11. 1週間実習を終えての成果や課題について協議①
12. 1週間実習を終えての成果や課題について協議・発表②
13. 実習記録について個人指導及び指導
- 3週間実習に向けて教材作成
14. 実習記録について個人指導及び指導
- 3週間実習に向けて教材作成
15. 実習記録について個人指導及び指導
- 3週間実習に向けて教材作成

授業の方法

テキストやプリントをもとに、具体的な内容で授業を進める。実習後は、幼稚園から返却された実習記録や評価をもとに、個人指導を実施する。

準備学修

準備学修シートに基づき、実習園の理解をするとともに、絵本、歌、手あそびなどの教材研究とピアノレッスンに励むこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

基本的に欠席は認められない。やむを得ない場合のみ、1回につき3点の減点とし、遅刻は2点減点する。

テキスト

本学作成の「幼稚園教育実習の手引き」「あそびうた大全集200」永岡書店 「実践！造形あそび」ナツメ社

参考図書

「保育とカリキュラム」ひかりのくに社
「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館
幼稚園教育指導資料第5集「指導と評価に生かす記録」チャイルド社

留意事項

資格取得のための教育実習に向けての授業である。1回の欠席も認められないことを十分理解しておくこと。やむをえず欠席する時は必ず事前に申し出ること。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
介護等の体験（事前指導）（小）	教職小		17697	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
浅井 由美	選択	1				

授業の到達目標

「介護等体験」の意義を理解する。社会福祉施設や特別支援学校について、基本的な知識を身に付ける。「介護等体験」でかかわる人々の状況を理解する。「介護等体験」にあたっての心構えや留意点を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、A（自律）、S（奉仕）、E（倫理）を考える。

授業の概要

いわゆる「介護等体験特例法」は、「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行わせる」としている。授業では、この法律の趣旨を理解できるように指導する。社会福祉施設（5日間）と特別支援学校（2日間）において「介護等体験」を円滑に行い十分な成果を得るため、基本的な知識と技能を身に付けられるようにする。

授業計画

- 1.「介護等体験」の目的と概要
- 2.社会福祉施設 1
- 3.社会福祉施設 2
- 4.介護の心構えと実際
- 5.高齢者の心と身体
- 6.特別支援学校
- 7.障がいがある子どもとのかかわり方と「介護等体験」
- 8.「介護等体験」に臨む心構え・留意事項

授業の方法

講義とDVD視聴に加えて、プレゼンテーションやディスカッションをとり入れる。

準備学修

予習・復習としてテキストの指定ページを読む。準備学修のプリントを配布するので、記入しておく。30時間。

課題・評価方法

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

増田雅暢ほか『よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会
全国特別支援学校長会『特別支援学校における介護等体験ガイドブック フィリア』ジアース教育新社

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

この授業は7.5回行う。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習の研究Ⅱ（幼）	教職幼		17705	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐原 信江	選択	1				

授業の到達目標

1 週間実習の成果と課題を生かして、さらに充実した3 週間実習となるよう、教育実習の目的意識と実践力を確かなものにする。実習終了後は自己評価を行い、幼稚園教諭となるにふさわしい自分をめざす。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）の育成をめざす。

授業の概要

1週間実習の成果と課題を自ら明確にし、3週間実習に意欲的に取り組めるようにする。
実習で直面するであろう課題や問題点について、実践例をもとに教材研究などを具体的に学ぶ。実習終了後は自らの課題を明確にし、その課題克服に努める。

授業計画

1. 実習園でのオリエンテーション(依頼電話のかけ方、訪問に際して等)
2. 指導実習に向けての教材の作成①
3. " ②
4. " ③
5. 絵本の読み聞かせとリズム遊び①
6. " ②
7. 実習園のオリエンテーションを受ける。
8. 実習園の教育理念や指導方法を学ぶ。
9. 指導実習に向けての教材研究と指導案の作成①
10. " ②
11. 実習記録の記入方法について
12. 実習に向けて留意事項の再確認
13. 礼状の作成
14. 実習園の評価をもとに反省と考察を行い、課題を明確にする。
15. まとめ

授業の方法

実習園の教育について理解すると共に、教材研究や指導案の作成、実習記録の取り方など、実際に即した内容で授業を進める。

準備学修

1週間実習の課題と準備学修シートに基づき、実習期間に適した絵本・歌曲・製作遊びなどの教材準備や指導案の作成方法について研鑽を積むこと。加えてピアノレッスンに努めること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

必ず全回出席である。やむを得ない場合のみ、1回につき3点減点し遅刻は2点減点とする。

テキスト

「幼稚園教育実習の手引き」本学作成 「あそびうた大全集200」永岡書店
「実践！造形あそび」ナツメ社

参考図書

「幼稚園教育要領解説」フレーベル館
「教員をめざそう！」文部科学省

留意事項

資格取得のための教育実習に向けての授業である。遅刻はもちろん、1回の欠席も認められないことを十分理解しておくこと。やむをえず欠席する場合は必ず事前に申し出ること。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育経営論（幼小）	教職幼小PC		17713	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
濱田 誠二郎	選択	2				

授業の到達目標

教育制度について、法的な知識をふまえながら、その概要を把握し、経営という観点から、学校を総合的・多面的に理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

現在の教育システムの在り方をとらえ、学校・学級経営の様々な場面に応じて、組織を有効に活用する教育経営論を学ぶ。教育について、制度及び経営という側面から考察していく。また、学校制度や教育関係法規から、学校教育の目的や教職員の職務等を学び、教師の職責について理解を深める。

授業計画

1. 受講の心構え・授業規律・授業内容等についてのガイダンス、学校の種類と公教育
2. 教育制度の歴史と発展 1
3. 教育制度の歴史と発展 2
4. 子どもの権利と人権 1
5. 子どもの権利と人権 2
6. 教育制度を学ぶ意義 1
7. 教育制度を学ぶ意義 1
8. 教育法 1
9. 教育法 2
10. 教育の目的と目標
11. 学校の制度
12. 義務教育の制度
13. 教育の機会均等
14. 教職員の制度
15. まとめ

授業の方法

考えを書く活動とグループディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

世界各国の教育制度や教育の現状、教育法等について事前に調べた

り、レポートを作成したりすること。授業時間の2倍程度の時間を準備学修（予習・復習）に費やすこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は3点減点し、遅刻は1点減点する。

テキスト

末松裕基著 教育経営論 学文社

参考図書

川口洋誉・中山弘之『未来を創る 教育制度論』北樹出版

留意事項

出席と授業態度を重視する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・健康			17717	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石田 伸子	必修	2				

授業の到達目標

現代の諸事情により生活スタイルが変容していることを踏まえ、乳幼児の「健康」を守ることの必要性を感じ取り、幼児期に身につけるべき、心と身体の健康に関する内容が理解できること。また、実際に体を動かすことの楽しさ・心地よさを体験し、発達に応じた幼児の運動遊びの指導法を身につける。このクラスではKSAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）を養う。

授業の概要

領域「健康」は、「健全な心と身体を育て、自ら健康で安全な生活をつくりだす力を養う」領域である。毎日の生活を満足感を持って楽しく充実して過ごすには健康が基本になる。健康であるということは生活上すべての活動の基本となることである。基本的な生活習慣の自立への指導から、健康な身体作り・健康管理・安全教育など、心身ともに健康な生活ができるようにするには何が必要か、発達の段階を踏まえて学習する。

授業計画

1. 健康の意義と乳幼児の健康な生活
2. 子どもの身体の発達
3. 運動能力と身体の発達
4. 安全の指導
5. 領域「健康」
6. 領域「健康」と保育の計画
7. 運動遊び(実技)①(縄、新聞紙、ボールなどを使った遊び等)
8. 運動遊び(実技)②(大縄、フープを使った遊び、用具を使わない運動遊び等)
9. 運動遊び(実技)③(運動用具＝平均台、跳び箱、マット等を使った遊び等)
10. 0～2歳児の生活と動き
11. 0～2歳児の身辺自立・生活習慣の獲得と遊び
12. 3～5歳児の生活習慣の獲得
13. 3～5歳児の運動遊びの実践と指導のポイント
14. 安全への配慮
15. 保育者の役割

授業の方法

テキストに添って講義を進めるが、事例を多くとり入れ、理解しやすいようにする。ディスカッションや実技を取り入れ、主体的に体得していけるようにする。

準備学修

幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の「健康」をよく読んでおくこと
毎日20分程度復習をする。

課題・評価方法

グループ発表後は、教員によるフィードバックを行う。
実技の積極性、動きなどを評価する。
平常点50% 定期試験50%とする。

欠席について

欠席数は成績評価に反映する

テキスト

演習 保育内容 健康 河邊貴子編著 建帛社

参考図書

幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領

留意事項

実技①②③は、運動しやすい服装・体育館シューズ・新聞紙・縄跳び用縄を持参のこと。場所は未定。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・環境			17721	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
渋谷 美智	必修	2				

授業の到達目標

近年の社会の変化にともなって、子どもを取り巻く様々な環境も従来とは変わり続けている。この現状をしっかり受け止め、子どもを取り巻く環境のあり方や保育者の役割を理解する。環境が成長過程に影響することが理解でき、その時期にふさわしい環境の構成あるいは環境の取り入れ方が分かるようになる。幼児に影響を与える人的環境としての保育者が大きな存在となることを踏まえ、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の領域「環境」に「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」と述べられている。子どもたちが園内外の“自然・文化・人・もの・事象・文字・記号”などに自ら触れ、生きる力を育む直接的体験を積み重ねられる環境を準備するために、保育者自身が様々な環境に対し興味や関心をもち理解し、子どもの主体性を引き出す為にどのような環境づくりをしていけばいいのか、保育者自身も常に主体性を持って環境について学ぶ。

授業計画

1. 保育と「環境」
2. 領域「環境」とは
3. 子どもの育ちと領域「環境」(DVD視聴「子どもを育む保育の環境」)
4. 教室を出ての実体験とグループワーク
5. 子どもを取り巻く自然環境
6. 生き物とのかかわりにおける子どもの育ち(DVD視聴「動物を知る」)
7. 子どもを取り巻く物的環境
8. 子どもを取り巻く人的環境
9. 子どもの活動を引き出す保育環境(教室を出て実体験、DVD視聴)
10. 子どもの生きる力を育む環境
11. 子どもを取り巻く社会的環境
12. 子どもを守り育てる環境
13. 気になる子どもと環境
14. 環境を通した教育・保育の現在の課題
15. まとめ

授業の方法

講義を中心にし、内容に沿ったDVD視聴や事例の中から、グループで話し合ったり意見発表を多く取り入れる。

準備学修

日ごろから身近な環境に目を向け、疑問や問題意識を持つように心がけておく。テキスト、幼稚園教育要領、保育所保育指針をよく読んでおくこと。自然・社会事象について、身の回りに目を向け体験実感する。（学習時間として、60時間を必要とする）

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%。
レポートの提出や振り替えテストなどについて講義の中でフィードバックを行う。

欠席について

欠席数は成績評価に反映する

テキスト

「保育内容 環境 あなたならどうしますか？」岡澤陽子、杉本裕子、平野麻衣子、松山洋平、山下文一、萌文書林

参考図書

幼稚園教育要領解説 フレーベル館
保育所保育指針 日本保育協会
3,4,5歳児が夢中になる実践「造形遊び」 平田智久監修 ナツメ社
あそびうた大全集 永岡書店

留意事項

教室を出ての実体験等を含むので、授業計画が変更する可能性がある為、授業課前のボードをよく注意して見ておくこと

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児教育指導法			17725	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐原 信江	選択	2				

授業の到達目標

幼児期の教育・保育の実践にあたり、基本となる教育内容の再認識と遊びや活動の指導実践力の習得をめざす。この科目ではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

幼児期の教育の基本を再認識するとともに、視覚教材(PP)を通して、子どもの生活や遊びとはどのようなものか学ぶ。また教材研究と演習、指導案作成と模擬保育を通して、教師の役割について実践的な習得をめざす。

授業計画

1. 幼稚園生活と幼稚園の役割、幼児期の特性
2. 幼稚園教育の基本(人格形成の基礎・環境を通して行う教育)
3. 幼稚園教育の基本(幼児の発達の過程・個々に応じた指導 など)
4. 幼稚園教育の基本(教師の役割、教職員間の連携)
5. 教材研究と演習①人形劇 シナリオの作成と教材の作成
6. 教材研究と演習②人形劇 グループで協力し人形劇の完成
7. 教材研究と演習③人形劇 各グループの演習と評価
8. 保育内容の指導実践①基本的な生活習慣の育成・安全教育
9. 保育内容の指導実践②いろいろな行事、自然を取り入れた活動
10. 保育内容の指導実践③保護者との連携、子育ての支援・預かり保育
11. 保育内容の指導実践④小学校教育との円滑な接続
12. 教材作成と模擬保育①パネルシアターの作成
13. 教材作成と模擬保育②パネルシアターを活用した保育指導案の作成
14. 教材作成と模擬保育③指導案をもとに模擬保育
15. 幼稚園で実際の保育体験と振り返り

授業の方法

実際の子どもたちの園生活の様子を視聴しながら講義を進める。加えて教材作成、演技演習、グループディスカッションを通して、実践的な指導力をつけていく。

準備学修

「幼稚園教育要領解説」等の十分な再読。

課題・評価方法

平常点30% 演習30% レポート等の提出40%

欠席について

1回の欠席につき3点減点とする。

テキスト

「実践！造形あそび」(ナツメ社)
「あそびうた大全集200」(永岡書店)

参考図書

「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説書」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)
「初等教育資料」文部科学省「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について」文部科学省「幼児教育じほう」全国国公立幼稚園長会

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児指導論（カウンセリングを含む）			17729	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石畠 多恵	必修	2				

授業の到達目標

幼児の心身の発達の手筋を理解し、幼児理解に基づく適切な援助・指導のあり方を学ぶ。幼児一人一人の発達課題に即した援助・指導や環境構成の意義がわかり、保育者の役割についての理解を深める。幼児教育にとって必要なカウンセリングマインドの基本と心構えを理解し、カウンセリングマインドの姿勢で幼児を受け入れ、幼児の理解者として、幼児の遊びの指導者として、保育者の役割を理解する。またカウンセリングマインドを通して保護者を理解する。このクラスはKAISEIパーソナリティのとA（自律）とI（知性）を養います。

授業の概要

教育とは、子どもの遊びを触発し、それを援助・組織して、子どもたちの発達を促す営みである。幼児教育を担う者にとって重要なのは、幼児の心身の発達や興味や関心を適切にとらえ、それに応じた具体的な環境を整えることで、自発的、能動的な活動を引き出すことが基本となる。幼児一人ひとりが、喜びと充実感を伴った学びの体験をし、成長する喜びを実感しながら発達に必要な体験を積み重ねていけるような援助や指導の方法を知ることが大切である。本講義では、幼児を援助・指導するということの本質について、カウンセリングマインドの姿勢を通して、保育相談にも対応できるよう、具体的な事例を挙げながら指導する。

授業計画

1. 幼児指導の基本
2. 乳幼児期の発達と子どもの理解
3. 環境を通しての教育
4. 遊びを通しての指導
5. 幼児の主体性の育成
6. 保育者の役割
7. 遊びのなかの学びをはぐくむ保育（保育者の援助）
8. 遊びのなかの学びをはぐくむ保育（遊びの目的）
9. 保育形態による幼児の育ちと保育における評価
10. 幼児期の教育と小学校教育の連携と現状
11. 家庭や地域と連携した保育
12. 保育におけるカウンセリングマインドの基本的な心構え
13. 基本的な生活習慣の育ちを支援する

14. 子どもの健やかな育ちを支援する
15. 園生活に困難を抱える子どもを支援する

授業の方法

事例を多く取り入れ講義を進める。意見を発表したり、グループ討議をする中から、課題意識を持って主体的に取り組めるようにする。

準備学修

出された課題には前向きに取り組むこと。

課題・評価方法

授業中の態度や提出物などを中心に、テストの結果と合わせて評価する。

欠席について

欠席は成績評価に反映する

テキスト

保育所保育指針解説 ・幼稚園教育要領解説
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

参考図書

保育カウンセリングマインドへの招待 富田久恵・杉原一昭編著
北大路書房
新保育ライブラリー「幼児教育の方法」 小田豊 青井倫子編著
北大路書房

教員連絡先

ishihata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。オフィスアワーの日時については、教務課前掲示板を確認すること。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽科指導法			17733	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
南 夏世	選択	2				

授業の到達目標

小学校教科「音楽」の意義を理解し、音楽教科の教育課程に関する知識・技能及び指導力を身につけることを目的とする。音楽科が担うリベラル・アーツとしての役割を理解し、現代の環境に適した幅広い音楽活動の指導ができる指導者を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自律）を養う。

授業の概要

概説として、『小学校学習指導要領（音楽）』の内容について理解し、音楽教育の歴史についての知識を習得する。特に明治以降の音楽教育について考察を深め、これからの音楽教育についてのディスカッションも行う。実践としては、歌唱指導・鑑賞指導・器楽指導のための教材研究ならびに演習を行いながら、音楽の基礎知識を習得し、各自の音楽技能も高めていく。さらに、模擬授業や音楽会のための計画ならびに発表を行うことにより実践力を身につけ、様々な実態を想定した音楽指導法ができるよう学修する。

授業計画

1. 『小学校学習指導要領（音楽）』の概説
2. 『小学校学習指導要領（音楽）』の概説
3. 楽典の基礎 ピアノ演習
4. リコーダーの理解と合奏
5. いろいろな楽器の理解と奏法
6. 合奏教材と指揮法基礎演習
7. 歌唱教材の研究と演習
8. 歌唱教材の研究と演習
9. 鑑賞教材の研究
10. 鑑賞教材の研究 西洋音楽の理解
11. 日本の伝統音楽の理解
12. 日本の音楽教育の歴史とこれからの課題についての考察
13. 日本の音楽教育の歴史とこれからの課題についての考察
14. 音楽会のための計画、指導、演奏の総合演習
15. 音楽会のための計画、指導、演奏の総合演習

授業の方法

講義と個人あるいはグループでの演習や研究発表。

準備学修

与えられた課題の練習や発表の準備学修が60時間必要である。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%
各項目ごとの発表は平常点に反映する。定期テストは筆記試験を実施する。

欠席について

1回につき2点減点。

テキスト

初等科音楽教育法（音楽之友社）

参考図書

教育芸術社『小学校の音楽1～6』

留意事項

グループ演習も多いので、毎回の出席と積極的な活動を心がけること

教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等図画工作科指導法			17737	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
花房 雅剛	選択	2				

授業の到達目標

小学校学習指導要領にある図画工作科の目標および内容を理解し、授業を実践できる力を身に付ける。そのために情報機器等を活用し、低・中・高学年それぞれの目標や学習内容を具体的に理解し、作品づくりをとおして指導上必要な知識と技術を習得する。このクラスではK A I S E I パーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

講義やディスカッション、作品づくりをとおして図画工作科の学習内容や指導方法、評価の仕方、指導案づくり等について学ぶ。また、鑑賞の能力を高める手立てとして博物館や美術館など社会教育施設等の活用方法についても学習する。

授業計画

1.図画工作科の目標と役割

2.図画工作科の年間計画と授業のすすめかた

3.図画工作科と横断的学習の基礎知識

4.図画工作科の横断的学習(作品制作による技法的理解)

5.図画工作科と言語活動

6.点・線・面の表現の基礎知識

7.点・線・面の表現の技法的理解

8.版画の種類としくみについての基礎知識

9.版画制作による技法的理解

10.立体表現の基礎知識

11.立体作品制作による技法的理解

12.造形遊びの基礎知識

13.鑑賞指導の基礎知識

14.美術館での鑑賞指導

15.まとめ

授業の方法

作品の制作方法・指導方法ならびに鑑賞指導を中心に講義、ディスカッションを行う。

準備学修

事前配布資料を読み、作品づくりに必要な資料・材料等の準備して授業に臨む。

課題・評価方法

その他

欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点。

テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

参考図書

文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』
日本文教出版『図画工作』『すがこうさく』

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等家庭科指導法			17741	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

小学校における家庭科教育に必要な実践的指導力を身に付ける。学習指導要領に示された小学校家庭科の目標と内容、その指導上の留意点を理解する。小学校家庭科とその背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。小学校家庭科の学習指導の理論と方法を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

小学校家庭科の目標と内容、家庭科教育のために必要な学習指導の理論と方法、教材研究などを学ぶ。さらに、子どもの発達段階や生活実態を踏まえた、また情報機器及び教材を活用した授業設計と学習指導案の作成を学び、模擬授業を行う。

授業計画

1.小学校家庭科の目標と内容

2.「家族・家庭生活」「衣食住の生活」に関する指導上の留意点

3.「消費生活・環境」に関する指導上の留意点

4.小学校家庭科の評価

5.「家族・家庭生活」「衣食住の生活」に関する教材研究

6.「消費生活・環境」に関する教材研究

7.子どもの発達・生活と家庭科教育

8.小学校家庭科の施設・設備(情報機器含む)

9.小学校家庭科の学習指導の理論と方法

10.小学校家庭科の学習指導計画

11.小学校家庭科の学習指導案の作成

12.「家族・家庭生活」「衣食住の生活」の模擬授業

13.「消費生活・環境」の模擬授業

14.模擬授業の検討・改善

15.まとめ

授業の方法

講義に加えて、ディスカッションと模擬授業をとりいれる。

準備学修

高等学校までの家庭科を復習する。教材研究と模擬授業の準備をする。60時間。

課題・評価方法

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点30％、定期試験70％

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』東洋館出版

参考図書

必要に応じて授業中に指示する。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等体育科指導法			17745	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
木岡 正雄	選択	2				

授業の到達目標

体育科の指導案を作成することができ、模擬授業を行う力を養う。
また、授業観察力を培う。グループワークを主として行い、他への
思いやりと規律、実行力を養う。

授業の概要

小学校体育科の目標、教材内容について理解する。理解した知識を
基に模擬授業を実施する。授業を観察するポイントを理解する。

授業計画

- 1.オリエンテーション。体育科の目指す授業について
- 2.小学校学習指導要領、体育編の内容を知る。
- 3.これから目指す体育授業について。運動の特性について
- 4.低学年の目標と学習内容について
- 5.中学年の目標と学習内容について
- 6.高学年の目標と学習内容について
- 7.学指導案の書き方について
- 8.指導案を作成する。①
- 9.指導案を作成する。②
- 10.指導案を作成する。③
- 11.模擬授業を実施する。①
- 12.模擬授業を実施する。②
- 13.模擬授業を実施する。③
- 14.模擬授業を振り返る。学習評価について。
- 15.学習のまとめ。これからの体育学習について

授業の方法

小グループでの話し合い、調べ学習、作業等を主とする。体育の実
技も実施予定である。

準備学修

小学校学習指導要領 文部科学省 、小学校学習指導要領解説体育
編を読んでおく。（可能なら 新）

課題・評価方法

その他

欠席について

原則欠席をしない事。登校できる程度なら見学でも出席すること。

参考図書

新しい体育授業の運動学 三木四郎 著 明和出版

留意事項

実技も実施するので、運動のできる服装の用意をする。

教員連絡先

〒651-2277 神戸市西区美賀多台4-7-20
自宅電話番号&Fax 078-961-4362

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
道徳教育指導論（小）	教職小		17749	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	選択	2				

授業の到達目標

小学校「特別の教科 道徳」の目標と内容、指導計画、学習指導法
等について、基礎的な理論と指導技術を修得する。このクラスでは
KAISEI/パーソナリティのA（自律）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

道徳教育の目標と内容、授業方法、指導計画、資料の扱い方等、小
学校における道徳の指導法を把握するための講義と演習を行う。ま
た、学習指導案作成や模擬授業を通して、実践的な指導力を身に付
ける。

授業計画

- 1.受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、道徳教育の基礎
理論
- 2.道徳教育の歴史
- 3.道徳性とは何か
- 4.道徳の目標と内容
- 5.道徳性の発達理論と道徳教育
- 6.道徳教育の計画
- 7.道徳科の学習指導
- 8.道徳教材の活用
- 9.道徳科における問題解決的な学習
- 10.道徳科における体験的な学習
- 11.道徳科の授業展開
- 12.道徳の評価
- 13.道徳の授業づくり(低学年)
- 14.道徳の授業づくり(高学年)
- 15.これからの道徳教育の課題

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

テキストの指定ページを事前に読んだり、指導案や教材を作成した
りすること。復習として、毎回の授業の振り返りを行うこと。予
習・復習、指導案や教材の作成に計60時間以上費やすこと。

課題・評価方法

- ①指導案と模擬授業について、評価とアドバイスをを行う。
- ②評価方法は平常点30%、定期試験70%とする。

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

柳沼良太『道徳の理論と指導法』図書文化社

参考図書

文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』

留意事項

出席と授業態度（模擬授業の準備や提出物を含む）を重視する。道
徳の指導法を身に付けようとする意欲をもって授業に臨むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認の
こと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
生徒指導論（進路指導を含む）（小）	教職小		17753	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
花房 雅剛	選択	2				

授業の到達目標

生徒指導の意義や原理を学ぶとともに、学校現場における生徒指導・進路指導の内容と課題を理解し、教員として必要な資質・能力を高め、実践的な指導力を身に付ける。このクラスでは、K A I S E I パーソナティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

今日的な生徒指導・進路指導上の課題を新聞等の資料を使い把握し、『生徒指導提要』や教育委員会発行の資料に基づき、生徒の内面理解を基盤に据えた生徒指導・進路指導のあり方を考察する。

授業計画

1. 生徒指導の意義と目的
2. 進路指導・キャリア教育と生徒指導
3. 教育課程と生徒指導
4. 学校組織としての生徒指導
5. 児童生徒理解を図る方法とその活用
6. 学級担任としての生徒指導
7. 集団指導と個別指導
8. 教育相談の進め方
9. 基本的生活習慣の確立(学校・家庭・地域の役割)
10. 学校と家庭・地域・関係機関の連携
11. 生徒指導に関する法制度
12. 問題行動の未然防止と早期発見
13. いじめと不登校
14. 情報教育と生徒指導
15. まとめ

授業の方法

講義とディスカッション

準備学修

児童生徒に関する社会・教育時事に関心を持ち、自分なりの考えを持って授業に参加する。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点。

テキスト

文部科学省『生徒指導提要』

参考図書

兵庫県教育委員会『指導の重点』

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの保健ⅠB			17762	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
藪内 順子	選択	2				

授業の到達目標

「子どもの保健ⅠA」の子どもの心身の発育・発達について学習したことを踏まえて、保育者に必要とされる子どもの保健分野をより深めるために、子どもの疾病とその予防方法および適切な対応、保育における環境および衛生管理並びに安全管理について理解する。また施設における子どもの心身の健康および安全の実施体制についても理解する。このクラスではKAISEパーソナリティーのK（思いやり）を考える。

授業の概要

子どもはさまざまな面で未熟で、事故発生の危険性や感染症に罹ることが多い。日々子どもの心身の健康を守り、健康増進に努め順調な発育・発達を促すことは、保育する上で最も基本的な要件である。「子どもの保健ⅠA」で学んだ基本的な知識を理解したうえで、子どもの感染症や病気について学ぶ。また、集団生活の場での保健活動や母子保健に関する行政の関わりや法制度の現状について学ぶ。保育者自身の心身の健康管理についても学ぶ。

授業計画

1. 子どもの病気と保育①子どもの病気の特徴
2. 子どもの病気と保育②子どもの健康状態の把握
3. 子どもの病気と保育③主な症状の見方と対応
4. 子どもの病気と保育④子どもの病気の予防と対応
5. 子どもの病気と保育⑤子どもによくみられる疾患(イ.感染症)
6. 子どもの病気と保育⑥子どもによくみられる疾患(ロ.感染症)
7. 子どもの病気と保育⑦子どもによくみられる疾患(ハ.感染症以外の疾患)
8. 子どもの病気と保育⑧子どもによくみられる疾患(ニ.感染症以外の疾患)
9. 子どもの病気と保育⑨障害のある子どもたち
10. 子どもの病気と保育⑩発達障害への理解と対応(DVD)
11. 環境および衛生管理並びに安全管理①保育環境整備と保健
12. 環境および衛生管理並びに安全管理②保育現場における衛生管理
13. 健康および安全の実施体制保育現場における事故防止および安全対策並びに危機管理
14. 保育所と家庭の連携

15. 母と子どもの保健

授業の方法

主に講義形式で進める。グループワークや発表も取り入れる。

準備学修

日頃から子どもの発育・発達に関心を持つ。子どもに関する情報や感染症の流行などについて、新聞や報道など身近なこととして捉える。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席、提出期限を守らない場合は減点の対象となる。

テキスト

- ①子どもの保健Ⅰ 佐藤益子編著 ななみ書房 必要時プリント配布
②子どもの保健Ⅱ 佐藤益子編著 ななみ書房

参考図書

国民衛生の動向（財）厚生統計協会編 授業時に適時紹介する。

留意事項

受講条件として「子どもの保健ⅠA」を履修した者。グループワークや発表も評価の対象とする。

教員連絡先

juno73@yahoo.co.jp

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会的養護内容			17766	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐々木 勝一	選択	1				

授業の到達目標

現代の子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し、それに伴い家庭での養育・保護していく機能は脆弱化している。「家庭養護」だけでは子どもの養育が困難な状況となり、国や社会で子どもたちを養育・保護する「社会的養護」が重要となる。地域社会をも含めた施設養護の本質と機能を理解し、施設養護の内容と実際、養護施設における援助技術について、実践的活動事例を通して施設養護観を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのS(奉仕)を目指す。

授業の概要

児童福祉施設に入所・利用している子どもたちの背景には多様で複雑な状況がある。それらの子どもたちの心身の成長や発達を保障し援助するための具体的な知識・技能を習得する。また、里親制度についての現状と今後の展望についても理解する。さらに、社会福祉専門職として、これらの児童に対する社会的支援の必要性についても理解する。

授業計画

- 1.オリエンテーション 児童の社会的養護の理念と概念
- 2.施設における子どもの社会的養護 施設養護の特質と機能、被虐待児への対応
- 3.施設における子どもの社会的養護 施設養護の流れ、入所前後・退所前後のケア
- 4.社会的養護における支援の計画と内容 個別支援計画作成の留意点と作成事例
- 5.虐待問題と児童養護 増加する児童虐待の要因と課題
- 6.社会的養護の実際 学校教育や地域社会との連携、自立支援
- 7.里親制度と課題 日本と海外の相違、保育士としての役割
- 8.障害児、その保護者へのへの支援 事例からの考察、まとめ

授業の方法

VTR、DVDなどの事例を多く取り上げて、双方向の授業とする。積極的な参加を求める。また、指定教科書はないが、ノートはしっかり取ること。

準備学修

児童虐待、障害児などの社会問題に対して、関心を深めておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

理由のある公欠以外は、認めない。

テキスト

『保育の質を高める相談援助・相談支援』晃洋書房、西尾 祐吾監修、立花 直樹・安田 誠人・波田埜 英治編、ISBN 978-4-7710-2607-0

留意事項

将来、児童養護等社会福祉施設関係での就職を希望する人は、ぜひ受講すること。「社会的養護」「相談援助」「保育相談支援」科目と関係するので、教科書は必ず購入すること。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
相談援助			17770	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐々木 勝一	選択	1				

授業の到達目標

授業を通して、ソーシャルワークの歴史、また個別援助技術（ケースワーク）、集団援助技術（グループワーク）、地域援助技術（コミュニティワーク）、ケアマネジメントを中心とした直接援助技術および間接援助技術の理論と実践方法を学び、アセスメント・計画策定実施・評価までの援助過程を展開できる基礎知識・技術を習得することを旨とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのS(奉仕)を目指す。

授業の概要

少子化や核家族化が進行するなど子ども・家族を取り巻く環境の変化を背景として、子育てにかかわるニーズは多様かつ複雑化している。このような社会的変化を背景に、保育士には、子どもへの保育に加えて、社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）を用いながら相談援助を展開していくソーシャルワーカーとしての役割が期待されている。

本科目は「保育相談支援」と相互関連科目であり、相談援助を展開する際に必要となる社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）の理論と技法を身につけることを目的としている。

授業計画

- 1.社会福祉援助技術の体系と歴史
- 2.人間関係と自己理解 ①
- 3.人間関係と自己理解 ②
- 4.社会福祉専門職の価値・倫理 ①
- 5.社会福祉専門職の価値・倫理 ②
- 6.事例研究 ①
- 7.事例研究 ②
- 8.まとめ

授業の方法

VTR、DVD等で現状の社会福祉場面を理解し、専門職の役割とその意義について理解する。

準備学修

子どもに関わる日常の社会的な事例について、関心を深めること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

公欠以外は認めない。

テキスト

『保育の質を高める相談援助・相談支援』晃洋書房、西尾 祐吾監修、立花 直樹・安田 誠人・波田埜 英治編、ISBN 978-4-7710-2607-0

留意事項

対人援助技術は、これからの保育士には必要なものである。関心を深めること。また、「社会的養護」「社会的養護内容」「保育相談支援」科目と関係するので、教科書は必ず購入すること。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育相談支援			17772	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐々木 勝一	選択	1				

授業の到達目標

本科目では、子どもの最善の利益に焦点をあてながら保育相談支援の基本となる「価値と倫理」について理解した上で、事例検討を通して保育所等児童福祉施設における保育相談支援の実際について学んでいく。本科目を通して、子どもや保護者を取り巻く環境（社会的側面）へのアプローチも含めた多角的視野から根拠（evidence）に基づいた保育相談支援を展開していく能力の習得を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのS(奉仕)を目指す。

授業の概要

「相談援助」で取り上げる社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）の理論と技法をふまえた上で、保育所等児童福祉施設における保育相談支援について理解し、多岐にわたる生活問題を抱えた児童や保護者に対して多角的・総合的な支援を展開できる力を身につけることを目的としている。
また、社会福祉専門職である保育士として求められる相談支援場面で必要な知識と技術についても理解する。

授業計画

- 1.オリエンテーション
コミュニケーション技法 ①
- 2.ケースワーク、グループワークの理解
- 3.面接技法 ①
- 4.面接技法 ②
- 5.コミュニティワーク
- 6.事例研究 ①
- 7.事例研究 ②
- 8.まとめ

授業の方法

VTR,DVD等で現状の保育相談支援場面について、理解を深める。また、双方向の授業であるから、積極的な参加を求める。

準備学修

日常から子どもに関わることに関心を持つこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

公欠以外は認めない。

テキスト

『保育の質を高める相談援助・相談支援』晃洋書房、西尾 祐吾監修、立花 直樹・安田 誠人・波田埜 英治編、ISBN 978-4-7710-2607-0

留意事項

保育士に求められる対人援助技術の意義について、しっかり考える機会とすること。また、「社会的養護」「社会的養護内容」「相談支援」科目と関係するので、教科書は必ず購入すること。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
家庭支援論			17774	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

家族の機能、家庭の意義と役割を理解する。子育て家庭の現状とそれを取り巻く社会的・経済的状況を理解する。子育て家庭に対する支援の必要性と支援体制を理解する。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関連機関との連携について理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養うとともに、K（思いやり）を考える。

授業の概要

まず「現代家族関係論（2年次配当）」の復習も兼ねて、家族の機能、家庭の意義や役割について学ぶ。次に、少子高齢社会・男女共同参画社会における家族関係や家庭生活の変化、地域社会の変容、家族と家庭を取り巻く社会的・経済的状況について概観する。子育て家庭に対する支援の必要性と支援体制や支援方法等について解説し、ニーズに応じた多様な支援や関連機関との連携を考える。

授業計画

- 1.家庭の意義と役割
- 2.家庭支援の必要性と保育士等が行う家庭支援の原理
- 3.現代の家庭における人間関係
- 4.地域社会の変容と家庭支援
- 5.男女共同参画社会とワークライフバランス
- 6.子育て家庭の福祉を図るための社会資源
- 7.子育て支援施策・次世代育成支援施策
- 8.子育て支援サービスの概要
- 9.保育所入所児童の家庭への支援
- 10.地域の子育て家庭への支援
- 11.要保護児童及びその家庭に対する支援
- 12.子育て支援における関連機関との連携
- 13.諸外国における子育て支援
- 14.子育て支援サービスの課題
- 15.まとめ

授業の方法

講義に加えてプレゼンテーションやディスカッションをとりいれる。

準備学修

予習・復習としてテキストの指示ページを読む。準備学修のプリントを配布するので、記入しておく。60時間。

課題・評価方法

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

小田豊ほか『家庭支援論』北大路書房

参考図書

内閣府『少子化社会対策白書』
授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

「現代家族関係論」を先に履修しておくことが望ましい。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
乳児保育			17777	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
渋谷 美智	選択	2				

授業の到達目標

乳児期（3歳未満児）の発育・発達と保育について学び、保育所や乳児院等における乳児保育の現状と課題についても理解する。なお健やかな成長を支えるための生活と遊びなど乳児保育の理論や知識・技術の具体的な事例を通して実践力を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とI(知性)E(倫理)を考える。

授業の概要

わが国における乳児保育の歴史の変遷と保育所・乳児院・家庭の現状を把握しながら、保育所や乳児院の果たす役割、乳児保育を担当する保育者としての役割を自覚する。また、乳児を集団で保育することについて、保育現場での具体的な課題、いわゆる保育環境や長時間保育での乳児の生活の仕方など援助の実態を理解し、乳児の保育にあたる保育者としての専門的な能力を身につけられるようにする。

授業計画

1. 乳児保育とは(DVD視聴「乳幼児の発達と保育 0歳児」)
2. 乳児保育の理念と歴史の変遷
3. 乳児の保育と思春期への育ち
4. 愛されて育つということの意味(DVD視聴「アタッチメント関係」)
5. 胎児の世界と謎(DVD視聴「胎児の世界」)
6. 乳児期の発達と保育内容(DVD視聴「乳児の成長記録」)
7. 乳児期の発達と保育内容(DVD視聴「乳児の成長記録」)
8. 乳児の環境と人間関係(DVD視聴「環境構成」)
9. 乳児保育の実態(教室を出て実体験)
10. 乳児期の生活と保育
11. 乳児期の保育課程と指導計画
12. 伸びやかさを育てる遊びと保育
乳児期の児童文化と遊び
13. 乳児期のあそびの実態(DVD視聴)
14. さまざまな発達の考え方、乳幼児健診による早期発見と保育の役割
15. 地域における子育て支援、まとめ

授業の方法

講義と演習を中心とし、内容に沿ったDVD視聴を取り入れたり、実体験をする。

準備学修

日常生活の中で目にする乳児の生活や遊び・保護者との関わりの様子に関心を持って見る。乳児の発達過程と援助についてまとめ、理解を深める。予習・復習としてテキストを読む。乳児が喜ぶ手作りおもちゃを作ってみる。(学習時間として60時間を必要とする)

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

新時代の保育双書 乳児保育第3版 (株)みらい 大橋貴美子編

参考図書

乳児保育の基本 責任編集 汐見稔幸・小西行郎・榎原洋一 フレーベル館
保育の内容・方法を知る 乳児保育〔新版〕 増田まゆみ編著 北大路書房
保育所保育指針 日本保育協会
乳児の生活と保育 ななみ書房
あそぶうた大全集 永岡書店

留意事項

教室を出ての実体験等を含むため、授業計画の変更もある。授業課前のボードをよく注意して見ておくこと。

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
障害児保育			17782	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中園 佐恵子	選択	2				

授業の到達目標

我が国における障害児保育の歴史の変遷を土台として、これからの保育実践について自分なりの実践方法を模索する。大きな課題の一つである保護者への支援に関しては、ペアレントトレーニングやSST等の心理教育でのファシリテーターの働きも学ぶ。さらに、様々な障害を理解し支援する上で必要な個別支援計画が作成できる保育者をめざす。このクラスは、KAISEIパーソナリティーK(思いやり)とI(知性)を考える。

授業の概要

障害児保育は特別支援教育へとつながり、インクルーシブシステムの具現化が求められる。そこで、本授業では障害の理解に留まらず、個々人がきちんと障害教育観を持つことで、教育現場で通用する基本的な保育技術を学ぶ。また、事例を活用して「この子にどんな支援が有効なのか、必要なのか」という教育的視点から討論する。

授業計画

1. 障害の理解と現在までの障害保育の概要
2. 肢体不自由児・難聴幼児通園施設の実態
3. 知的障害がある子どもの理解と支援
4. 学校園における発達障害がある子どもへの支援 1
5. 学校園における発達障害がある子どもへの支援 2
6. 様々な自閉症スペクトラムの理解と指導
7. 障害がある子どもの受け入れポイント
8. 障害がある子どもの受け入れに関する施設・設備の工夫と課題
9. 障害がある子どもの面談法
10. 障害がある子どもの行動観察法
11. 関係諸機関 専門医の診断法
12. 関係諸機関 保健センター、福祉関係機関
13. 家庭への子育て支援 幼児期の障害児への支援
14. 家庭への支援 健常者の保護者への啓発
15. 就学に向けての保護者との連携支援

授業の方法

講義を主とするが、双方向の討議も取り入れて受講者が主体的に参加できる形式も採り入れる。

準備学修

日常生活の一コマを、一つの考え方にこだわらずに複数の視点で考えてみる姿勢を望む

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

若井淳二著『障害児保育テキスト』（教育出版）

参考図書

授業中に紹介する。

留意事項

国の障がい者施策および事業に関心を持つ

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習指導（小学校）	教職小		17785	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	選択	1				

授業の到達目標

小学校で教育実習を行う責任と心構えを認識するとともに、実習に必要な知識・技術を身に付ける。また、教育実習の成果と課題を振り返り、さらに身に付けるべき知識や技能等について理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

教育実習に必要な基礎的・基本的な知識、教育現場の現状や実習中の心構え等について講義を進める。また、具体例や実践を通して、小学校教師の様々な仕事と職責について学ぶ。

授業計画

1. 受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、小学校教育実習を受ける前に
2. 実習校との事前打合せ、小学校の組織と日程
3. 実習中の心得(勤務、礼儀、言葉遣い、服装、持ち物)
4. 実習中の心得(学級経営、給食指導、休み時間)
5. 児童や教職員との接し方
6. 実習記録の書き方
7. 学習指導と生徒指導
8. 算数科模擬授業(低学年)
9. 算数科模擬授業(高学年)
10. 教育実習の成果と課題

授業の方法

書く活動と発表を多く取り入れる。

準備学修

テキストの指定ページを予習したり、指導案を作成したりしておくこと。復習として毎回の授業の振り返りを行うこと。予習・復習、指導案の作成等に計40時間以上費やすこと。

課題・評価方法

- ①指導案と模擬授業について、評価とアドバイスをを行う。
- ②評価方法は平常点70%、定期試験30%とする。

欠席について

欠席は10点減点し、遅刻は3点減点する。

テキスト

石橋裕子・梅澤実・林幸範『小学校教育実習ガイド』萌文書林

参考図書

文部科学省『小学校学習指導要領解説』東洋館出版社

留意事項

小学校教育実習の知識や技術を修得し、教師としての心構えを学ぶ授業であることを認識して授業に臨むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育実習指導A			17811	Ⅲ	春／秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石畠 多恵／渋谷 美智	選択	2				

〈児童福祉施設実習〉

授業の到達目標

保育実習の意義・目的および実習の内容をを理解し、自らの課題を明確化する。なお実習を円滑に進めていくため実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、実習がより効果的に行えるようにする。また、子どもの人権と最善の利益、プライバシーなどの守秘義務について理解する。事後指導においては、自己評価を行い課題や学習目標を明確にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS(奉仕)、E（倫理）を考える。

授業の概要

実習の意義・目的・方法を理解し、実習内容・心構え・実習記録の意義と記録の仕方について学ぶ。なお実習を受けるにあたり各教科の講義で得た知識をもとに「児童福祉施設とは」を理解し、機能や保育士の役割、子どもの理解、日々の子どもの生活や遊びの援助の仕方について習得し、保育現場での実践に結びつけられるようにする。事後指導では、自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にしていく。

授業計画

- 1.実習の意義、目的、概要について理解する。
- 2.各施設の役割と機能を理解する。①
- 3.各施設の役割と機能を理解する。②
- 4.施設実習の準備と心構えを理解する。①
- 5.施設実習の準備と心構えを理解する。②
- 6.実習における観察・記録・評価の仕方を理解する。
- 7.実習記録の書き方を理解する。実践及び実習に関する諸手続
- 8.実習についての心構え、留意事項などの確認(実習事後の御礼状の書き方なども含む)
- 9.事後指導における実習の総括と自己評価、課題の明確化。

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

実習施設についての概要を事前に調べる。手あそびを数多く知るよ

うにしたり、絵本の読み聞かせの練習をしたりする。

課題・評価方法

授業出席状況・諸提出物・実習記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

欠席について

欠席は、1回につき5点減点とする。

テキスト

必要資料については随時プリントを配布する。

参考図書

あそびうた大全集 永岡書店
手あそび百科 ひかりのくに
実習の記録と指導案 ひかりのくに
3．4．5歳児が夢中になる実践！造形遊び ナツメ社

留意事項

実習を受けるまでに乳幼児の発達過程をしっかり把握し、保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく。

教員連絡先

ishihata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

〈保育所実習〉

授業の到達目標

保育所実習の意義・目的および実習の内容をを理解し、自らの課題を明確化する。なお保育所実習を円滑に進めていくため実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、実習がより効果的に行えるようにする。また、子どもの人権と最善の利益、プライバシーなどの守秘義務について理解する。事後指導においては、「保育実習Ⅱ」に向けての課題や学習目標を明確にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS(奉仕)、E（倫理）を考える。

授業の概要

保育所実習の意義・目的・方法を理解し、実習内容・心構え・実習記録の意義と記録の仕方について学ぶ。なお初めての保育所実習を受けるにあたり各教科の講義で得た知識をもとに「保育所とは」を理解し、保育所の機能や保育士の役割、子どもの理解、日々の子どもの生活や遊びの援助の仕方について習得し、保育現場での実践に結びつけられるようにする。事後指導では、「保育実習ⅠA」の総括と自己評価を行い、「保育実習Ⅱ」に向けての新たな課題や学習目標を明確にし、より「保育実習Ⅱ」が効果的に行えるようにする。

授業計画

- 1.保育所実習の意義・目的・概要について理解する
- 2.保育所の役割と機能を理解する
- 3.発達過程の理解を深める
- 4.保育内容の実践
- 5.保育の計画について再認識し、理解を深める 実習指導案の書き方を知る
- 6.実習生個人票の作成およびオリエンテーションの受け方、事務手続きについて理解する
- 7.実習記録の書き方を知る
- 8.実習に際しての心構え、留意事項(事後の実習園に対するお礼状の書き方等含む)
- 9.事後指導における実習の総括と自己評価・課題の明確化

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

保育所、保育士について事前調査をしておく。また発達過程にあった手遊びなど数多く知るようになしたり、絵本の読み聞かせの練習をしたりする。実習記録を書いて見る。実習に必要な制作物を作る。（学習時間として、27時間を必要とする）

課題・評価方法

授業出席状況・諸提出物・実習記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

欠席について

欠席は、1回につき5点減点とする。

テキスト

保育実習指導の手引き（海星版）
必要資料については随時プリントを配布する。

参考図書

あそびうた大全集 永岡書店
手あそび百科 ひかりのくに
実習の記録と指導案 ひかりのくに
3．4．5歳児が夢中になる実践！造形遊び ナツメ社

留意事項

実習を受けるまでに乳幼児の発達過程をしっかり把握し、保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく(絵本の読み聞かせ・制作・手あそび・歌など)

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育実習指導B			17820	IV	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
渋谷 美智	選択	1				

授業の到達目標

保育実習ⅠAを通して得た自己課題をもとに、保育技術面での向上を目ざして学習し、十分とは言えないが実践能力を養い保育実習Ⅱに取りくむことができたものと考える。KAISEI パーソナリティのK（思いやり）とI（知性）、E（奉仕）を考え、A（自律）を養う。

授業の概要

保育実習ⅠAで修得した知識をもとに、保育実習Ⅱでは現場での保育実践を念頭に置き、指導案や保育実践に取りくめるように、必要な知識や技術を学ぶ。

授業計画

- 保育実習ⅠAについて自己評価・報告と課題の明確化 保育実習Ⅱの意義・目的を理解する
- 保育実習Ⅱに関する事務手続き、書類等の配布と指導
- 保育実習に向けての遊びの指導①
- 保育実習に向けての遊びの指導②
- 保育実習に向けての遊びの指導③
- 実習指導案の作成 実習指導案に基づいた保育内容の確認、実践①
- 実習指導案の作成 実習指導案に基づいた保育内容の確認、実践②
個人票の書き方について
- 実習の心構え、留意事項(事後の実習園に対するお礼状の書き方等含む)
- 事後指導における実習の総括と自己評価 課題の明確化

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

実習保育所について特徴や保育のとりくみ、立地条件など事前に情報の把握をしておく。乳幼児の発達を理解し、手遊びや遊び、絵本など数多く知っておく。指導計画を書く。実習に必要な制作について考え、作ってみる。（学習時間として、27時間を必要とする）

課題・評価方法

授業出席状況・諸提出物・実習記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

欠席について

欠席1回につき5点減点

テキスト

保育実習指導の手引き（海星版）
必要資料については随時プリントを配布する。

参考図書

手あそび百科 ひかりのくに
実習の記録と指導案 ひかりのくに
3，4，5歳児が夢中になる実践！造形遊び 平田智久監修 ナツメ社
あそびうた大全集 永岡書店

留意事項

実習を受けるまでに乳幼児に関する保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく(絵本の読み聞かせ・製作・手あそび・歌など)

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

現代人間学部 英語観光学科
教職に関する科目

ET 教職科目〈ET 教職科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論（中等）	教職中等		14101	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
堀 正人	選択	2				

授業の到達目標

教職の意義と役割を理解する。また、学校教育や教員をめぐる今日的な課題を考察し、教員の資質能力と職務内容について身に着けることを目標にする。さらに教職への意欲を高め、教職に就くための適性と課題を見出す。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

教職や学校教育の在り方について講義する。また、教員の資質や能力の向上策・研修について学ぶ。さらに、わが国の学校制度変遷の歴史や諸外国の学校制度との比較において、現在の公教育の意図を考察する。そして、自ら目指す教師像を明確にもつようにする。

授業計画

- 1.はじめに、教職の社会的な意義について
- 2.教員の服務と義務について
- 3.教員養成の歴史について
- 4.公教育と教員の職務について
- 5.学校の組織と運営における教師の役割について
- 6.教員の研修制度について
- 7.教員の資質能力について
- 8.教科及び教科外の時間の教員の役割について
- 9.教師力と教員の評価について
- 10.学校種間の連携と部活動等における教員の役割について
- 11.地域社会との連携における教員の役割について
- 12.教員の人権感覚を高めるには
- 13.学校の危機管理と教員の役割について
- 14.教職とボランティア活動の関係について
- 15.教職のありかた、まとめ

授業の方法

講義を主とするが、ディスカッションと発表を取り入れる。また考察シートやレポートにより自己の考えを深めたり、知識の定着を図ったりする。

準備学修

指示された資料を事前に読んで理解したり、中等教育関連の情報を積極的に収集したりすること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむを得ず欠席する場合は事前に届け出ること

テキスト

文部科学省編「中学校学習指導要領解説（総則編）」ぎょうせい出版

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

ET 教職科目〈ET 教職科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育原理（中等）	教職中等		14115	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
澤井 一夫	選択	2				

授業の到達目標

- 1 教育の理念と目的について理解する。
 - 2 教育に関する歴史及び思想について理解する。
 - 3 日本と諸外国の学校制度について理解する。
 - 4 現代社会における教育の現状と課題について理解する。
- このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

教育学上の重要な理念について理解した上で、教育思想及び学校制度の歴史の変遷について理解を深める。このことを踏まえ現在の社会における教育課題や学校教育の在り方について考察する。

授業計画

- 1.講義の進め方と講義概要について説明する。
- 2.人とは？教育とは？
- 3.学校の歴史 その1 諸外国の教育の思想と歴史
- 4.学校の歴史 その2 日本における学校制度の成立と展開
- 5.教育に関する法規
- 6.現行法における日本の学校教育の目的
- 7.教育課程と教育内容
- 8.学習指導要領の変遷
- 9.教師の仕事と専門性
- 10.よい授業とは
- 11.現代社会と教育問題－いじめ・不登校問題など
- 12.教育改革の新しい動きと方向
- 13.日本と諸外国の教育制度
- 14.生涯学習の意義と生涯学習の機会
- 15.まとめとテスト

授業の方法

講義を中心に討議や発表を設ける。

準備学修

本講義は、「教育とは何か」「学校制度」などを歴史的な視点や諸外国との比較で研究し考察する。教育に関しての思想家や法規など耳慣れない事項がでてくるため、関連する事柄について予習と復習

を必ず行うこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内の規定に準ずる。

テキスト

必要に応じ資料を配付する。

参考図書

必要に応じて紹介する。

留意事項

教職を目指す学生として、講義内容をただ受容するだけでなく、自ら問題意識を持って主体的に研究し学ぶこと。

ET 教職科目〈ET 教職科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
介護等の体験（事前指導）（中等）	教職中等		14147	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
浅井 由美	選択	1				

授業の到達目標

「介護等体験」の意義を理解する。社会福祉施設や特別支援学校について、基本的な知識を身に付ける。「介護等体験」でかかわる人々の状況を理解する。「介護等体験」にあたっての心構えや留意点を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、A（自律）、S（奉仕）、E（倫理）を考える。

授業の概要

いわゆる「介護等体験特例法」は、「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行わせる」としている。授業では、この法律の趣旨を理解できるように指導する。社会福祉施設（5日間）と特別支援学校（2日間）において「介護等体験」を円滑に行い十分な成果を得るため、基本的な知識と技能を身に付けられるようにする。

授業計画

- 1.「介護等体験」の目的と概要
- 2.社会福祉施設 1
- 3.社会福祉施設 2
- 4.介護の心構えと実際
- 5.高齢者の心と身体
- 6.特別支援学校
- 7.障がいのある子どもとのかかわり方と「介護等体験」
- 8.「介護等体験」に臨む心構え・留意事項

授業の方法

講義とDVD視聴に加えて、プレゼンテーションやディスカッションをとり入れる。

準備学修

予習・復習としてテキストの指定ページを読む。準備学修のプリントを配布するので、記入しておく。30時間。

課題・評価方法

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

増田雅暢ほか『よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会
全国特別支援学校長会『特別支援学校における介護等体験ガイドブック フィリア』ジアース教育新社

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

この授業は7.5回行う。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

ET 教職科目〈ET 教職科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別活動論（中等）	教職中等		14185	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
澤井 一夫	選択	2				

授業の到達目標

特別活動は、「様々な集団の中で体験を通して人としての生き方を学ぶ」場である。特別活動の教育課程における位置づけと意義を理解し「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点、他教科との往還的な関連、地域との連携など特別活動の特質を踏まえ教師として指導に必要な基礎的知識を身につける。
このクラスではKAISEIのK（思いやり）A（自律）を養う。

授業の概要

特別活動の意義から学校の具体的な実践までを、歴史的な経緯を踏まえながら学習する。

1. 特別活動の歴史的な経緯を踏まえ意義や目標を理解する。
2. 特別活動の4つの内容である「学級活動（ホームルーム）」「生徒会活動（児童会活動）」「クラブ活動（部活動）」「学校行事」について理解する。
3. 特別活動の内容について、実践例などを参考にしながら、具体的に各指導計画をたて指導の在り方について考察する。

授業計画

1. 講義の進め方と概要を説明（オリエンテーション）
2. 教育課程における特別活動の位置づけ
3. 特別活動の歴史の変遷
4. それぞれの校種における特別活動の内容と目標
5. 特別活動の内容1（学級活動・ホームルーム）
6. 特別活動の内容2（生徒会・児童会活動）
7. 特別活動の内容3（学校行事）
8. 特別活動の内容4（クラブ活動・部活動）
9. 特別活動の指導計画の作成演習1（学級活動・ホームルーム）
10. 特別活動の指導計画の作成演習2（児童会・生徒会活動）
11. 特別活動の指導計画の作成演習3（学校行事）
12. 特別活動における学校安全と危機管理
13. 特別活動と他教科との連携
14. 特別活動と社会とのかかわり
15. まとめ

授業の方法

講義を中心に討議や発表を設ける。

準備学修

- 各授業に関連する内容について「中学校・高等学校学習指導要領解説 特別活動編」を熟読し予習する。
- 自分の小学校から高校までの特別活動について整理をする。
- 特別活動の実践例など日頃から新聞等を見て整理する。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内の規定に準じる。

テキスト

必要に応じて資料を配付する。

参考図書

文部科学省「中学校・高等学校学習指導要領解説 特別活動編」ぎょうせい

留意事項

教職を目指す学生として、講義内容をただ受容するだけでなく、自ら問題意識をもって主体的に調べて学ぶこと。

ET 教職科目〈ET 教職科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職実践演習（中・高）	ET		14214	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
堀 正人／惣谷 美智子	選択	2				

授業の到達目標

中学校又は高等学校の教師を目指す学生が、教職課程科目で学修した教科指導や生徒指導等の内容について実践することを通して、それらの知識及び技能を修得したことを確認する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、及びE（倫理）を養う。

授業の概要

中学校及び高等学校の教師として必要な知識や技能である(1)使命感・責任感・資質に関する知識、(2)社会性や対人関係能力、(3)教科の指導力について十分に修得できているかどうかをグループ討論、ロールプレイング、模擬授業で確認していく。また、実際の現場を見学することで、修得した知識・技能がどのように活用されているかをまとめる。

授業計画

1. イントロダクションーこれまでの学習と振り返りについて(1)～講義
2. 教師としての使命感や責任感、資質について(1)～講義
3. 教師としての使命感や責任感、資質について(2)～グループ討論
4. 教師としての社会性や対人関係能力について(1)～講義とグループ討論
5. 教師としての社会性や対人関係能力について(2)～ロールプレイング
6. 生徒の理解や学級経営について(1)～討論
7. 生徒の理解や学級経営について(2)～グループ討論
8. 学級経営案の作成とグループ討論
9. 学校現場の見学(1)～見学・調査
10. 学校現場の見学(2)～教職経験者の講話とグループ討論
11. 教科の指導力について(1)～講義
12. 教科の指導力について(2)～グループ討論
13. 教科の指導力について(3)～模擬授業とその振り返り
14. 資質能力の確認・まとめ(1)～小論文とアンケート
15. 資質能力の確認・まとめ(2)～講評

授業の方法

講義の後、グループ討論を行う。ロールプレイング、模擬授業も行

う。

準備学修

今回のテーマに関するハンドアウトをあらかじめ配布するので、それを読み、その中に示されている課題を仕上げてくること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の20%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

適宜、ハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

常に熱意をもって授業に参加・貢献する態度が必要である。

教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp

ET 教職科目〈ET 教職科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
生徒指導論（中等）	教職中等		14217	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
堀 正人	選択	2				

授業の到達目標

生徒指導の理論と方法、教育相談、進路指導について学ぶ。この講座ではKAISEIパーソナリティのA（自律）でコミュニケーション能力を養い、事例研究の実践でK（思いやり：傾聴力）とI（知性）状況把握力を高める訓練をする。

授業の概要

教科書（文部科学省「生徒指導提要」）を参考資料として授業を進める。生徒指導の方法や生徒理解について考察し、実際の取り組み方を学んでいく。さらに、教育相談の手法を学び、進路指導、キャリア教育も生徒指導の視点から考察する。

授業計画

1. 生徒指導の意義と原理(集団指導、個別指導の方法原理)
2. 学校運営と生徒指導の関連
3. 教育課程と生徒指導(教科、道徳教育)
4. 教育課程と生徒指導(総合的な学習の時間、特別活動)
5. キャリア教育と生徒指導の関わり
6. 生徒の心理分析と理解の方法
7. 学校における生徒指導体制(組織、年間計画、指導体制)のありかた
8. 教育相談の進め方(カウンセラー、専門機関)
9. 生徒指導の進め方(支援体制、関係機関との連携)
10. 生徒指導における教職員の役割
11. 進路指導における生徒指導法について
12. 課題別生徒指導の考察
13. 生徒指導に関する法制度について
14. 生徒指導短縮事例研究(前半)
15. 生徒指導短縮事例研究(後半)、まとめ

授業の方法

レジュメに従って授業を行う。また、配布した資料をもとに事例研究を行い考察をする。

準備学修

生徒指導提要（文部科学省編）、13歳のハローワーク（村上龍著）

を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえない事情があるときは、事前事後の講義終了時に届け出る

テキスト

文部科学省 編「生徒指導提要」ぎょうせい出版

参考図書

村上龍 著「13歳のハローワーク」幻冬社

留意事項

授業中に配布した資料を基に考察し、毎回レポートを作成する。

ET 教職科目〈ET 教職科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習の研究（中等）	教職中		14229	IV	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
堀 正人／吉野 美智子	選択	1				

授業の到達目標

教育実習の事前及び事後の指導を通して、教育の社会的役割を認識し、教職への積極的な態度を養う。教育実習は、教職課程のいわば総仕上げとしての重要な意味をもつものである。大学で学んだ教育理論を教える立場に立つことによって、より深いものとして身につけ、学校という教育現場において、教育実践を通して学校教育についての理解を深め、教職への自らの決意と適性を確認する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、及びE（倫理）を養う。

授業の概要

教育実習の実施計画に基づき、実習校において実習を行うための事前及び事後指導を行う。また、実習校における実習期間中に、本学の指導教員が実習校を訪問し、研究授業等の指導にあたる。

授業計画

1. 教育実習の目的、教育実習の心構え、実習前の準備
2. 教育実習の展開
3. 教育実習の内容(1)
4. 教育実習の内容(2)
5. 教育実習の実際(1)
6. 教育実習の実際(2)
7. 授業の評価と実習のまとめ
8. 教育実習事後指導

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

- ・テキストについて、前時に指示された箇所を読んでおくこと。
- ・毎回、指示されたテーマについて各自が発表を行うので、その準備をしておくこと。
- ・中学校・高等学校の学習指導要領をもう一度よく読むこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の20％とし、欠席は1回につき、20点減点する。遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

米山朝二・杉山敏・多田茂『〔新版〕英語科教育実習ハンドブック』（大修館）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』（開隆堂）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』（開隆堂）
必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

- ・平常点には、口頭発表、レポート、出席状況・日頃の学習態度の評価が含まれる。
- ・毎授業に出席することはもちろんであるが、それだけではなく、熱意をもって学習する態度が必要である。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

索 引

- ・ シラバス索引 (科目コード順) P. 329
- ・ シラバス索引 (五十音順) P. 336

H30年度 シラバス索引 (科目コード順)

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
共通科目				
キリスト教入門	11101	尾崎 秀夫	I	159
聖書概論	11105	Emmanuel POPPON	I	159
キリスト教海外研修	11109	尾崎 秀夫	I	160
聖書と現代	11113	Emmanuel POPPON	II	160
キリスト教と文化	11117	尾崎 秀夫	III	161
基礎演習 I	11201	各学科教員	I	161
基礎演習 II	11205	各学科教員	I	162
海星学 I	11206	各学科教員	II	162
海星学 II	11207	各学科教員	II	163
人間学 1	11209	尾崎 秀夫	I	163
人間学 2	11213	岡村 祥子	III	164
キャリアデザイン入門	11301	前田 典子	I	164
キャリアデザイン入門	11301	前田 典子	I	165
文学入門	11309	箕野 聡子	I	165
情報活用の基礎知識	11313	埴岡 忠清	I	166
心理学概論	11317	中植 満美子	I	166
統計学入門	11321	埴岡 忠清	I	167
ジェンダー論	11325	浅井 由美	I	167
日本国憲法	11329	浅野 宜之	I	168
健康科学	11333	柳本 有二	I	168
健康スポーツ 1	11337	後藤 磨也子／片岡 安美子	I	169
日本文化史	11353	箕野 聡子	II	169
簿記会計学	11357	埴岡 忠清	II	170
現代家族関係論	11365	浅井 由美	II	170
社会福祉論	11369	加藤 雅典	I	171
人権教育論	11373	堀 正人	II	171
社会科学概論	11377	尾崎 秀夫	II	172
家政学概論	11381	浅井 由美	II	172
オーストラリア幼稚園実習	11383	福智 佳代子	II	173
日本語表現法	11401	箕野 聡子	I	173
日本語表現法	11401	大岸 啓子	I	174
日本語文章構成法	11405	箕野 聡子	II	174
情報リテラシー 1	11501	米田 里香	I	175
情報リテラシー 2	11505	米田 里香	I	175
オフィス情報処理 1	11509	米田 里香	II	176
オフィス情報処理 2	11513	米田 里香	II	176
英語 1	11601	小野 礼子	I	177
英語 1	11601	釜須 久夫	I	177
英語 2	11605	入江 和子	I	178
英語 2	11605	木下 奈美	I	178
英語 3	11609	入江 和子	I	179
英語 4	11613	木下 奈美	I	179
英語 5	11617	Tina D. MATHERS	II	180
英語 6	11621	石原 敬子／國本 恵理香	II	180
英語 7	11625	Tina D. MATHERS／Andy RUSHTON	II	181
英語 8	11629	佐伯 瑠璃子	II	181
フランス語 1	11633	平田 淳子	I	182
フランス語 2	11637	平田 淳子	I	182

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
フランス語 3	1 1 6 4 1	平田 淳子	I	183
フランス語 4	1 1 6 4 5	平田 淳子	I	183
フランス語 5	1 1 6 4 9	平田 淳子	II	184
フランス語 6	1 1 6 5 3	平田 淳子	II	184
フランス語 7	1 1 6 5 7	平田 淳子	II	185
フランス語 8	1 1 6 6 1	平田 淳子	II	185
中国語 1	1 1 6 6 5	坂口 文馨	I	186
中国語 2	1 1 6 6 9	沈 竑	I	186
中国語 3	1 1 6 7 3	坂口 文馨	I	187
中国語 4	1 1 6 7 7	沈 竑	I	187
中国語 5	1 1 6 8 1	坂口 文馨	II	188
中国語 6	1 1 6 8 5	沈 竑	II	188
中国語 7	1 1 6 8 9	坂口 文馨	II	189
中国語 8	1 1 6 9 3	沈 竑	II	189
韓国語 1	1 1 6 9 7	宋 京珠	I	190
韓国語 2	1 1 7 0 1	宋 京珠	I	190
韓国語 3	1 1 7 0 5	宋 京珠	I	191
韓国語 4	1 1 7 0 9	宋 京珠	I	191
専門科目（英語観光学科）				
演習 I	1 3 1 0 1	有村 理	III	195
演習 I	1 3 1 0 1	福智 佳代子	III	195
演習 I	1 3 1 0 1	一尾 敏正	III	196
演習 I	1 3 1 0 1	石原 敬子	III	196
演習 I	1 3 1 0 1	箕野 聡子	III	197
演習 II	1 3 1 0 5	有村 理	III	197
演習 II	1 3 1 0 5	福智 佳代子	III	198
演習 II	1 3 1 0 5	一尾 敏正	III	198
演習 II	1 3 1 0 5	石原 敬子	III	199
演習 II	1 3 1 0 5	箕野 聡子	III	199
演習 III	1 3 1 0 9	有村 理	IV	200
演習 III	1 3 1 0 9	福智 佳代子	IV	200
演習 III	1 3 1 0 9	一尾 敏正	IV	201
演習 III	1 3 1 0 9	石原 敬子	IV	201
演習 IV	1 3 1 1 3	有村 理	IV	202
演習 IV	1 3 1 1 3	福智 佳代子	IV	202
演習 IV	1 3 1 1 3	一尾 敏正	IV	203
演習 IV	1 3 1 1 3	石原 敬子	IV	203
ホスピタリティ精神論	1 3 2 7 2	國本 恵理香	I	220
日本文化論	1 3 2 7 3	箕野 聡子	II	221
翻訳・通訳論入門	1 3 3 0 1	和泉 有香	II	223
Academic Reading/Writing 3	1 3 3 3 8	Andy RUSHTON	IV	236
Debating and Persuasion	1 3 3 4 5	Andy RUSHTON	IV	237
ことばと社会	1 3 4 0 5	佐伯 瑠璃子	II	221
異文化理解	1 3 4 0 9	有村 理	II	220
英米文学入門	1 3 4 1 3	吉野 美智子	I	222
ことばの意味・文化	1 3 4 1 7	佐伯 瑠璃子	II	222
観光概論	1 3 4 2 6	一尾 敏正	I	225
国際観光交流論	1 3 4 2 7	釜須 久夫	I	225
手話コミュニケーション I	1 3 4 2 8	若生 茂嗣／大川 能子	II	226

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
手話コミュニケーションⅡ	13429	若生 茂嗣／大川 能子	Ⅱ	226
環境ツーリズム論	13430	有村 理	Ⅱ	227
観光事業総論	13431	一尾 敏正	Ⅱ	227
観光と世界遺産	13432	有村 理	Ⅱ	228
観光ビジネス実務論	13434	有村 理	Ⅱ	228
企業研究	13440	一尾 敏正／有村 理	Ⅱ	229
海外ツーリズム研修	13445	一尾 敏正／有村 理	Ⅱ	229
ツーリズム実務特論	13450	一尾 敏正	Ⅱ	230
児童文学	13501	福智 佳代子／箕野 聡子	Ⅱ	223
英米文学研究	13521	惣谷 美智子	Ⅲ	237
女性と社会	13525	浅井 由美	Ⅲ	238
ビジネス翻訳	13621	檜本 雄三	Ⅲ	238
児童英語教育概論	13701	福智 佳代子	Ⅰ	244
英語科教育法Ⅰ	13705	福智 佳代子	Ⅰ	244
英語科教育法Ⅱ	13709	惣谷 美智子	Ⅱ	245
英語学概論	13713	佐伯 瑠璃子	Ⅱ	224
キッズ・イングリッシュⅠ	13725	福智 佳代子	Ⅱ	246
キッズ・イングリッシュⅡ	13729	福智 佳代子	Ⅱ	246
キッズ・イングリッシュⅢ（実習）	13733	福智 佳代子	Ⅲ	247
英語科教育法Ⅲ	13737	吉野 美智子	Ⅲ	247
英語科教育法Ⅳ	13741	吉野 美智子	Ⅲ	248
外国語教授法	13745	福智 佳代子	Ⅲ	248
TOEIC/TOEFL入門 1	13806	和泉 有香	Ⅰ	252
TOEIC/TOEFL入門 1	13806	入江 和子	Ⅰ	253
TOEIC/TOEFL入門 2	13807	和泉 有香	Ⅰ	253
TOEIC/TOEFL入門 2	13807	入江 和子	Ⅰ	254
教職概論（初等）	13809	森 晴美	Ⅰ	249
教育・学校心理学（中等）	13815	濱田 誠二郎	Ⅰ	249
TOEIC/TOEFL 1	13822	和泉 有香	Ⅱ	254
TOEIC/TOEFL 2	13823	和泉 有香	Ⅱ	255
道德教育指導論（中等）	13829	堀 正人	Ⅲ	250
比較文化論	13830	箕野 聡子	Ⅲ	239
ホスピタリティ・マネジメント	13831	一尾 敏正	Ⅲ	240
ビジネス中国語	13832	王 嬌	Ⅲ	240
観光マーケティング論	13833	一尾 敏正	Ⅲ	241
宿泊事業論	13835	一尾 敏正	Ⅲ	241
航空ツーリズム論	13836	有村 理	Ⅲ	242
観光フランス語	13837	平田 淳子	Ⅲ	242
観光文化地理論	13838	釜須 久夫	Ⅰ	230
WEBトラベルプレゼンテーション	13839	釜須 久夫	Ⅲ	243
神戸学	13841	箕野 聡子	Ⅲ	243
観光英検3級	13845	國本 恵理香	Ⅰ	255
観光英検2級	13846	入江 和子	Ⅰ	256
観光英検1級	13847	入江 和子	Ⅱ	256
教育課程論（中等）	13850	堀 正人	Ⅱ	250
教育方法論（中等）	13851	堀 正人	Ⅱ	251
教育相談（カウンセリングを含む）（中等）	13852	濱田 誠二郎	Ⅲ	251
教育経営論（中等）	13853	堀 正人	Ⅲ	252
Oral Communication 100	13901	Tina D. MATHERS	Ⅰ	204
Oral Communication 100	13901	國本 恵理香	Ⅰ	204

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
Reading 101	1 3 9 0 3	和泉 有香／佐伯 瑠璃子	I	205
Reading 101	1 3 9 0 3	入江 和子	I	205
Writing 102	1 3 9 0 5	Andy RUSHTON	I	206
Writing 102	1 3 9 0 5	和泉 有香	I	206
Grammar 103	1 3 9 0 7	吉野 美智子／入江 和子	I	207
Grammar 103	1 3 9 0 7	佐伯 瑠璃子	I	207
Oral Communication 200	1 3 9 0 9	Andy RUSHTON	I	208
Oral Communication 200	1 3 9 0 9	國本 恵理香／佐伯 瑠璃子	I／II	208
Reading 201	1 3 9 1 1	惣谷 美智子／佐伯 瑠璃子／入江 和子／石原 敬子	I／II	209
Reading 201	1 3 9 1 1	岡村 祥子	I	209
Writing 202	1 3 9 1 3	Tina D. MATHERS／Andy RUSHTON	I	210
Writing 202	1 3 9 1 3	國本 恵理香／吉野 美智子	I／II	210
Grammar 203	1 3 9 1 5	小野 礼子／石原 敬子／入江 和子	I／II	211
Grammar 203	1 3 9 1 5	吉野 美智子	I	211
Oral Communication 300	1 3 9 1 7	Andy RUSHTON／Tina D. MATHERS	I／II	212
Oral Communication 300	1 3 9 1 7	釜須 久夫／小野 礼子	II	212
Reading 301	1 3 9 1 9	入江 和子／國本 恵理香／石原 敬子／吉野 美智子	I／II	213
Reading 301	1 3 9 1 9	岡村 祥子	II	213
Writing 302	1 3 9 2 1	Tina D. MATHERS／Andy RUSHTON	I／II	214
Writing 302	1 3 9 2 1	國本 恵理香／石原 敬子	II	214
Grammar 303	1 3 9 2 3	和泉 有香／吉野 美智子／木下 奈美	I／II	215
Grammar 303	1 3 9 2 3	和泉 有香	II	215
Oral Communication 400	1 3 9 2 5	Andy RUSHTON／Tina D. MATHERS	II	216
Oral Communication 400	1 3 9 2 5	吉野 美智子	II	216
Reading 401	1 3 9 2 7	佐伯 瑠璃子／木下 奈美	II	217
Reading 401	1 3 9 2 7	國本 恵理香	II	217
Writing 402	1 3 9 2 9	Tina D. MATHERS／Andy RUSHTON	II	218
Writing 402	1 3 9 2 9	佐伯 瑠璃子	II	218
Grammar 403	1 3 9 3 1	佐伯 瑠璃子／和泉 有香	II	219
Grammar 403	1 3 9 3 1	吉野 美智子	II	219
Business English	1 3 9 3 5	釜須 久夫	II	231
English for Tourism	1 3 9 3 7	釜須 久夫	II	231
Oral Communication 500	1 3 9 3 9	Andy RUSHTON／Tina D. MATHERS	II／III	232
Reading 501	1 3 9 4 1	Andy RUSHTON／惣谷 美智子	II／III	233
Writing 502	1 3 9 4 3	Andy RUSHTON／Tina D. MATHERS	III	233
Pronunciation 504	1 3 9 4 5	石原 敬子	III	234
Oral Communication 600	1 3 9 4 7	Tina D. MATHERS／Andy RUSHTON	III	234
Reading 601	1 3 9 4 9	Andy RUSHTON／和泉 有香	III	235
Writing 602	1 3 9 5 1	Andy RUSHTON	III	235
Pronunciation 604	1 3 9 5 3	石原 敬子	III	236
ハワイ文化研究	1 3 9 6 5	釜須 久夫	I	232
インターンシップ（海外）	1 3 9 6 7	佐伯 瑠璃子	II	224
インターンシップ（国内）	1 3 9 6 9	一尾 敏正／有村 理	III	239
専門科目（心理こども学科）				
演習 I	1 7 1 0 1	濱田 誠二郎	III	259
演習 I	1 7 1 0 1	森 晴美	III	259
演習 I	1 7 1 0 1	中植 満美子	III	260
演習 I	1 7 1 0 1	大岸 啓子	III	260
演習 I	1 7 1 0 1	佐原 信江	III	261

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
演習Ⅱ	1 7 1 0 5	濱田 誠二郎	Ⅲ	261
演習Ⅱ	1 7 1 0 5	森 晴美	Ⅲ	262
演習Ⅱ	1 7 1 0 5	中植 満美子	Ⅲ	262
演習Ⅱ	1 7 1 0 5	大岸 啓子	Ⅲ	263
演習Ⅱ	1 7 1 0 5	佐原 信江	Ⅲ	263
演習Ⅲ	1 7 1 0 9	濱田 誠二郎	Ⅳ	264
演習Ⅲ	1 7 1 0 9	森 晴美	Ⅳ	264
演習Ⅲ	1 7 1 0 9	中植 満美子	Ⅳ	265
演習Ⅲ	1 7 1 0 9	大岸 啓子	Ⅳ	265
演習Ⅲ	1 7 1 0 9	佐原 信江	Ⅳ	266
演習Ⅳ	1 7 1 1 3	濱田 誠二郎	Ⅳ	266
演習Ⅳ	1 7 1 1 3	森 晴美	Ⅳ	267
演習Ⅳ	1 7 1 1 3	中植 満美子	Ⅳ	267
演習Ⅳ	1 7 1 1 3	大岸 啓子	Ⅳ	268
演習Ⅳ	1 7 1 1 3	佐原 信江	Ⅳ	268
発達心理学	1 7 2 0 1	濱田 誠二郎	Ⅰ	269
保育内容総論	1 7 2 0 5	佐原 信江	Ⅰ	269
感情・人格心理学	1 7 3 1 1	吉村 友子	Ⅰ	270
感情心理学	1 7 3 1 7	濱田 誠二郎	Ⅱ	270
人格発達心理学	1 7 3 2 1	中植 満美子	Ⅱ	271
臨床心理学	1 7 3 2 5	津田 明子	Ⅱ	271
認知心理学	1 7 3 2 9	中植 満美子	Ⅱ	272
心理統計学	1 7 3 3 7	須崎 暁世	Ⅱ	272
心理学基礎実験	1 7 3 4 1	中園 佐恵子	Ⅱ	273
心理検査法実習	1 7 3 4 3	中植 満美子	Ⅱ	273
心理調査・データ処理法	1 7 3 4 5	須崎 暁世	Ⅱ	274
人格発達障害論	1 7 3 6 1	中植 満美子	Ⅲ	274
臨床心理学実習 1 (心理テスト法)	1 7 3 7 3	中植 満美子	Ⅲ	275
臨床心理学実習 2 (カウンセリング法)	1 7 3 7 7	津田 明子	Ⅲ	275
心理学文献講読 1	1 7 3 8 5	中園 佐恵子	Ⅲ	276
生活文化概論	1 7 4 0 5	渋谷 美智	Ⅰ	276
教育・学校心理学 (幼小)	1 7 4 1 1	濱田 誠二郎	Ⅰ	277
初等音楽 1	1 7 4 1 7	由井 敦子／南 夏世	Ⅰ	277
初等音楽 2	1 7 4 2 1	由井 敦子／南 夏世	Ⅰ	278
児童文学	1 7 4 3 7	福智 佳代子／箕野 聡子	Ⅱ	278
学習・発達論	1 7 4 4 1	中植 満美子	Ⅱ	279
乳幼児心理学	1 7 4 4 5	吉村 友子	Ⅱ	279
ことばの発達・学習	1 7 4 6 1	中園 佐恵子	Ⅱ	280
キッズ・イングリッシュⅠ	1 7 4 6 5	福智 佳代子	Ⅱ	280
キッズ・イングリッシュⅡ	1 7 4 6 9	福智 佳代子	Ⅱ	281
初等音楽 3	1 7 4 7 3	南 夏世	Ⅱ	281
初等音楽 4	1 7 4 7 7	南 夏世	Ⅲ	282
教育相談(カウンセリングを含む) (小)	1 7 4 9 7	濱田 誠二郎	Ⅲ	282
子育て支援と地域社会	1 7 5 0 1	渋谷 美智	Ⅲ	283
ボランティア論	1 7 5 0 5	加藤 雅典	Ⅰ	283
図画工作	1 7 5 0 9	森 晴美	Ⅰ	284
初等英語	1 7 5 1 1	福智 佳代子	Ⅰ	284
初等体育	1 7 5 1 3	木岡 正雄	Ⅱ	285
教育原理 (小)	1 7 5 2 1	澤井 一夫	Ⅱ	285
児童家庭福祉	1 7 5 2 6	久松 睦典	Ⅱ	286

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
情緒・学習障害の心理	1 7 5 3 7	濱田 誠二郎	Ⅲ	286
保育内容の研究・表現（造形表現）	1 7 6 0 1	森 晴美	I	287
保育原理 I	1 7 6 0 5	成木 智子	I	287
教職概論（幼小）	1 7 6 1 3	森 晴美	I	288
幼児教育学原理	1 7 6 1 7	須河内 優子	Ⅱ	288
幼児教育課程の研究	1 7 6 2 1	佐原 信江	Ⅱ	289
教育課程論（小）	1 7 6 2 5	都賀 純	Ⅱ	289
保育内容の研究・人間関係	1 7 6 2 9	成木 智子	Ⅱ	290
保育内容の研究・言葉	1 7 6 3 3	森 晴美	Ⅱ	290
社会的養護	1 7 6 3 8	佐々木 勝一	Ⅱ	291
子どもの保健 I A	1 7 6 4 2	藪内 順子	Ⅱ	291
子どもの保健Ⅱ	1 7 6 4 6	藪内 順子	Ⅱ	292
子どもの食と栄養	1 7 6 5 0	石畠 多恵	Ⅱ	292
保育内容の研究・表現（身体表現）	1 7 6 5 3	成木 智子	Ⅱ	293
教育方法論（幼小）	1 7 6 5 7	濱田 誠二郎	Ⅱ	293
初等国語科指導法	1 7 6 6 1	大岸 啓子	Ⅲ	294
初等社会科指導法	1 7 6 6 5	山本 博	Ⅱ	294
初等算数科指導法	1 7 6 6 9	都賀 純	Ⅱ	295
初等理科指導法	1 7 6 7 3	山本 博	Ⅱ	295
初等生活科指導法	1 7 6 7 7	東内 則子	Ⅱ	296
特別活動論（小）	1 7 6 8 1	都賀 純	Ⅱ	296
保育・教職実践演習（幼・小）	1 7 6 8 6	大岸 啓子／佐原 信江／石畠 多恵	Ⅳ	297
教育実習の研究 I（幼）	1 7 6 8 9	佐原 信江	Ⅱ	297
介護等の体験（事前指導）（小）	1 7 6 9 7	浅井 由美	Ⅱ	298
教育実習の研究Ⅱ（幼）	1 7 7 0 5	佐原 信江	Ⅲ	298
教育経営論（幼小）	1 7 7 1 3	濱田 誠二郎	Ⅲ	299
保育内容の研究・健康	1 7 7 1 7	石田 伸子	Ⅲ	299
保育内容の研究・環境	1 7 7 2 1	渋谷 美智	Ⅲ	300
幼児教育指導法	1 7 7 2 5	佐原 信江	Ⅲ	300
幼児指導論（カウンセリングを含む）	1 7 7 2 9	石畠 多恵	Ⅲ	301
初等音楽科指導法	1 7 7 3 3	南 夏世	Ⅲ	301
初等図画工作科指導法	1 7 7 3 7	花房 雅剛	Ⅲ	302
初等家庭科指導法	1 7 7 4 1	浅井 由美	Ⅲ	302
初等体育科指導法	1 7 7 4 5	木岡 正雄	Ⅲ	303
道德教育指導論（小）	1 7 7 4 9	大岸 啓子	Ⅱ	303
生徒指導論（進路指導を含む）（小）	1 7 7 5 3	花房 雅剛	Ⅲ	304
子どもの保健 I B	1 7 7 6 2	藪内 順子	Ⅲ	304
社会的養護内容	1 7 7 6 6	佐々木 勝一	Ⅲ	305
相談援助	1 7 7 7 0	佐々木 勝一	Ⅲ	305
保育相談支援	1 7 7 7 2	佐々木 勝一	Ⅲ	306
家庭支援論	1 7 7 7 4	浅井 由美	Ⅲ	306
乳児保育	1 7 7 7 7	渋谷 美智	I	307
障害児保育	1 7 7 8 2	中園 佐恵子	Ⅱ	307
教育実習指導（小学校）	1 7 7 8 5	大岸 啓子	Ⅲ	308
保育実習指導A	1 7 8 1 1	石畠 多恵／渋谷 美智	Ⅲ	309
保育実習指導B	1 7 8 2 0	渋谷 美智	Ⅳ	310
教職に関する科目				
教職概論（中等）	1 4 1 0 1	堀 正人	I	313
教育原理（中等）	1 4 1 1 5	澤井 一夫	Ⅱ	313

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
介護等の体験（事前指導）（中等）	1 4 1 4 7	浅井 由美	Ⅱ	314
特別活動論（中等）	1 4 1 8 5	澤井 一夫	Ⅱ	314
教職実践演習（中・高）	1 4 2 1 4	堀 正人／惣谷 美智子	Ⅳ	315
生徒指導論（中等）	1 4 2 1 7	堀 正人	Ⅲ	315
教育実習の研究（中等）	1 4 2 2 9	堀 正人／吉野 美智子	Ⅳ	316

H30年度 シラバス索引 (五十音順)

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
A Academic Reading/Writing 3	1 3 3 3 8	Andy RUSHTON	IV	236
B Business English	1 3 9 3 5	釜須 久夫	II	231
D Debating and Persuasion	1 3 3 4 5	Andy RUSHTON	IV	237
E English for Tourism	1 3 9 3 7	釜須 久夫	II	231
G Grammar 103	1 3 9 0 7	吉野 美智子／入江 和子	I	207
Grammar 103	1 3 9 0 7	佐伯 瑠璃子	I	207
Grammar 203	1 3 9 1 5	小野 礼子／石原 敬子／入江 和子	I／II	211
Grammar 203	1 3 9 1 5	吉野 美智子	I	211
Grammar 303	1 3 9 2 3	和泉 有香／吉野 美智子／木下 奈美	I／II	215
Grammar 303	1 3 9 2 3	和泉 有香	II	215
Grammar 403	1 3 9 3 1	佐伯 瑠璃子／和泉 有香	II	219
Grammar 403	1 3 9 3 1	吉野 美智子	II	219
O Oral Communication 100	1 3 9 0 1	Tina D. MATHERS	I	204
Oral Communication 100	1 3 9 0 1	國本 恵理香	I	204
Oral Communication 200	1 3 9 0 9	Andy RUSHTON	I	208
Oral Communication 200	1 3 9 0 9	國本 恵理香／佐伯 瑠璃子	I／II	208
Oral Communication 300	1 3 9 1 7	Andy RUSHTON／Tina D. MATHERS	I／II	212
Oral Communication 300	1 3 9 1 7	釜須 久夫／小野 礼子	II	212
Oral Communication 400	1 3 9 2 5	Andy RUSHTON／Tina D. MATHERS	II	216
Oral Communication 400	1 3 9 2 5	吉野 美智子	II	216
Oral Communication 500	1 3 9 3 9	Andy RUSHTON／Tina D. MATHERS	II／III	232
Oral Communication 600	1 3 9 4 7	Tina D. MATHERS／Andy RUSHTON	III	234
P Pronunciation 504	1 3 9 4 5	石原 敬子	III	234
Pronunciation 604	1 3 9 5 3	石原 敬子	III	236
R Reading 101	1 3 9 0 3	和泉 有香／佐伯 瑠璃子	I	205
Reading 101	1 3 9 0 3	入江 和子	I	205
Reading 201	1 3 9 1 1	惣谷 美智子／佐伯 瑠璃子／入江 和子／石原 敬子	I／II	209
Reading 201	1 3 9 1 1	岡村 祥子	I	209
Reading 301	1 3 9 1 9	入江 和子／國本 恵理香／石原 敬子／吉野 美智子	I／II	213
Reading 301	1 3 9 1 9	岡村 祥子	II	213
Reading 401	1 3 9 2 7	佐伯 瑠璃子／木下 奈美	II	217
Reading 401	1 3 9 2 7	國本 恵理香	II	217
Reading 501	1 3 9 4 1	Andy RUSHTON／惣谷 美智子	II／III	233
Reading 601	1 3 9 4 9	Andy RUSHTON／和泉 有香	III	235
T TOEIC/TOEFL 1	1 3 8 2 2	和泉 有香	II	254
TOEIC/TOEFL 2	1 3 8 2 3	和泉 有香	II	255
TOEIC/TOEFL入門 1	1 3 8 0 6	和泉 有香	I	252
TOEIC/TOEFL入門 1	1 3 8 0 6	入江 和子	I	253
TOEIC/TOEFL入門 2	1 3 8 0 7	和泉 有香	I	253
TOEIC/TOEFL入門 2	1 3 8 0 7	入江 和子	I	254
W WEBトラベルプレゼンテーション	1 3 8 3 9	釜須 久夫	III	243
Writing 102	1 3 9 0 5	Andy RUSHTON	I	206
Writing 102	1 3 9 0 5	和泉 有香	I	206
Writing 202	1 3 9 1 3	Tina D. MATHERS／Andy RUSHTON	I	210
Writing 202	1 3 9 1 3	國本 恵理香／吉野 美智子	I／II	210
Writing 302	1 3 9 2 1	Tina D. MATHERS／Andy RUSHTON	I／II	214
Writing 302	1 3 9 2 1	國本 恵理香／石原 敬子	II	214
Writing 402	1 3 9 2 9	Tina D. MATHERS／Andy RUSHTON	II	218
Writing 402	1 3 9 2 9	佐伯 瑠璃子	II	218

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
Writing 502	1 3 9 4 3	Andy RUSHTON／Tina D. MATHERS	Ⅲ	233
Writing 602	1 3 9 5 1	Andy RUSHTON	Ⅲ	235
い 異文化理解	1 3 4 0 9	有村 理	Ⅱ	220
インターンシップ (海外)	1 3 9 6 7	佐伯 瑠璃子	Ⅱ	224
インターンシップ (国内)	1 3 9 6 9	一尾 敏正／有村 理	Ⅲ	239
え 英語 1	1 1 6 0 1	小野 礼子	Ⅰ	177
英語 1	1 1 6 0 1	釜須 久夫	Ⅰ	177
英語 2	1 1 6 0 5	入江 和子	Ⅰ	178
英語 2	1 1 6 0 5	木下 奈美	Ⅰ	178
英語 3	1 1 6 0 9	入江 和子	Ⅰ	179
英語 4	1 1 6 1 3	木下 奈美	Ⅰ	179
英語 5	1 1 6 1 7	Tina D. MATHERS	Ⅱ	180
英語 6	1 1 6 2 1	石原 敬子／國本 恵理香	Ⅱ	180
英語 7	1 1 6 2 5	Tina D. MATHERS／Andy RUSHTON	Ⅱ	181
英語 8	1 1 6 2 9	佐伯 瑠璃子	Ⅱ	181
英語科教育法Ⅰ	1 3 7 0 5	福智 佳代子	Ⅰ	244
英語科教育法Ⅱ	1 3 7 0 9	惣谷 美智子	Ⅱ	245
英語科教育法Ⅲ	1 3 7 3 7	吉野 美智子	Ⅲ	247
英語科教育法Ⅳ	1 3 7 4 1	吉野 美智子	Ⅲ	248
英語学概論	1 3 7 1 3	佐伯 瑠璃子	Ⅱ	224
英米文学研究	1 3 5 2 1	惣谷 美智子	Ⅲ	237
英米文学入門	1 3 4 1 3	吉野 美智子	Ⅰ	222
演習Ⅰ	1 3 1 0 1	有村 理	Ⅲ	195
演習Ⅰ	1 3 1 0 1	福智 佳代子	Ⅲ	195
演習Ⅰ	1 3 1 0 1	一尾 敏正	Ⅲ	196
演習Ⅰ	1 3 1 0 1	石原 敬子	Ⅲ	196
演習Ⅰ	1 3 1 0 1	箕野 聡子	Ⅲ	197
演習Ⅰ	1 7 1 0 1	濱田 誠二郎	Ⅲ	259
演習Ⅰ	1 7 1 0 1	森 晴美	Ⅲ	259
演習Ⅰ	1 7 1 0 1	中植 満美子	Ⅲ	260
演習Ⅰ	1 7 1 0 1	大岸 啓子	Ⅲ	260
演習Ⅰ	1 7 1 0 1	佐原 信江	Ⅲ	261
演習Ⅱ	1 3 1 0 5	有村 理	Ⅲ	197
演習Ⅱ	1 3 1 0 5	福智 佳代子	Ⅲ	198
演習Ⅱ	1 3 1 0 5	一尾 敏正	Ⅲ	198
演習Ⅱ	1 3 1 0 5	石原 敬子	Ⅲ	199
演習Ⅱ	1 3 1 0 5	箕野 聡子	Ⅲ	199
演習Ⅱ	1 7 1 0 5	濱田 誠二郎	Ⅲ	261
演習Ⅱ	1 7 1 0 5	森 晴美	Ⅲ	262
演習Ⅱ	1 7 1 0 5	中植 満美子	Ⅲ	262
演習Ⅱ	1 7 1 0 5	大岸 啓子	Ⅲ	263
演習Ⅱ	1 7 1 0 5	佐原 信江	Ⅲ	263
演習Ⅲ	1 3 1 0 9	有村 理	Ⅳ	200
演習Ⅲ	1 3 1 0 9	福智 佳代子	Ⅳ	200
演習Ⅲ	1 3 1 0 9	一尾 敏正	Ⅳ	201
演習Ⅲ	1 3 1 0 9	石原 敬子	Ⅳ	201
演習Ⅲ	1 7 1 0 9	濱田 誠二郎	Ⅳ	264
演習Ⅲ	1 7 1 0 9	森 晴美	Ⅳ	264
演習Ⅲ	1 7 1 0 9	中植 満美子	Ⅳ	265
演習Ⅲ	1 7 1 0 9	大岸 啓子	Ⅳ	265

	科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
	演習Ⅲ	1 7 1 0 9	佐原 信江	Ⅳ	266
	演習Ⅳ	1 3 1 1 3	有村 理	Ⅳ	202
	演習Ⅳ	1 3 1 1 3	福智 佳代子	Ⅳ	202
	演習Ⅳ	1 3 1 1 3	一尾 敏正	Ⅳ	203
	演習Ⅳ	1 3 1 1 3	石原 敬子	Ⅳ	203
	演習Ⅳ	1 7 1 1 3	濱田 誠二郎	Ⅳ	266
	演習Ⅳ	1 7 1 1 3	森 晴美	Ⅳ	267
	演習Ⅳ	1 7 1 1 3	中植 満美子	Ⅳ	267
	演習Ⅳ	1 7 1 1 3	大岸 啓子	Ⅳ	268
	演習Ⅳ	1 7 1 1 3	佐原 信江	Ⅳ	268
お	オーストラリア幼稚園実習	1 1 3 8 3	福智 佳代子	Ⅱ	173
	オフィス情報処理 1	1 1 5 0 9	米田 里香	Ⅱ	176
	オフィス情報処理 2	1 1 5 1 3	米田 里香	Ⅱ	176
か	海外ツーリズム研修	1 3 4 4 5	一尾 敏正／有村 理	Ⅱ	229
	外国語教授法	1 3 7 4 5	福智 佳代子	Ⅲ	248
	介護等の体験（事前指導）（小）	1 7 6 9 7	浅井 由美	Ⅱ	298
	介護等の体験（事前指導）（中等）	1 4 1 4 7	浅井 由美	Ⅱ	314
	海星学Ⅰ	1 1 2 0 6	各学科教員	Ⅱ	162
	海星学Ⅱ	1 1 2 0 7	各学科教員	Ⅱ	163
	学習・発達論	1 7 4 4 1	中植 満美子	Ⅱ	279
	家政学概論	1 1 3 8 1	浅井 由美	Ⅱ	172
	家庭支援論	1 7 7 7 4	浅井 由美	Ⅲ	306
	環境ツーリズム論	1 3 4 3 0	有村 理	Ⅱ	227
	観光英検 1 級	1 3 8 4 7	入江 和子	Ⅱ	256
	観光英検2級	1 3 8 4 6	入江 和子	Ⅰ	256
	観光英検3級	1 3 8 4 5	國本 恵理香	Ⅰ	255
	観光概論	1 3 4 2 6	一尾 敏正	Ⅰ	225
	観光事業総論	1 3 4 3 1	一尾 敏正	Ⅱ	227
	観光と世界遺産	1 3 4 3 2	有村 理	Ⅱ	228
	観光ビジネス実務論	1 3 4 3 4	有村 理	Ⅱ	228
	観光フランス語	1 3 8 3 7	平田 淳子	Ⅲ	242
	観光文化地理論	1 3 8 3 8	釜須 久夫	Ⅰ	230
	観光マーケティング論	1 3 8 3 3	一尾 敏正	Ⅲ	241
	韓国語 1	1 1 6 9 7	宋 京珠	Ⅰ	190
	韓国語 2	1 1 7 0 1	宋 京珠	Ⅰ	190
	韓国語 3	1 1 7 0 5	宋 京珠	Ⅰ	191
	韓国語 4	1 1 7 0 9	宋 京珠	Ⅰ	191
	感情・人格心理学	1 7 3 1 1	吉村 友子	Ⅰ	270
	感情心理学	1 7 3 1 7	濱田 誠二郎	Ⅱ	270
き	企業研究	1 3 4 4 0	一尾 敏正／有村 理	Ⅱ	229
	基礎演習Ⅰ	1 1 2 0 1	各学科教員	Ⅰ	161
	基礎演習Ⅱ	1 1 2 0 5	各学科教員	Ⅰ	162
	キッズ・イングリッシュⅠ	1 3 7 2 5	福智 佳代子	Ⅱ	246
	キッズ・イングリッシュⅠ	1 7 4 6 5	福智 佳代子	Ⅱ	280
	キッズ・イングリッシュⅡ	1 3 7 2 9	福智 佳代子	Ⅱ	246
	キッズ・イングリッシュⅡ	1 7 4 6 9	福智 佳代子	Ⅱ	281
	キッズ・イングリッシュⅢ（実習）	1 3 7 3 3	福智 佳代子	Ⅲ	247
	キャリアデザイン入門	1 1 3 0 1	前田 典子	Ⅰ	164
	キャリアデザイン入門	1 1 3 0 1	前田 典子	Ⅰ	165
	教育・学校心理学（中等）	1 3 8 1 5	濱田 誠二郎	Ⅰ	249

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
教育・学校心理学（幼小）	1 7 4 1 1	濱田 誠二郎	I	277
教育課程論（小）	1 7 6 2 5	都賀 純	II	289
教育課程論（中等）	1 3 8 5 0	堀 正人	II	250
教育経営論（中等）	1 3 8 5 3	堀 正人	III	252
教育経営論（幼小）	1 7 7 1 3	濱田 誠二郎	III	299
教育原理（小）	1 7 5 2 1	澤井 一夫	II	285
教育原理（中等）	1 4 1 1 5	澤井 一夫	II	313
教育実習指導（小学校）	1 7 7 8 5	大岸 啓子	III	308
教育実習の研究Ⅰ（幼）	1 7 6 8 9	佐原 信江	II	297
教育実習の研究Ⅱ（幼）	1 7 7 0 5	佐原 信江	III	298
教育実習の研究（中等）	1 4 2 2 9	堀 正人／吉野 美智子	IV	316
教育方法論（中等）	1 3 8 5 1	堀 正人	II	251
教育方法論（幼小）	1 7 6 5 7	濱田 誠二郎	II	293
教育相談（カウンセリングを含む）（小）	1 7 4 9 7	濱田 誠二郎	III	282
教育相談（カウンセリングを含む）（中等）	1 3 8 5 2	濱田 誠二郎	III	251
教職概論（初等）	1 3 8 0 9	森 晴美	I	249
教職概論（中等）	1 4 1 0 1	堀 正人	I	313
教職概論（幼小）	1 7 6 1 3	森 晴美	I	288
教職実践演習（中・高）	1 4 2 1 4	堀 正人／惣谷 美智子	IV	315
キリスト教海外研修	1 1 1 0 9	尾崎 秀夫	I	160
キリスト教と文化	1 1 1 1 7	尾崎 秀夫	III	161
キリスト教入門	1 1 1 0 1	尾崎 秀夫	I	159
け 健康科学	1 1 3 3 3	柳本 有二	I	168
健康スポーツⅠ	1 1 3 3 7	後藤 磨也子／片岡 安美子	I	169
現代家族関係論	1 1 3 6 5	浅井 由美	II	170
こ 航空ツーリズム論	1 3 8 3 6	有村 理	III	242
神戸学	1 3 8 4 1	箕野 聡子	III	243
国際観光交流論	1 3 4 2 7	釜須 久夫	I	225
子育て支援と地域社会	1 7 5 0 1	渋谷 美智	III	283
ことばと社会	1 3 4 0 5	佐伯 瑠璃子	II	221
ことばの意味・文化	1 3 4 1 7	佐伯 瑠璃子	II	222
ことばの発達・学習	1 7 4 6 1	中園 佐恵子	II	280
子どもの食と栄養	1 7 6 5 0	石畠 多恵	II	292
子どもの保健ⅠA	1 7 6 4 2	藪内 順子	II	291
子どもの保健ⅠB	1 7 7 6 2	藪内 順子	III	304
子どもの保健Ⅱ	1 7 6 4 6	藪内 順子	II	292
し ジェンダー論	1 1 3 2 5	浅井 由美	I	167
児童英語教育概論	1 3 7 0 1	福智 佳代子	I	244
児童家庭福祉	1 7 5 2 6	久松 睦典	II	286
児童文学	1 3 5 0 1	福智 佳代子／箕野 聡子	II	223
児童文学	1 7 4 3 7	福智 佳代子／箕野 聡子	II	278
社会科学概論	1 1 3 7 7	尾崎 秀夫	II	172
社会的養護内容	1 7 7 6 6	佐々木 勝一	III	305
社会的養護	1 7 6 3 8	佐々木 勝一	II	291
社会福祉論	1 1 3 6 9	加藤 雅典	I	171
宿泊事業論	1 3 8 3 5	一尾 敏正	III	241
手話コミュニケーションⅠ	1 3 4 2 8	若生 茂嗣／大川 能子	II	226
手話コミュニケーションⅡ	1 3 4 2 9	若生 茂嗣／大川 能子	II	226
障害児保育	1 7 7 8 2	中園 佐恵子	II	307
情緒・学習障害の心理	1 7 5 3 7	濱田 誠二郎	III	286

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
情報活用の基礎知識	1 1 3 1 3	埴岡 忠清	I	166
情報リテラシー 1	1 1 5 0 1	米田 里香	I	175
情報リテラシー 2	1 1 5 0 5	米田 里香	I	175
女性と社会	1 3 5 2 5	浅井 由美	Ⅲ	238
初等英語	1 7 5 1 1	福智 佳代子	I	284
初等音楽 1	1 7 4 1 7	由井 敦子／南 夏世	I	277
初等音楽 2	1 7 4 2 1	由井 敦子／南 夏世	I	278
初等音楽 3	1 7 4 7 3	南 夏世	Ⅱ	281
初等音楽 4	1 7 4 7 7	南 夏世	Ⅲ	282
初等音楽科指導法	1 7 7 3 3	南 夏世	Ⅲ	301
初等家庭科指導法	1 7 7 4 1	浅井 由美	Ⅲ	302
初等国語科指導法	1 7 6 6 1	大岸 啓子	Ⅲ	294
初等算数科指導法	1 7 6 6 9	都賀 純	Ⅱ	295
初等社会科指導法	1 7 6 6 5	山本 博	Ⅱ	294
初等図画工作科指導法	1 7 7 3 7	花房 雅剛	Ⅲ	302
初等生活科指導法	1 7 6 7 7	東内 則子	Ⅱ	296
初等体育	1 7 5 1 3	木岡 正雄	Ⅱ	285
初等体育科指導法	1 7 7 4 5	木岡 正雄	Ⅲ	303
初等理科指導法	1 7 6 7 3	山本 博	Ⅱ	295
人格発達障害論	1 7 3 6 1	中植 満美子	Ⅲ	274
人格発達心理学	1 7 3 2 1	中植 満美子	Ⅱ	271
人権教育論	1 1 3 7 3	堀 正人	Ⅱ	171
心理学概論	1 1 3 1 7	中植 満美子	I	166
心理学基礎実験	1 7 3 4 1	中園 佐恵子	Ⅱ	273
心理学文献講読 1	1 7 3 8 5	中園 佐恵子	Ⅲ	276
心理検査法実習	1 7 3 4 3	中植 満美子	Ⅱ	273
心理調査・データ処理法	1 7 3 4 5	須崎 暁世	Ⅱ	274
心理統計学	1 7 3 3 7	須崎 暁世	Ⅱ	272
す 図画工作	1 7 5 0 9	森 晴美	I	284
せ 生活文化概論	1 7 4 0 5	渋谷 美智	I	276
聖書概論	1 1 1 0 5	Emmanuel POPPON	I	159
聖書と現代	1 1 1 1 3	Emmanuel POPPON	Ⅱ	160
生徒指導論（進路指導を含む）（小）	1 7 7 5 3	花房 雅剛	Ⅲ	304
生徒指導論（中等）	1 4 2 1 7	堀 正人	Ⅲ	315
そ 相談援助	1 7 7 7 0	佐々木 勝一	Ⅲ	305
ち 中国語 1	1 1 6 6 5	坂口 文馨	I	186
中国語 2	1 1 6 6 9	沈 竑	I	186
中国語 3	1 1 6 7 3	坂口 文馨	I	187
中国語 4	1 1 6 7 7	沈 竑	I	187
中国語 5	1 1 6 8 1	坂口 文馨	Ⅱ	188
中国語 6	1 1 6 8 5	沈 竑	Ⅱ	188
中国語 7	1 1 6 8 9	坂口 文馨	Ⅱ	189
中国語 8	1 1 6 9 3	沈 竑	Ⅱ	189
つ ツーリズム実務特論	1 3 4 5 0	一尾 敏正	Ⅱ	230
と 統計学入門	1 1 3 2 1	埴岡 忠清	I	167
道徳教育指導論（小）	1 7 7 4 9	大岸 啓子	Ⅱ	303
道徳教育指導論（中等）	1 3 8 2 9	堀 正人	Ⅲ	250
特別活動論（小）	1 7 6 8 1	都賀 純	Ⅱ	296
特別活動論（中等）	1 4 1 8 5	澤井 一夫	Ⅱ	314
に 日本国憲法	1 1 3 2 9	浅野 宜之	I	168

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
日本語表現法	1 1 4 0 1	箕野 聡子	I	173
日本語表現法	1 1 4 0 1	大岸 啓子	I	174
日本語文章構成法	1 1 4 0 5	箕野 聡子	II	174
日本文化史	1 1 3 5 3	箕野 聡子	II	169
日本文化論	1 3 2 7 3	箕野 聡子	II	221
乳児保育	1 7 7 7 7	渋谷 美智	I	307
乳幼児心理学	1 7 4 4 5	吉村 友子	II	279
人間学1	1 1 2 0 9	尾崎 秀夫	I	163
人間学2	1 1 2 1 3	岡村 祥子	III	164
認知心理学	1 7 3 2 9	中植 満美子	II	272
は 発達心理学	1 7 2 0 1	濱田 誠二郎	I	269
ハワイ文化研究	1 3 9 6 5	釜須 久夫	I	232
ひ 比較文化論	1 3 8 3 0	箕野 聡子	III	239
ビジネス中国語	1 3 8 3 2	王 嬌	III	240
ビジネス翻訳	1 3 6 2 1	檜本 雄三	III	238
ふ フランス語1	1 1 6 3 3	平田 淳子	I	182
フランス語2	1 1 6 3 7	平田 淳子	I	182
フランス語3	1 1 6 4 1	平田 淳子	I	183
フランス語4	1 1 6 4 5	平田 淳子	I	183
フランス語5	1 1 6 4 9	平田 淳子	II	184
フランス語6	1 1 6 5 3	平田 淳子	II	184
フランス語7	1 1 6 5 7	平田 淳子	II	185
フランス語8	1 1 6 6 1	平田 淳子	II	185
文学入門	1 1 3 0 9	箕野 聡子	I	165
ほ 保育・教職実践演習（幼・小）	1 7 6 8 6	大岸 啓子／佐原 信江／石畠 多恵	IV	297
保育原理I	1 7 6 0 5	成木 智子	I	287
保育実習指導A	1 7 8 1 1	石畠 多恵／渋谷 美智	III	309
保育実習指導B	1 7 8 2 0	渋谷 美智	IV	310
保育相談支援	1 7 7 7 2	佐々木 勝一	III	306
保育内容総論	1 7 2 0 5	佐原 信江	I	269
保育内容の研究・言葉	1 7 6 3 3	森 晴美	II	290
保育内容の研究・環境	1 7 7 2 1	渋谷 美智	III	300
保育内容の研究・健康	1 7 7 1 7	石田 伸子	III	299
保育内容の研究・人間関係	1 7 6 2 9	成木 智子	II	290
保育内容の研究・表現（身体表現）	1 7 6 5 3	成木 智子	II	293
保育内容の研究・表現（造形表現）	1 7 6 0 1	森 晴美	I	287
簿記会計学	1 1 3 5 7	埴岡 忠清	II	170
ホスピタリティ精神論	1 3 2 7 2	國本 恵理香	I	220
ホスピタリティ・マネジメント	1 3 8 3 1	一尾 敏正	III	240
ボランティア論	1 7 5 0 5	加藤 雅典	I	283
翻訳・通訳論入門	1 3 3 0 1	和泉 有香	II	223
よ 幼児教育学原理	1 7 6 1 7	須河内 優子	II	288
幼児教育課程の研究	1 7 6 2 1	佐原 信江	II	289
幼児教育指導法	1 7 7 2 5	佐原 信江	III	300
幼児指導論（カウンセリングを含む）	1 7 7 2 9	石畠 多恵	III	301
り 臨床心理学	1 7 3 2 5	津田 明子	II	271
臨床心理学実習1（心理テスト法）	1 7 3 7 3	中植 満美子	III	275
臨床心理学実習2（カウンセリング法）	1 7 3 7 7	津田 明子	III	275

